

# 令和5年度 業務実績報告書

(第3期中期計画・第5事業年度)

令和6年6月



地方独立行政法人 静岡県立病院機構

## I 機構の概要 (令和5年4月1日 時点)

1	名 称	1
2	所 在 地	1
3	法人の設立年月日	1
4	設 立 団 体	1
5	目 的	1
6	業 務	1
7	資本金の額	1
8	代表者の役職氏名	1
9	役 員	2
10	組 織 図	2
11	法人が運営する病院の概要	3

## II 当該事業年度における業務実績報告

1	対 象 期 間	5
2	業務実績全般	5
	(1) 機 構 全 体	5
	(2) 総 合 病 院	15
	(3) こころの医療センター	16
	(4) こども病院	17
3	県民に対して提供する医療サービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するため にとるべき措置	18
	(1) 医療の提供	18
	(2) 医療従事者の確保及び質の向上	25
	(3) 医療に関する調査及び研究	26
	(4) 医療に関する地域への支援	28
	(5) 災害等における医療救護	30
4	業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置	31
	(1) 効率的な業務運営体制の強化	31
	(2) 事務部門の専門性の向上	32
	(3) 収益の確保と費用の節減	32
	(4) 予算、収支計画及び資金計画	32
5	項目別実績	33
	(参考) 用語解説	75

### 【数値の表記方法について】

この報告書内の数値は表示単位未満を四捨五入のため、各項目の和と総計が一致しない場合がある。



地方独立行政法人 静岡県立病院機構

*Shizuoka Prefectural Hospital Organization*

ともにつくる 信頼と安心の医療

静岡県における保健医療施策として求められる高度又は特殊な医療の提供、地域医療の支援等を行うことにより、県内医療水準の向上を図り、もって県民の健康の確保及び増進に寄与することを目的とする



静岡県立総合病院



静岡県立こころの医療センター



静岡県立こども病院

## I 機構の概要 (令和5年4月1日時点)

### 1 名称

地方独立行政法人静岡県立病院機構

### 2 所在地

静岡市葵区北安東四丁目 27 番 1 号

### 3 法人の設立年月日

平成 21 年 4 月 1 日

### 4 設立団体

静岡県

### 5 目的

静岡県における保健医療施策として求められる高度又は特殊な医療の提供、地域医療の支援等を行うことにより、県内医療水準の向上を図り、もって県民の健康の確保及び増進に寄与する。

### 6 業務

#### (1) 病院の名称及び所在地

名 称	所 在 地
静岡県立総合病院	静岡市葵区北安東
静岡県立こころの医療センター	静岡市葵区与一
静岡県立こども病院	静岡市葵区漆山

#### (2) 業務の範囲

- ・医療を提供すること。
- ・医療に関する調査及び研究を行うこと。
- ・医療に関する技術者の研修を行うこと。
- ・医療に関する地域への支援を行うこと。
- ・災害等における医療救護を行うこと。
- ・及び上記の附帯業務。

### 7 資本金の額

6, 8 2 2, 7 3 3, 4 6 9 円

### 8 代表者の役職氏名

理事長 田 中 一 成



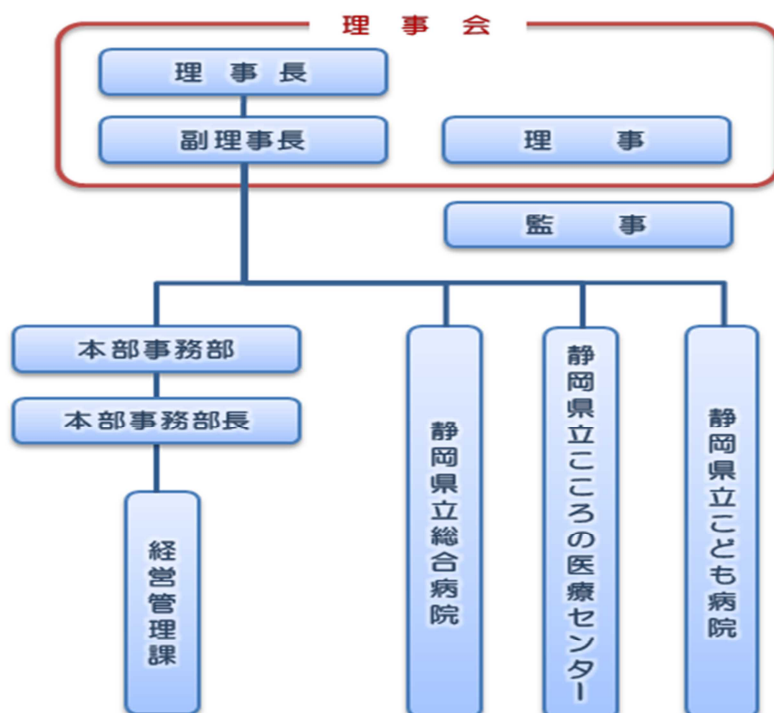
## 9 役員

(令和5年4月1日現在)

役員名	区分	氏名
理事長	常勤	田中一成
副理事長	常勤	山口重則
理事	常勤	小西靖彦
理事	常勤	村上直人
理事	常勤	坂本喜三郎
理事	非常勤	渡邊裕司
理事	非常勤	溝口康博
理事	非常勤	渡邊昌子
理事	非常勤	星野希代絵
監事	非常勤	伊藤みさ子
監事	非常勤	高橋純子

(定款に定めた定数 理事長1名・副理事長1名・理事7名以内・監事2名)

## 10 組織図



### ○ 全職員数 (令和5年4月1日現在、現員)

医師※	480名
看護師	1,408名
医療技術	373名
事務ほか	140名
計	2,401名

※ 職員数には、アソシエイトを含む。また、医師には歯科医師7名、自治医大初期研修医5名、へき地指定公立病院派遣医4名、有期職員医師151名を含む。

## 11 法人が運営する病院の概要

### (1) 病院の名称・所在地等

(令和5年4月1日現在)

区分	地方独立行政法人 静岡県立病院機構		
病院名	総合病院	こころの医療センター	こども病院
所在地	静岡市葵区北安東 4丁目27-1	静岡市葵区与一 4丁目1-1	静岡市葵区漆山860番地
開設年月日	昭和58年2月1日	昭和31年11月1日	昭和52年4月1日
診療科 (医療法)	内科、救急科、心療内科、精神科、循環器内科、心臓血管外科、腎臓内科、泌尿器科、糖尿病・内分泌内科、脳神経内科、脳神経外科、消化器内科、消化器外科、呼吸器内科、呼吸器外科、産婦人科、乳腺外科、小児科、整形外科、リハビリテーション科、心臓リハビリテーション科、眼科、頭頸部・耳鼻いんこう科、血液内科、皮膚科、形成外科、歯科口腔外科、麻酔科、放射線科、病理診断科、腫瘍内科	精神科、内科、外科、歯科	小児科、小児救急科、新生児小児科、血液・腫瘍内科、内分泌・代謝内科、腎臓内科、アレルギー科、神経内科、循環器内科、皮膚科、小児外科、消化器外科、呼吸器外科、心臓血管外科、脳神経外科、整形外科、形成外科、耳鼻いんこう科、泌尿器科、眼科、歯科、麻酔科、放射線科、産科、精神科、児童精神科、臨床検査科、病理診断科、リハビリテーション科
	31科	4科	29科
許可病床数 (5年度)	一般 662床 (稼働636床) 結核 50床 精神 6床	精神 274床 (稼働172床)	一般 243床 (稼働209床) 精神 36床
年間延患者数 (5年度計画)	入院 227,436人 外来 480,196人	入院 55,551人 外来 43,165人	入院 75,900人 外来 121,675人
理念	信頼し安心できる質の高い全人的医療を行います	安全・良質・優しいこころの医療を、いつでもどこでも誰にでも	私たちは、すべての子どもと家族のために、安心と信頼の医療を行います
備考	昭和23年6月 中央病院 昭和33年3月 富士見病院	「養心荘」 平成9年4月1日名称変更	

※昭和39年4月1日 中央病院、富士見病院、養心荘の3病院で病院事業会計開始。

## (2) 施設状況

(令和5年4月1日現在)

区分	病棟		許可病床数	内 容
総 合	本館	3A	40	産婦人科、小児科(新生児)、消化器外科、病院管理ベッド
		3B	36	小児科、耳鼻咽喉科、総合内科、病院管理ベッド、救命救急科
		3C	26	血液内科、病院管理ベッド
		3D	18	新型コロナウイルス感染症
		4A	45	腎臓内科、泌尿器科、眼科
		4B	47	消化器外科、泌尿器科、整形外科、腎臓内科、病院管理ベッド
		4D	6	精神科
		5A	47	消化器内科、消化器外科、腫瘍内科、病院管理ベッド
		5B	45	整形外科、消化器内科、病院管理ベッド
		5D	4	休床
		6A	20	新型コロナウイルス感染症
		6B	50	結核
		6C	47	呼吸器内科、糖尿病・内分泌内科、皮膚科、病院管理ベッド
		6D	39	呼吸器内科、呼吸器外科、歯科口腔外科、放射線科、病院管理ベッド
	北館	1E	16	救命救急科
		3E	41	整形外科、救急科、病院管理ベッド
		4E	34	乳腺外科、形成外科、緩和全体、救命救急科、病院管理ベッド
		5E	28	緩和医療科、消化器内科、病院管理ベッド
	循環器病 センター	3G	14	集中治療室(ICU)、冠疾患集中治療室(CCU)
		4G	47	循環器内科、心臓血管外科、病院管理ベッド
5G		48	脳神経内科、脳神経外科、病院管理ベッド	
先端医学棟	4M	20	高度治療室(HCU)	
計			718	(稼働692床)
こ こ ろ	北1		42	医療観察法12床、慢性重症30床
	北2		45	救急
	北3		51	(休棟)
	南1		42	回復期
	南2		43	救急
	南3		51	(休棟)
	計			274
こ ど も	北2		36	新生児集中治療室(NICU)、回復治療室(GCU)
	北3		30	休床
	北4		28	感染観察
	北5		28	内科系幼児学童
	西2		24	産科、母体胎児集中治療室(MFICU)
	西3		25	循環器
	CCU		12	HCU型一般病棟 全診療科対象
	PICU		12	小児集中治療室(PICU)
	西6		48	外科系
	東2		36	こころの診療科
	計			279

## II 当該事業年度における業務実績報告

### 1 対象期間

令和5年4月1日から令和6年3月31日までの1年間  
(中期計画の期間 平成31年4月1日から令和6年3月31日までの5年間)

### 2 業務実績全般

#### (1) 機構全体

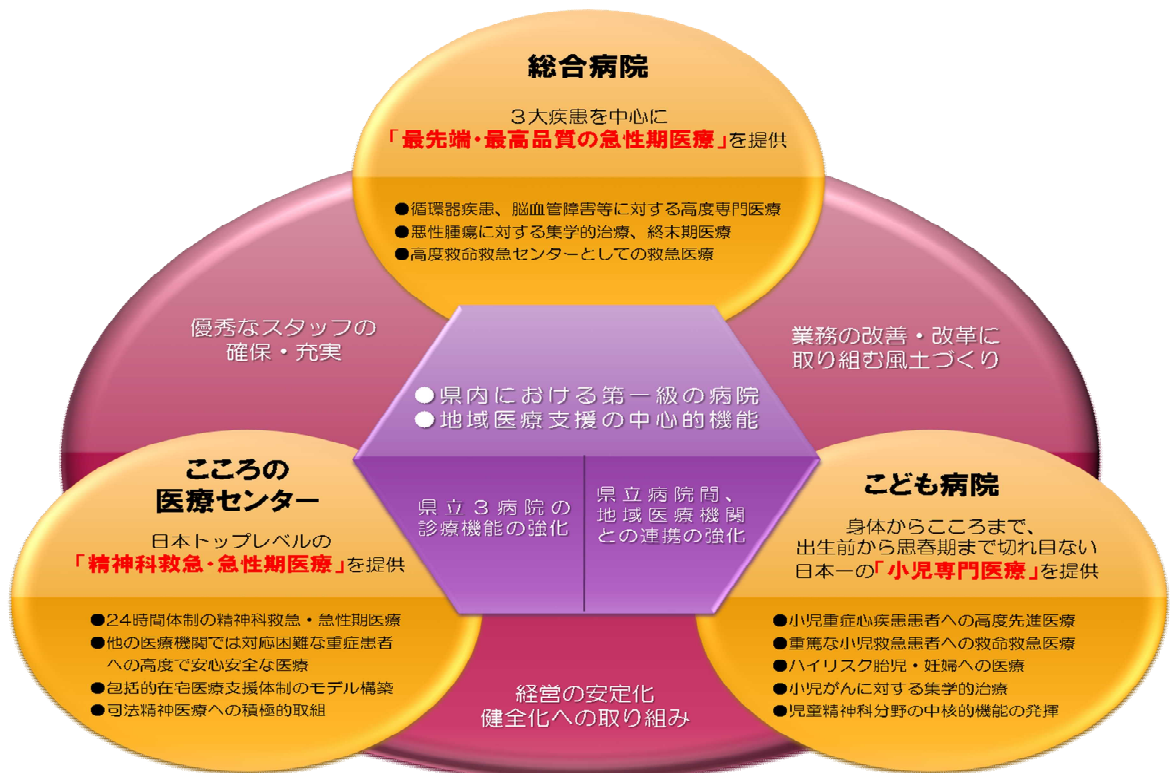
##### ア 総括

静岡県立病院機構は、高度・専門・特殊医療や救急・急性期医療等の分野において第一級の病院であること及び地域医療を確保するための支援の中心的機能を果たすため、地方独立行政法人の特徴である機動性や効率性等を發揮した病院経営に取り組んでいる。

令和5年度の経営状況（3病院計）は、エネルギー価格や物価高騰による経費の増加等により、経常損失は1,530百万円（経常収支比率97.1%）、当期純損失は1,427百万円となり、地方独立行政法人化後初めての赤字決算となった。

引き続き、本機構は、医療の質を高め、高度・専門・特殊医療や救急・急性期医療等に積極的に取り組むため、医療面では充実した質の高い医療を提供し、経営面では機能的で効率的な病院経営を推進することにより、本県の医療の確保と向上に貢献していく。

県立病院機構が目指す病院像



## イ 業務実績

### (ア) 入院診療

- ・ 総合病院は、年度計画（以下「計画」）を下回る入院延患者数(▲15,833人)となり、患者1人1日当たり入院単価（以下、入院単価：入院収益÷年延入院患者数）は計画を上回った(+221円)。
- ・ こころの医療センターは、計画を下回る入院延患者数(▲2,653人)となり、入院単価も計画を下回った(▲1,523円)。
- ・ こども病院は、計画を下回る入院延患者数(▲7,812人)となり、入院単価も計画を下回った(▲10,722円)。

### (イ) 外来診療

- ・ 総合病院は、計画を上回る外来延患者数(+2,722人)となり、患者1人1日当たり外来単価（以下、外来単価：外来収益÷年延外来患者数）は計画を下回った(▲20円)。
- ・ こころの医療センターは、計画を下回る外来延患者数(▲2,782人)となり、外来単価も計画を下回った(▲598円)。
- ・ こども病院は、計画を下回る外来延患者数(▲5,771人)となり、外来単価は計画を上回った(+1,623円)。

### ○ 令和5年度 業務量及び単価等年間（税込）

区 分		総 合	こころ	こども	合計
入 院	入院延患者数(人)	211,603 (227,436)	52,898 (55,551)	68,088 (75,900)	332,589 (358,887)
	病床稼働率(%)	一般86.0 (一般91.1)	84.0 (88.2)	75.9 (84.6)	83.1 (89.1)
	入院患者1人 1日当たり単価(円)	93,391 (93,170)	25,607 (27,130)	100,749 (111,471)	84,116 (86,818)
外 来	外来延患者数(人)	457,778 (455,056)	36,865 (39,647)	115,904 (121,675)	610,547 (616,378)
	外来患者1人 1日当たり単価(円)	26,118 (26,138)	6,402 (7,000)	18,187 (16,564)	23,422 (23,017)

※ ( ) 書きは、当初計画数値を示す。

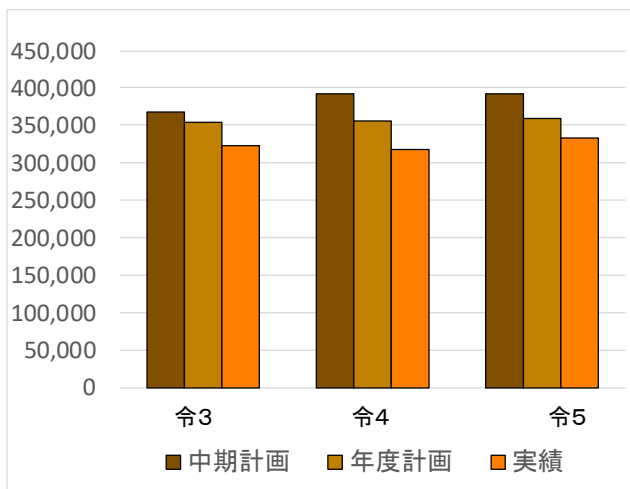
※ 患者1人1日当たり単価は税込金額（調定額ベースで算定）。

※ 病床稼働率は、稼働病床（総合病院は結核病床及び精神病床を除く）で算定。

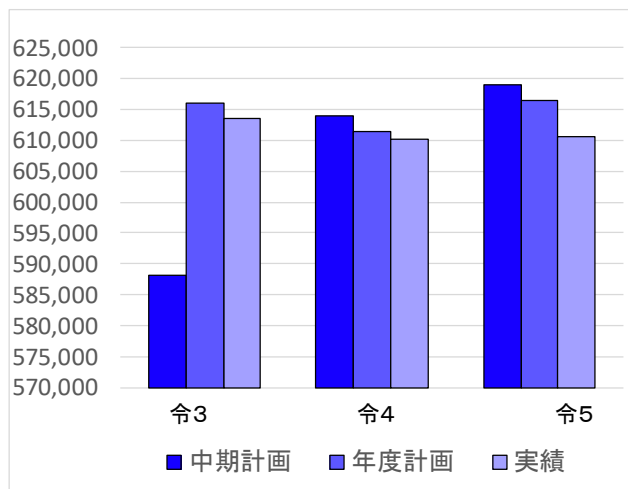
<参考資料>

○患者数の推移 (令和3年度実績～令和5年度)

入院延患者数 (3病院計) (単位:人)



外来延患者数 (3病院計) (単位:人)



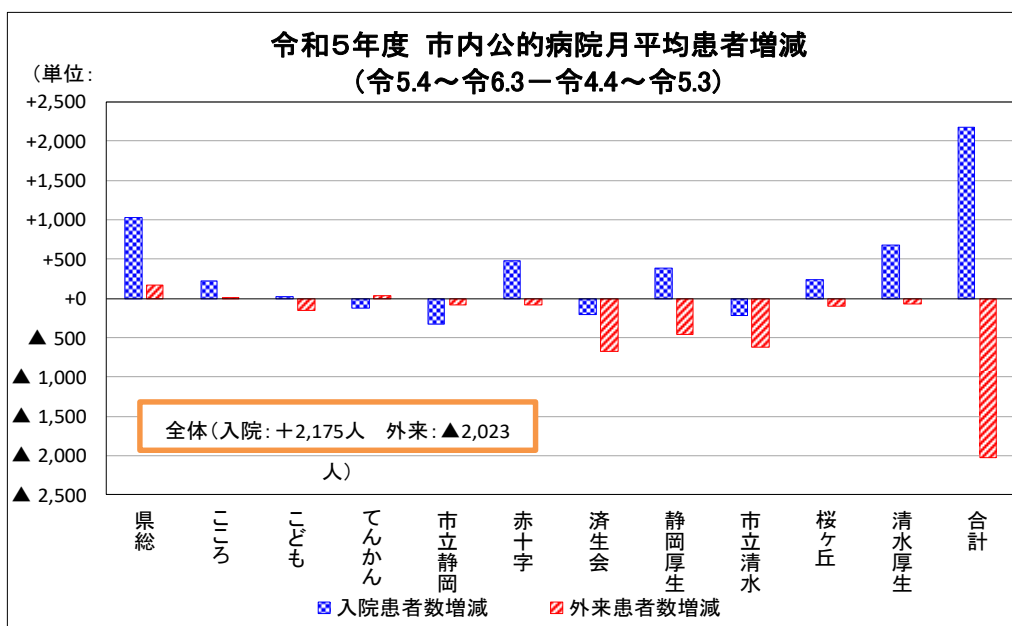
- 令和5年度の入院延患者数は中期計画、年度計画を下回り、令和3年度・4年度実績を上回った。
- 令和5年度の外来延患者数は中期計画、年度計画を下回り、令和3年度実績を下回った。

○市内公的病院患者動向 (月平均延患者数: 令5ー令4 比較)

(単位:人)

<参考資料> 市内公的病院患者動向 (月平均患者数: 令5.4～令6.3ー令4.4～令5.3比較)

区分		県総	こころ	こども	てんかん	市立静岡	赤十字	済生会	静岡厚生	市立清水	桜ヶ丘	清水厚生	合計
入院	令5	17,634	4,408	5,674	8,126	12,410	12,047	12,564	5,403	9,836	3,992	3,755	95,849
	令4	16,601	4,190	5,656	8,245	12,740	11,564	12,769	5,021	10,058	3,750	3,079	93,673
	差	+1,033	+218	+18	▲119	▲330	+483	▲205	+383	▲223	+242	+676	+2,175
	率	+6.2(%)	+5.2(%)	+0.3(%)	▲1.4(%)	▲2.6(%)	+4.2(%)	▲1.6(%)	+7.6(%)	▲2.2(%)	+6.4(%)	+22.0(%)	+2.3(%)
外来	令5	38,148	3,072	9,659	2,715	21,173	16,147	21,094	6,301	13,704	4,983	7,001	143,997
	令4	37,981	3,063	9,808	2,680	21,255	16,226	21,764	6,763	14,327	5,079	7,073	146,020
	差	+167	+9	▲149	+36	▲82	▲79	▲670	▲462	▲623	▲96	▲72	▲2,023
	率	+0.4(%)	+0.3(%)	▲1.5(%)	+1.3(%)	▲0.4(%)	▲0.5(%)	▲3.1(%)	▲6.8(%)	▲4.3(%)	▲1.9(%)	▲1.0(%)	▲1.4(%)



- 市内公的病院の入院延患者数は全体で1.4%の増加、外来延患者数は全体で1.4%の減少となった。

## (ウ) 令和5年度収支(税込)

## ① 収益的収支(税込)

(単位:千円)

区分	款	項	最終予算額 (計画)	決算額 (実績)	増減額 (達成度)	決算額 (前年度)	増減額 (前年比)	
収益	営業 収益	医業収益	45,898,879	42,776,172	▲ 3,122,707	40,894,634	1,881,538	
		運営費負担金収益	6,879,418	6,871,751	▲ 7,667	6,869,490	2,261	
		その他営業収益	774,552	1,170,493	395,941	2,597,153	▲ 1,426,661	
		小計	53,552,849	50,818,416	▲ 2,734,433	50,361,277	457,138	
	営業外 収益	運営費負担金収益	120,582	128,249	7,667	130,510	▲ 2,261	
		その他営業外収益	482,521	508,529	26,008	488,339	20,190	
		小計	603,103	636,778	33,675	618,849	17,929	
	臨時利益	臨時利益	495,193	479,749	▲ 15,444	34,780	444,969	
	計			54,651,145	51,934,943	▲ 2,716,202	51,014,906	920,036
	費用	営業 費用	医業費用	53,056,427	52,002,310	▲ 1,054,117	49,518,496	2,483,813
一般管理費			396,373	353,733	▲ 42,640	360,444	▲ 6,710	
小計			53,452,800	52,356,043	▲ 1,096,757	49,878,940	2,477,103	
営業外 費用		財務費用	241,042	238,506	▲ 2,536	240,545	▲ 2,039	
		その他営業外費用	434,295	390,425	▲ 43,870	352,077	38,348	
		小計	675,337	628,931	▲ 46,406	592,622	36,309	
臨時損失		臨時損失	523,008	377,028	▲ 145,980	196,154	180,875	
計			54,651,145	53,362,002	▲ 1,289,143	50,667,716	2,694,287	
経常損益			27,815	▲ 1,529,781	▲ 1,557,596	508,564	▲ 2,038,345	
当期純損益			0	▲ 1,427,060	▲ 1,427,060	347,191	▲ 1,774,250	

※単位未満四捨五入のため各項目の和と総計が一致しない場合がある(以下同様)。

- ・ 医業収益は、入院延患者数、外来延患者数が計画を下回ったため、計画を3,122,707千円下回った。
- ・ 営業費用は計画を1,096,757千円下回った。
- ・ 経常損益は計画を1,557,596千円下回る1,529,781千円となり、経常収支比率100%を下回った。

## ② 資本的収支年間(税込)

(単位:千円)

区分	款	項	最終予算額 (計画)	決算額 (実績)	増減額 (達成度)	決算額 (前年度)	増減額 (前年比)
収入	資本 収入	長期借入金	8,648,000	5,344,000	▲3,304,000	2,336,000	3,008,000
		長期貸付金回収額	-	23,416	23,416	41,905	▲18,489
		補助金・寄附金等	-	48,216	48,216	148,490	▲100,274
		計	8,648,000	5,415,632	▲3,232,368	2,526,395	2,889,237
支出	資本 支出	建設改良費	10,516,473	7,639,405	▲2,877,068	2,657,239	4,982,166
		償還金	3,523,000	3,515,871	▲7,129	5,539,616	▲2,023,745
		長期貸付金	115,139	89,901	▲25,238	89,594	307
		計	14,154,612	11,245,177	▲2,909,435	8,286,449	2,958,728
総収支			▲5,506,612	▲5,829,545	▲322,933	▲5,760,054	▲69,491

- ・ 建設改良費は、施設整備の実施時期、医療機器の更新時期の先送り等により、計画を2,877,068千円下回る7,639,405千円となった

## (エ) 病院別収支

## ① 収益的収支年間 (税込)

(単位：千円)

款	項	総 合	こころ	こども	法人計
営業 収益	医 業 収 益	32,151,728	1,602,000	9,022,445	42,776,172
	運営費負担金収益	2,658,163	1,079,104	3,134,484	6,871,751
	その他営業収益	776,985	58,286	335,221	1,170,493
	小 計	35,586,876	2,739,390	12,492,150	50,818,416
営業外 収益	運営費負担金収益	81,837	896	45,516	128,249
	その他営業外収益	464,189	6,411	37,928	508,529
	小 計	546,026	7,307	83,444	636,778
臨時利益	臨 時 利 益	479,749	0	0	479,749
収 益 ( 予 算 額 ※ < 計 画 > ) ( 増 減 額 )	収 益 計	36,612,651	2,746,698	12,575,594	51,934,943
	( 予 算 額 ※ < 計 画 > )	(37,551,356)	(2,935,898)	(14,163,891)	(54,651,145)
	( 増 減 額 )	(▲ 938,705)	(▲ 189,200)	(▲ 1,588,297)	(▲ 2,716,202)
営業費 費用	医 業 費 用	36,159,001	2,661,649	13,181,659	52,002,310
	一 般 管 理 費	117,911	117,911	117,911	353,733
	小 計	36,276,913	2,779,560	13,299,570	52,356,043
営業外 費用	財 務 費 用	154,287	1,793	82,426	238,506
	その他営業外費用	277,752	13,141	99,533	390,425
	小 計	432,038	14,934	181,959	628,931
臨時損失	臨 時 損 失	332,517	516	43,996	377,028
費 用 計 ( 予 算 額 ※ < 計 画 > ) ( 増 減 額 )	費 用 計	37,041,468	2,795,010	13,525,525	53,362,002
	( 予 算 額 ※ < 計 画 > )	(37,551,356)	(2,935,898)	(14,163,891)	(54,651,145)
	( 増 減 額 )	(▲ 509,888)	(▲ 140,888)	(▲ 638,366)	(▲ 1,289,143)
経 常 損 益 ( 予 算 額 ※ < 計 画 > ) ( 増 減 額 )	経 常 損 益	▲ 576,049	▲ 47,797	▲ 905,935	▲ 1,529,781
	( 予 算 額 ※ < 計 画 > )	(24,339)	(1,203)	(2,273)	(27,815)
	( 増 減 額 )	(▲ 600,388)	(▲ 49,000)	(▲ 908,208)	(▲ 1,557,596)
当 期 純 損 益 ( 予 算 額 ※ < 計 画 > ) ( 増 減 額 )	当 期 純 損 益	▲ 428,816	▲ 48,312	▲ 949,931	▲ 1,427,060
	( 予 算 額 ※ < 計 画 > )	(0)	(0)	(0)	(0)
	( 増 減 額 )	(▲ 428,816)	(▲ 48,312)	(▲ 949,931)	(▲ 1,427,060)

- ・ 総合病院の経常損益は▲576,049千円で、計画を600,388千円下回った。
- ・ こころの医療センターの経常損益は▲47,797千円で、計画を49,000千円下回った。
- ・ こども病院の経常損益は▲905,935千円で、計画を908,208千円下回った。



## ② 資本的収支年間 (税込)

(単位：千円)

款	項	総合	こころ	こども	本部	法人計
資本 収入	長期借入金	2,115,000	16,000	689,000	2,524,000	5,344,000
	長期貸付金回収額	16,040	1,194	6,182	0	23,416
	その他収入	19,589	0	3,285	25,342	48,216
	計	2,150,629	17,194	698,467	2,549,342	5,415,632
資本 支出	建設改良費	684,987	0	281,531	3,304,398	4,270,915
	資産購入費	1,724,309	24,363	454,352	1,165,466	3,368,490
	償還金	2,342,662	149,406	1,023,803	0	3,515,871
	長期貸付金	61,582	4,585	23,734	0	89,901
計	4,813,539	178,354	1,783,419	4,469,864	11,245,176	
総	収 支	▲ 2,662,910	▲ 161,160	▲ 1,084,952	▲ 1,920,522	▲ 5,829,544

- 令和5年度の建設改良費は4,270,915千円となった。主なものとしては、総合病院で本館電気設備改修工事、3病院共通として新医療情報システム構築業務委託を行った。
- 資産購入費は3,368,490千円となった。主なものとしては、3病院共通の新医療情報システムクライアント調達や、総合病院の超電導磁石式全身用MR装置の更新を行った。
- また、長期貸付金89,901千円は、看護師確保対策として、当機構に就職を希望する看護学生に対して修学資金の貸付を行っているほか、職員の育成及び資質向上等を目的に、職員に対し資格等の取得に必要な資金の貸付を行った。

## (オ) 決算指標年間&lt;3病院計&gt; (税込)

区 分	項 目	当初計画	実績	増減
収 支 構 造	経常収支比率 (%)	100.1	97.1	▲3.0
	医業収支比率 (%)	86.5	82.3	▲4.2
収 入 構 造	病床稼働率 (%)	89.1	83.1	▲6.0
	入院患者1人1日当たり単価 (円)	86,818	84,116	▲2,702
	外来患者1人1日当たり単価 (円)	21,986	23,422	+1,436
費 用 構 造	職員給与費比率 (%)	54.8	56.7	+1.9
	材料費比率 (%)	31.9	37.5	+5.6

※ 患者1人1日当たり単価は、調定額ベースで算定。

※ 病床稼働率は、稼働病床（総合病院は結核病床を除く）で算定。

- 収支構造の各指標は、経常収支比率が計画を3.0ポイント下回る97.1%となった。また、医業収支比率は計画を4.2ポイント下回る82.3%となった。
- 収入構造では、入院単価は計画を2,702円下回り、外来単価は計画を1,436円上回った。
- 費用構造では、職員給与費比率は計画を1.9ポイント上回り、材料費比率は計画を5.6ポイント上回った。

### 【収支構造】

- ・ 経常収支比率  $\text{経常収益} \div \text{経常費用} \times 100$   
病院が安定した経営を行うための財政基盤を確保するための指標で、適正な区分負担を前提として100%以上が望ましい。
- ・ 医業収支比率  $\text{医業収益} \div \text{医業費用} \times 100$   
医業費用が医業収益によってどの程度賄われているかを示す指標で、100%以上が望ましい。

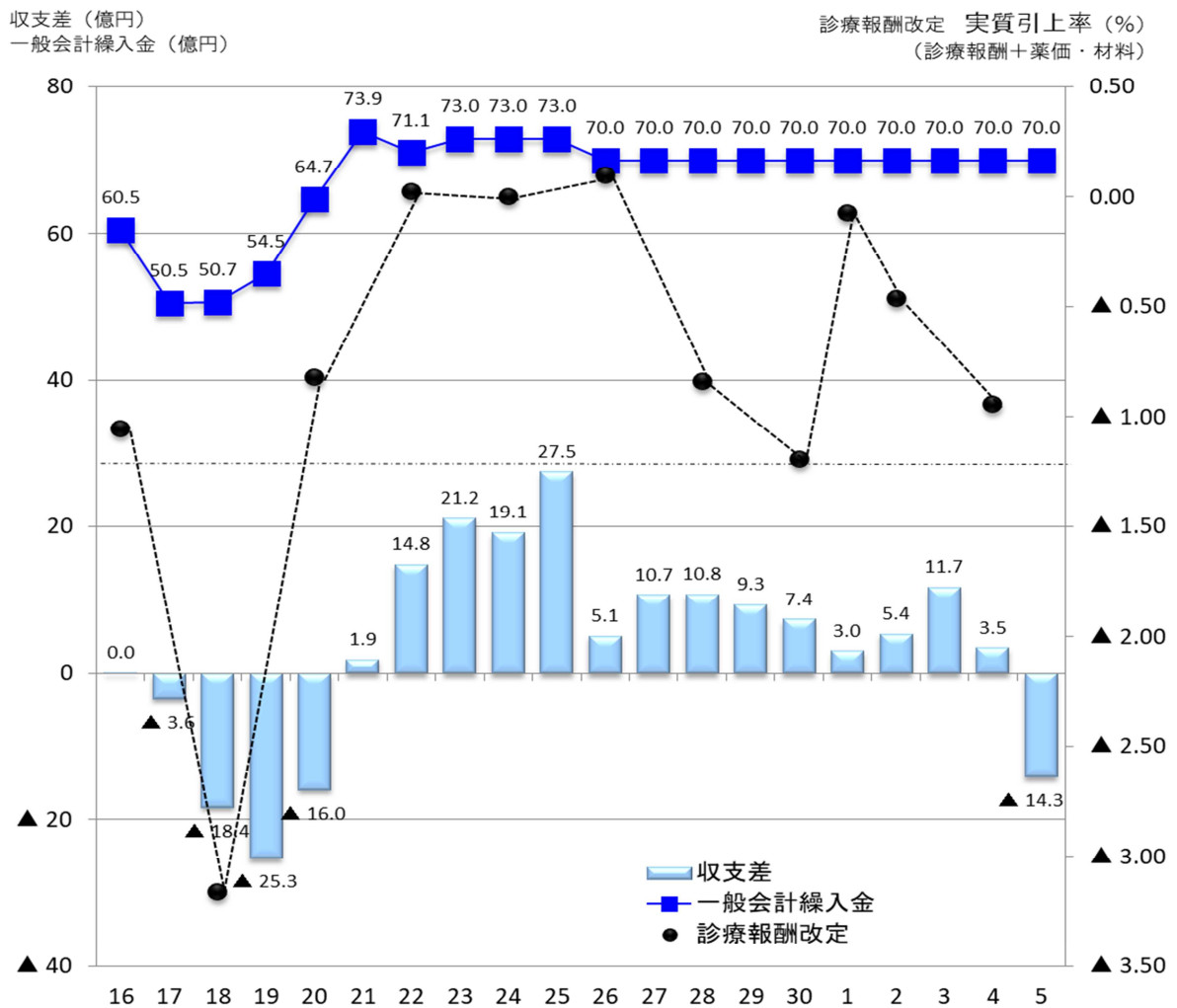
### 【収入構造】

- ・ 病床稼働率  $\text{年間延入院患者数} \div \text{年延病床数 (稼働病床} \times \text{歴日数)} \times 100$   
病院の施設が有効に活用されているか判断する指標である。
- ・ 入院患者1人1日当たり単価  $\text{入院収益} \div \text{年延入院患者数}$
- ・ 外来患者1人1日当たり単価  $\text{外来収益} \div \text{年延外来患者数}$   
病院の収入分析をするうえで基本的な指標。収入を増加させるため、患者数(量的要素)と1人当たりの収入(質的要素)が重要となる。

### 【費用構造】

- ・ 職員給与比率(職員給与費対医業収益比率)  $\text{職員給与費} \div \text{医業収益} \times 100$   
病院の職員数等が適正であるか判断する指標。職員給与費をいかに適切なものとするかが病院経営の重要なポイントである。
- ・ 材料費比率(材料費対医業収益比率)  $\text{材料費} \div \text{医業収益} \times 100$   
この比率が高い場合、材料費の購入価格(方法)を見直し、材料費の削減を図る必要がある。(薬品・診療材料・その他)

(カ) 決算状況の推移 (収支と繰入金(県負担金)・診療報酬の改定) (3病院計)



- ※ 平成17年度から平成19年度までは繰入金10億円を抑制(県財政事情を勘案)。
- ※ 平成21年度から地方独立行政法人へ移行したため、一般会計繰入金は運営費負担金に名称変更。
- ※ 平成24年度の診療報酬改定率は薬価部分を市場価格の下落を反映して1.375%引き下げの一方、医師の診療行為や入院料などの本体部分は1.379%引き上げた結果、実質的な改定率は+0.004%となった。
- ※ 平成26年度の診療報酬改定率は、薬価及び材料価格の改定を0.63%引き下げの一方、本体部分を0.73%引き上げた結果、全体改定率は+0.10%となった。(消費税率引上げ対応分を除いた実質改定率は▲1.26%)
- ※ 平成28年度の診療報酬改定率は、薬価及び材料価格の改定をそれぞれ1.22%、0.11%引き下げの一方、本体部分を0.49%引き上げた結果、全体改定率は▲0.84%となった。
- ※ 平成30年度の診療報酬改定率は、薬価及び材料価格の改定をそれぞれ1.65%、0.09%引き下げの一方、本体部分を0.55%引き上げた結果、全体改定率は▲1.19%となった。
- ※ 令和元年10月の診療報酬改定率は、薬価の改定を0.51%引き下げ、材料価格の改定を0.03%引上げ、本体部分を0.41%引き上げた結果、全体改定率は▲0.07%となった。
- ※ 令和2年度の診療報酬改定率は、薬価及び材料価格の改定をそれぞれ0.99%、0.02%引き下げの一方、本体部分を0.55%引き上げた結果、全体改定率は▲0.46%となった。
- ※ 令和4年度の診療報酬改定率は、薬価及び材料価格の改定をそれぞれ1.35%、0.02%引き下げの一方、本体部分を0.43%引き上げた結果、全体改定率は▲0.94%となった。

## (キ) 職員の状況 (各年度4月1日現在)

## ① 正規職員

(単位：人)

区分	総合		こころ		こども		本部		計	
	令5	令6	令5	令6	令5	令6	令5	令6	令5	令6
医師	202	206	14	15	106	119	-	1	322	341
歯科医師	5	5	-	-	2	2	-	-	7	7
看護師	847	859	127	130	432	423	2	1	1,408	1,413
看護師	845	858	127	130	432	423	2	1	1,406	1,412
准看護師	2	1	-	-	-	-	-	-	2	1
医療技術	260	261	27	28	85	86	1	2	373	377
研究員	1	-	-	-	-	-	-	-	1	0
事務	65	69	14	14	27	27	33	30	139	140
計	1,380	1,400	182	187	652	657	36	34	2,250	2,278

※ アソシエイトを含む。

## ② 有期職員

(単位：人)

区分	総合		こころ		こども		本部		計	
	令5	令6	令5	令6	令5	令6	令5	令6	令5	令6
医師	104	112	7	10	40	38	-	-	151	160
歯科医師	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
看護師	69	74	7	7	16	17	-	1	92	99
看護師	69	73	7	7	15	16	-	1	91	97
准看護師	-	1	-	-	1	1	-	-	1	2
医療技術	30	31	3	5	20	18	-	-	53	54
研究員	1	2	-	-	-	-	-	-	1	2
事務	165	155	13	14	54	56	3	4	235	229
補助職員	92	85	10	12	22	29	1	1	125	127
計	461	459	40	48	152	159	4	6	656	671

※ 補助職員：看護助手、薬剤助手、放射線助手、検査助手等 ※短期間特別研修医は含まない。

## (ク) 令和6年度職員の採用状況 (令和5年度採用試験実施状況) (令和6年3月末現在)

- 看護師の採用については、定期募集を年4回、経験者募集を年12回計画し、募集を行っている。きめ細やかな対策を迅速に実施することができ、看護師採用数の確保を図っている。
- 人材確保のため、県内の養成校への訪問や修学資金の貸与、県内コンビニ、ショッピングモールへの看護師募集ポスター掲示を実施し、必要な看護師を採用している。(平28 136人、平29 113人、平30 113人、令元 123人、令2 102人、令3 113人、令4 116人、令5 116人)
- また、看護学生向けに就職情報を提供する民間事業者が開催する合同就職説明会への参加や就職情報サイトへの情報掲載等を積極的に行うと伴に、看護師就職説明会において、看護学生を集めるために説明会出展の周知メールの送信、当日は、看板等の設置やノベルティの配布を行った。
- 新たな看護師確保の取り組みとして、日ごろは各病院で実施している病院見学会を1日で体験できる3病院見学ツアーを企画・実施した。
- 医療技術については21人(薬剤師5人(一般4、経験者1)、診療放射線技師1人(一般)、臨床検査技師1人(一般)、臨床工学技士3人(一般2、経験者1)、理学療法士3人(一般)、作業療法士2人(一般)、視能訓練士1人(一般)、医療ソーシャルワーカー1人(一般)、心理療法士1人(経験者)、歯科衛生士1人(経験者)、遺伝カウンセラー2人(一般)を確保した。

- ・ 事務については、正規職員6人を確保した。

令和5年度採用試験実施状況

(単位：人)

区 分	令5試験実施（3月末） 【令6採用】	令4試験実施 【令5採用】	差 引
看 護 師	116	116	-
事 務	6	4	2
医 療 技 術	21	28	▲7
計	143	148	▲5

※前倒し採用は試験実施年度に集計。

令和5～6年度職員数の推移

(単位：人)

区 分	令5.4.1 現員数 a	5年度中 採用者数 b	5年度中退職者数		令6.3.31 現員数 e=a+b-c+d	令6.4.1 採用者数 f	令6.4.1 現員数 g=e-d+f	
			C	うち令6.3.31 退職者数d				
医 師	正 規	329	7	48	32	320	60	348
	有 期	151	24	175	163	163	160	160
	計	480	31	223	195	483	220	508
看 護 師	1,408	13	114	63	1,370	106	1,413	
医 療 技 術	373	4	14	8	371	14	377	
研 究 員	1	-	1	-	-	-	-	
事 務	139	1	25	20	135	25	140	
	うちプロパー	86	-	6	2	82	6	86
計	2,401	49	377	286	2,359	365	2,438	

※アソシエイトを含む(令5 看護10人、医療技術12人、事務20人 令6 看護6人、医療技術5人、事務19人)

※正規医師には、歯科医師、自治医初期研修医、へき地代診医師を含む

※有期医師の契約は1年更新、短期間特別研修医は除く

(ケ) 補助職員（医療秘書、助手等）の配置状況（各年度4月1日現在）

(単位：人)

区分		令元	令2	令3	令4	令5	令6
総合	医師事務補助	70	76	72	72	70	67
	看護助手	61	58	56	58	59	52
	コメディカル助手	20	23	26	28	27	28
	小計	151	157	154	158	156	147
こころ	医師事務補助	2	1	2	1	1	1
	看護助手	9	9	9	9	7	8
	コメディカル助手	2	2	2	2	2	2
	小計	13	12	12	12	10	11
こども	医師事務補助	20	19	20	18	18	19
	看護助手	22	21	21	21	20	24
	コメディカル助手	6	8	6	6	5	5
	小計	48	48	47	45	43	48
合計	医師事務補助	92	96	94	91	89	87
	看護助手	92	88	86	88	86	84
	コメディカル助手	28	33	34	36	34	35
	合計	212	217	214	215	209	206

## (2) 総合病院

### <理 念>

「信頼し安心できる質の高い全人的医療を行います」

全人的医療：身体、精神、心理、生活様式などを含めた総合的な視点から、患者さん自身の全体的な健康回復を目指す医療

### <基本方針>

- 1 医療を受ける人々の立場に立ち、説明に基づく心のこもった医療を行います。
- 2 県内の中核病院として高度医療や先進的医療に取り組み、地域医療を支援します。
- 3 救急医療、災害医療、へき地医療、結核医療などの政策医療を積極的に担います。
- 4 将来の医療を担う質の高い人材を育成します。
- 5 快適な職場環境の整備と透明性の高い健全な病院運営に努めます。

### <総 括>

総合病院は、県内医療機関の中核的病院として、各疾患の総合的な医療をはじめ、3大疾患（循環器疾患、脳疾患、がん疾患）に対する高度・専門医療や救急・急性期医療を提供している。

先端医学棟、循環器病センター等における最新の設備と医療機器を最大限に活用し、循環器疾患、脳疾患に対する高度・専門医療、がん疾患に対する集学的治療及び終末期医療、高度救命救急センターとしての救急医療を主要事業の三本柱として取り組んでいる。

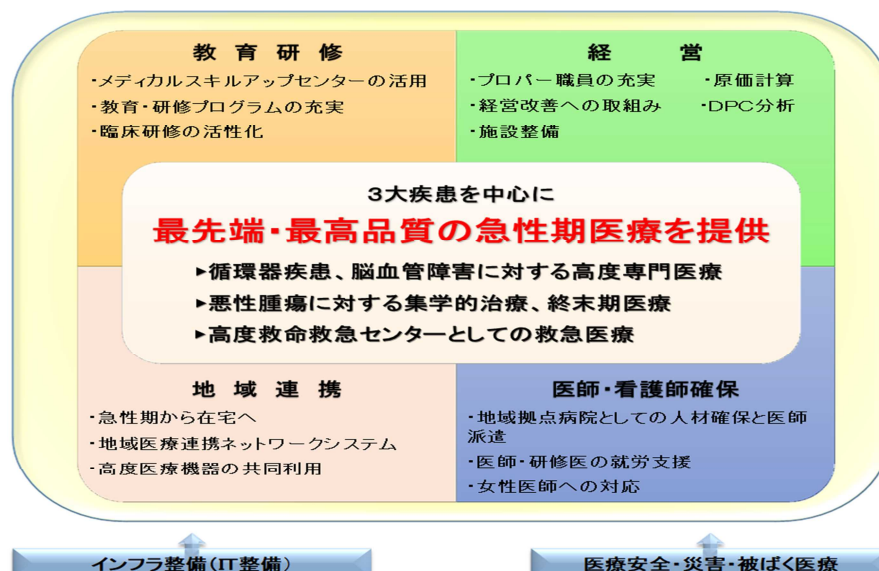
また、県内の中核的病院として、高度・専門・特殊医療を提供するため、紹介・逆紹介の推進による地域の医療機関との機能分化及び連携強化に努めている。

経営面においては、医療の高度化、手術件数増加に伴う診療材料費の増加や、化学療法実施件数増加に伴う薬品費の増加（がん治療薬：オブジーボ、キイトルーダ、テセントリク等）に対応するため、施設基準の積極的な取得の他、平均在院日数の短縮、集中治療系病棟（ERHCU、ICU、HCU）の稼働率向上や入院料加算算定件数の増加、各診療科の稼働状況にあわせた病床再編等の経営改善に取り組んでいる。

令和5年度は、入院患者数及び外来患者数については、前年度を上回った。入院単価、外来単価については、高度で専門的な医療の提供と、適切なベッドコントロールに努めており、前年度の単価を上回った。

今後も県立総合病院が目指す病院像（(図1)参照）のとおり、県立病院としての役割を果たすべく、各種機能の強化に努める。

県立総合病院が目指す病院像（図1）



### (3) こころの医療センター

#### <理 念>

安全・良質・優しいこころの医療を、いつでもどこでも誰にでも

#### <基本方針>

- 1 患者さんの人権と尊厳を守ります。
- 2 24時間365日、精神科救急医療を提供します。
- 3 最新の知識と技術を取り入れた高度専門医療を提供します。
- 4 手厚いチーム医療によって早期退院を目指します。
- 5 在宅医療とリハビリテーション、社会参加を支援します。
- 6 社会資源を開拓し、連携を強化します。
- 7 司法精神医療、災害医療などの公益医療に主体的に参加します。
- 8 社会人・組織人・医療人としての人材育成に努めます。
- 9 広い視野に立って研鑽を重ね、積極的に社会へ情報発信します。
- 10 健全で透明性の高い病院経営を目指します。

#### <総 括>

こころの医療センターでは、日本トップレベルの「精神科救急・急性期医療」を提供するため、「救急・急性期医療の充実」、「在宅医療の拡充」、「高度な医療技術の導入」及び「司法精神医療の充実」を重点的に推進し、目標とする精神科医療の体制整備（図2参照）に取り組んでいる。

平成22年度より急性期病棟群（救急及び急性期病棟）を中心に救急・急性期患者の受け入れを行い、それを後方的に支援する慢性病棟群（回復期及び慢性重症病棟）との機能分化を進め、平成25年度には急性期病棟を救急病棟に移行する等、診療体制を強化した。平成28年度及び平成30年度に南1病棟の一部個室化を進め、救急病棟、回復期病棟における病棟間の連携強化を図り、効率的な病棟運営に努めている。令和5年4月からは常時対応型の精神科救急医療体制施設として、県から指定を受けている。

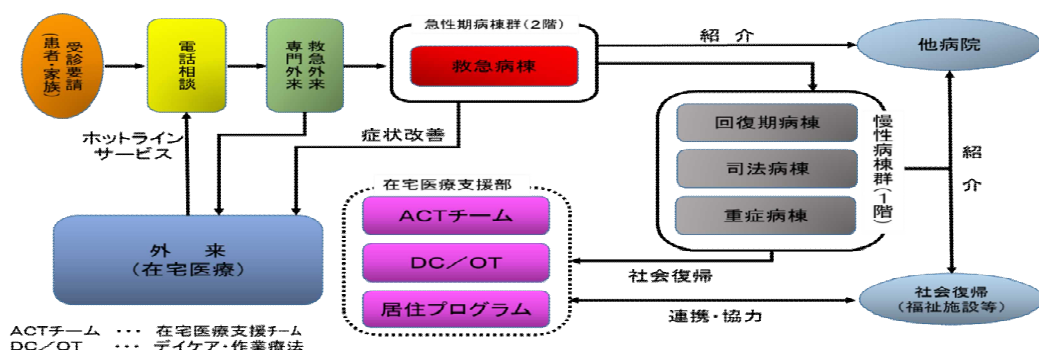
一方、精神科における医療は、「入院医療中心から地域生活中心へ」という方針が世界的趨勢であることから、在宅医療支援部門を強化し、多職種チームによる地域生活での支援体制の整備と長期入院者の退院促進に取り組んでいる。

あわせて、退院後の安定的な生活を維持し、再入院を防止することを目的に、患者に対する心理・社会的治療に積極的に取り組んでいる。

また、先端薬物療法（クロザピン）や修正型電気けいれん療法（m-ECT）など、高度な医療の導入に積極的に取り組むとともに、医療観察法指定入院医療機関として安定した運営を継続するなど、県内精神医療の中核病院としての役割を果たすべく取り組んでいる。

令和5年4月からは常時対応型の精神科救急医療体制施設として、県から指定を受けている。

こころの医療センター診療体制（図2）





## (4) こども病院

### <理 念>

「私たちは、すべての子どもと家族のために、安心と信頼の医療を行います。」

### <基本方針>

「患者中心の医療サービスの継続」

〔 地域の医療機関と連携し、診断・治療が困難なこどもの患者へ  
質の高い効果的な医療を提供 〕

こども病院が目指す方向 (図3)

- |            |                    |
|------------|--------------------|
| 1 専 門 病 院  | 安全を重視した質の高い医療      |
| 2 教 育      | 教育内容の充実が最大目標の一つ    |
| 3 地 域 連 携  | 相互支援に基づいた地域医療連携    |
| 4 効率的な病院経営 | 独善に陥らない標準的な経営と改善努力 |
| 5 働きやすい病院  | スタッフの満足度が高い労働環境    |

\*平成24年4月改定



### <総 括>

こども病院は、昭和52年度の開院以来、静岡県の地域医療、小児医療に貢献するという設立趣旨に則り、高度かつ先進的な医療を実践している。

現在では、県内小児医療の中核病院として、循環器疾患医療、小児救急医療、周産期医療、小児がん医療、児童精神科医療を中心に、すべての小児の健康問題に対応可能な小児専門総合医療施設として、質の高い医療を県民に提供している。

平成31年4月1日付けで厚生労働省から全国15施設の小児がん拠点病院の1つとして指定され、診療体制の整備、地域医療機関との連携、移行期医療への対応など機能強化を進めてきた。こうした当院の取組が評価され、令和4年度に再度指定を受け、令和5年4月1日から2期目の拠点病院としての活動を開始した。

令和2年度には静岡県からの受託により「移行期医療支援センター」を設置し、全国的な課題の成人移行患者への支援に取り組むため、令和5年度は小児医療施設から成人医療施設への紹介実績調査等を実施した。

令和4年度からは静岡県の「児童虐待早期発見医療体制整備事業」を受託し、地域医療機関等からの相談に対応するとともに、令和5年度は、県と連携して、医療従事者のための子ども虐待対応研修を実施した。

令和5年度から、地域・小児夜間救急における地域病院群オンライン連携による365日対応を試行する「小児救急リモート指導医相談支援事業」を静岡県から受託し、関係者と協議しつつ実証試験を進めている。課題である運用に乗せるための各病院への周知を進め、先行病院については令和5年12月に運用を開始した。



### 3 県民に対して提供する医療サービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

#### (1) 医療の提供

##### ア 総合病院

##### ○ 業務実績を示す各種指標

- ・ 入院延患者数及び病床稼働率、患者1人1日当たり単価は、5類移行後は一般病棟で新型コロナウイルス感染症罹患者を受入れたことにより、計画値を下回った。
- ・ 外来延患者数については計画値を下回ったが、患者1人1日当たり単価は計画を上回った。
- ・ 外来単価の増加要因は、外来化学療法件数の増加、高額薬剤（がん治療薬：オプジーボ、キイトルーダ、テセントリク等）の使用等、高度医療に取り組んだ効果によるものである。

令和5年度 業務量及び単価等年間実績

区分			年度計画	年間実績	増減	達成率(%)
入院	一般病床	入院延患者数 (人)	220,728	206,852	▲13,876	93.7
		病床稼働率 (%)	91.1	85.8	▲5.3	94.2
		平均在院日数 (日)		11.4		
	結核病床	入院延患者数 (人)	4,959	3,977	▲982	80.2
		病床稼働率 (%)	27.1	19.9	▲7.2	73.4
		平均在院日数 (日)		70.0		
	精神病床	入院延患者数 (人)	1,749	774	▲975	44.2
		病床稼働率 (%)	79.6	34.0	▲45.6	42.7
		平均在院日数 (日)		30.6		
	患者1人1日当たり単価 (円)	93,170	92,362	▲808	99.1	
外来	外来延患者数 (人)	455,056	457,778	▲22,418	95.3	
	患者1人1日当たり単価 (円)	24,769	26,132	+1,363	105.5	

※患者1人1日当たり単価は、税込金額(調定額ベースで算定)。病床稼働率は入院延患者数÷稼働病床数で算定。

- ・ 紹介率及び逆紹介率は計画値をわずかに下回った。今後も病診・病病連携の推進に努める。

令和5年度 紹介率・逆紹介率年間実績

(単位：%)

区 分	年度計画	年間実績	増 減
紹 介 率	90 以上	89.7	▲0.3
逆 紹 介 率	175 以上	173.0	▲2.0

※紹介率・逆紹介率の算定方法は、用語解説を参照。

- ・ 医療の提供については、循環器疾患及び、脳疾患に対する高度・専門医療、がん疾患に対する集学的治療及び終末期医療、高度救命救急センターとしての救急医療を主要事業の三本柱として重点的に取り組んでおり、令和6年3月の厚生労働省告示により、全国1,786のDPC病院の中で、引き続きDPC特定病院群（全国178病院が指定）を維持し、大学病院本院群と同等の高度医療及び医師研修を実施する病院として認められた。（県内では総合病院を含め6病院）
- ・ 循環器疾患、脳疾患に対する医療については、先端医学棟3階に設置したCT・MRI・血管造影の3種類のハイブリッド手術室を活用し、最新の治療器材と鮮明な画像診断により、経カテーテル大動脈弁置換術（TAVI）、ステントグラフト内挿術、経皮的僧帽弁接合不全修復術（MitraClip）等の低侵襲で高度な手術を実施している。特に、心臓血管外科では、認定機関としてダ・ヴィンチ使用手術（僧帽弁形成術）を実施している。
- ・ がん疾患に対する医療については、手術、化学療法、放射線治療等を効果的に組み合わせた高度な集学的治療を実施しており、静岡医療圏における地域がん診療連携拠点病院である当院に対して症例が集約化されている。

手術は、先端医学棟3階、4階に設置したハイブリッド手術室、内視鏡手術室、ロボット支援手術室を含む23室の手術室を効率的に運用し、手術件数を着実に伸ばしている。放射線治療は、先端医学棟1階に設置したリニアック3台を稼働し、強度変調回転放射線治療（VMAT）や脳定位放射線治療、体幹部定位放射線治療等の高精度な放射線治療を実施している。化学療法は、リニューアル整備した外来化学療法センターにおいて、がん専門資格を有する腫瘍内科を始めとする医師、看護師、薬剤師等が連携し、安全かつ適切な治療を行っている。

また、緩和ケアセンター（緩和ケアチーム）では、がん患者に対して適切な緩和医療を提供する他、地域の医療機関等との定期的なカンファレンスを通じて連携強化に取り組んでいる。

- ・ 救急医療については、高度救命救急センターとして重症熱傷、重症外傷、急性中毒等の重篤な救急患者の受入を行っている。また、ドクターカーを活用し、救命救急センターのスタッフが災害や事故の現場に急行又は搬送途中の救急車とドッキングして治療を開始することにより、救命率の向上に繋がっている。
- ・ 令和5年度も、新型コロナウイルス感染症に係る院内検査及び患者受入体制の充実に努めた。
- ・ 結核病棟については、結核病床を有する病院の多くが新型コロナウイルス感染症病床へ切り替える状況だが、総合病院においては50床を維持し、県内における結核患者の8割以上を受入可能な体制を整えている。
- ・ 令和5年4月から精神科病棟の運用を開始し、精神疾患患者および身体疾患への専門治療を同時に提供することが可能となった。また、静岡県精神科救急身体合併症対応事業を受託し、県内の身体合併症治療における地域偏在の改善を図った。
- ・ 令和4年9月に先端医学棟2階で火災が発生したが、令和5年9月末に復旧工事が完了した。
- ・ 施設整備については、主に本館は40年以上が経過し、設備配管やエアコン等空調機器等の設備機器などは、老朽化により故障などのトラブルが発生している。そのため、劣化度が高いものについて実施設計を行い、緊急的に防水工事、設備配管や設備機器等の劣化改修工事を行った。第4期中期計画についても、引き続き工事を行う予定である。

【劣化改修工事】

東立体駐車場 屋上防水改修	本館4階 屋上防水改修
	
本館電気室 無停電電源装置の蓄電池更新	北館5階病室 空調設備更新
	

## イ こころの医療センター

### ○ 業務実績を示す各種指標

- ・ 入院については、延患者数、病床稼働率及び患者1人1日当たり単価ともに、計画値を下回った。
- ・ 外来については、延患者数、患者1人1日当たり単価ともに、計画値を下回った。

#### 令和5年度 業務量及び単価等年間実績

区 分		年度計画	年間実績	増減	達成率(%)
入 院	入 院 延 患 者 数 (人)	55,551	52,898	▲2,653	95.2
	入院患者1人1日当たり単価 (円)	27,130	25,607	▲1,523	94.4
	平 均 在 院 日 数 (日)		122.0		
	病 床 稼 働 率 (%)	85.0	84.0	▲1.0	98.8
外 来	外 来 延 患 者 数 (人)	39,647	36,865	▲2,782	92.9
	外来患者1人1日当たり単価 (円)	6,429	6,402	▲27	99.6

※ 患者1人1日当たり単価は、税込金額(調定額ベースで算定)。平均在院日数は、医療観察法病床を除いて算定。病床稼働率は入院延患者数÷稼働病床数で算定。

- ・ 紹介率及び逆紹介率は、いずれも計画値を下回った。  
地域の医療機関や行政機関と協働し、紹介率や逆紹介率の向上に努めていく。

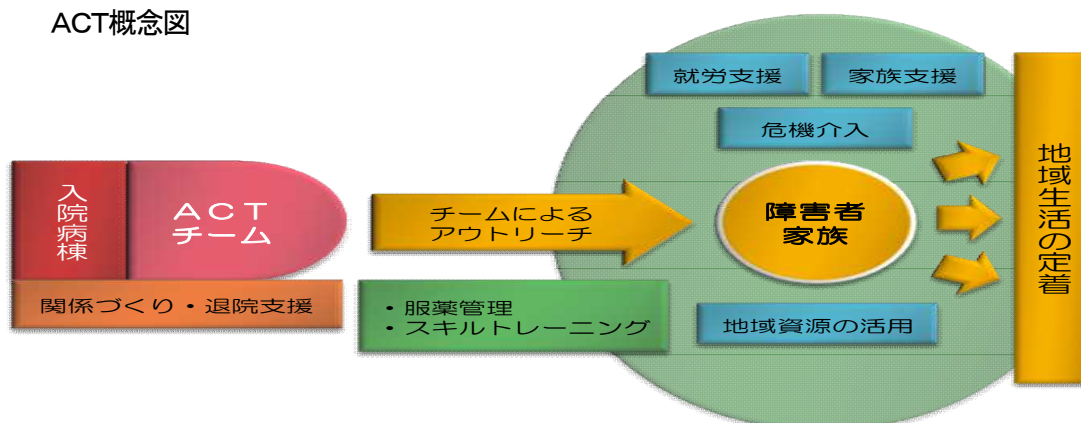
#### 令和5年度 紹介率・逆紹介率年間実績

(単位：%)

区 分	年度計画	年間実績	増 減
紹 介 率	57.0	54.8	▲2.2
逆 紹 介 率	30.0	27.0	▲3.0

- ・ 救急・急性期を中心とした診療体制の整備を図るとともに、包括的在宅医療支援体制モデルの構築や精神科救急相談体制の整備など、退院後の在宅支援を行うシステムを構築することで、「早期に集中的治療を行い、早期に社会復帰する」という体制づくりを進めている。
- ・ 県内全域を対象とした「精神科救急ダイヤル」を24時間体制で運用し、患者、家族だけではなく、医療機関や関係施設等からの救急医療相談に対応している。
- ・ 令和5年4月からは、従来の志太榛原圏域の病院群輪番型に加え、後方支援体制における全県域常時対応型の精神科救急医療施設として、県から指定を受けた。
- ・ 先端薬物療法(クロザピン)や高度な治療法である修正型電気けいれん療法(m-ECT)の実施など、医療水準の向上と重症患者の病状改善に積極的に取り組んだ。
- ・ 退院後の安定した地域生活の維持、再入院の防止に向け、心理・社会的治療の一環として、患者に対する心理教育・家族教室に積極的に取り組んだ。
- ・ 包括的在宅ケア(ACT)チームによる退院支援と手厚い24時間365日サポート体制による退院後の地域生活支援モデルの構築を進めた。

## ACT概念図



- ・ 県内唯一の医療観察法指定入院医療機関として本県及び他県関係の入院処遇対象者を受け入れており、機能の充実を図り、地域完結型の医療環境の形成を進めている。
- ・ 新型コロナウイルス感染症については、県の要請により病床を4床（うち2床をスタッフ用）整備していたが、令和5年5月に解除した。令和5年度中の陽性患者の受入れはなかった。
- ・ 病院での面会に制限がある場合においても患者とその家族等を繋ぐことが出来るよう、オンラインによる「面会」を可能にする体制を整備し、実施している。

## ウ こども病院

### ○ 業務実績を示す各種指標

- ・ 入院については、延患者数及び患者1人1日当たり単価は計画値を下回ったが、病床稼働率は計画値を上回った。
- ・ 外来については、延患者数は計画を下回ったが、患者1人1日当たり単価は計画を上回った。

### 令和5年度 業務量及び単価等年間実績

区 分		年度計画	年間実績	増減	達成率(%)
入 院	入 院 延 患 者 数 (人)	75,900	68,088	▲7,812	89.7
	入院患者1人1日当たり単価 (円)	111,471	101,473	▲9,998	91.0
	平 均 在 院 日 数 (日)		8.9		
	病 床 稼 働 率 (%)	75.0	75.9	+0.9	101.2
外 来	外 来 延 患 者 数 (人)	121,675	115,904	▲5,771	95.3
	外来患者1人1日当たり単価 (円)	16,531	18,316	+1,785	110.8

※患者1人1日当たり単価は、税込金額（調定額ベースで算定）。平均在院日数は、NICU、GCU、MFICU、PICU、精神科、短期滞在を除いて算定。病床稼働率は入院延患者数÷稼働病床数で算定。

- ・ 紹介率・逆紹介率ともに計画を下回った。今後とも病診連携や病病連携を推進していく。

### 令和5年度 紹介率・逆紹介率年間実績

(単位：%)

区 分	年度計画	年間実績	増減
紹 介 率	94.0	90.1	▲ 3.9
逆 紹 介 率	53.0	47.8	▲ 5.2

- ・ 循環器科、心臓血管外科を中心とした連携による診療、カテーテル治療や遠隔エコー診断等の先進的治療など、循環器疾患に対する高度先進的医療の提供に努めた。
- ・ 総合周産期母子医療センターの指定を受け、静岡県全域の周産期医療の中核を担い、ハイリスク胎児・妊婦、新生児に高度な先進的治療を提供した。
- ・ 平成31年4月1日付けで厚生労働省から全国15施設の小児がん拠点病院の1つとして指定され、拠点病院として、診療体制の整備、地域医療機関との連携、移行期医療への対応など機能強化を進めてきた。こうした当院のハード・ソフト両面における総合的な取組が評価され、令和4年度に再度指定を受け、令和5年4月1日から4年間に渡る2期目の拠点病院としての活動を開始した。
- ・ 令和元年12月には、がんゲノム医療連携病院となり、がん診療におけるゲノム検査を実施した。
- ・ 小児救命救急センターの指定を受けている小児集中治療センター（PICU）と、小児救急センター（ER）を中心に、24時間365日体制で、他院で対応困難と紹介された小児重症患者、小児救急患者を断ること無く受け入れた。
- ・ 地域・小児夜間救急における地域病院群オンライン連携による365日対応を試行する「小児救急リモート指導医相談支援事業」を静岡県から受託し、関係者会議での報告・協議を行いつつ、実証試験を進めた。課題である運用に乗せるための各病院への周知を進め、先行病院は令和5年12月に運用を開始した。
- ・ こころの診療科では、小児専門病院内に設置され、開放・閉鎖の2つのエリアを有していることから、多くの患者を受け入れた。また、厚生労働省の「子どもの心の診療ネットワーク事業」に参画し、ネットワーク構築のため医療機関、学校、地域等との連携強化に努める等、県内の児童精神科医療における中核的な機能を発揮した。
- ・ 新型コロナウイルス感染症への対応については、県から重点医療機関に指定され、8床（PICU1床、NICU1床、MFICU1床、北4病棟3床、CCU2床）の受入れ体制を確保し、県内の他の重点医療機関でも対応困難なコロナ感染小児重症患者を受入れ、コロナにおいても小児領域の最後の砦としての役割を果たした。また、今回の日本における新型コロナウイルス感染パンデミックの経験を踏まえ、第8次静岡県保健医療計画中間見直しにおいて新興・再興感染症対策が追加されたことから、小児領域で役割を果たすべく、感染症指定医療機関の指定及び新興感染症に対する医療措置協定の締結に向け、県と調整している。
- ・ 県から移行期医療支援センター運営事業を受託し、県と連携して移行期医療支援体制の推進に取り組んでいる。令和5年度は小児医療施設から成人医療施設への紹介実績調査のほか、こども病院として、患者の自立を促すための自立支援外来の実施、静岡市医師会と重症心身障がい児の移行のためのカンファレンスを行った。
- ・ 在宅移行の推進や在宅移行後の医療的ケア児への対応について、令和2年度に指定障害福祉サービスによる短期入所事業者の指定を受け、令和5年度は3人（延人数）の利用があった。また、リハビリの実施によっても支援しており、理学療法士がPICU入院患者のほぼ全例に早期離床の介入をするなどの対応により、令和5年度のリハビリ実施件数は令和4年度を上回った。
- ・ 令和5年3月に更新したCT装置やガンマカメラ装置などを活用し、小児患者の治療負担の軽減を図りつつ、高度かつ先進的な質の高い小児医療を実践した。
- ・ 令和6年3月には、ドクターカー（高規格救急車）を新車両に更新した。新車両では、ECMOを装着している重症患者の搬送や、保育器2台の同時搭載対応（双胎児対応）により、多様な症例患者の搬送が可能になった。また、運転席と患者室を分離し、患者室を陰圧にすることで、感染対策機能も向上している。



## 救急の体制



ドクターヘリの受入



ドクターカー（高規格救急車）



小児救急センター

## 北5病棟



AYAラウンジ



クリーン病室



クリーンエリア

## 医療の高度化に対応した器械整備



リニアック装置



アンギオ装置



CT装置



ガンマカメラ装置

## (2) 医療従事者の確保及び質の向上

### ア 総合病院

- ・ 医療技術者の研修については、研修医の海外研修への派遣や看護師の認定看護師研修への派遣、県立大学との共同研究等により、県立病院に相応しい医療技術者の育成に努めている。  
また、先端医学棟稼働に伴い、循環器病センター6階から先端医学棟2階へ拡張移転したメディカルスキルアップセンターにおいては、模擬病室の設置や各種高度なシミュレーターの導入により、院内外の多くの医療従事者に利用されており、医療の質の向上に寄与している。
- ・ 国際交流では、友好協力協定及び覚書を締結している中国浙江省の7医院からこれまでに研修生延べ86人（うち医師62人）を受け入れている。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響により、派遣研修及び相互訪問は中止していたが、令和4年度から徐々に再開し、令和5年6月には浙江省衛生健康委員会の副主任をはじめとする6名が来訪するなどの交流を行った。
- ・ 令和5年9月1日付けで、静岡県から特定及び連携型特定地域医療提供機関の指定を受けたため、許可された医師の労働時間短縮計画等に基づき、医師の労働時間短縮の取組等を推進する。  
また、チーム制・複数主治医制の導入を推進し、患者・家族等への時間外の説明などを原則禁止し、休暇の取得も推進した。  
現在継続している医師から看護・メディカルスタッフ・事務等への業務のタスクシフト（看護師特定行為の推進、持続皮下グルコース検査の推進他）を推進し、併せて、タスクシフトを行う、看護・メディカルスタッフ・事務等の労働環境の改善を推進した。  
医師の労働時間短縮計画に基づき、水準指定医師で勤務間インターバルが取得できなかった医師を毎月検証し、当該医師及び当該上司（診療科部長）に対し、代償休息の取得を依頼し、その実績について毎月検証（令和5年4月1日以降、試行中）している。

### イ こころの医療センター

- ・ 医療技術者の研修については、認定看護師研修への派遣等、精神医療の向上に資する人材の育成に努めている。特に認定看護師については、6名の精神科認定看護師等が在籍し、医療の質の向上に貢献している。

### ウ こども病院

- ・ セミナーや研修会を定期的開催するとともに、認定看護師研修等に職員を積極的に派遣するなど、院内外の研修会等を通じて病院全体の医療技術の向上に努めた。
- ・ 国際交流においては、マレーシア国立循環器病センター、浙江大学医学院附属儿童医院、深セン市小児病院との間で友好協力協定を締結している。医師・看護師の研修派遣・受入れ等については、令和2年度以降は新型コロナウイルス感染症の影響で中止しているが、令和5年6月には浙江省衛生健康委員会による当院視察が実施され、高度かつ先進的な質の高い小児医療を紹介したほか、オンラインでの診療支援は継続して実施している。
- ・ 院内保育所において、二重保育等の保育サービスに対応している。
- ・ 始業、終業時にBGM（癒やしの音楽）を放送し、職員のストレス軽減を図った。
- ・ 研修環境の整備に関し、令和5年度に、大会議室周辺の会議室の1つにポータブル医ガス装置を整備することで実技研修を常時実施可能な環境とするとともに、大会議室等の改修を行うことで研修内容や受講人数に応じて研修会場としても使用できるようにすることを決定し、当該工事を実施した。  
この整備及び改修により、研修機能を集約化した。



### (3) 医療に関する調査及び研究

- ・ リサーチサポートセンターを活用した研究に取り組んでおり、文部科学省科学研究費についてはすべての診療部門が申請対象となっている。令和5年度における文部科学省科学研究費の応募・採択状況は、応募件数3件、採択件数0件であるが、総合病院採択分の過年度からの研究継続件数は5件、他施設分担研究の継続件数は4件、他施設で採択され異動に伴い当院に移管した件数が1件と、合計10件の研究を取り扱っている。
- ・ また、静岡社会健康医学大学院大学との連携も引続き強化しており、令和5年度に博士前期課程に1名、博士後期課程に1名を選定している。
- ・ きこえとことばのセンター（静岡県乳幼児聴覚支援センター）では、乳幼児期の難聴や人工内耳の装用による脳の発達のメカニズムに関する研究をNTTコミュニケーション科学基礎研究所と共同で実施している。また、難聴児の音声言語獲得に高い実績を持つ、オーストラリアのシェパードセンターの療育プログラムによるパイロットセンター立ち上げの準備を静岡県と共に現地スタッフとのオンラインミーティングを重ねながら進めている。また、並行して新生児聴覚スクリーニング検査をオンサイト入力することで、関係機関との情報共有を可能にし、難聴の早期発見、早期介入、その後の支援につなげるための一元化された情報管理システムを開発し、県下での導入を進めるなど、きこえとことばのセンターの事業について積極的に取り組んでいる。
- ・ 効率的な病院運営のため、診療情報（DPCデータ）に基づく症例分析を行い、医局会においてDPC入院期間Ⅱ以内での退院状況や副傷病名の付与率向上等に係る説明と協力依頼により、平均在院日数の短縮やDPCコーディングの適正化に取り組んでいる。

#### 【医学研究奨励の内訳】 令和5年度

病 院	研 究 課 題	部 署	構 成 人 数
総 合	食道癌術後早期再発リスク因子の解析	食道胃外科	6
	Claudin-low 乳癌の CD44 抑制による TGF-β receptor 阻害剤の効果	乳腺外科	1
	当院で経験した多発肺癌（多中心性発癌と膵内転移）の病態把握と予後との関連性	肝胆膵内科	4
	腎生検検体の処理方法の違いに由来する電子顕微鏡所見のアーチファクトの検討	腎臓内科	11
	食道癌術後における術前の呼気能力による呼吸器合併症の予測に関する単施設レトロスペクティブコホート研究	リハビリテーション科	6
	禁煙治療中の抑うつ傾向のある喫煙者に対するアロマセラピーの心理的効果	臨床研究部	4
	両側人工内耳装用児の音声言語発達と聴覚パラメーターの検討	耳鼻咽喉科	2
	ロボット支援下大腸切除に腹部手術歴が与える影響の検討	消化器外科	5
	胆管ステント留置による総胆管結石治療の前向き試験	消化器内科	5

病 院	研 究 課 題	部 署	構成人数
総 合	性腺機能低下症例における末梢血キスペプチンとオキシトシン濃度の生理的意義の検討	糖尿病・内分泌内科	12
	シナジー効果を目的としたゲンタマイシン投与方法の違いによる、薬物血中濃度と腎機能障害発現頻度に関する後ろ向き研究	薬剤部	4
	肥満合併2型糖尿病患者における、トリプトファン代謝産物とインスリン抵抗性の検討	糖尿病・内分泌内科	2
	カテーテルアブレーション後の心房細動再発と経胸壁心エコー図パラメータの比較検討	検査技術室	5
	高齢子宮体がん患者における治療実態と予後に関わる研究	産婦人科	1
	糖尿病患者における脆弱性骨折の実態調査	糖尿病・内分泌内科	3
	慢性腎不全を合併した膵頭部癌の外科治療に関する検討	消化器外科	1
	Integrating Deep Phenotypic Information and GWAS Studies for Diabetes Precision Medicine	糖尿病内科	3
	静岡県立総合病院データとバイオバンクジャパンデータの統合による複雑形質解析	臨床研究部	2
	日本人データとUK バイオバンクデータの統合による複雑形質解析	臨床研究部	2
	ヒドロコルチゾン含有オキシテトラサイクリン塩酸塩軟膏がーゼを抜歯窩に挿入した場合の抜歯後の不快症状予後に関する臨床学的検討	歯科口腔外科	6
	急性期病院の入院患者における院内転倒を予測する因子の特定と予測スコアリングシステムの開発と実装	看護部 外来東	7
	糖尿病患者における食事療法に対する意識及びその影響因子の検討	栄養管理室	5
	喘息患者における尿中脂質代謝物と治療応答性との関連の解明	呼吸器内科	3
	ヒドロモルフォン製剤の換算比に関する研究	薬剤部	1
	胃癌術前 CT 画像所見と臨床所見より機械学習で求めた長期予後予測法の開発	消化器外科	6
	重症外傷患者搬送時における全脊柱固定の有効性～JTDBの解析から	救命救急科	1
	内分泌代謝疾患を対象とした生殖細胞系遺伝子および体細胞変異の解析	糖尿病・内分泌内科	3

病 院	研 究 課 題	部 署	構成人数
	重症患者管理における等張炭酸水素ナトリウムに関する検討	救命救急科	1
	悪性腫瘍切除後二次性リンパ浮腫に対する外来管理におけるセルフケア補助ツールとしてのアプリケーションの開発	形成外科	2
	計	29	114
こころ	精神科経験年数による精神科救急急性期病棟に勤務する看護師の隔離・身体的拘束に対する倫理的ジレンマの感じ方の違いの把握について	看護部	4
	計	1	4
こども	複雑心奇形を合併した小児外科疾患の治療指針についての Systematic Review	小児外科	8
	先天性上部消化管閉鎖における羊水中の膵酵素、胆汁酸濃度と臍帯潰瘍との関連についての検討	産科	4
	混合型脈管奇形に伴う血液凝固異常に対する止血能力の評価	血液腫瘍科	5
	薬剤溶出性ステント留置後の免疫抑制剤の体内動態	循環器科	16
	性分化疾患発症メカニズムの分子遺伝学的探索と性分化疾患対応チームの構築	糖尿病・代謝内科	2
	神経発達症児の養育者に対する新規ペアレントトレーニング・プログラムの開発	成育支援室	8
	尿中ポドサイトの検出意義及び腎糸球体病態の比較検討	検査技術室	12
	新生児集中治療室の患児の療養ゾーンの可視化とメチシリン耐性黄色ブドウ球菌検出に関する研究	看護部	1
	頭部 CT の代替としての骨条件 MRI の有用性についての研究	脳神経外科	6
	子宮頸管粘液を用いての絨毛膜下血腫の予後判定に関する研究	産科	3
計	10	65	

#### (4) 医療に関する地域への支援

##### ア 機構全体

- 令和3年4月に地域医療連携推進法人として県内初の認定を受けた「地域医療連携推進法人 ふじのく



- ・ 地域医療支援病院としての役割を果たすため、医師不足が顕著な公的病院や急病センター等計10の医療機関等に対して、令和5年度は延621人の医師を派遣した。
- ・ 映像通信システムを通じて、浜松医科大学やマレーシア国立循環器病センター等と定期的に症例検討会を実施した。また、県内4病院と連携して心エコー画像の遠隔診断を行う等、映像情報を活用した地域医療機関等との連携及び支援を行った。
- ・ 児童精神科医療におけるネットワーク構築等のため、小中学校教諭を対象とした精神保健講座や児童養護施設の巡回相談を実施するなど、学校・地域との連携強化に努めた。
- ・ 県内の医師や看護師を対象とした症例検討会を開催する等、地域の周産期医療の質向上と他医療機関との連携強化を図った。
- ・ 地域の医療・消防機関で構成されるメディカルコントロール協議会に、集中治療科、小児救急科等の医師が参加し、体制整備に協力した。
- ・ 令和4年度からは、静岡県の「児童虐待早期発見医療体制整備事業」を受託している。院内の児童虐待対応体制を整備するとともに、相談対応や教育研修を実施することにより、地域の医療機関、児童相談所等を支援し、こども家庭庁の事業の柱のひとつでもある児童虐待防止に取り組んだ。
- ・ 地域・小児夜間救急における地域病院群オンライン連携による365日対応を試行する「小児救急リモート指導医相談支援事業」を静岡県から受託し、実証試験を進め、先行病院は12月に運用を開始した。

## (5) 災害等における医療救護

- ・ 災害拠点病院は、災害時に多発する重篤救急患者を受け入れ、自己完結型の医療救護チームを被災地に派遣し、地域医療機関への応急用資器材の貸し出し機能を有する病院であり、県下23病院が指定されている。
- ・ 総合病院は、基幹災害拠点病院に指定されており、災害拠点病院の機能をさらに強化した要員の訓練や研修機能を有し、災害医療に関して県の中心的役割を果たす病院であることが求められている。
- ・ 総合病院とこども病院は、「静岡県医療救護計画」に基づき、静岡市の救護病院（重症患者及び中等症患者の処置及び収容を行う病院）に指定されているほか、総合病院における被ばく医療については、原子力発電所の重大事故に備えた原子力災害拠点病院に指定されている。
- ・ 防災計画等の取組については、東日本大震災以降の国の施策の見直しなどに対応した改訂を行うとともに、総合病院では、災害発生時の断水に備えるため、地下水を上水として活用できる装置を導入している。
- ・ 総合病院では、令和5年度は、通信訓練、総合防災訓練や各ブロック訓練が通常開催され、DMAT 隊員が参加し、県や市、他のDMAT チームとの連携を確認した。また、新型コロナの影響で開催されていなかった富士山静岡空港の訓練に参加し、消防や空港との連携を確認した。  
本年度、香川県で実施された大規模地震時医療活動訓練（政府訓練）では、2名のDMAT 隊員が参加した。また、能登半島地震に伴うDMAT 派遣を3チーム（1チームは他の病院との混合）派遣し、ロジスティックチームの派遣として1名を、県対策本部に延べ38名を派遣した。
- ・ こころの医療センターは、災害発生直後に精神科医療における支援が可能なDPAT（災害派遣精神科医療チーム）を保有し、災害発生時に被災地へのDPATの派遣や県の要請に基づく支援等を実施する体制を整備しており、令和3年2月には、診療機能、一時的避難所及びDPAT派遣機能を有した災害拠点精神科病院として、県内では初となる指定を受けた。
- ・ 令和5年度は、総合防災訓練や内閣府による大規模地震時医療活動訓練等に参加し、発災時においてスムーズな支援活動が実施できるよう、県や市町等との連携を確認した。
- ・ 令和6年1月に発生した能登半島地震では、県からの要請に基づきDPAT先遣隊を2隊派遣し、精神科医療ニーズの収集、精神科医療機関や他県DPAT 隊との連絡調整、避難所における診療業務等に従事した。
- ・ こども病院では、新採職員向け消火避難訓練において、初期消火訓練、病棟患者を想定した模擬患者の避難誘導及び避難訓練訓練を実施した。また、総合防災訓練において、平日昼間の時間帯で発災した際の

初動チェック訓練、発災1日後のベッドコントロール訓練、コロナ禍中に一時中止していた災害医療ゾーンの立ち上げ訓練を実施した。さらに、夜間想定防火避難誘導訓練では、夜間想定に限られた人的資源をできる限り生かした安全な避難経路を設定する訓練などを実施した。

## 4 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

### (1) 効率的な業務運営体制の強化

#### ア 機構全体

- ・ 理事会、運営会議、総務・経営担当課長会議を、8月を除く原則毎月開催し、意思決定の迅速化に努めた。
- ・ 地方独立行政法人制度のメリットを活かして契約の複数病院一括化及び複数年契約化を進める一方で、契約によっては分割して発注することによって競争性を高めるなど、柔軟に契約方法を変更することで経営改善を推進した。
- ・ 経費の節減のみならず、モニタリング制度（インセンティブ（契約期間の延長）の付与や業務内容が適切ではない場合の減額等が課せられている。）の適用などにより、業務の質の向上も図った。
- ・ 業務改善の推進として、機構の業務改善運動推進制度を設置しており、業務改善に積極的に取り組む組織風土の醸成に努めている。各病院及び本部事務部において取組みを実施しており、優れた取組みについては広く周知を図っている。

#### イ 総合病院

- ・ 平均在院日数の短縮に向け、各診療科においてDPC入院期間Ⅱ以内での退院を促進し、効率的な病棟運営に努めている。
- ・ 先端医学棟3階、4階に新設した22室を含む23室の手術室（ハイブリッド手術室、内視鏡手術室、ロボット支援手術室等）とHCU20床の一体的かつ効果的な運用に努めている。
- ・ 患者サポートセンターによる入院前から退院後までの一貫した支援（入院前問診・オリエンテーション等）により、患者満足度向上と病棟看護師の業務量軽減を図っている。令和5年度も、耐震補強を含む病棟改修工事等の状況を踏まえながら、空床情報の一元管理と適切なベッドコントロールを行った。
- ・ 重症系病棟の稼働率向上に向けて、医師が中心となり効率的な病棟運営に努めている。  
自治体共済会MRPベンチマークシステムの活用及び共同購入組織「一般社団法人日本ホスピタルアライアンス（略称：NHA）」への加盟により、薬品、診療材料に係る価格交渉や品目の切り替えを推進し、薬品費、診療材料費の削減に努めている。

#### ウ こころの医療センター

- ・ カンファレンスの実施などを通じた多職種間の積極的な情報共有によるチーム医療の推進により、患者の早期退院・早期社会復帰による病床利用の効率化に努めている。
- ・ 毎月の経営戦略委員会や管理会議において病院の経営状況を報告するなど、院内で経営に関する情報を共有することにより、職員全体の経営意識の向上を図っている。

#### エ こども病院

- ・ 医事委託業者と共同で定期的に勉強会等を実施し、各診療科との連携を密にして確実に診療報酬請求を行うなど、診療収益の増加に努めた。
- ・ 診療材料の単価、品目、業者等の見直し、消耗品の節約、委託契約の業務内容の見直し、職員の時間外勤務の適正化等により、経費削減に努めた。また、令和元年10月から共同購入の取組を開始し、汎用材料の価格削減を図っており、採用品の増加を進め、令和4年度に参加分野の拡大を検討し、令和5年度か

らは手術分野が参加した。

- ・ 毎月の管理会議において病院の経営状況を報告し、特に令和5年度には10月に経営危機宣言を発令するなど、院内で経営に関する情報を共有することにより、職員全体の経営意識の向上を図った。

## (2) 事務部門の専門性の向上

- ・ 事務職員基礎研修、会計研修等を実施し、業務関連知識の向上を図った。
- ・ 働き方改革関連法に対応するため、令和2年度以降は労務管理者研修を実施している。
- ・ 診療情報管理士等の資格については、貸付制度といった取得支援制度を活用し、資格者の増員を図った。
- ・ 事務部門に係る業務マニュアルを毎年度更新し、グループウェア上に公開している。機構内で情報の共有を図ることで、業務の標準化を図り、業務マニュアルの活用に努めた。

## (3) 収益の確保と費用の節減

- ・ 令和5年度は、前年度に引き続き、薬品費については、競合する薬剤を引き合いに出した交渉により薬品費の値引きに努めている。
- ・ 診療材料費については診療材料の共同購入による価格交渉など経費の節減に取り組んでいる。また、SPDが期限を確認し、期限切迫品を表示し、使用頻度の高い部署への移管するなど、ロスを防ぐ取り組みを実施している。
- ・ 令和5年度は燃料費の高騰を受け、電気料金が上昇していることから、3病院に空調・照明をはじめとした更なる節電対策への呼びかけを行った。
- ・ 総合病院においては令和3年度の管理一体型ESCO事業の導入により、本館及び北館の老朽化した熱源機器等をエネルギー効率の高い省エネ機器に更新した。蛍光灯照明についてもLED照明器具に交換するなど、省エネ改修を行い、電気料金の削減につながっている。

## (4) 予算、収支計画及び資金計画

- ・ 第3期中期計画(令元～5)の最終年度となる令和5年度は、物価高騰に伴う材料費の増加の影響などにより、平成21年の独立行政法人化後初めて経常収支比率100%を下回った。
- ・ 中期計画の予算では、経常収支比率100%以上としていたが、各病院とも経常収支比率100%以上を達成することができず、15億2,978万円の経常損失となった。
- ・ 各病院においては、新型コロナウイルス感染症が5類に分類された後の患者数の回復や経営状況の把握を行い経営改善に努め、徐々にその効果が現れてきたものの、特に、こども病院においては、新型コロナウイルス感染症の影響や近年の急激な少子化の進行に十分な対応が取れず、非常に厳しい経営状況となった。

項目別業務実績評価

<評価凡例>

- S 計画に対し十分に取り組み、顕著な成果が得られている。
- A 計画に対し十分に取り組み、成果が得られている。
- B 計画に対し十分に組み組んでいる。
- C 計画に対する取り組みは十分ではない。

中期計画		第1 県民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置					
中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(R5、第3期中期目標期間)	令和5年度実績 自己評価	
						評価	説明
前文 <p>地方独立行政法人静岡県立病院機構(以下「県立病院機構」という。)は、平成21年度の法人設立以降、県立3病院(県立総合病院、県立こころの医療センター、県立こども病院)を運営し、他の医療機関では対応困難な高度・専門医療等の提供をはじめ、救急医療や災害時医療の提供、公的医療機関への医師派遣など、本県の政策医療を担う重要な役割を果たし、地域医療の確保に貢献してきました。</p> <p>平成26年度から平成30年度までの第2期中期目標期間においては、地方独立行政法人制度の特徴を活かした病院運営を行い、県立総合病院における先端医学棟の開棟をはじめ、先進的な医療施設の整備及び医療機器の導入など、医療の質の向上とその提供体制づくりに取り組んでいます。</p> <p>また、経営面においても、設立以降毎年度経常収支黒字を達成しており、健全な病院運営が続いております。</p> <p>医療の高度化や医療ニーズの多様化が進む一方で、超高齢社会が到来し、平成37年には全ての団塊世代が75歳以上となることから、平成37年における医療提供体制を確保するため、県では地域医療構想を策定し、医療機能の分化や地域の医療機関の連携を推進しています。</p> <p>このような中で、平成31年度から始まる第3期中期目標期間においては、本県の医療政策の方針を定めた静岡県保健医療計画や総務省が策定した新公立病院改革ガイドラインを踏まえ、県立病院として、継続して本県の政策医療を担う重要な役割を果たし、地域医療の確保に貢献することとし、その機能を強化して、県民の医療ニーズに応え、安全で質の高い医療の提供を図っていく必要があります。</p> <p>また、PDCAサイクルが適切に機能するために、県立病院機構が自主的に定量的目標を策定し、業務運営に取り組む必要があります。</p> <p>この中期目標は、第3期中期目標期間における県立病院機構の業務運営の目標や方向性を示すものであり、本県の医療の確保や向上のため、県立病院機構が以下の項目に真摯に取り組み、目標が実現されることを強く求めるものであります。</p>	前文 <p>地方独立行政法人静岡県立病院機構(以下「県立病院機構」という。)は、平成21年度の法人設立以降、県立総合病院、県立こころの医療センター、県立こども病院(以下「県立病院」という。)を運営し、高度・専門・特殊医療や救急・急性期医療等の分野において第一級の病院であること、地域医療を確保するための支援の中心的機能を果たすことを使命とし、本県の政策医療を担い、効率的、効果的な病院運営に取り組んできました。</p> <p>平成26年度から平成30年度までの第2期中期計画期間においては、県立総合病院の先端医学棟の開棟をはじめ、県立こころの医療センターや県立こども病院においても先進的な医療の提供や医療体制の充実にも努め、医療の更なる質の向上に取り組むなど、県立病院としての使命を果たしてきました。</p> <p>経営面では、経費の削減努力等により、設立以降毎年度経常収支黒字を達成しています。</p> <p>平成31年度から始まる第3期中期計画期間においては、今後の更なる高齢化の進展や医療需要の変化に対応していくため、国における医療提供体制の改革をはじめ、静岡県保健医療計画や新公立病院改革ガイドラインを踏まえ、県立病院が求められる役割を果たせるよう取り組みます。</p> <p>具体的な取組としては、引き続き「がん医療」、「循環器医療」、「救急医療」等の高度で専門的な医療の提供や地域医療の支援に重点を置いて、医療技術の進歩を的確に取り入れ、県民の医療に対する期待に応えるべく、安全で質の高い先進的な医療の提供に積極的に努めます。</p> <p>県立病院機構は、下記の基本方針に従って中期計画を策定し、県から示された中期目標の達成に向けて全職員が協力して取り組み、県民の信頼と安心を得る病院であり続け、本県の医療の確保と向上に貢献していきます。</p>	<p>県立病院機構は、第3期中期計画期間の最終年である5年目を迎えるにあたり、引き続き「第一級の病院」、「地域医療支援の中心的機能」など、中期目標において求められている役割を果たしていくことを最優先課題として取り組んでいく。</p> <p>このため、積極的な人材確保、環境改善及び医療の質の向上、地域医療機関との更なる連携、業務量に基づく収支計画、法人の特色を活かした経営の効率化、将来を見据えた資本整備、経常収支比率100%の達成を念頭に、令和5年度重点事業、予算・収支計画・資金計画等を以下のとおり定める。</p>					
<p>1 「信頼と根拠に基づく最適な医療を安全に提供すること」を診療の基本姿勢に据え、本県医療の規範となるべく医療の提供に努めること。</p> <p>2 本県の地域医療を支える最後の砦たることを目指し、他の医療機関では対応困難な高度又は特殊な医療などの政策医療や不採算医療の提供に一層取り組むこと。</p> <p>3 医師の確保及び育成に努めるとともに、地域医療を担う公的医療機関への医師派遣を行うこと。また、県との協働により、本県の医師確保対策に取り組むこと。</p>	<p>1 科学的根拠に基づく最適な医療を安全に提供し、県民に信頼される「第一級の病院」として、本県医療の規範となる役割を果たす。</p> <p>2 「地域医療支援の中心的機能」を果たすため、高度・専門・特殊医療、救急・急性期医療等、他の医療機関では対応困難な医療や不採算医療など、県の医療政策に対し積極的に取り組む。</p> <p>3 教育研修をはじめ、臨床研究機能の充実強化、勤務環境を向上することにより魅力ある病院づくりに努め、優秀な人材の確保と育成及び県との協働による本県の医師確保対策に取り組む。</p>						



中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(R5、第3期中期目標期間)	令和5年度実績 自己評価	
						評価	説明
<p>4 様々な領域において医療の質の向上を目指した先駆的な取組に挑戦し、成果を上げること。これらの成果を情報発信し、県民や他の医療機関と共有すること。</p> <p>5 医療水準の向上及び医療人材の確保を目指し、臨床研究に取り組むこと。また、県立総合病院のリーサーサポートセンターにおいて県が推進する社会健康医学研究に協力すること。</p>	<p>4 職員一人ひとりが医療の質の向上を目指し、先駆的な取組や業務の改革と改善に努め、その成果を情報発信し、県民や他の医療機関との共有を図る。また、全ての職員が職務について高い満足度を持って取り組むことのできる勤務環境の構築に努める。</p> <p>5 県立総合病院のリーサーサポートセンターを活用して、臨床研究に取り組むほか、県が行う社会健康医学の研究推進に協力する。</p>						
<p><b>第1 中期目標の期間</b> 平成31年4月1日から平成36年3月31日までの5年間とする。</p>	<p><b>第1 中期計画の期間</b> 平成31年4月1日から平成36年3月31日までの5年間とする。</p>	-		-	-		
		-		-	-		

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(R5、第3期中期目標期間)	令和5年度実績 自己評価																																											
						評価	説明																																										
<p><b>第2 県民に対して提供する医療サービスその他の業務の質の向上に関する事項</b></p> <p>県立病院機構は、定款で定める業務について、質の向上に取り組み、多様化する県民の医療ニーズへの対応に努めること。また、その成果を県民や他の医療機関と共有できるよう、県民視点での情報発信に努めるほか、患者や家族の立場に立ち、その満足度が高められるよう、創意工夫に取り組むこと。</p>	<p><b>第2 県民に対して提供する医療サービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置</b></p> <p>県立病院では、県民の医療需要に的確に対応し、安全で質の高い医療の提供を図る。このためには、医療の品質管理が必要である。この医療の質を向上させるため、定量的目標を定め、適切な医療の提供を行い、県立病院にふさわしい優秀な人材の確保と育成、医療に関する調査及び研究、地域への支援、県民の安心、安全を守るための災害等における医療救護体制の整備に努める。</p>	<p><b>第1 県民に対して提供する医療サービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置</b></p>																																															
<p><b>1 医療の提供</b></p> <p>医療機関として求められる基本的な診療理念や県立病院が担う医療を明確にし、他の医療機関との機能分担や連携のもと、医療の質の向上に努め、患者や家族、地域から信頼される医療を提供すること。</p>	<p><b>1 医療の提供</b></p> <p>県立病院機構の職員は、県立病院が担う役割と責任を認識するとともに、医療機関に求められる基本的な診療理念を理解し、医療の提供に当たってはそれを実践する。</p>	<p><b>1 医療の提供</b></p>																																															
<p>(1) 基本的な診療理念</p> <p>診療に当たっては、患者が最良の治療効果を得られるよう、患者との信頼関係の構築に努め、科学的根拠に基づく最適な医療を患者への十分な説明と同意のもとに安全に提供すること。</p>	<p>(1) 基本的な診療理念</p> <p>診療に当たっては、患者自らが選択し納得できるよう、患者への十分な説明など、患者との信頼関係の構築に努め、科学的根拠に基づく医療を安全に提供するため、医療技術の向上、チーム医療の推進、医療安全対策の充実などに取り組む。</p>	<p>(1) 基本的な診療理念</p> <p>各県立病院は、患者が選択し納得できる最良の医療を提供するため、次の事項等に取り組む。 ①患者への十分な説明と同意の徹底 ②医療技術の向上 ③チーム医療の推進 ④医療安全対策の充実 ⑤患者満足度(入院・外来)の向上</p>	-	-	-	-	-																																										
			1	①患者の適切な医療が受けられる権利を尊重し、セカンドオピニオンを実施する。	<p>各病院</p> <p>セカンドオピニオン数 (単位: 件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>90</td> <td>112</td> <td>114</td> <td>114</td> <td>82</td> <td>110</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>58</td> <td>48</td> <td>74</td> <td>48</td> <td>45</td> <td>30</td> </tr> </tbody> </table> <p>セカンドオピニオン用情報提供料算定件数 (総合) (単位: 件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>診療情報提供料(Ⅱ)</td> <td>150</td> <td>116</td> <td>116</td> <td>111</td> <td>116</td> <td>135</td> </tr> </tbody> </table>	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	総合	90	112	114	114	82	110	こころ	-	-	-	-	-	-	こども	58	48	74	48	45	30	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	診療情報提供料(Ⅱ)	150	116	116	111	116	135	A	令和5年度についても、患者の適切な医療が受けられる権利を尊重し、セカンドオピニオンを実施した。総合での受け入れは前年を上回り、他院への情報提供についてはコロナ前の状況に回復している。
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																											
総合	90	112	114	114	82	110																																											
こころ	-	-	-	-	-	-																																											
こども	58	48	74	48	45	30																																											
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																											
診療情報提供料(Ⅱ)	150	116	116	111	116	135																																											
			2	①②③運用実績などのエビデンスに基づくクリニカルパスの新規作成や見直しを行う。	<p>総合</p> <p>クリニカルパス管理委員会において、新規作成及び修正に係る審議、承認を行った。</p> <p>クリニカルパスの新規作成、適用率等実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新規作成(件)</td> <td>34</td> <td>9</td> <td>23</td> <td>17</td> <td>4</td> <td>26</td> </tr> <tr> <td>修正(件)</td> <td>253</td> <td>103</td> <td>225</td> <td>66</td> <td>70</td> <td>65</td> </tr> <tr> <td>適用率(%)</td> <td>63.3</td> <td>63.9</td> <td>68.3</td> <td>68.8</td> <td>68.2</td> <td>※74.2</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 電子カルテ更新等に伴う計算方法の見直しを実施。</p>	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	新規作成(件)	34	9	23	17	4	26	修正(件)	253	103	225	66	70	65	適用率(%)	63.3	63.9	68.3	68.8	68.2	※74.2	A	クリニカルパスに関する運用・管理について、医療の質の向上や業務の効率化に繋がるよう、医療従事者が定期的に議論を行った。 令和5年度は電子カルテの更新に伴い、パスの修正増加に向けた、患者の状態変化における評価・統計等の分析が容易となるBOMを導入し、また、計算方法の見直しを実施した。 ※BOM: 日本クリニカルパス学会の患者アウトカム用語基本マスター														
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																											
新規作成(件)	34	9	23	17	4	26																																											
修正(件)	253	103	225	66	70	65																																											
適用率(%)	63.3	63.9	68.3	68.8	68.2	※74.2																																											
			3	①②③入院における患者の負担軽減及び計画的でわかりやすい医療を提供するため、精神科に適したクリニカルパスを作成し導入する。	<p>こころ</p> <p>令和5年度末現在 稼働クリニカルパス 4件 (m-ECT、転倒転落、鑑定入院、クロザピン)</p> <p>稼働クリニカルパス件数 (単位: 件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>稼働クリニカルパス</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table>	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	稼働クリニカルパス	4	4	4	4	4	4	A	医療の質の向上や業務の効率化に繋がるよう医療従事者が定期的に議論を行っており、必要に応じ新規のクリニカルパス作成もしくは既存クリニカルパスの見直しを行い、患者の負担軽減に努め、より良い医療を提供した。																												
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																											
稼働クリニカルパス	4	4	4	4	4	4																																											

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(R5、第3期中期目標期間)	令和5年度実績 自己評価																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
						評価	説明																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
			4	①②③入院における患者の負担軽減及び計画的でわかりやすい医療を提供するため、小児科に適したクリニカルパスを作成し導入する。	<p>稼働クリニカルパス件数 (単位：件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>稼働クリニカルパス</td> <td>51</td> <td>51</td> <td>52</td> <td>61</td> <td>54</td> <td>62</td> </tr> </tbody> </table> <p>※令和3年度は病棟工事に伴い、一時的に稼働させたクリニカルパスがあり件数が増加した。</p>	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	稼働クリニカルパス	51	51	52	61	54	62	A	令和4年度に、次年度の電子カルテ更新を見据えてクリニカルパスの見直しを行った結果、令和5年度から新規で稼働させたパスがあり、令和5年度は前年度に比べ件数が増加した。																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
稼働クリニカルパス	51	51	52	61	54	62																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
			5	③チーム医療を推進し、多職種による病院横断的な活動を通して、質の高い医療を提供する。	<p>チーム医療の推進（カンファレンスの開催） 5年度</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>チーム名</th> <th>開催頻度</th> <th>主要メンバー</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="12">総合</td> <td>栄養サポートチーム</td> <td>2回/週</td> <td>医師、看護師、薬剤師、栄養士、臨床検査技師</td> </tr> <tr> <td>感染制御チーム</td> <td>院内5回/週 院外4回/年</td> <td>医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師</td> </tr> <tr> <td>抗菌薬適正使用支援チーム</td> <td>毎日</td> <td>医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師</td> </tr> <tr> <td>褥瘡対策チーム</td> <td>1回/月</td> <td>医師、看護師、栄養士</td> </tr> <tr> <td>呼吸ケアチーム</td> <td>1回/週</td> <td>医師、看護師、臨床工学技師、理学療法士</td> </tr> <tr> <td>認知症ケアチーム</td> <td>1回/週</td> <td>医師、看護師、薬剤師、社会福祉士、公認心理師</td> </tr> <tr> <td>精神科リエゾンチーム</td> <td>1回/週</td> <td>医師、看護師</td> </tr> <tr> <td>緩和ケアチーム</td> <td>1回/週</td> <td>医師、看護師、薬剤師、公認心理師、栄養士</td> </tr> <tr> <td>糖尿病透析予防診療チーム</td> <td>1回/週</td> <td>医師、看護師、栄養士</td> </tr> <tr> <td>排尿ケアチーム</td> <td>1回/週</td> <td>医師、看護師</td> </tr> <tr> <td>FLS(骨格リエゾンサービス)チーム</td> <td>1回/3ヶ月</td> <td>医師、看護師、理学療法士、放射線技師、臨床検査技師、薬剤師、社会福祉士、栄養士</td> </tr> <tr> <td>嚥下対策チーム</td> <td>1回/週</td> <td>医師、看護師、言語聴覚士、栄養士</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">こころ</td> <td>栄養サポートチーム</td> <td>週1回</td> <td>医師・看護師・薬剤師・栄養士</td> </tr> <tr> <td>感染防止対策チーム</td> <td>院内週1回 院外5回/年</td> <td>医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師</td> </tr> <tr> <td>褥瘡対策チーム</td> <td>1回/月</td> <td>医師・看護師・薬剤師・栄養士</td> </tr> <tr> <td rowspan="7">こども</td> <td>栄養サポートチーム</td> <td>随時</td> <td>医師・看護師・精神保健福祉士等</td> </tr> <tr> <td>感染防止対策チーム</td> <td>週1回</td> <td>医師・看護師・栄養士等</td> </tr> <tr> <td>感染防止対策チーム</td> <td>院内5回/週 院外4回/年</td> <td>医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師</td> </tr> <tr> <td>緩和ケアチーム</td> <td>1回/週</td> <td>医師、看護師、薬剤師、臨床心理士、栄養士</td> </tr> <tr> <td>褥瘡対策部会</td> <td>1回/月</td> <td>医師・看護師</td> </tr> <tr> <td>リハビリテーション</td> <td>随時(週1回程度)</td> <td>医師・看護師・理学療法士等</td> </tr> <tr> <td>チーム医療に対する診療報酬上の評価加算の状況 (単位：千円)</td> <td colspan="6"> <table border="1"> <thead> <tr> <th>病院</th> <th>項目</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="12">総合</td> <td>栄養サポートチーム</td> <td>1,154</td> <td>904</td> <td>1,246</td> <td>1,092</td> <td>879</td> <td>1,040</td> </tr> <tr> <td>感染制御チーム</td> <td>93,168</td> <td>92,879</td> <td>86,309</td> <td>86,701</td> <td>123,703</td> <td>132,299</td> </tr> <tr> <td>抗菌薬適正使用支援チーム</td> <td>15,985</td> <td>19,122</td> <td>17,563</td> <td>17,643</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>褥瘡対策チーム</td> <td>4,815</td> <td>2,085</td> <td>755</td> <td>1,630</td> <td>2,545</td> <td>1,160</td> </tr> <tr> <td>呼吸ケアチーム</td> <td>1</td> <td>92</td> <td>143</td> <td>224</td> <td>159</td> <td>134</td> </tr> <tr> <td>認知症ケアチーム</td> <td>4,462</td> <td>4,456</td> <td>4,445</td> <td>4,287</td> <td>4,313</td> <td>4,514</td> </tr> <tr> <td>精神科リエゾンチーム</td> <td>-</td> <td>580</td> <td>772</td> <td>4,164</td> <td>3,852</td> <td>3,483</td> </tr> <tr> <td>緩和ケアチーム</td> <td>3,163</td> <td>20,389</td> <td>17,965</td> <td>20,600</td> <td>18,704</td> <td>16,206</td> </tr> <tr> <td>糖尿病透析予防診療チーム</td> <td>508</td> <td>998</td> <td>431</td> <td>235</td> <td>168</td> <td>294</td> </tr> <tr> <td>排尿ケアチーム</td> <td>200</td> <td>212</td> <td>388</td> <td>536</td> <td>350</td> <td>500</td> </tr> <tr> <td>FLS(骨格リエゾンサービス)チーム</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>1,360</td> </tr> <tr> <td>嚥下対策チーム</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>517</td> </tr> <tr> <td>要介護患者支援管理チーム</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>84</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>123,456</td> <td>142,880</td> <td>131,561</td> <td>137,112</td> <td>154,673</td> <td>161,591</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">こころ</td> <td>感染防止対策チーム</td> <td>352</td> <td>368</td> <td>290</td> <td>347</td> <td>344</td> <td>515</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>352</td> <td>368</td> <td>290</td> <td>347</td> <td>344</td> <td>515</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">こども</td> <td>栄養サポートチーム</td> <td>2</td> <td>8</td> <td>40</td> <td>20</td> <td>34</td> <td>176</td> </tr> <tr> <td>感染防止対策チーム</td> <td>27,610</td> <td>27,460</td> <td>25,090</td> <td>23,660</td> <td>29,540</td> <td>2,741</td> </tr> <tr> <td>褥瘡対策チーム</td> <td>2,200</td> <td>2,535</td> <td>2,550</td> <td>2,470</td> <td>1,280</td> <td>1,575</td> </tr> <tr> <td>緩和ケアチーム</td> <td>-</td> <td>136</td> <td>590</td> <td>310</td> <td>340</td> <td>728</td> </tr> <tr> <td>リハビリテーション</td> <td>52,394</td> <td>58,836</td> <td>59,137</td> <td>72,397</td> <td>71,689</td> <td>75,490</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>82,206</td> <td>88,975</td> <td>87,407</td> <td>98,857</td> <td>102,883</td> <td>80,710</td> </tr> </tbody> </table> </td> <td>S</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>6</td> <td>④医療安全室及び感染対策委員会等を中心に、マニュアルの見直しや研修会を通じて院内感染防止対策・医療安全対策を実施する。</td> <td> <p>3病院で、以下のとおり研修等を実施し安全・安心な医療の提供に対する職員への意識づけと、体制整備を行っている。</p> <p>医療安全対策、院内感染対策研修等</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="5">集団感染数(件)</th> <th colspan="4">院内感染対策研修</th> <th colspan="4">医療安全対策研修</th> </tr> <tr> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> <th>研修数(回)</th> <th>参加者数(人)</th> <th>研修数(回)</th> <th>参加者数(人)</th> <th>研修数(回)</th> <th>参加者数(人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>24</td> <td>12</td> <td>4</td> <td>4,054</td> <td>24</td> <td>9,480</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>435</td> <td>6</td> <td>791</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>4</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>1,254</td> <td>2</td> <td>1,214</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>5</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>27</td> <td>17</td> <td>9</td> <td>5,743</td> <td>32</td> <td>11,485</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> </td> <td>A</td> <td>各病院では、感染対策委員会や医療安全委員会を行う他、研修についても法定回数を上回る実績を積んでいる等、継続的な対策研修の実施体制が確立している。医療安全研修については、前年参加者数を大幅に上回り(R4:10,486人)、積極的に取り組んだことが評価できる。令和5年度も、新型コロナウイルス感染症の院内感染対策として、感染対策室を中心に感染防止に関する取組や情報収集などを担い、県との調整のうえ患者の受入を適切に行った。</td> </tr> </tbody> </table>	区分	チーム名	開催頻度	主要メンバー	総合	栄養サポートチーム	2回/週	医師、看護師、薬剤師、栄養士、臨床検査技師	感染制御チーム	院内5回/週 院外4回/年	医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師	抗菌薬適正使用支援チーム	毎日	医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師	褥瘡対策チーム	1回/月	医師、看護師、栄養士	呼吸ケアチーム	1回/週	医師、看護師、臨床工学技師、理学療法士	認知症ケアチーム	1回/週	医師、看護師、薬剤師、社会福祉士、公認心理師	精神科リエゾンチーム	1回/週	医師、看護師	緩和ケアチーム	1回/週	医師、看護師、薬剤師、公認心理師、栄養士	糖尿病透析予防診療チーム	1回/週	医師、看護師、栄養士	排尿ケアチーム	1回/週	医師、看護師	FLS(骨格リエゾンサービス)チーム	1回/3ヶ月	医師、看護師、理学療法士、放射線技師、臨床検査技師、薬剤師、社会福祉士、栄養士	嚥下対策チーム	1回/週	医師、看護師、言語聴覚士、栄養士	こころ	栄養サポートチーム	週1回	医師・看護師・薬剤師・栄養士	感染防止対策チーム	院内週1回 院外5回/年	医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師	褥瘡対策チーム	1回/月	医師・看護師・薬剤師・栄養士	こども	栄養サポートチーム	随時	医師・看護師・精神保健福祉士等	感染防止対策チーム	週1回	医師・看護師・栄養士等	感染防止対策チーム	院内5回/週 院外4回/年	医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師	緩和ケアチーム	1回/週	医師、看護師、薬剤師、臨床心理士、栄養士	褥瘡対策部会	1回/月	医師・看護師	リハビリテーション	随時(週1回程度)	医師・看護師・理学療法士等	チーム医療に対する診療報酬上の評価加算の状況 (単位：千円)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>病院</th> <th>項目</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="12">総合</td> <td>栄養サポートチーム</td> <td>1,154</td> <td>904</td> <td>1,246</td> <td>1,092</td> <td>879</td> <td>1,040</td> </tr> <tr> <td>感染制御チーム</td> <td>93,168</td> <td>92,879</td> <td>86,309</td> <td>86,701</td> <td>123,703</td> <td>132,299</td> </tr> <tr> <td>抗菌薬適正使用支援チーム</td> <td>15,985</td> <td>19,122</td> <td>17,563</td> <td>17,643</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>褥瘡対策チーム</td> <td>4,815</td> <td>2,085</td> <td>755</td> <td>1,630</td> <td>2,545</td> <td>1,160</td> </tr> <tr> <td>呼吸ケアチーム</td> <td>1</td> <td>92</td> <td>143</td> <td>224</td> <td>159</td> <td>134</td> </tr> <tr> <td>認知症ケアチーム</td> <td>4,462</td> <td>4,456</td> <td>4,445</td> <td>4,287</td> <td>4,313</td> <td>4,514</td> </tr> <tr> <td>精神科リエゾンチーム</td> <td>-</td> <td>580</td> <td>772</td> <td>4,164</td> <td>3,852</td> <td>3,483</td> </tr> <tr> <td>緩和ケアチーム</td> <td>3,163</td> <td>20,389</td> <td>17,965</td> <td>20,600</td> <td>18,704</td> <td>16,206</td> </tr> <tr> <td>糖尿病透析予防診療チーム</td> <td>508</td> <td>998</td> <td>431</td> <td>235</td> <td>168</td> <td>294</td> </tr> <tr> <td>排尿ケアチーム</td> <td>200</td> <td>212</td> <td>388</td> <td>536</td> <td>350</td> <td>500</td> </tr> <tr> <td>FLS(骨格リエゾンサービス)チーム</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>1,360</td> </tr> <tr> <td>嚥下対策チーム</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>517</td> </tr> <tr> <td>要介護患者支援管理チーム</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>84</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>123,456</td> <td>142,880</td> <td>131,561</td> <td>137,112</td> <td>154,673</td> <td>161,591</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">こころ</td> <td>感染防止対策チーム</td> <td>352</td> <td>368</td> <td>290</td> <td>347</td> <td>344</td> <td>515</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>352</td> <td>368</td> <td>290</td> <td>347</td> <td>344</td> <td>515</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">こども</td> <td>栄養サポートチーム</td> <td>2</td> <td>8</td> <td>40</td> <td>20</td> <td>34</td> <td>176</td> </tr> <tr> <td>感染防止対策チーム</td> <td>27,610</td> <td>27,460</td> <td>25,090</td> <td>23,660</td> <td>29,540</td> <td>2,741</td> </tr> <tr> <td>褥瘡対策チーム</td> <td>2,200</td> <td>2,535</td> <td>2,550</td> <td>2,470</td> <td>1,280</td> <td>1,575</td> </tr> <tr> <td>緩和ケアチーム</td> <td>-</td> <td>136</td> <td>590</td> <td>310</td> <td>340</td> <td>728</td> </tr> <tr> <td>リハビリテーション</td> <td>52,394</td> <td>58,836</td> <td>59,137</td> <td>72,397</td> <td>71,689</td> <td>75,490</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>82,206</td> <td>88,975</td> <td>87,407</td> <td>98,857</td> <td>102,883</td> <td>80,710</td> </tr> </tbody> </table>						病院	項目	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	総合	栄養サポートチーム	1,154	904	1,246	1,092	879	1,040	感染制御チーム	93,168	92,879	86,309	86,701	123,703	132,299	抗菌薬適正使用支援チーム	15,985	19,122	17,563	17,643	-	-	褥瘡対策チーム	4,815	2,085	755	1,630	2,545	1,160	呼吸ケアチーム	1	92	143	224	159	134	認知症ケアチーム	4,462	4,456	4,445	4,287	4,313	4,514	精神科リエゾンチーム	-	580	772	4,164	3,852	3,483	緩和ケアチーム	3,163	20,389	17,965	20,600	18,704	16,206	糖尿病透析予防診療チーム	508	998	431	235	168	294	排尿ケアチーム	200	212	388	536	350	500	FLS(骨格リエゾンサービス)チーム	-	-	-	-	-	1,360	嚥下対策チーム	-	-	-	-	-	517	要介護患者支援管理チーム	-	-	-	-	-	84	計	123,456	142,880	131,561	137,112	154,673	161,591	こころ	感染防止対策チーム	352	368	290	347	344	515	計	352	368	290	347	344	515	こども	栄養サポートチーム	2	8	40	20	34	176	感染防止対策チーム	27,610	27,460	25,090	23,660	29,540	2,741	褥瘡対策チーム	2,200	2,535	2,550	2,470	1,280	1,575	緩和ケアチーム	-	136	590	310	340	728	リハビリテーション	52,394	58,836	59,137	72,397	71,689	75,490	計	82,206	88,975	87,407	98,857	102,883	80,710	S					6	④医療安全室及び感染対策委員会等を中心に、マニュアルの見直しや研修会を通じて院内感染防止対策・医療安全対策を実施する。	<p>3病院で、以下のとおり研修等を実施し安全・安心な医療の提供に対する職員への意識づけと、体制整備を行っている。</p> <p>医療安全対策、院内感染対策研修等</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="5">集団感染数(件)</th> <th colspan="4">院内感染対策研修</th> <th colspan="4">医療安全対策研修</th> </tr> <tr> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> <th>研修数(回)</th> <th>参加者数(人)</th> <th>研修数(回)</th> <th>参加者数(人)</th> <th>研修数(回)</th> <th>参加者数(人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>24</td> <td>12</td> <td>4</td> <td>4,054</td> <td>24</td> <td>9,480</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>435</td> <td>6</td> <td>791</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>4</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>1,254</td> <td>2</td> <td>1,214</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>5</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>27</td> <td>17</td> <td>9</td> <td>5,743</td> <td>32</td> <td>11,485</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	区分	集団感染数(件)					院内感染対策研修				医療安全対策研修				30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	研修数(回)	参加者数(人)	研修数(回)	参加者数(人)	研修数(回)	参加者数(人)	総合	0	1	0	1	24	12	4	4,054	24	9,480			こころ	1	0	0	0	0	2	3	435	6	791			こども	4	0	1	0	3	3	2	1,254	2	1,214			計	5	1	1	1	27	17	9	5,743	32	11,485			A	各病院では、感染対策委員会や医療安全委員会を行う他、研修についても法定回数を上回る実績を積んでいる等、継続的な対策研修の実施体制が確立している。医療安全研修については、前年参加者数を大幅に上回り(R4:10,486人)、積極的に取り組んだことが評価できる。令和5年度も、新型コロナウイルス感染症の院内感染対策として、感染対策室を中心に感染防止に関する取組や情報収集などを担い、県との調整のうえ患者の受入を適切に行った。
区分	チーム名	開催頻度	主要メンバー																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
総合	栄養サポートチーム	2回/週	医師、看護師、薬剤師、栄養士、臨床検査技師																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	感染制御チーム	院内5回/週 院外4回/年	医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	抗菌薬適正使用支援チーム	毎日	医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	褥瘡対策チーム	1回/月	医師、看護師、栄養士																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	呼吸ケアチーム	1回/週	医師、看護師、臨床工学技師、理学療法士																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	認知症ケアチーム	1回/週	医師、看護師、薬剤師、社会福祉士、公認心理師																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	精神科リエゾンチーム	1回/週	医師、看護師																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	緩和ケアチーム	1回/週	医師、看護師、薬剤師、公認心理師、栄養士																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	糖尿病透析予防診療チーム	1回/週	医師、看護師、栄養士																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	排尿ケアチーム	1回/週	医師、看護師																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	FLS(骨格リエゾンサービス)チーム	1回/3ヶ月	医師、看護師、理学療法士、放射線技師、臨床検査技師、薬剤師、社会福祉士、栄養士																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	嚥下対策チーム	1回/週	医師、看護師、言語聴覚士、栄養士																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
こころ	栄養サポートチーム	週1回	医師・看護師・薬剤師・栄養士																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	感染防止対策チーム	院内週1回 院外5回/年	医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	褥瘡対策チーム	1回/月	医師・看護師・薬剤師・栄養士																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
こども	栄養サポートチーム	随時	医師・看護師・精神保健福祉士等																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	感染防止対策チーム	週1回	医師・看護師・栄養士等																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	感染防止対策チーム	院内5回/週 院外4回/年	医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	緩和ケアチーム	1回/週	医師、看護師、薬剤師、臨床心理士、栄養士																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	褥瘡対策部会	1回/月	医師・看護師																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	リハビリテーション	随時(週1回程度)	医師・看護師・理学療法士等																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
	チーム医療に対する診療報酬上の評価加算の状況 (単位：千円)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>病院</th> <th>項目</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="12">総合</td> <td>栄養サポートチーム</td> <td>1,154</td> <td>904</td> <td>1,246</td> <td>1,092</td> <td>879</td> <td>1,040</td> </tr> <tr> <td>感染制御チーム</td> <td>93,168</td> <td>92,879</td> <td>86,309</td> <td>86,701</td> <td>123,703</td> <td>132,299</td> </tr> <tr> <td>抗菌薬適正使用支援チーム</td> <td>15,985</td> <td>19,122</td> <td>17,563</td> <td>17,643</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>褥瘡対策チーム</td> <td>4,815</td> <td>2,085</td> <td>755</td> <td>1,630</td> <td>2,545</td> <td>1,160</td> </tr> <tr> <td>呼吸ケアチーム</td> <td>1</td> <td>92</td> <td>143</td> <td>224</td> <td>159</td> <td>134</td> </tr> <tr> <td>認知症ケアチーム</td> <td>4,462</td> <td>4,456</td> <td>4,445</td> <td>4,287</td> <td>4,313</td> <td>4,514</td> </tr> <tr> <td>精神科リエゾンチーム</td> <td>-</td> <td>580</td> <td>772</td> <td>4,164</td> <td>3,852</td> <td>3,483</td> </tr> <tr> <td>緩和ケアチーム</td> <td>3,163</td> <td>20,389</td> <td>17,965</td> <td>20,600</td> <td>18,704</td> <td>16,206</td> </tr> <tr> <td>糖尿病透析予防診療チーム</td> <td>508</td> <td>998</td> <td>431</td> <td>235</td> <td>168</td> <td>294</td> </tr> <tr> <td>排尿ケアチーム</td> <td>200</td> <td>212</td> <td>388</td> <td>536</td> <td>350</td> <td>500</td> </tr> <tr> <td>FLS(骨格リエゾンサービス)チーム</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>1,360</td> </tr> <tr> <td>嚥下対策チーム</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>517</td> </tr> <tr> <td>要介護患者支援管理チーム</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>84</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>123,456</td> <td>142,880</td> <td>131,561</td> <td>137,112</td> <td>154,673</td> <td>161,591</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">こころ</td> <td>感染防止対策チーム</td> <td>352</td> <td>368</td> <td>290</td> <td>347</td> <td>344</td> <td>515</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>352</td> <td>368</td> <td>290</td> <td>347</td> <td>344</td> <td>515</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">こども</td> <td>栄養サポートチーム</td> <td>2</td> <td>8</td> <td>40</td> <td>20</td> <td>34</td> <td>176</td> </tr> <tr> <td>感染防止対策チーム</td> <td>27,610</td> <td>27,460</td> <td>25,090</td> <td>23,660</td> <td>29,540</td> <td>2,741</td> </tr> <tr> <td>褥瘡対策チーム</td> <td>2,200</td> <td>2,535</td> <td>2,550</td> <td>2,470</td> <td>1,280</td> <td>1,575</td> </tr> <tr> <td>緩和ケアチーム</td> <td>-</td> <td>136</td> <td>590</td> <td>310</td> <td>340</td> <td>728</td> </tr> <tr> <td>リハビリテーション</td> <td>52,394</td> <td>58,836</td> <td>59,137</td> <td>72,397</td> <td>71,689</td> <td>75,490</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>82,206</td> <td>88,975</td> <td>87,407</td> <td>98,857</td> <td>102,883</td> <td>80,710</td> </tr> </tbody> </table>						病院	項目	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	総合	栄養サポートチーム	1,154	904	1,246	1,092	879	1,040	感染制御チーム	93,168	92,879	86,309	86,701	123,703	132,299	抗菌薬適正使用支援チーム	15,985	19,122	17,563	17,643	-	-	褥瘡対策チーム	4,815	2,085	755	1,630	2,545	1,160	呼吸ケアチーム	1	92	143	224	159	134	認知症ケアチーム	4,462	4,456	4,445	4,287	4,313	4,514	精神科リエゾンチーム	-	580	772	4,164	3,852	3,483	緩和ケアチーム	3,163	20,389	17,965	20,600	18,704	16,206	糖尿病透析予防診療チーム	508	998	431	235	168	294	排尿ケアチーム	200	212	388	536	350	500	FLS(骨格リエゾンサービス)チーム	-	-	-	-	-	1,360	嚥下対策チーム	-	-	-	-	-	517	要介護患者支援管理チーム	-	-	-	-	-	84	計	123,456	142,880	131,561	137,112	154,673	161,591	こころ	感染防止対策チーム	352	368	290	347	344	515	計	352	368	290	347	344	515	こども	栄養サポートチーム	2	8	40	20	34	176	感染防止対策チーム	27,610	27,460	25,090	23,660	29,540	2,741	褥瘡対策チーム	2,200	2,535	2,550	2,470	1,280	1,575	緩和ケアチーム	-	136	590	310	340	728	リハビリテーション	52,394	58,836	59,137	72,397	71,689	75,490	計	82,206	88,975	87,407	98,857	102,883	80,710	S																																																																																																																																																																		
病院	項目	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
総合	栄養サポートチーム	1,154	904	1,246	1,092	879	1,040																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
	感染制御チーム	93,168	92,879	86,309	86,701	123,703	132,299																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
	抗菌薬適正使用支援チーム	15,985	19,122	17,563	17,643	-	-																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
	褥瘡対策チーム	4,815	2,085	755	1,630	2,545	1,160																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
	呼吸ケアチーム	1	92	143	224	159	134																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
	認知症ケアチーム	4,462	4,456	4,445	4,287	4,313	4,514																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
	精神科リエゾンチーム	-	580	772	4,164	3,852	3,483																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
	緩和ケアチーム	3,163	20,389	17,965	20,600	18,704	16,206																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
	糖尿病透析予防診療チーム	508	998	431	235	168	294																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
	排尿ケアチーム	200	212	388	536	350	500																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
	FLS(骨格リエゾンサービス)チーム	-	-	-	-	-	1,360																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
	嚥下対策チーム	-	-	-	-	-	517																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
要介護患者支援管理チーム	-	-	-	-	-	84																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
計	123,456	142,880	131,561	137,112	154,673	161,591																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
こころ	感染防止対策チーム	352	368	290	347	344	515																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
	計	352	368	290	347	344	515																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
こども	栄養サポートチーム	2	8	40	20	34	176																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
	感染防止対策チーム	27,610	27,460	25,090	23,660	29,540	2,741																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
	褥瘡対策チーム	2,200	2,535	2,550	2,470	1,280	1,575																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
	緩和ケアチーム	-	136	590	310	340	728																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
	リハビリテーション	52,394	58,836	59,137	72,397	71,689	75,490																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
計	82,206	88,975	87,407	98,857	102,883	80,710																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
			6	④医療安全室及び感染対策委員会等を中心に、マニュアルの見直しや研修会を通じて院内感染防止対策・医療安全対策を実施する。	<p>3病院で、以下のとおり研修等を実施し安全・安心な医療の提供に対する職員への意識づけと、体制整備を行っている。</p> <p>医療安全対策、院内感染対策研修等</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="5">集団感染数(件)</th> <th colspan="4">院内感染対策研修</th> <th colspan="4">医療安全対策研修</th> </tr> <tr> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> <th>研修数(回)</th> <th>参加者数(人)</th> <th>研修数(回)</th> <th>参加者数(人)</th> <th>研修数(回)</th> <th>参加者数(人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>24</td> <td>12</td> <td>4</td> <td>4,054</td> <td>24</td> <td>9,480</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>435</td> <td>6</td> <td>791</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>4</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>1,254</td> <td>2</td> <td>1,214</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>5</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>27</td> <td>17</td> <td>9</td> <td>5,743</td> <td>32</td> <td>11,485</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	区分	集団感染数(件)					院内感染対策研修				医療安全対策研修				30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	研修数(回)	参加者数(人)	研修数(回)	参加者数(人)	研修数(回)	参加者数(人)	総合	0	1	0	1	24	12	4	4,054	24	9,480			こころ	1	0	0	0	0	2	3	435	6	791			こども	4	0	1	0	3	3	2	1,254	2	1,214			計	5	1	1	1	27	17	9	5,743	32	11,485			A	各病院では、感染対策委員会や医療安全委員会を行う他、研修についても法定回数を上回る実績を積んでいる等、継続的な対策研修の実施体制が確立している。医療安全研修については、前年参加者数を大幅に上回り(R4:10,486人)、積極的に取り組んだことが評価できる。令和5年度も、新型コロナウイルス感染症の院内感染対策として、感染対策室を中心に感染防止に関する取組や情報収集などを担い、県との調整のうえ患者の受入を適切に行った。																																																																																																																																																																																																																																																										
区分	集団感染数(件)						院内感染対策研修				医療安全対策研修																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	研修数(回)	参加者数(人)	研修数(回)	参加者数(人)	研修数(回)	参加者数(人)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
総合	0	1	0	1	24	12	4	4,054	24	9,480																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
こころ	1	0	0	0	0	2	3	435	6	791																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
こども	4	0	1	0	3	3	2	1,254	2	1,214																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
計	5	1	1	1	27	17	9	5,743	32	11,485																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(R5、第3期中期目標期間)	令和5年度実績 自己評価																																																									
						評価	説明																																																								
			7	④⑤固定チームナーシングによる看護提供を行うことで、看護の継続性を図り、患者の安心を高める。	<p>「患者様の声」の推移（看護師）（単位：件）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ご意見</td> <td>85</td> <td>81</td> <td>53</td> <td>79</td> <td>85</td> <td>67</td> </tr> <tr> <td>感謝</td> <td>29</td> <td>40</td> <td>34</td> <td>37</td> <td>44</td> <td>38</td> </tr> </tbody> </table> <p>患者満足度調査（単位：%）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> <th>毎年度目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入院</td> <td>98.9</td> <td>98.0</td> <td>98.2</td> <td>97.6</td> <td>99.0</td> <td>98.4</td> <td>90以上</td> </tr> </tbody> </table>	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	ご意見	85	81	53	79	85	67	感謝	29	40	34	37	44	38	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標	入院	98.9	98.0	98.2	97.6	99.0	98.4	90以上	A	令和5年度の看護師に対する「患者様の声」の件数は、感謝の件数は例年並に推移したものの、ご意見の件数は減少した。 今後も寄せられた意見を参考に質の高い看護を提供できるよう努める。																			
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																									
ご意見	85	81	53	79	85	67																																																									
感謝	29	40	34	37	44	38																																																									
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標																																																								
入院	98.9	98.0	98.2	97.6	99.0	98.4	90以上																																																								
			8	⑤患者の視点に立った質の高い医療の提供を目指し、患者満足度調査を行い、患者満足度の改善につなげる。	<p>患者満足度調査（単位：%）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> <th>毎年度目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>入院 98.9</td> <td>98.0</td> <td>98.2</td> <td>97.6</td> <td>99.0</td> <td>98.4</td> <td>90以上</td> </tr> <tr> <td></td> <td>外来 94.3</td> <td>93.6</td> <td>94.3</td> <td>95.6</td> <td>95.9</td> <td>94.7</td> <td>85以上</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>入院 —</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td></td> <td>外来 91.0</td> <td>95.7</td> <td>92.7</td> <td>100.0</td> <td>92.3</td> <td>90.7</td> <td>85以上</td> </tr> <tr> <td>子ども</td> <td>入院 96.1</td> <td>99.0</td> <td>95.3</td> <td>100.0</td> <td>95.9</td> <td>93.5</td> <td>90以上</td> </tr> <tr> <td></td> <td>外来 98.9</td> <td>98.1</td> <td>96.5</td> <td>97.3</td> <td>100.0</td> <td>97.1</td> <td>90以上</td> </tr> </tbody> </table>	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標	総合	入院 98.9	98.0	98.2	97.6	99.0	98.4	90以上		外来 94.3	93.6	94.3	95.6	95.9	94.7	85以上	こころ	入院 —	—	—	—	—	—	—		外来 91.0	95.7	92.7	100.0	92.3	90.7	85以上	子ども	入院 96.1	99.0	95.3	100.0	95.9	93.5	90以上		外来 98.9	98.1	96.5	97.3	100.0	97.1	90以上	A	各病院の満足度は高い水準を維持しており、令和5年度についても各病院で患者満足度の向上に努め、目標値を超えている。
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標																																																								
総合	入院 98.9	98.0	98.2	97.6	99.0	98.4	90以上																																																								
	外来 94.3	93.6	94.3	95.6	95.9	94.7	85以上																																																								
こころ	入院 —	—	—	—	—	—	—																																																								
	外来 91.0	95.7	92.7	100.0	92.3	90.7	85以上																																																								
子ども	入院 96.1	99.0	95.3	100.0	95.9	93.5	90以上																																																								
	外来 98.9	98.1	96.5	97.3	100.0	97.1	90以上																																																								
(2) 県立病院が担う役割	(2) 県立病院が担う役割	(2) 県立病院が担う役割	—	—	—	—	—																																																								
他の医療機関では対応困難な高度・特殊医療など、県の保健医療施策として求められている医療を誠実に提供するとともに、地域連携に努め、県内医療機関の中核病院としての役割を果たすこと。また、医療技術の進展等に対応し、高度・専門医療等の更なる充実・強化に努めること。	他の医療機関では対応困難な高度・専門・特殊医療が確実に提供できるように、先進的技術・治療法の導入に努める。情報通信技術を活用した医療連携や疾患ごとの地域連携を推進する。 県内医療機関の中核病院として、緊急時における後方病床の確保や人材育成などの支援体制の整備を行うとともに、地域の医療機関との機能分担や紹介率・逆紹介率の向上により、地域連携の強化を図る。	県内の中核的病院として高度・専門・特殊医療を提供するため、地域の医療機関との機能分担を推進し、地域の医療機関との連携を強化する。 ①紹介・逆紹介の推進 ②地域連携クリニカルパスの推進 ③かかりつけ医との診療情報の共有化の推進 ④ふじのくにパーチャル・メガ・ホスピタル(ふじのくにねっと)の推進	9	①かかりつけ医との連携により、機能分担体制を推進する。 地域の医療機関との連携強化を図る。	<p>紹介率・逆紹介率実績（単位：%）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> <th>毎年度目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>紹介率</td> <td>92.7</td> <td>92.4</td> <td>93.8</td> <td>93.5</td> <td>91.3</td> <td>89.7</td> <td>90以上</td> </tr> <tr> <td>逆紹介率</td> <td>171.3</td> <td>174.7</td> <td>195.4</td> <td>200.3</td> <td>188.2</td> <td>173.0</td> <td>175以上</td> </tr> </tbody> </table>	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標	紹介率	92.7	92.4	93.8	93.5	91.3	89.7	90以上	逆紹介率	171.3	174.7	195.4	200.3	188.2	173.0	175以上	B	紹介先、逆紹介先となる地域のクリニックとの情報共有、広報及び訪問等を積極的に行って連携強化に努めたが、若干の減少を見ている。施設訪問など行い連携強化に努めることとしている。																																
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標																																																								
紹介率	92.7	92.4	93.8	93.5	91.3	89.7	90以上																																																								
逆紹介率	171.3	174.7	195.4	200.3	188.2	173.0	175以上																																																								
	【目標値】 ・紹介率(総合、こころ、子ども) ・逆紹介率(総合、こころ、子ども)	【目標値】 ・紹介率(総合、こころ、子ども) ・逆紹介率(総合、こころ、子ども)	10	①地域の医療機関との連携を強化し、医療支援体制や救急・急性期、重症患者の受入など連携・機能分担体制を推進する。	<p>紹介率・逆紹介率実績（単位：%）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> <th>毎年度目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>紹介率</td> <td>51.0</td> <td>56.1</td> <td>51.2</td> <td>45.6</td> <td>53.6</td> <td>54.8</td> <td>57以上</td> </tr> <tr> <td>逆紹介率</td> <td>37.0</td> <td>33.7</td> <td>30.1</td> <td>25.2</td> <td>26.9</td> <td>27.0</td> <td>30以上</td> </tr> </tbody> </table>	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標	紹介率	51.0	56.1	51.2	45.6	53.6	54.8	57以上	逆紹介率	37.0	33.7	30.1	25.2	26.9	27.0	30以上	B	紹介率・逆紹介率ともに目標値には達していないものの、紹介率、逆紹介率ともに前年度実績を上回った。 今後も他の医療機関や公的機関との連携を強めながら、当院への新規患者獲得を進めていく。																																
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標																																																								
紹介率	51.0	56.1	51.2	45.6	53.6	54.8	57以上																																																								
逆紹介率	37.0	33.7	30.1	25.2	26.9	27.0	30以上																																																								
			11	①地域の医療機関との機能分担を推進するため、紹介予約制を維持するとともに、積極的に逆紹介を行う。	<p>紹介率・逆紹介率実績（単位：%）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> <th>毎年度目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>紹介率</td> <td>92.6</td> <td>90.9</td> <td>90.7</td> <td>91.1</td> <td>91.1</td> <td>90.1</td> <td>94以上</td> </tr> <tr> <td>逆紹介率</td> <td>43.7</td> <td>47.7</td> <td>44.8</td> <td>46.2</td> <td>61.4</td> <td>47.8</td> <td>53以上</td> </tr> </tbody> </table>	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標	紹介率	92.6	90.9	90.7	91.1	91.1	90.1	94以上	逆紹介率	43.7	47.7	44.8	46.2	61.4	47.8	53以上	B	令和5年度は、紹介率については前年度並の数値を維持した。一方で、逆紹介率については、前年度を下回ったが、第3期中期目標期間中で2番目に高い数値であった。今後はより一層、地域医療機関との連携強化等を図っていく。																																
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標																																																								
紹介率	92.6	90.9	90.7	91.1	91.1	90.1	94以上																																																								
逆紹介率	43.7	47.7	44.8	46.2	61.4	47.8	53以上																																																								

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(R5、第3期中期目標期間)	令和5年度実績 自己評価																																																																																																			
						評価	説明																																																																																																		
			12	②心疾患、脳卒中、がん、慢性腎臓病、大腿骨頭骨骨折等の地域連携クリニカルパスを活用し、かかりつけ医やリハビリテーション病院との機能分担を推進する。	<p>地域連携クリニカルパス (単位：件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>脳 卒 中</td> <td>62</td> <td>83</td> <td>102</td> <td>92</td> <td>49</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>大 腿 骨 頭 骨 折</td> <td>57</td> <td>82</td> <td>104</td> <td>90</td> <td>85</td> <td>82</td> </tr> <tr> <td>胃 が ん</td> <td>61</td> <td>55</td> <td>51</td> <td>55</td> <td>54</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>大 腸 が ん</td> <td>124</td> <td>122</td> <td>102</td> <td>135</td> <td>138</td> <td>127</td> </tr> <tr> <td>乳 が ん</td> <td>105</td> <td>128</td> <td>102</td> <td>116</td> <td>103</td> <td>108</td> </tr> <tr> <td>前 立 腺 が ん</td> <td>10</td> <td>16</td> <td>20</td> <td>35</td> <td>43</td> <td>45</td> </tr> <tr> <td>虚 血 性 心 疾 患</td> <td>92</td> <td>73</td> <td>67</td> <td>33</td> <td>32</td> <td>27</td> </tr> <tr> <td>心 房 細 動</td> <td>7</td> <td>4</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>慢 性 腎 臓 病</td> <td>43</td> <td>40</td> <td>29</td> <td>25</td> <td>31</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>肺 が ん</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>肝 が ん</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>潰 瘍 性 大 腸 炎</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>561</td> <td>605</td> <td>578</td> <td>585</td> <td>537</td> <td>468</td> </tr> </tbody> </table>	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	脳 卒 中	62	83	102	92	49	8	大 腿 骨 頭 骨 折	57	82	104	90	85	82	胃 が ん	61	55	51	55	54	40	大 腸 が ん	124	122	102	135	138	127	乳 が ん	105	128	102	116	103	108	前 立 腺 が ん	10	16	20	35	43	45	虚 血 性 心 疾 患	92	73	67	33	32	27	心 房 細 動	7	4	1	2	1	0	慢 性 腎 臓 病	43	40	29	25	31	30	肺 が ん	0	2	0	0	0	0	肝 が ん	-	-	-	2	0	1	潰 瘍 性 大 腸 炎	-	-	-	-	1	0	計	561	605	578	585	537	468	A	令和5年度も、地域の医療機関等との連携により、地域連携クリニカルパスの適用を推進し、円滑な運用に努めた。
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																			
脳 卒 中	62	83	102	92	49	8																																																																																																			
大 腿 骨 頭 骨 折	57	82	104	90	85	82																																																																																																			
胃 が ん	61	55	51	55	54	40																																																																																																			
大 腸 が ん	124	122	102	135	138	127																																																																																																			
乳 が ん	105	128	102	116	103	108																																																																																																			
前 立 腺 が ん	10	16	20	35	43	45																																																																																																			
虚 血 性 心 疾 患	92	73	67	33	32	27																																																																																																			
心 房 細 動	7	4	1	2	1	0																																																																																																			
慢 性 腎 臓 病	43	40	29	25	31	30																																																																																																			
肺 が ん	0	2	0	0	0	0																																																																																																			
肝 が ん	-	-	-	2	0	1																																																																																																			
潰 瘍 性 大 腸 炎	-	-	-	-	1	0																																																																																																			
計	561	605	578	585	537	468																																																																																																			
			13	③④地域医療ネットワークシステムを整備・活用する。	<p>ネットワーク実績 (単位：件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>開示施設数</td> <td>17</td> <td>16</td> <td>19</td> <td>19</td> <td>20</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>開示件数(累計)</td> <td>28,732</td> <td>33,400</td> <td>38,366</td> <td>44,142</td> <td>52,030</td> <td>59,871</td> </tr> <tr> <td>開示件数(新規)</td> <td>4,357</td> <td>4,668</td> <td>4,966</td> <td>5,776</td> <td>7,888</td> <td>8,226</td> </tr> <tr> <td>参照施設数</td> <td>126</td> <td>118</td> <td>123</td> <td>129</td> <td>129</td> <td>123</td> </tr> <tr> <td>  病院</td> <td>13</td> <td>13</td> <td>15</td> <td>16</td> <td>16</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>  診療所</td> <td>76</td> <td>72</td> <td>73</td> <td>77</td> <td>78</td> <td>76</td> </tr> <tr> <td>  保険薬局</td> <td>27</td> <td>25</td> <td>29</td> <td>31</td> <td>31</td> <td>27</td> </tr> <tr> <td>  訪問看護ステーション</td> <td>8</td> <td>7</td> <td>5</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>  介護福祉施設</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table> <p>「ふじのくにバーチャル・メガ・ホスピタル」について、情報の開示施設である各地域の中核病院、自治体病院、診療所・医師会とともに「ふじのくにバーチャル・メガ・ホスピタル協議会」を運営し、複数医療機関相互の診療情報共有のため広域ネットワーク基盤を構築して運用している。</p>	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	開示施設数	17	16	19	19	20	20	開示件数(累計)	28,732	33,400	38,366	44,142	52,030	59,871	開示件数(新規)	4,357	4,668	4,966	5,776	7,888	8,226	参照施設数	126	118	123	129	129	123	病院	13	13	15	16	16	16	診療所	76	72	73	77	78	76	保険薬局	27	25	29	31	31	27	訪問看護ステーション	8	7	5	4	3	3	介護福祉施設	2	1	1	1	1	1	A	医療機関を標的としたサイバー攻撃が発生していることから、開示施設と協力してネットワーク遮断の初動訓練を実施し、ふじのくにねっとのセキュリティ対策に努めた。																												
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																			
開示施設数	17	16	19	19	20	20																																																																																																			
開示件数(累計)	28,732	33,400	38,366	44,142	52,030	59,871																																																																																																			
開示件数(新規)	4,357	4,668	4,966	5,776	7,888	8,226																																																																																																			
参照施設数	126	118	123	129	129	123																																																																																																			
病院	13	13	15	16	16	16																																																																																																			
診療所	76	72	73	77	78	76																																																																																																			
保険薬局	27	25	29	31	31	27																																																																																																			
訪問看護ステーション	8	7	5	4	3	3																																																																																																			
介護福祉施設	2	1	1	1	1	1																																																																																																			

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(R5、第3期中期目標期間)	令和5年度実績 自己評価																																																																																																																								
						評価	説明																																																																																																																							
(3) 県立病院が重点的に取り組む医療	(3) 県立病院が重点的に取り組む医療	(3) 県立病院が重点的に取り組む医療	-	-	-	-	-																																																																																																																							
<p>県立総合病院においては、先端医学棟の設備・機能を最大限に活用し、3大疾患(がん、脳血管疾患、心疾患)を中心に高度・専門医療や急性期医療等を提供すること。また、高度救命救急センターの運用による広範囲熱傷等の特殊疾病患者の受入れ等、高度救急医療を継続して提供するほか、広域的な救急医療の提供への対応を図ること。</p> <p>なお、中期目標期間の各事業年度において、病床利用率90%以上、入院患者満足度90%以上、外来患者満足度85%以上の達成を目指すこと。</p> <p>県立こころの医療センターにおいては、精神科救急・急性期医療の提供や他の医療機関では対応困難な治療の実施及び司法精神医療の充実を図るほか、多様な精神疾患への対応や早期入院・早期社会復帰を支援する医療提供体制の充実に努めること。</p> <p>なお、中期目標期間の各事業年度において、病床利用率85%以上、外来患者満足度85%以上の達成を目指すこと。</p> <p>県立こども病院においては、小児重症心疾患患者やハイリスク胎児・妊婦、新生児に対する高度・先進医療を提供すること。また、小児がん拠点病院としての機能強化、高度な小児救急医療の充実及び児童精神分野の医療の充実を図るほか、患者の円滑な退院・在宅移行を支援する体制整備に努めること。</p> <p>なお、中期目標期間の各事業年度において、病床利用率75%以上、入院患者満足度90%以上、外来患者満足度90%以上の達成を目指すこと。</p> <p>さらに、県立3病院は、結核、エイズ等の感染症医療や難病医療、移植医療、アレルギー疾患医療等を提供すること。また、認知症をはじめとした精神科患者の身体合併症、周産期医療における産科合併症以外の合併症及び二次的障害を含む発達障害への対応など、一病院では対応が困難な分野においては、県立3病院のそれぞれの特性を活かし、相互に連携を取り、適切な対応を図ること。</p> <p>その他、移行期医療や医療的ケア児への対応など新たな課題に取り組む、今後の疾病構造や県民の医療ニーズの変化等に対応し、県が求める政策医療に協力すること。また、医療施設や機器の整備については計画的に実施するとともに、県民の医療ニーズの変化や医療技術の進展に応じ、機動的な対応を行うこと。</p>	<p>県が掲げる6疾病5事業を念頭に、各県立病院が専門性を活かしつつ、県立病院間や地域の医療機関との連携を強化して、病態に即時的確な医療を提供する。特に、全国的な課題とされている救急医療や急性期医療の充実に重点的に取り組む。</p> <p>ア 循環器疾患・がん疾患については、小児は県立こども病院が、成人は県立総合病院がそれぞれ県内の中核病院の機能を果たしていく。</p> <p>イ 周産期医療における産科合併症及び脳卒中等産科以外の疾患による合併症や精神科患者の身体合併症などについては、各県立病院が連携して取り組む。</p> <p>ウ 結核指定医療機関、エイズ拠点病院及び難病医療協力病院等として感染症医療や難病医療、移植医療、アレルギー疾患医療に着実に取り組む。</p>	<p>各県立病院は、県が求める政策医療を念頭に、それぞれの特性を生かし、以下の医療に重点的に取り組む。</p> <p>ア 循環器疾患・がん疾患については、小児は県立こども病院が、成人は県立総合病院がそれぞれ県内の中核病院の機能を果たしていく。</p> <p>イ 周産期医療における産科合併症及び脳卒中等産科以外の疾患による合併症や精神科患者の身体合併症などについては、各県立病院が連携して取り組む。</p> <p>ウ 結核指定医療機関、エイズ拠点病院及び難病医療協力病院等として感染症医療や難病医療、移植医療、アレルギー疾患医療に着実に取り組む。</p> <p>特に、SARS-CoV-2(新型コロナウイルス)など新興感染症については、感染拡大防止のため、県との連携・協力体制を整備し、診療機能の強化に努める。</p> <p>【総・子】・腎臓移植、造血幹細胞移植、強角膜片作成(総合病院のみ)等への取組みを継続する。</p> <p>【子】・アレルギー疾患拠点病院として、講習会の実施等の取組みを継続する。</p>	-	-	-	-	-																																																																																																																							
			14		<p>児童の措置入院等、こども病院での受入れが困難な場合はこころの医療センターにて受入れている。</p> <p>周産期医療における搬送実績 (単位: 件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>子ども→総合</td> <td>8</td> <td>7</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>総合→子ども</td> <td>13</td> <td>13</td> <td>13</td> <td>9</td> <td>9</td> <td>6</td> </tr> </tbody> </table> <p>こころの医療センターの精神科医師の総合病院への配置状況 (単位: 人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>こころ→総合</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table> <p>こころの医療センターから総合病院への身体合併症による搬送件数 (単位: 人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>こころ→総合</td> <td>9</td> <td>6</td> <td>4</td> <td>8</td> <td>8</td> <td>12</td> </tr> </tbody> </table>	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	子ども→総合	8	7	3	3	2	2	総合→子ども	13	13	13	9	9	6	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	こころ→総合	0	1	2	2	3	2	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	こころ→総合	9	6	4	8	8	12	A	<p>3病院1法人のメリットを活かし、患者の搬送、医師の応援体制等病院間の連携協力体制を構築している。</p> <p>総合病院に常勤の精神科医師を5名配置(うち2名がこころの医療センターと兼務)し、精神科医療体制の構築に向けた連携を実施しており、令和5年度は、精神科患者の身体合併症に対応した病棟を開棟した。</p> <p>入院患者で身体障害を持つ患者の総合病院への搬送は12件行われており、同一機構内の病院同士の連携が図られている。</p> <p>こども病院から総合病院に母体搬送が行われるなど、同一法人のメリットを活かし、搬送時のスムーズな医師の応援派遣や設備の有効活用が図られた。</p>																																																																						
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																								
子ども→総合	8	7	3	3	2	2																																																																																																																								
総合→子ども	13	13	13	9	9	6																																																																																																																								
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																								
こころ→総合	0	1	2	2	3	2																																																																																																																								
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																								
こころ→総合	9	6	4	8	8	12																																																																																																																								
			15		<p>(総合) 結核病棟は50床で運用している。 エイズ拠点病院としてエイズ患者の受入体制を整えている。</p> <p>入院患者数 (単位: 人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>エイズ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>結核</td> <td>111</td> <td>92</td> <td>95</td> <td>85</td> <td>48</td> <td>54</td> </tr> </tbody> </table> <p>移植実績 (単位: 件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>腎移植</td> <td>14</td> <td>17</td> <td>12</td> <td>10</td> <td>13</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>造血幹細胞移植</td> <td>17</td> <td>14</td> <td>13</td> <td>12</td> <td>14</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>強角膜片作成</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>33</td> <td>34</td> <td>26</td> <td>22</td> <td>29</td> <td>29</td> </tr> </tbody> </table> <p>腎臓移植は、令和2年度以降は行われていない。</p> <p>(こども) 造血幹細胞移植実績 (単位: 件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>骨髄移植</td> <td>5</td> <td>2</td> <td>8</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>臍帯血</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>自家末梢血</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>4</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>同種末梢血</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>14</td> <td>10</td> <td>12</td> <td>6</td> <td>10</td> <td>9</td> </tr> </tbody> </table> <p>アレルギー疾患に関する研修会・講演会開催件数 (単位: 件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table>	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	エイズ							結核	111	92	95	85	48	54	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	腎移植	14	17	12	10	13	12	造血幹細胞移植	17	14	13	12	14	16	強角膜片作成	2	3	1	0	2	1	計	33	34	26	22	29	29	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	骨髄移植	5	2	8	3	3	3	臍帯血	3	3	2	2	2	2	自家末梢血	4	4	1	1	4	2	同種末梢血	2	1	1	0	1	2	計	14	10	12	6	10	9	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	総合	1	1	0	1	1	1	こども	4	3	2	2	2	3	A	<p>(総合) 新型コロナウイルス感染症患者の受入について、令和5年5月8日より5類に移行後は、国の方針に基づき、一般病棟での対応を行い、地域の新型コロナウイルス感染症患者の受入を行っている。</p> <p>結核病棟については、結核病棟を有する病院の多くが新型コロナウイルス感染症病床へ切り替える状況において、当院は50床を維持し、県内における結核患者の8割以上を受入可能な体制を整えている。</p> <p>移植については、生体移植を含めた腎移植、造血幹細胞移植、強角膜片作成を実施している。令和5年度も、前年度に引き続き同水準で移植をしている。</p> <p>(こども) 県の要請により新型コロナウイルス感染症に対応する病床を4床(うち2床をスタッフ用)を整備し、令和2年4月から令和5年5月まで運用した。なお、令和5年度中の患者受け入れ実績はなかった。</p> <p>新型コロナウイルス感染症に対応するため、令和5年度は8床(PICU1床、MFICU1床、NICU1床、北4病棟3床、CCU2床)を確保し、新型コロナウイルス感染症患者を受け入れた。</p> <p>今回の日本における新型コロナウイルス感染パンデミックの経験を踏まえ、第8次静岡県保健医療計画中間見直しにおいて新興・再興感染症対策が追加されたことから、当院が県内小児医療の最後の砦としての役割を果たすべく、県と感染症指定医療機関の指定に向けた調整を行っている。</p> <p>また、移植医療に関しては、先進的医療である造血幹細胞移植に取り組み、令和4年度実績並の9件を実施した。</p> <p>その他、アレルギー疾患に関する県民向け・医療者向けの講習会を実施しており、令和5年度は3回開催した。</p>
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																								
エイズ																																																																																																																														
結核	111	92	95	85	48	54																																																																																																																								
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																								
腎移植	14	17	12	10	13	12																																																																																																																								
造血幹細胞移植	17	14	13	12	14	16																																																																																																																								
強角膜片作成	2	3	1	0	2	1																																																																																																																								
計	33	34	26	22	29	29																																																																																																																								
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																								
骨髄移植	5	2	8	3	3	3																																																																																																																								
臍帯血	3	3	2	2	2	2																																																																																																																								
自家末梢血	4	4	1	1	4	2																																																																																																																								
同種末梢血	2	1	1	0	1	2																																																																																																																								
計	14	10	12	6	10	9																																																																																																																								
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																								
総合	1	1	0	1	1	1																																																																																																																								
こども	4	3	2	2	2	3																																																																																																																								

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(R5、第3期中期目標期間)	令和5年度実績 自己評価																																																																																																										
						評価	説明																																																																																																									
					<p>アレルギー教室開催実績 (単位: 件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table> <p>新型コロナウイルス感染症受入体制 (令和5年時点)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>病床数</th> <th>時期</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>24床</td> <td>令和4年12月～</td> <td>6A病棟 最大24床 (※令和5年5月から一般病棟で受入れ)</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>4床</td> <td>令和2年4月～</td> <td>2床はスタッフ用(※令和5年5月より解除)</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>8床</td> <td>令和5年7月～</td> <td>PICU、MFICU、NICU、北4病棟、CCU</td> </tr> </tbody> </table>	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	件数	3	3	1	2	2	3		病床数	時期	備考	総合	24床	令和4年12月～	6A病棟 最大24床 (※令和5年5月から一般病棟で受入れ)	こころ	4床	令和2年4月～	2床はスタッフ用(※令和5年5月より解除)	こども	8床	令和5年7月～	PICU、MFICU、NICU、北4病棟、CCU																																																																													
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																										
件数	3	3	1	2	2	3																																																																																																										
	病床数	時期	備考																																																																																																													
総合	24床	令和4年12月～	6A病棟 最大24床 (※令和5年5月から一般病棟で受入れ)																																																																																																													
こころ	4床	令和2年4月～	2床はスタッフ用(※令和5年5月より解除)																																																																																																													
こども	8床	令和5年7月～	PICU、MFICU、NICU、北4病棟、CCU																																																																																																													
	エ リハビリテーションや相談援助の体制を充実し、患者の社会復帰、生活支援、就学・就労につながる支援等に取り組む。	エ リハビリテーションや相談援助の体制を充実し、患者の社会復帰、生活支援、就学・就労につながる支援等に取り組む。	16～18	<p>【総】・リハビリテーション、相談援助・支援を強化し、退院調整を積極的に行う。 【心】・患者の社会復帰に向け、リハビリテーション活動を充実させる。 【心】・患者の地域での生活を支援するため、訪問看護を充実させる。 【子】・言語聴覚業務における学校現場との連携、理学療法における退院後のフォロー、作業療法における急性期作業療法他の充実を図る。</p>	<p>患者サポートセンター退院調整件数 (単位: 件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>6,810</td> <td>5,217</td> <td>6,007</td> <td>6,517</td> <td>6,661</td> <td>6,618</td> </tr> </tbody> </table> <p>退院支援関係診療報酬算定件数実績 (単位: 件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>退院調整加算(旧)</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>退院支援加算1(新)</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>入退院支援加算1※</td> <td>4,816</td> <td>3,987</td> <td>5,403</td> <td>6,008</td> <td>5,890</td> <td>6,004</td> </tr> <tr> <td>退院時リハビリテーション指導料</td> <td>530</td> <td>1,113</td> <td>3,529</td> <td>2,957</td> <td>2,839</td> <td>2,979</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>5,346</td> <td>5,100</td> <td>8,932</td> <td>8,965</td> <td>8,729</td> <td>8,983</td> </tr> </tbody> </table> <p>リハビリテーション活動及び訪問看護を通じて、患者の社会復帰を支援している。また、在宅においてよりの確かな支援を行うため、訪問看護の充実を図り、看護師に加えて精神保健福祉士や作業療法士などを含めた複数訪問の積極的な実施に努めている。</p> <p>リハビリテーション活動実施件数 (単位: 件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>精神科作業療法</td> <td>5,494</td> <td>4,483</td> <td>5,427</td> <td>4,552</td> <td>4,010</td> <td>3,969</td> </tr> <tr> <td>デイケア</td> <td>6,023</td> <td>4,462</td> <td>2,653</td> <td>1,388</td> <td>1,875</td> <td>2,595</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>11,517</td> <td>8,945</td> <td>8,080</td> <td>5,949</td> <td>5,885</td> <td>6,564</td> </tr> </tbody> </table> <p>訪問看護実施件数 (単位: 件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>訪問看護実施件数</td> <td>3,996</td> <td>3,704</td> <td>3,841</td> <td>3,643</td> <td>3,726</td> <td>4,121</td> </tr> <tr> <td>(うち複数訪問)</td> <td>31</td> <td>38</td> <td>46</td> <td>37</td> <td>71</td> <td>57</td> </tr> </tbody> </table>	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	件数	6,810	5,217	6,007	6,517	6,661	6,618	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	退院調整加算(旧)	—	—	—	—	—	—	退院支援加算1(新)	—	—	—	—	—	—	入退院支援加算1※	4,816	3,987	5,403	6,008	5,890	6,004	退院時リハビリテーション指導料	530	1,113	3,529	2,957	2,839	2,979	計	5,346	5,100	8,932	8,965	8,729	8,983	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	精神科作業療法	5,494	4,483	5,427	4,552	4,010	3,969	デイケア	6,023	4,462	2,653	1,388	1,875	2,595	計	11,517	8,945	8,080	5,949	5,885	6,564	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	訪問看護実施件数	3,996	3,704	3,841	3,643	3,726	4,121	(うち複数訪問)	31	38	46	37	71	57	A	患者サポートセンターの看護師、MSWや理学療法士等が中心となり、入院早期から退院調整を積極的に支援している。
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																										
件数	6,810	5,217	6,007	6,517	6,661	6,618																																																																																																										
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																										
退院調整加算(旧)	—	—	—	—	—	—																																																																																																										
退院支援加算1(新)	—	—	—	—	—	—																																																																																																										
入退院支援加算1※	4,816	3,987	5,403	6,008	5,890	6,004																																																																																																										
退院時リハビリテーション指導料	530	1,113	3,529	2,957	2,839	2,979																																																																																																										
計	5,346	5,100	8,932	8,965	8,729	8,983																																																																																																										
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																										
精神科作業療法	5,494	4,483	5,427	4,552	4,010	3,969																																																																																																										
デイケア	6,023	4,462	2,653	1,388	1,875	2,595																																																																																																										
計	11,517	8,945	8,080	5,949	5,885	6,564																																																																																																										
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																										
訪問看護実施件数	3,996	3,704	3,841	3,643	3,726	4,121																																																																																																										
(うち複数訪問)	31	38	46	37	71	57																																																																																																										
					<p>リハビリ実施実績 (単位: 件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> <th>毎年度目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>理学療法</td> <td>17,309</td> <td>22,829</td> <td>22,985</td> <td>24,683</td> <td>25,770</td> <td>26,886</td> <td>15,000</td> </tr> <tr> <td>作業療法</td> <td>6,039</td> <td>4,546</td> <td>3,813</td> <td>7,794</td> <td>11,495</td> <td>11,333</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>言語聴覚療法</td> <td>7,901</td> <td>9,744</td> <td>10,162</td> <td>10,045</td> <td>9,555</td> <td>10,332</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>31,249</td> <td>37,119</td> <td>36,960</td> <td>42,522</td> <td>46,820</td> <td>48,551</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標	理学療法	17,309	22,829	22,985	24,683	25,770	26,886	15,000	作業療法	6,039	4,546	3,813	7,794	11,495	11,333	—	言語聴覚療法	7,901	9,744	10,162	10,045	9,555	10,332	—	計	31,249	37,119	36,960	42,522	46,820	48,551	—																																																																			
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標																																																																																																									
理学療法	17,309	22,829	22,985	24,683	25,770	26,886	15,000																																																																																																									
作業療法	6,039	4,546	3,813	7,794	11,495	11,333	—																																																																																																									
言語聴覚療法	7,901	9,744	10,162	10,045	9,555	10,332	—																																																																																																									
計	31,249	37,119	36,960	42,522	46,820	48,551	—																																																																																																									
								S	令和5年度リハビリ実施件数は、過去最大件数であった令和4年度の数値を上回る結果となった。令和4年度に件数が大幅に増えた作業療法は、令和5年度もその件数を維持し、理学療法及び言語聴覚療法は前年度を上回る件数となった。 作業療法に関しては、令和3年度に増員された療法士が経験を積むことにより運用の幅が広がり、入院患者のうち集中治療系病棟の患者にも対応することで件数が増加している。 また、理学療法に関して、令和4年4月から算定可能となったPICUでの早期離床・リハビリテーション加算(入室後14日間に500点/人/日)について、令和5年度もPICU入室患者のほぼ全例に早期離床の介入ができた。早期離床への意識も高まりPICU退室後もシームレスな機能回復の継続を目的に各主治医からのリハビリの処方が増加した。 今後もさらなる質の向上を図っていく。																																																																																																							

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(R5、第3期中期目標期間)	令和5年度実績 自己評価																																																																							
						評価	説明																																																																						
	才 遺伝子解析・診断を活用した疾患の予防、治療及び相談支援に取り組む。	才 遺伝子解析・診断を活用した疾患の予防、治療及び相談支援に取り組む。	19	・遺伝子診療に関して、体制の整備・充実を図る。	<p>遺伝診療科受診者数 (単位：人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>受診者数</td> <td>101</td> <td>146</td> <td>227</td> <td>233</td> <td>270</td> <td>266</td> </tr> </tbody> </table> <p>【参考】エキスパートパネル実施件数 (単位：人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>受診者数</td> <td>38</td> <td>46</td> <td>46</td> <td>94</td> </tr> </tbody> </table> <p>【参考】遺伝カウンセリング件数 (単位：人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>受診者数</td> <td>227</td> <td>233</td> <td>270</td> <td>266</td> </tr> </tbody> </table>	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	受診者数	101	146	227	233	270	266	区 分	2年度	3年度	4年度	5年度	受診者数	38	46	46	94	区 分	2年度	3年度	4年度	5年度	受診者数	227	233	270	266	A	遺伝診療に関する診療は年々増加傾向にあったが、令和5年度の受診者数及び遺伝カウンセリングの件数は、令和4年度と同程度の高い水準を維持した。																																				
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																							
受診者数	101	146	227	233	270	266																																																																							
区 分	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																									
受診者数	38	46	46	94																																																																									
区 分	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																									
受診者数	227	233	270	266																																																																									
	カ 認知症については、鑑別診断や周辺症状と身体合併に対する急性期治療、専門医療相談等の実施に取り組む。発達障害については、早期療育につながる鑑別診断や治療を実施する。また、地域の保健福祉関係者への助言等の医学的支援や、医療従事者や教育関係者に対する研修の実施に取り組む。	カ 認知症については、鑑別診断や周辺症状と身体合併に対する急性期治療、専門医療相談等の実施に取り組む。発達障害については、早期療育につながる鑑別診断や治療を実施する。これらを含む多様な精神疾患や身体合併症など精神科医療に対する要望等を受け、総合的に必要な医療を受けられる体制の整備を進める。また、地域の保健福祉関係者への助言等の医学的支援や、医療従事者や教育関係者に対する研修の実施に取り組む。	20～22	<p>【総】・精神科身体合併症病棟においては、総合的な医療機能を活かし、精神障害者のあらゆる身体合併症への高度医療を提供する。 ・鑑別診断や周辺症状と身体合併に対する急性期治療、認知症ケアチームの介入、専門医療相談等を推進する。 ・精神科リエゾンチームの運営を開始し、精神科外来の業務を確立する。 【心】・症状が重篤な認知症患者を受入れるための、精神科救急・急性期医療体制を確保する。 【心】・老年期特有の専門外来(老年期こころと物忘れ外来)により専門的な医療相談を実施する。 【子】・発達障害については、従来からの新生児退院診察や、新生児包括外来における低体重出生児の発達フォローを継続し、保護者向けのペアレントトレーニングについても継続して取り組む。</p>	<p>脳FDG-PET (単位：件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実施件数</td> <td>161</td> <td>160</td> <td>128</td> <td>142</td> <td>149</td> <td>162</td> </tr> </tbody> </table> <p>認知症ケア及び精神科リエゾンチームに係る加算 (単位：件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>認知症ケア</td> <td>8,306</td> <td>7,163</td> <td>6,202</td> <td>5,246</td> <td>5,194</td> <td>6,433</td> </tr> <tr> <td>精神科リエゾンチーム</td> <td>-</td> <td>1,740</td> <td>2,316</td> <td>1,671</td> <td>1,284</td> <td>1,161</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>8,903</td> <td>8,518</td> <td>6,917</td> <td>6,478</td> <td>7,594</td> </tr> </tbody> </table> <p>老年期こころと物忘れ外来実施件数 (単位：件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>老年期こころと物忘れ外来実施件数</td> <td>483</td> <td>387</td> <td>330</td> <td>340</td> <td>361</td> <td>288</td> </tr> </tbody> </table> <p>認知症入院患者件数 (単位：件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>認知症入院患者</td> <td>9</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>12</td> <td>17</td> <td>12</td> </tr> </tbody> </table>	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	実施件数	161	160	128	142	149	162	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	認知症ケア	8,306	7,163	6,202	5,246	5,194	6,433	精神科リエゾンチーム	-	1,740	2,316	1,671	1,284	1,161			8,903	8,518	6,917	6,478	7,594	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	老年期こころと物忘れ外来実施件数	483	387	330	340	361	288	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	認知症入院患者	9	6	6	12	17	12	A	脳疾患(てんかん、認知症)及び脳腫瘍の診断等に用いる脳FDG-PETの実施件数は順調に件数は増加している。認知症ケア加算は、昨年と比較し増加傾向にある。
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																							
実施件数	161	160	128	142	149	162																																																																							
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																							
認知症ケア	8,306	7,163	6,202	5,246	5,194	6,433																																																																							
精神科リエゾンチーム	-	1,740	2,316	1,671	1,284	1,161																																																																							
		8,903	8,518	6,917	6,478	7,594																																																																							
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																							
老年期こころと物忘れ外来実施件数	483	387	330	340	361	288																																																																							
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																							
認知症入院患者	9	6	6	12	17	12																																																																							
					<p>発達障害児を持つ保護者を対象にした、医師や保育士によるペアレント・トレーニングについて、令和2年度以降は新型コロナウイルス感染症の影響で実施していなかったが、令和5年度に新プログラムを開発し再開した。 中期計画期間中、新生児退院診察を実施した。また、新生児包括外来における低出生体重児の発達フォローを隔週1回実施した。</p> <p>発達小児科外来患者数等 (単位：人、件数)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>発達小児科外来延患者数</td> <td>4,014</td> <td>4,233</td> <td>4,272</td> <td>4,439</td> <td>4,051</td> <td>4,398</td> </tr> <tr> <td>ペアレントトレーニング等件数</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table> <p>新生児包括外来実績 (単位：件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>低出生体重児への発達フォロー件数</td> <td>207</td> <td>207</td> <td>175</td> <td>184</td> <td>166</td> <td>164</td> </tr> </tbody> </table>	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	発達小児科外来延患者数	4,014	4,233	4,272	4,439	4,051	4,398	ペアレントトレーニング等件数	10	10	0	0	0	3	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	低出生体重児への発達フォロー件数	207	207	175	184	166	164	A	<p>重度の認知症患者の受入や専門外来による専門的な医療相談体制を確保しており、令和5年度は微減したものの、概ね前年度並みの医療活動を実施している。</p> <p>令和5年度の発達小児科の外来延患者数は前年度を上回る数値となった。また、発達小児科医師や保育士による患者家族へのペアレントトレーニングは、新型コロナウイルス感染症の影響により開催できていなかったが、養育者が参加しやすく、かつ継続的な支援を可能にする新プログラムの開発を進め、令和5年11月に再開した。令和5年度中に3回開催し、今後も月1回の頻度で継続の予定である。 なお、新生児科では、新生児包括外来における低出生体重児への発達フォローを実施しており、令和5年度も前年度並の実績であった。</p>																																			
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																							
発達小児科外来延患者数	4,014	4,233	4,272	4,439	4,051	4,398																																																																							
ペアレントトレーニング等件数	10	10	0	0	0	3																																																																							
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																							
低出生体重児への発達フォロー件数	207	207	175	184	166	164																																																																							



中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(R5、第3期中期目標期間)	令和5年度実績 自己評価																																																																												
						評価	説明																																																																											
	キ 移行期医療や医療的ケア児への対応など新たな課題については、県と連携して取り組む。	キ 移行期医療支援センターの運用などによる移行期医療や医療的ケア児への対応など新たな課題については、県と連携して取り組む。	23	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SARS-CoV-2(新型コロナウイルス)などの感染症について、県と連携、協力して拡大防止に対応できる体制を整備する。(No.15再掲)</li> <li>・機構内各病院や他医療機関、県などと連携して移行期医療及び成人期医療を提供する。</li> <li>・【こころ】総合病院、こども病院と連携した県立3病院の精神科医療体制構築を進める。</li> <li>・【子】県担当課と協議しつつ、受託した移行期医療支援センターの運営を行い、業務内容の充実を図る</li> <li>・【子】No.59</li> </ul>	<p>移行期医療件数 (単位：件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>こども→総合</td> <td>610</td> <td>666</td> <td>995</td> <td>1,367</td> <td>1,100</td> <td>918</td> </tr> <tr> <td>こども→こころ</td> <td>-</td> <td>19</td> <td>18</td> <td>15</td> <td>28</td> <td>31</td> </tr> </tbody> </table> <p>関連するカンファレンス等の開催実績 (単位：回)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>こころ・こども精神科医師合同カンファレンスの開催実績</td> <td>2</td> <td>5</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>移行期医療センターに関する県との打合せ実施回数</td> <td>1</td> <td>6</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>医療的ケア児のレスパイト対応に関する打合せ実施回数</td> <td>5</td> <td>3</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>3</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 令和2年度に短期入所事業者の指定を受け、令和4年度から入所している。</p> <p>移行期医療推進協議会の開催 (単位：件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>移行期医療推進協議会の開催</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> <p>移行期医療センターに関する委員会等の実施回数 (単位：件数)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>移行期医療センターに関する委員会等の実施回数</td> <td>-</td> <td>11</td> <td>18</td> <td>9</td> <td>7</td> </tr> </tbody> </table>	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	こども→総合	610	666	995	1,367	1,100	918	こども→こころ	-	19	18	15	28	31	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	こころ・こども精神科医師合同カンファレンスの開催実績	2	5	0	0	0	0	移行期医療センターに関する県との打合せ実施回数	1	6	4	3	2	2	医療的ケア児のレスパイト対応に関する打合せ実施回数	5	3	6	6	3	4	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	移行期医療推進協議会の開催	-	-	-	-	1	0	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	移行期医療センターに関する委員会等の実施回数	-	11	18	9	7	A	<p>新型コロナウイルス感染症への対応については、総合病院及びこども病院が県から重点医療機関に指定されており、各病院において患者受入体制を整備し、県と調整のうえ患者の受入を行ってきた。</p> <p>移行期医療への対応については、機構内における医療情報システム(電子カルテシステム)の統合を進め、令和5年5月に稼働を開始した。これにより、今後患者情報の病院間の相互参照が可能となり、医療サービスの向上が期待される。</p> <p>(総合) 令和5年度の受診者数は、令和4年度実績とほぼ横這いとなった。</p> <p>(こころ) 当院とこども病院間での医師による合同カンファレンスについては実施していないものの、相互の医局間で連携したことにより、こども病院で対応出来ない重篤な精神疾患症例の児童の受け入れを実施し、期間中最高件数の受入ができた。</p> <p>(こども) 県から移行期医療支援センター運営事業を受託し、県と連携して移行期医療支援体制の推進に取り組んだ。</p> <p>令和5年度は小児科から成人医療施設への紹介実績調査のほか、こども病院として、患者の自立を促すための自立支援外来の実施、静岡市医師会と重症心身障がい児の移行のためのカンファレンスを行った。</p> <p>在宅移行の推進や在宅移行後の医療的ケア児への対応について、令和2年度に指定障害福祉サービスによる短期入所事業者の指定を受け、令和5年度は3人(延人数)の利用があった。</p>
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																												
こども→総合	610	666	995	1,367	1,100	918																																																																												
こども→こころ	-	19	18	15	28	31																																																																												
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																												
こころ・こども精神科医師合同カンファレンスの開催実績	2	5	0	0	0	0																																																																												
移行期医療センターに関する県との打合せ実施回数	1	6	4	3	2	2																																																																												
医療的ケア児のレスパイト対応に関する打合せ実施回数	5	3	6	6	3	4																																																																												
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																												
移行期医療推進協議会の開催	-	-	-	-	1	0																																																																												
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																													
移行期医療センターに関する委員会等の実施回数	-	11	18	9	7																																																																													

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(R5、第3期中期目標期間)	令和5年度実績 自己評価																																																																																																															
						評価	説明																																																																																																														
	ク 高度・専門・特殊医療を県民に提供する第一級の病院であり続けるために、ハイブリッド手術室の活用、ロボット支援手術・放射線治療等の拡充など、高度な治療への対応の強化や適切な治療の提供に取り組む。また、医療を取り巻く環境変化に応じて、先進的な施設や設備等の充実に努める。	ク 高度・専門・特殊医療を県民に提供する第一級の病院であり続けるために、ハイブリッド手術室の活用、ロボット支援手術・放射線治療等の拡充など、高度な治療への対応の強化や適切な治療に取り組む。質の高い医療の提供と効率的な病院運営を目指すため、3病院の医療情報システム統合をはじめとした医療情報の共有化に取り組む。 また、医療を取り巻く環境変化に応じて、先進的な施設や設備等の充実に努める。	24	・中期計画に記載した施設及び機器等の整備を計画的に実施する。 ・3病院の医療情報システム統合を実施し、セキュリティを強化した上で、地域医療連携などICTを利用したサービスの向上を目指す。	<p>施設及び機器等の整備状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="7">施設整備</th> </tr> <tr> <th>第2期累計(実績)</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> <th>第3期累計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>16,132</td> <td>1,091</td> <td>1,472</td> <td>1,866</td> <td>383</td> <td>685</td> <td>4,813</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>992</td> <td>139</td> <td>246</td> <td>5</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>390</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>1,764</td> <td>148</td> <td>829</td> <td>190</td> <td>136</td> <td>282</td> <td>1,303</td> </tr> <tr> <td>本部</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>78</td> <td>395</td> <td>358</td> <td>3,304</td> <td>831</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>18,887</td> <td>1,379</td> <td>2,626</td> <td>2,456</td> <td>877</td> <td>4,271</td> <td>7,338</td> </tr> </tbody> </table> <p>(単位：百万円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="7">器械備品等</th> </tr> <tr> <th>第2期累計(実績)</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> <th>第3期累計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>6,788</td> <td>706</td> <td>894</td> <td>708</td> <td>1,049</td> <td>1,724</td> <td>3,356</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>169</td> <td>31</td> <td>31</td> <td>8</td> <td>14</td> <td>24</td> <td>84</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>1,834</td> <td>308</td> <td>747</td> <td>567</td> <td>717</td> <td>454</td> <td>2,339</td> </tr> <tr> <td>本部</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>44</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>1,166</td> <td>45</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>8,791</td> <td>1,045</td> <td>1,716</td> <td>1,283</td> <td>1,780</td> <td>3,368</td> <td>5,824</td> </tr> </tbody> </table> <p>医療情報システム統合の実施状況 ・質の高い医療の提供と効率的な病院運営を目指すため、3病院の医療情報システムを統合、令和5年5月から稼働を開始した。</p>	区分	施設整備							第2期累計(実績)	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	第3期累計	総合	16,132	1,091	1,472	1,866	383	685	4,813	こころ	992	139	246	5	0	0	390	こども	1,764	148	829	190	136	282	1,303	本部	0	0	78	395	358	3,304	831	合計	18,887	1,379	2,626	2,456	877	4,271	7,338		器械備品等							第2期累計(実績)	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	第3期累計	総合	6,788	706	894	708	1,049	1,724	3,356	こころ	169	31	31	8	14	24	84	こども	1,834	308	747	567	717	454	2,339	本部	0	0	44	0	1	1,166	45	合計	8,791	1,045	1,716	1,283	1,780	3,368	5,824	A	(総合) 施設整備に関しては、本館電気設備改修工事が完了した。令和6年度は引き続き、本館非常用発電機更新工事及び劣化改修工事を行う予定である。 器械備品に関しては、超電導磁石式全身用MR装置、据置型デジタル式循環器用X線透視診断装置等の更新を行った。 (こころ) 施設整備に関しては、厨房改修や設備改修等に関する検討を進めた。 器械備品に関しては、多項目自動血球分析装置、歯科用パノラマX線撮影装置等の更新を行った。 (こども) 施設整備に関しては、昇降機改修工事及び外来天井改修工事が完了した。 器械備品に関しては、生体情報モニタ及びドクターカー(高規格救急車)の更新を行った。 (本部) 質の高い医療の提供と効率的な病院運営を目指すため、機構内における医療情報システムの統合を行い、令和5年5月に3病院共通電子カルテシステムの稼働を開始した。
区分	施設整備																																																																																																																				
	第2期累計(実績)	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	第3期累計																																																																																																														
総合	16,132	1,091	1,472	1,866	383	685	4,813																																																																																																														
こころ	992	139	246	5	0	0	390																																																																																																														
こども	1,764	148	829	190	136	282	1,303																																																																																																														
本部	0	0	78	395	358	3,304	831																																																																																																														
合計	18,887	1,379	2,626	2,456	877	4,271	7,338																																																																																																														
	器械備品等																																																																																																																				
	第2期累計(実績)	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	第3期累計																																																																																																														
総合	6,788	706	894	708	1,049	1,724	3,356																																																																																																														
こころ	169	31	31	8	14	24	84																																																																																																														
こども	1,834	308	747	567	717	454	2,339																																																																																																														
本部	0	0	44	0	1	1,166	45																																																																																																														
合計	8,791	1,045	1,716	1,283	1,780	3,368	5,824																																																																																																														
	ケ 各県立病院は、質の高い医療を継続的に提供するため、次のとおり重点的に取り組む。	ケ 各県立病院は医療の提供に当たり、次のとおり重点的に取り組む。	-	-	-	-	-																																																																																																														
県立総合病院	(ウ) 県立総合病院診療事業 県内医療機関の中核的病院として、各疾患に対する総合的な医療をはじめ、3大疾患(心疾患、脳血管疾患、がん疾患)に対する高度・専門医療や救急・急性期医療等を提供する。 各診療事業を推進するため、医師・看護師確保に取り組む。 県民に提供する医療 県民に提供する医療<業務予定量> 病床数 718床 一般病床 662床 結核病床 50床 精神病床 6床 外来患者 455,056人 入院患者 227,436人		25		<p>入院・外来患者数</p> <p>(単位：人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> <th>5年度目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入院患者数</td> <td>233,305</td> <td>225,595</td> <td>203,298</td> <td>207,398</td> <td>199,210</td> <td>211,603</td> <td>227,436</td> </tr> <tr> <td>(うち結核病床)</td> <td>6,406</td> <td>4,967</td> <td>5,223</td> <td>4,918</td> <td>3,260</td> <td>3,977</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>外来患者数</td> <td>436,699</td> <td>448,945</td> <td>425,092</td> <td>455,056</td> <td>455,776</td> <td>457,778</td> <td>455,056</td> </tr> </tbody> </table>	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	5年度目標	入院患者数	233,305	225,595	203,298	207,398	199,210	211,603	227,436	(うち結核病床)	6,406	4,967	5,223	4,918	3,260	3,977	-	外来患者数	436,699	448,945	425,092	455,056	455,776	457,778	455,056	B	入院患者数については、新型コロナウイルス感染症の対応を継続しながら、令和2年度以前の数字まで戻りつつあり、順調に増加している。 一方、外来患者数については、令和5年度は新型コロナウイルス感染症の影響のない令和元年度実績を超え過去最高を更新した。																																																																														
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	5年度目標																																																																																																														
入院患者数	233,305	225,595	203,298	207,398	199,210	211,603	227,436																																																																																																														
(うち結核病床)	6,406	4,967	5,223	4,918	3,260	3,977	-																																																																																																														
外来患者数	436,699	448,945	425,092	455,056	455,776	457,778	455,056																																																																																																														

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(R5、第3期中期目標期間)	令和5年度実績 自己評価																													
						評価	説明																												
	急性心筋梗塞、脳卒中等の循環器疾患において、常時高度な専門的治療を提供する。加えて、生活習慣病としての危険因子を管理するため、地域の医療機関との連携を強化する。	○循環器疾患患者に対して循環器病センター機能を活かした常時高度な専門的治療を提供する体制の充実 ①重症心不全疾患の患者に対して冠動脈疾患集中治療室(CCU/ICU)機能を最大限に活かした高度な専門的治療の提供 ②急性心筋梗塞、脳卒中発症患者に対応する常時救急受入体制の強化 ③循環器関連診療科の有機的な連携によるチーム医療の推進 ④ハイブリッド手術室の使用による経カテーテル大動脈弁置換術(TAVI)、ステントグラフト内挿術、経皮的僧帽弁接合不全修復術(Mitra Clip)等の低侵襲かつ高度な手術の実施	26	①冠動脈疾患集中治療室(CCU/ICU)を中心に常時対応できる体制を構築し、高度専門診療を提供する。	CCU/ICUは平成30年9月より14床で運用している。 <b>CCU/ICU稼働率</b> (単位：%) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>稼働率(%)</td> <td>119.1</td> <td>100.3</td> <td>88.6</td> <td>95.7</td> <td>87.4</td> <td>96.3</td> </tr> <tr> <td>入室患者数(人)</td> <td>771</td> <td>866</td> <td>802</td> <td>925</td> <td>795</td> <td>853</td> </tr> <tr> <td>1日平均(人)</td> <td>14.3</td> <td>14.0</td> <td>12.4</td> <td>13.4</td> <td>12.2</td> <td>13.5</td> </tr> </tbody> </table>	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	稼働率(%)	119.1	100.3	88.6	95.7	87.4	96.3	入室患者数(人)	771	866	802	925	795	853	1日平均(人)	14.3	14.0	12.4	13.4	12.2	13.5	A	CCU/ICUの稼働率及び1日平均入室患者数は、令和4年度は新型コロナウイルス患者の重症化に伴い、一時的に稼働の制限を行っていたが、令和5年度は制限はなくなり、稼働率、入室患者数ともに増加した。
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																													
稼働率(%)	119.1	100.3	88.6	95.7	87.4	96.3																													
入室患者数(人)	771	866	802	925	795	853																													
1日平均(人)	14.3	14.0	12.4	13.4	12.2	13.5																													
			27	②脳卒中発症患者に対する急性期医療の提供体制を整備するとともに、在宅医療への情報提供等、在宅復帰に向けた取り組みを推進する。	<b>脳卒中地域連携クリニカルパス適用患者数</b> (単位：件) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>算定件数</td> <td>62</td> <td>83</td> <td>102</td> <td>92</td> <td>49</td> <td>8</td> </tr> </tbody> </table> <b>超急性期脳卒中加算</b> (単位：件) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>算定件数</td> <td>16</td> <td>35</td> <td>28</td> <td>32</td> <td>20</td> <td>28</td> </tr> </tbody> </table>	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	算定件数	62	83	102	92	49	8	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	算定件数	16	35	28	32	20	28	A	脳卒中地域連携クリニカルパス適用患者数について、対象となる患者が減少したことにより、令和5年度は前年度に引き続き減少した。院内においては地域連携パスについて再周知し、引き続き、地域の医療機関等との連携により、パスの適用を推進し、円滑な運用に努める。 しかしながら超急性期脳卒中加算は前年度を上回る結果となった。 また、今後も、MRI、CT、血管造影の3種類のハイブリッド手術室を最大限に活用し、脳卒中発症患者に対して高度な専門的治療を提供する。
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																													
算定件数	62	83	102	92	49	8																													
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																													
算定件数	16	35	28	32	20	28																													

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(R5、第3期中期目標期間)	令和5年度実績 自己評価																																																																																																																																	
						評価	説明																																																																																																																																
			28	③生活習慣病を心血管疾患の発症危険因子としてとらえ、循環器内科、神経内科、腎臓内科、心臓血管外科等が有機的に連携して、チーム医療の推進を図る。	<p>糖尿病透析予防指導管理料 (単位：件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>算定件数</td> <td>145</td> <td>285</td> <td>123</td> <td>67</td> <td>48</td> <td>91</td> </tr> </tbody> </table> <p>(単位：件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>腎代替療法指導管理料</td> <td>211</td> <td>164</td> <td>177</td> </tr> </tbody> </table>	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	算定件数	145	285	123	67	48	91	区分	3年度	4年度	5年度	腎代替療法指導管理料	211	164	177	A	糖尿病透析予防指導管理料は糖尿病・内分泌内科外来、そらまめ外来、透析室における指導により算定する。また、糖尿病透析予防指導管理料と腎代替療法指導管理料の対象患者は重複しているため、腎代替療法患者の増加に伴い、糖尿病透析予防管理料の患者数は減少している。令和4年度の算定件数は、新型コロナウイルス感染症の影響に加え、人員配置の変更が大きく影響したが、令和5年度は、昨年度を上回る結果となった。																																																																																																										
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																	
算定件数	145	285	123	67	48	91																																																																																																																																	
区分	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																				
腎代替療法指導管理料	211	164	177																																																																																																																																				
			29	④ハイブリッド手術室を運用する体制を整備し、高度専門医療を提供する。	<p>ハイブリッド手術室稼働状況 (単位：件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> <th>5年度目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ハイブリッド手術室使用件数</td> <td>706</td> <td>486</td> <td>484</td> <td>512</td> <td>525</td> <td>563</td> <td>400以上</td> </tr> <tr> <td>TAVI実施件数 ※上記の内数</td> <td>74</td> <td>67</td> <td>65</td> <td>105</td> <td>81</td> <td>84</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>ステントグラフト挿入術 ※上記の内数</td> <td>91</td> <td>125</td> <td>76</td> <td>99</td> <td>120</td> <td>108</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>Mitra Clip件数 ※上記の内数</td> <td>12</td> <td>24</td> <td>14</td> <td>21</td> <td>11</td> <td>14</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>参考 (単位：件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>PCI</td> <td>450</td> <td>368</td> <td>363</td> <td>349</td> <td>333</td> <td>274</td> </tr> <tr> <td>アブレーション</td> <td>253</td> <td>284</td> <td>267</td> <td>305</td> <td>262</td> <td>282</td> </tr> </tbody> </table>	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	5年度目標	ハイブリッド手術室使用件数	706	486	484	512	525	563	400以上	TAVI実施件数 ※上記の内数	74	67	65	105	81	84	—	ステントグラフト挿入術 ※上記の内数	91	125	76	99	120	108	—	Mitra Clip件数 ※上記の内数	12	24	14	21	11	14	—	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	PCI	450	368	363	349	333	274	アブレーション	253	284	267	305	262	282	A	MRIハイブリッド手術室は、手術室にMRI検査室を併設しており、主に脳神経外科の脳腫瘍切除術に使用される。CTハイブリッド手術室は、手術室にCT検査装置を併設しており、主に脳神経外科の脳血管障害や脳腫瘍の手術に使用される。血管造影ハイブリッド手術室は、手術室にX線血管撮影装置を併設しており、主に心臓血管外科、循環器内科のTAVI、ステントグラフト内挿術、MitraClip等の手術に使用される。ハイブリッド手術室の稼働状況は、毎年下半期における循環器疾患及び脳疾患症例数の増加に比例して稼働率が上昇し、令和5年度は令和4年度を上回る結果となった。令和5年度の稼働状況については、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、TAVI、ステントグラフト挿入術、MitraClipの実施件数は令和4年度実績と同程度を維持している。																																																																			
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	5年度目標																																																																																																																																
ハイブリッド手術室使用件数	706	486	484	512	525	563	400以上																																																																																																																																
TAVI実施件数 ※上記の内数	74	67	65	105	81	84	—																																																																																																																																
ステントグラフト挿入術 ※上記の内数	91	125	76	99	120	108	—																																																																																																																																
Mitra Clip件数 ※上記の内数	12	24	14	21	11	14	—																																																																																																																																
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																	
PCI	450	368	363	349	333	274																																																																																																																																	
アブレーション	253	284	267	305	262	282																																																																																																																																	
	・がん患者に対し、地域がん診療連携拠点病院として、最新・最良の診断、ロボット支援手術などの先進的手術及び化学療法、放射線治療を組み合わせた高度な集学的治療や予防医療を提供する体制を整備し、地域の医療機関等と連携した緩和ケアや終末期医療を提供していく。	○がん疾患患者に対して地域がん診療連携拠点病院としての高度な集学的治療を提供する体制の充実及び地域の医療機関等と連携した緩和ケアや終末期医療の提供 ①先端医学棟の設備・機能を最大限に活用し、手術、放射線治療、化学療法に係るがん診療体制の充実 ②地域の医療機関等との連携による緩和ケアや終末期ケアの推進 ③がん相談及び情報提供機能の強化 ④ロボット支援手術の活用	30	①がん患者が速やかに検査や治療を受けられる体制を構築し、手術件数の増加に努める。	<p>がん手術件数 (単位：件、%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>胃がん</td> <td>340</td> <td>366</td> <td>351</td> <td>351</td> <td>392</td> <td>347</td> </tr> <tr> <td>大腸がん</td> <td>687</td> <td>696</td> <td>759</td> <td>776</td> <td>732</td> <td>787</td> </tr> <tr> <td>肝がん</td> <td>366</td> <td>260</td> <td>328</td> <td>255</td> <td>232</td> <td>264</td> </tr> <tr> <td>肺がん</td> <td>134</td> <td>194</td> <td>213</td> <td>180</td> <td>184</td> <td>169</td> </tr> <tr> <td>乳がん</td> <td>449</td> <td>511</td> <td>440</td> <td>454</td> <td>441</td> <td>448</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>1,241</td> <td>1,549</td> <td>1,355</td> <td>1,630</td> <td>1,600</td> <td>1,509</td> </tr> <tr> <td>がん手術合計</td> <td>3,217</td> <td>3,576</td> <td>3,446</td> <td>3,646</td> <td>3,581</td> <td>3,524</td> </tr> <tr> <td>手術全体</td> <td>8,651</td> <td>9,225</td> <td>8,513</td> <td>8,798</td> <td>8,525</td> <td>8,931</td> </tr> <tr> <td>がん手術割合</td> <td>37.2</td> <td>38.8</td> <td>40.5</td> <td>41.4</td> <td>42.0</td> <td>39.5</td> </tr> </tbody> </table> <p>※年度別各種がん手術は1患者が複数手術をした場合は、それぞれ計上 ※がん手術合計、手術全体は複数手術をした場合は、主たる手術に計上</p> <p>内視鏡検査・処置 (単位：件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>上部消化管検査</th> <th>下部消化管検査</th> <th>ERCP検査</th> <th>気管支鏡検査</th> <th>その他</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>元年度</td> <td>10,489</td> <td>2,813</td> <td>445</td> <td>389</td> <td>56</td> <td>14,192</td> </tr> <tr> <td>2年度</td> <td>9,817</td> <td>2,771</td> <td>404</td> <td>291</td> <td>38</td> <td>13,321</td> </tr> <tr> <td>3年度</td> <td>10,540</td> <td>2,749</td> <td>420</td> <td>350</td> <td>54</td> <td>14,113</td> </tr> <tr> <td>4年度</td> <td>10,058</td> <td>2,727</td> <td>445</td> <td>306</td> <td>47</td> <td>13,583</td> </tr> <tr> <td>5年度</td> <td>9,903</td> <td>2,767</td> <td>410</td> <td>281</td> <td>54</td> <td>13,415</td> </tr> </tbody> </table> <p>放射線治療 (単位：件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> <th>5年度目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>15,772</td> <td>1,100</td> <td>1,104</td> <td>1,257</td> <td>980</td> <td>978</td> <td>1,000</td> </tr> </tbody> </table> <p>※令和元年度より放射線治療管理料算定件数とする。</p>	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	胃がん	340	366	351	351	392	347	大腸がん	687	696	759	776	732	787	肝がん	366	260	328	255	232	264	肺がん	134	194	213	180	184	169	乳がん	449	511	440	454	441	448	その他	1,241	1,549	1,355	1,630	1,600	1,509	がん手術合計	3,217	3,576	3,446	3,646	3,581	3,524	手術全体	8,651	9,225	8,513	8,798	8,525	8,931	がん手術割合	37.2	38.8	40.5	41.4	42.0	39.5	年度	上部消化管検査	下部消化管検査	ERCP検査	気管支鏡検査	その他	合計	元年度	10,489	2,813	445	389	56	14,192	2年度	9,817	2,771	404	291	38	13,321	3年度	10,540	2,749	420	350	54	14,113	4年度	10,058	2,727	445	306	47	13,583	5年度	9,903	2,767	410	281	54	13,415	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	5年度目標	件数	15,772	1,100	1,104	1,257	980	978	1,000	B	がん手術件数は、令和4年度若干減少したものの、令和5年度の件数は順調に推移しており、コロナ禍前の令和元年度当時の水準と同等となった。  放射線治療件数は、高精度放射線治療に比重を置いていることで件数自体は抑えられているが、その中でも件数は順調に推移しており、目標値と同程度の件数となった。
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																	
胃がん	340	366	351	351	392	347																																																																																																																																	
大腸がん	687	696	759	776	732	787																																																																																																																																	
肝がん	366	260	328	255	232	264																																																																																																																																	
肺がん	134	194	213	180	184	169																																																																																																																																	
乳がん	449	511	440	454	441	448																																																																																																																																	
その他	1,241	1,549	1,355	1,630	1,600	1,509																																																																																																																																	
がん手術合計	3,217	3,576	3,446	3,646	3,581	3,524																																																																																																																																	
手術全体	8,651	9,225	8,513	8,798	8,525	8,931																																																																																																																																	
がん手術割合	37.2	38.8	40.5	41.4	42.0	39.5																																																																																																																																	
年度	上部消化管検査	下部消化管検査	ERCP検査	気管支鏡検査	その他	合計																																																																																																																																	
元年度	10,489	2,813	445	389	56	14,192																																																																																																																																	
2年度	9,817	2,771	404	291	38	13,321																																																																																																																																	
3年度	10,540	2,749	420	350	54	14,113																																																																																																																																	
4年度	10,058	2,727	445	306	47	13,583																																																																																																																																	
5年度	9,903	2,767	410	281	54	13,415																																																																																																																																	
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	5年度目標																																																																																																																																
件数	15,772	1,100	1,104	1,257	980	978	1,000																																																																																																																																
			31	①外来化学療法センターの環境整備を行い、化学療法の充実を図る。	<p>外来化学療法加算 (単位：件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> <th>5年度目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>12,159</td> <td>12,707</td> <td>12,660</td> <td>12,812</td> <td>13,854</td> <td>13,862</td> <td>12,000以上</td> </tr> </tbody> </table>	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	5年度目標	件数	12,159	12,707	12,660	12,812	13,854	13,862	12,000以上	S	外来化学療法については、外来化学療法センターの移転リニューアルや前日採血の運用を導入するなど、患者の療養環境や利便性が大幅に向上し、令和5年度の外来化学療法加算算定件数は13,000件を上回り、過去最多の実施件数となった。 また、がん薬物療法(抗がん剤治療)による脱毛抑制のための頭部冷却装置(PAXMAN)を導入し乳がん患者を対象に治療を開始している。乳がんを含む固形癌に対する薬物療法を受ける患者の、治療中及び治療後の脱毛抑制が期待でき、患者サービスの向上、及び対象患者のQOLの向上が図られる。																																																																																																																
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	5年度目標																																																																																																																																
件数	12,159	12,707	12,660	12,812	13,854	13,862	12,000以上																																																																																																																																

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(R5、第3期中期目標期間)	令和5年度実績 自己評価																																																															
						評価	説明																																																														
			32	②地域の医療機関等と連携し、緩和ケアや終末期ケアを推進する。	<p>緩和ケアチーム介入症例数 (単位：件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>症例数</td> <td>418</td> <td>527</td> <td>482</td> <td>548</td> <td>396</td> <td>383</td> </tr> </tbody> </table> <p>緩和ケア診療加算算定件数 (単位：件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>812</td> <td>5249</td> <td>4,417</td> <td>5,308</td> <td>4,796</td> <td>4,372</td> </tr> </tbody> </table>	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	症例数	418	527	482	548	396	383	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	件数	812	5249	4,417	5,308	4,796	4,372	A	<p>緩和ケアチームは、緩和医療科医師、精神科医師、がんに関する専門・認定看護師等で構成され、院内のがん患者に対して適切な緩和医療を提供する他、地域の医療機関等との定期的なカンファレンスを通じて連携強化に取り組んでいる。</p> <p>また、がん患者等の社会復帰を支援するため、院内にハローワーク、産業保健総合支援センターとの連携による就労支援出張相談窓口を設置し、通院中又は入院中の患者に対して専門スタッフによる無料の就労相談を行っている。</p>																																		
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																															
症例数	418	527	482	548	396	383																																																															
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																															
件数	812	5249	4,417	5,308	4,796	4,372																																																															
			33	③がん相談支援センターの機能を増強し、がんに関する相談支援、情報の提供に努める。	<p>がん相談件数 (単位：件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>がん相談</td> <td>4,374</td> <td>4,742</td> <td>4,458</td> <td>3,493</td> <td>2,456</td> <td>2,241</td> </tr> </tbody> </table>	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	がん相談	4,374	4,742	4,458	3,493	2,456	2,241	A	<p>がん相談支援センターにおいて、がんに関する専門・認定看護師を中心に対面及び電話による相談を実施している。</p> <p>がん相談件数については、令和5年度も、新型コロナウイルス感染症の影響により、対面での相談件数が減少傾向であるため、前年度と同水準となった。</p>																																																
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																															
がん相談	4,374	4,742	4,458	3,493	2,456	2,241																																																															
			34	④手術支援ロボットを増設するなど、高度・先進医療に対応できる手術体制の充実を図り、質の高い医療の提供を行う。	<p>ロボット支援手術件数 (単位：件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>診療科</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> <th>5年度目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>泌尿器科</td> <td>112</td> <td>104</td> <td>135</td> <td>132</td> <td>132</td> <td>136</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>婦人科</td> <td>18</td> <td>25</td> <td>23</td> <td>25</td> <td>18</td> <td>31</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>消化器外科</td> <td>83</td> <td>70</td> <td>82</td> <td>92</td> <td>163</td> <td>222</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>心臓血管外科</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>3</td> <td>12</td> <td>15</td> <td>18</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>213</td> <td>199</td> <td>243</td> <td>261</td> <td>328</td> <td>407</td> <td>230以上</td> </tr> </tbody> </table> <p>ロボット支援手術者数 (単位：人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人数</td> <td>11</td> <td>12</td> <td>16</td> <td>23</td> <td>21</td> <td>38</td> </tr> </tbody> </table>	診療科	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	5年度目標	泌尿器科	112	104	135	132	132	136	—	婦人科	18	25	23	25	18	31	—	消化器外科	83	70	82	92	163	222	—	心臓血管外科	—	—	3	12	15	18	—	計	213	199	243	261	328	407	230以上	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	人数	11	12	16	23	21	38	S	<p>ロボット支援手術は、患者にとっては低侵襲というメリットがあるが、経営面においては消耗品や機器の保守費用等を現在の診療報酬では賄うことができないという問題点があるため、手術部において適用症例を見極めたうえで実施している。</p> <p>手術件数については、目標値及び令和4年度実績を大きく上回る結果となった。</p> <p>運用に当たっては、手術講師を東京大学医学部、東京医科大学等から招聘し、術者の指導に充て、常に高度医療技術の習得に努めている。</p> <p>令和4年度からはロボット手術運営部会を立ち上げ、より良いロボット支援手術の運営に努めているほか、総合病院の婦人科医師がロボット手術学会の学会会長を務めるなど、婦人科のロボット支援手術の普及、発展、技術の向上に貢献している。</p>
診療科	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	5年度目標																																																														
泌尿器科	112	104	135	132	132	136	—																																																														
婦人科	18	25	23	25	18	31	—																																																														
消化器外科	83	70	82	92	163	222	—																																																														
心臓血管外科	—	—	3	12	15	18	—																																																														
計	213	199	243	261	328	407	230以上																																																														
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																															
人数	11	12	16	23	21	38																																																															
	・認知症や精神科患者の身体合併症などに対応できる体制を整備する。	○認知症や精神科患者の身体合併症などに対応できる体制の運用開始 ①認知症や精神科患者の身体合併症に対応する病棟の開棟(精神科身体合併症病棟)など医療提供体制の充実	No.20		<p>こころの医療センターとの連携による常勤の精神科医師5名の着任により、精神科患者の身体合併症に対応する精神科リエゾンチームと認知症ケアチームが協働しながら治療を行っている。</p> <p>また、精神疾患と身体疾患を併せ持つ精神・身体合併症に対する医療ニーズを踏まえ、令和5年4月から精神科病棟(精神科身体合併症病棟)を開棟した。</p> <p>加えて令和5年4月から精神科病棟の運用を開始し、静岡県精神科救急身体合併症対応事業を受託した。</p>		<p>令和5年4月から精神科病棟の運用を開始し、静岡県精神科救急身体合併症対応事業を受託している。</p> <p>精神科病棟運用開始により、主に県内中部・東部の身体合併を有する精神科患者の受け入れを行い、他施設での対応が困難な症例について年間延べ774名の入院管理を行った。</p>																																																														
			35			A																																																															

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(R5、第3期中期目標期間)	令和5年度実績 自己評価																																																																															
						評価	説明																																																																														
	・先端医学棟に整備した各種ハイブリッド手術室や放射線治療室の運用により、適切な治療を提供していく。	○先端医学棟に整備した各種ハイブリッド手術室や放射線治療室の運用による適切な治療の提供 ①ハイブリッド手術室を活用した高度専門医療の推進 ②高度放射線治療の推進	36	先端医学棟の設備・機器を最大限に活用する。 ①No.29 ②No.30	<p>手術件数 (単位：件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> <th>毎年度目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>手術件数</td> <td>9,327</td> <td>9,814</td> <td>9,126</td> <td>9,395</td> <td>9,160</td> <td>9,459</td> <td>9,400以上</td> </tr> </tbody> </table> <p>HCU延患者数 (単位：人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人数</td> <td>6,872</td> <td>6,426</td> <td>5,569</td> <td>5,759</td> <td>5,669</td> <td>6,537</td> </tr> </tbody> </table>	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標	手術件数	9,327	9,814	9,126	9,395	9,160	9,459	9,400以上	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	人数	6,872	6,426	5,569	5,759	5,669	6,537	総合	A	先端医学棟では、最新の設備と医療機器を最大限に活用した高度・先進医療を実施している。特に、3階、4階に設置したハイブリッド手術室、内視鏡手術室、ロボット支援手術室を含む23室の手術室と術後管理を行うHCU20床の一体的かつ効率的な運用に努めている。なお、令和5年度については、新型コロナウイルス感染症の影響のない令和元年度以前と同様の件数まで回復し、目標件数を達成した。令和4年9月に総合病院先端医学棟で発生した火災により、病理学部の機能をリサーチ・サポート・センターに移転して診療を継続していたが、令和5年9月末に復旧工事が完了した。																																															
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標																																																																														
手術件数	9,327	9,814	9,126	9,395	9,160	9,459	9,400以上																																																																														
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																															
人数	6,872	6,426	5,569	5,759	5,669	6,537																																																																															
	・高度救命救急センターとして一層の充実を図り、広範囲熱傷等の特殊疾病患者に対応していく。	○重篤な救急患者に対応する高度救命救急センターの運営 ①救急搬送患者の受入体制の充実	37	①②医師の増員を図るとともに、働きやすさに配慮した変則勤務が可能な体制を維持する。	<p>医師の変則勤務試行状況 (単位：%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>該当者(人)</td> <td>1,717</td> <td>1,784</td> <td>1,893</td> <td>1,838</td> <td>1,864</td> <td>1,909</td> </tr> <tr> <td>利用者(人)</td> <td>966</td> <td>1,047</td> <td>1,224</td> <td>1,139</td> <td>1,176</td> <td>1,197</td> </tr> <tr> <td>利用率(%)</td> <td>56.3</td> <td>58.7</td> <td>64.7</td> <td>61.9</td> <td>63.1</td> <td>62.7</td> </tr> </tbody> </table> <p>※該当者：変則勤務を行うことが可能な延べ医師数 ※利用者：変則勤務を行った延べ医師数</p>	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	該当者(人)	1,717	1,784	1,893	1,838	1,864	1,909	利用者(人)	966	1,047	1,224	1,139	1,176	1,197	利用率(%)	56.3	58.7	64.7	61.9	63.1	62.7	総合	A	救急患者の円滑な受入体制を維持するため、各診療科の協力のもと、医師の変則勤務を進めている。令和5年度の利用者数は前年度をやや上回った。																																																	
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																															
該当者(人)	1,717	1,784	1,893	1,838	1,864	1,909																																																																															
利用者(人)	966	1,047	1,224	1,139	1,176	1,197																																																																															
利用率(%)	56.3	58.7	64.7	61.9	63.1	62.7																																																																															
			38	③救急車の受入を確実にできる診療体制を維持する。 ・ドクターカーの運用に関して、出動可能な市町の拡大に努める。	<p>救急科医師9名体制で稼働</p> <p>救急車受入率 (単位：%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>当番日</td> <td>97.1</td> <td>90.9</td> <td>87.7</td> <td>94.4</td> <td>93.3</td> <td>92.0</td> </tr> <tr> <td>全日</td> <td>97.4</td> <td>92.3</td> <td>92.5</td> <td>94.4</td> <td>93.4</td> <td>93.3</td> </tr> </tbody> </table> <p>特殊疾病患者受入数 (単位：件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>疾病名</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>重症熱傷</td> <td>14</td> <td>11</td> <td>9</td> <td>4</td> <td>14</td> <td>21</td> </tr> <tr> <td>重症外傷</td> <td>378</td> <td>380</td> <td>431</td> <td>335</td> <td>410</td> <td>480</td> </tr> <tr> <td>急性中毒</td> <td>30</td> <td>46</td> <td>26</td> <td>39</td> <td>60</td> <td>64</td> </tr> <tr> <td>病院外心停止</td> <td>186</td> <td>174</td> <td>201</td> <td>182</td> <td>236</td> <td>236</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>608</td> <td>611</td> <td>667</td> <td>560</td> <td>720</td> <td>801</td> </tr> </tbody> </table> <p>ドクターカー出動状況 (単位：件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>8</td> <td>11</td> <td>9</td> <td>13</td> </tr> </tbody> </table> <p>【参考】救急患者数 令4：11,245人、令5：11,813人 【参考】救急車受入件数 令4：6,144件、令5：6,443件</p>	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	当番日	97.1	90.9	87.7	94.4	93.3	92.0	全日	97.4	92.3	92.5	94.4	93.4	93.3	疾病名	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	重症熱傷	14	11	9	4	14	21	重症外傷	378	380	431	335	410	480	急性中毒	30	46	26	39	60	64	病院外心停止	186	174	201	182	236	236	計	608	611	667	560	720	801	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	件数	12	12	8	11	9	13	総合	A	救急科医師数に変化はない。救急当直体制の見直しを行っているが、現在も医師数が充足しているとは言えない状況である。 令和5年度の救急患者数及び救急車受入件数は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、令和4年度実績と同水準で推移した。特殊疾患患者も積極的に受け入れ、高度救命救急センターとしての機能を果たしている。 ドクターカーは事故による重症外傷や胸痛等の循環器疾患が疑われる病態に対して出動している。令和5年度の出動件数は13件と、令和4年度に比べ増加した。
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																															
当番日	97.1	90.9	87.7	94.4	93.3	92.0																																																																															
全日	97.4	92.3	92.5	94.4	93.4	93.3																																																																															
疾病名	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																															
重症熱傷	14	11	9	4	14	21																																																																															
重症外傷	378	380	431	335	410	480																																																																															
急性中毒	30	46	26	39	60	64																																																																															
病院外心停止	186	174	201	182	236	236																																																																															
計	608	611	667	560	720	801																																																																															
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																															
件数	12	12	8	11	9	13																																																																															

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(R5、第3期中期目標期間)	令和5年度実績 自己評価																																																		
						評価	説明																																																	
	・効率的な病院運営を図り、また、県民に安全で質の高い医療の提供を行うため、病床稼働率及び入院・外来患者満足度について各事業年度で高い水準を達成する。	○効率的な病院運営による県民に安全で質の高い医療を提供 ①手術件数の増加 ②病床稼働率90%以上の維持 ③患者満足度(入院・外来)の向上	39	①No.36 ②効率的な病院運営を行い、高い病床稼働率を維持する ③No.8	病床稼働率 (単位: %) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> <th>毎年度目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般病棟</td> <td>93.9</td> <td>91.1</td> <td>84.8</td> <td>88.2</td> <td>82.6</td> <td>85.4</td> <td>90以上</td> </tr> <tr> <td>全体</td> <td>89.8</td> <td>86.6</td> <td>80.7</td> <td>83.7</td> <td>78.0</td> <td>80.5</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標	一般病棟	93.9	91.1	84.8	88.2	82.6	85.4	90以上	全体	89.8	86.6	80.7	83.7	78.0	80.5	-	総合	B	令和5年度は、目標値を下回るが、昨年度よりも増加する結果となった。5月8日以降、一般病床にて新型コロナウイルス感染症患者を受け入れている。入院中に発生した患者も含め新型コロナウイルス発症入院患者数は420名となる。																								
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標																																																	
一般病棟	93.9	91.1	84.8	88.2	82.6	85.4	90以上																																																	
全体	89.8	86.6	80.7	83.7	78.0	80.5	-																																																	
	【目標値】 ・手術件数(総合) ・病床稼働率(総合) ・患者満足度[入院・外来](総合)	【目標値】県立総合病院 ・手術件数(総合) ・病床稼働率(総合) ・患者満足度[入院・外来](総合) ・ハイブリッド手術件数(総合) ・放射線治療症例件数(総合) ・外来化学療法件数(総合) ・ロボット支援手術件数(ダヴィンチ等使用手術件数)	-	-	-	-	-	-	-																																															
県立こころの医療センター	(イ) 県立こころの医療センター診療事業 県内精神医療の中核病院として、総合的・専門的な精神科医療を提供するとともに、精神科救急・急性期医療や、他の医療機関では対応困難な治療の実施及び司法精神医療の充実を図る。 県民に提供する医療 <業務予定量> 病床数 274床 精神病床 274床 外来患者 39,647人 入院患者 55,551人	(イ) 県立こころの医療センター診療事業 県内精神医療の中核病院として、総合的・専門的な精神科医療を提供するとともに、精神科救急・急性期医療や、他の医療機関では対応困難な治療の実施及び司法精神医療の充実を図る。 県民に提供する医療 <業務予定量> 病床数 274床 精神病床 274床 外来患者 39,647人 入院患者 55,551人	40	-	入院・外来患者数 (単位: 人) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> <th>5年度目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入院患者数</td> <td>57,217</td> <td>54,037</td> <td>53,246</td> <td>49,296</td> <td>50,282</td> <td>52,898</td> <td>55,551</td> </tr> <tr> <td>外来患者数</td> <td>42,454</td> <td>39,647</td> <td>37,285</td> <td>36,692</td> <td>36,761</td> <td>36,865</td> <td>39,647</td> </tr> </tbody> </table>	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	5年度目標	入院患者数	57,217	54,037	53,246	49,296	50,282	52,898	55,551	外来患者数	42,454	39,647	37,285	36,692	36,761	36,865	39,647	こころ	B	入院患者数、外来患者数ともに前年度を上回っており、コロナ前の状況に近づいているが、目標値には到達しなかった。引き続き、他の医療機関では対応困難な重症患者などを積極的に受け入れ、県内精神医療の中核病院としての役割を果たしていく。																								
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	5年度目標																																																	
入院患者数	57,217	54,037	53,246	49,296	50,282	52,898	55,551																																																	
外来患者数	42,454	39,647	37,285	36,692	36,761	36,865	39,647																																																	
・常時精神科救急医療相談に応じ、患者の支援体制の充実を図る。 ・救急患者を受け入れ、新たな入院患者が早期に退院し社会復帰できるよう支援する精神科救急・急性期医療の提供体制の充実を図る。	○精神科救急・急性期医療の提供体制の充実 ①常時精神科救急医療相談に対応可能な体制の整備 ②救急患者を常時受入可能な体制の整備及び新たな入院患者の早期退院を支援する精神科救急・急性期医療の提供体制の整備	①②24時間体制で精神科救急医療相談に応じ患者を受入れるとともに、新たな入院患者が90日以内に退院し社会復帰できるよう支援する精神科救急・急性期医療の提供体制の整備を図る。	41	①②24時間体制で精神科救急医療相談に応じ患者を受入れるとともに、新たな入院患者が90日以内に退院し社会復帰できるよう支援する精神科救急・急性期医療の提供体制の整備を図る。	平成15年4月より、県の委託事業として県内全域を対象とする「精神科救急ダイヤル」を敷設し、24時間体制で救急医療相談に対応している。 年4回発行し、関係機関、公的機関及び就労支援施設等に配布する当センター広報誌「ぬくもり」や、当センターホームページへ「精神科救急ダイヤル」に関する情報を掲載し、周知を図っている。  精神科救急ダイヤル件数 (単位: 件) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全相談件数</td> <td>2,718</td> <td>3,957</td> <td>3,649</td> <td>1,857</td> <td>2,111</td> <td>2,063</td> </tr> <tr> <td>うち時間外</td> <td>1,482</td> <td>2,153</td> <td>2,678</td> <td>1,288</td> <td>1,530</td> <td>1,517</td> </tr> </tbody> </table> 時間外における救急診療件数 (単位: 件) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> <th>毎年度目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>331</td> <td>390</td> <td>335</td> <td>313</td> <td>252</td> <td>249</td> <td>300以上</td> </tr> </tbody> </table>	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	全相談件数	2,718	3,957	3,649	1,857	2,111	2,063	うち時間外	1,482	2,153	2,678	1,288	1,530	1,517	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標	件数	331	390	335	313	252	249	300以上	こころ	B	24時間365日対応可能な相談・診療体制を整え、県との委託契約により全県の精神科救急の窓口となる「精神科救急ダイヤル」を運営しており、必要時に必要な相談を受け、必要な診療を実施出来る体制を整えている。令和5年4月からは、県の精神科救急医療対策事業において、従来の志太榛原圏域の病院群輪番型に加え、全県域常時対応型の後方支援施設としての指定を受けており、よりスピード感を持った対応と、断らない精神科救急の実践が求められている。											
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																		
全相談件数	2,718	3,957	3,649	1,857	2,111	2,063																																																		
うち時間外	1,482	2,153	2,678	1,288	1,530	1,517																																																		
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標																																																	
件数	331	390	335	313	252	249	300以上																																																	
		①新たな入院患者が90日以内に退院できるよう促進し、精神科救急入院料の施設基準を維持する。	42	①新たな入院患者が90日以内に退院できるよう促進し、精神科救急入院料の施設基準を維持する。	早期治療、早期退院の実践により、救急病棟(南2・北2)における「新規患者率」、「新規患者3ヶ月以内在宅移行率」はそれぞれの施設基準を満たすことができた。  新規患者率 (単位: %) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>施設基準</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>救急 南2</td> <td>40%以上</td> <td>71.3</td> <td>73.4</td> <td>61.7</td> <td>68.7</td> <td>69.0</td> <td>72.0</td> </tr> <tr> <td>救急 北2</td> <td>40%以上</td> <td>72.4</td> <td>64.8</td> <td>60.8</td> <td>67.4</td> <td>67.0</td> <td>59.0</td> </tr> </tbody> </table> 新規患者3ヶ月以内在宅移行率 (単位: %) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>施設基準</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>救急 南2</td> <td>60%以上</td> <td>73.0</td> <td>78.7</td> <td>89.4</td> <td>82.9</td> <td>86.0</td> <td>86.9</td> </tr> <tr> <td>救急 北2</td> <td>60%以上</td> <td>85.4</td> <td>79.7</td> <td>86.7</td> <td>86.3</td> <td>77.4</td> <td>77.9</td> </tr> </tbody> </table>	区分	施設基準	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	救急 南2	40%以上	71.3	73.4	61.7	68.7	69.0	72.0	救急 北2	40%以上	72.4	64.8	60.8	67.4	67.0	59.0	区分	施設基準	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	救急 南2	60%以上	73.0	78.7	89.4	82.9	86.0	86.9	救急 北2	60%以上	85.4	79.7	86.7	86.3	77.4	77.9	こころ	A	令和5年の新規患者率及び新規患者3か月以内在宅移行率ともにほぼ前年度並みであり、基準を満たしている。救急・急性期治療病棟の役割を適切に果たすとともに、精神科救急入院料の施設基準を維持することができた。
区分	施設基準	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																	
救急 南2	40%以上	71.3	73.4	61.7	68.7	69.0	72.0																																																	
救急 北2	40%以上	72.4	64.8	60.8	67.4	67.0	59.0																																																	
区分	施設基準	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																	
救急 南2	60%以上	73.0	78.7	89.4	82.9	86.0	86.9																																																	
救急 北2	60%以上	85.4	79.7	86.7	86.3	77.4	77.9																																																	

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(R5、第3期中期目標期間)	令和5年度実績 自己評価																																																																	
						評価	説明																																																																
	<p>・他の医療機関では対応困難な精神疾患患者への先進的治療に積極的に取り組む。</p>	<p>○他の医療機関では対応困難な精神疾患患者に対する高度医療への積極的な取組 ①高度専門医療(クロザピン、m-ECT(修正型電気けいれん療法)、心理・社会的治療(心理教育、家族教室等))への取組</p>	43	<p>①薬物療法による治療効果が低い重症患者に対する治療法として、m-ECT(修正型電気けいれん療法)を積極的に実施する。 高度・専門医療の積極的な実施</p>	<p>m-ECTの治療を令和5年度も継続して積極的に実施している。</p> <p>m-ECT実施件数 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> <th>毎年度目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>延件数(件)</td> <td>832</td> <td>870</td> <td>737</td> <td>827</td> <td>665</td> <td>715</td> <td>700以上</td> </tr> <tr> <td>実患者数</td> <td>66</td> <td>70</td> <td>59</td> <td>56</td> <td>54</td> <td>62</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>中部地区</td> <td>58</td> <td>62</td> <td>55</td> <td>53</td> <td>51</td> <td>56</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>(静岡市)</td> <td>43</td> <td>50</td> <td>45</td> <td>43</td> <td>43</td> <td>48</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>東部地区</td> <td>3</td> <td>5</td> <td>3</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>5</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>西部地区</td> <td>4</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標	延件数(件)	832	870	737	827	665	715	700以上	実患者数	66	70	59	56	54	62	—	中部地区	58	62	55	53	51	56	—	(静岡市)	43	50	45	43	43	48	—	東部地区	3	5	3	1	2	5	—	西部地区	4	2	1	2	1	1	—	その他	1	1	0	0	0	0	—	A	<p>m-ECT治療については、令和5年度は715件の治療を実施し、前年度、目標数値ともに上回った。</p>
区分					30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標																																																												
延件数(件)					832	870	737	827	665	715	700以上																																																												
実患者数					66	70	59	56	54	62	—																																																												
中部地区	58	62	55	53	51	56	—																																																																
(静岡市)	43	50	45	43	43	48	—																																																																
東部地区	3	5	3	1	2	5	—																																																																
西部地区	4	2	1	2	1	1	—																																																																
その他	1	1	0	0	0	0	—																																																																
			44	<p>①先端薬物療法(クロザピンなど)を積極的に実施する。</p>	<p>平成23年度に作成した臨床パスに基づき治療を開始し、令和5年末現在91名に対して継続投与中である。 静岡県内においては、現在10件の登録機関があるが、当院は3番目に承認を受けている。</p> <p>クロザピン投与患者数 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> <th>5年度目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>患者数</td> <td>55</td> <td>60</td> <td>65</td> <td>73</td> <td>83</td> <td>91</td> <td>75</td> </tr> </tbody> </table>	項目	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	5年度目標	患者数	55	60	65	73	83	91	75	A	<p>令和5年度末現在で投与患者数は91人となり、目標を大きく上回っている。</p>																																																
項目	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	5年度目標																																																																
患者数	55	60	65	73	83	91	75																																																																
			45	<p>①心理・社会的治療についての取組を積極的に実施する。</p>	<p>平成22年度から取組を始めた認知行動療法プロジェクトを、心理・社会的治療プロジェクトに発展し、認知行動療法に加え、新たに心理教育・家族教室への取り組みを実施している。また、心理教育に関する院内外研修会を開催し、スタッフのレベルアップに努めている。</p> <p>心理教育参加者数 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>参加者数</td> <td>210</td> <td>154</td> <td>86</td> <td>93</td> <td>83</td> <td>142</td> </tr> </tbody> </table> <p>心理教育研修会参加者数 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>参加者数</td> <td>136</td> <td>66</td> <td>35</td> <td>29</td> <td>0</td> <td>26</td> </tr> </tbody> </table>	項目	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	参加者数	210	154	86	93	83	142	項目	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	参加者数	136	66	35	29	0	26	A	<p>令和5年度は外部活動を徐々に再開し、研修参加者数は前年度実績を上回った。院内の心理教育研修会についても後期に実施した。</p>																																				
項目	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																	
参加者数	210	154	86	93	83	142																																																																	
項目	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																	
参加者数	136	66	35	29	0	26																																																																	
	<p>・入院患者が早期に退院し、地域で安心して生活できるように、多職種チームによる包括的在宅医療支援体制を構築する。</p>	<p>○多職種チームによる包括的在宅医療支援体制の構築 ①入院患者が早期に退院し、地域で安心して生活できるようになるための、多職種チームによる包括的在宅医療支援体制の構築</p>	46	<p>①在宅医療支援部を中心とした包括的在宅ケア(ACT)チームによる退院支援と手厚い24時間365日サポート体制による退院後の地域生活を支援する。</p>	<p>平成21年度に作成したガイドラインに沿って、ACTによる支援を実施している。平成22年2月の支援開始以来延べ28名の支援活動を実施している。</p> <p>ACT実施状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">対象者</th> <th rowspan="2"></th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>外来</td> <td>11人</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>入院</td> <td></td> <td>0人</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table> <p>活動状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">活動状況</th> <th rowspan="2"></th> <th colspan="6">多職種による定期訪問、ケースカンファレンス</th> </tr> <tr> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>外来</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>入院</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	対象者		30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	外来	11人	4	4	4	4	3	入院		0人	2	1	1	1	3	活動状況		多職種による定期訪問、ケースカンファレンス						30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	外来								入院								A	<p>令和5年度は入院患者3人及び外来患者3人に対して支援活動を実施した。</p>											
対象者		30年度	元年度	2年度	3年度			4年度	5年度																																																														
		外来	11人	4	4	4	4	3																																																															
入院		0人	2	1	1	1	3																																																																
活動状況		多職種による定期訪問、ケースカンファレンス																																																																					
		30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																
外来																																																																							
入院																																																																							
	<p>・「心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律」の司法精神医療について、指定医療機関としての役割を積極的に果たす。</p>	<p>○医療観察法等の司法精神医療への積極的な関与 ①「心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律」の司法精神医療への指定医療機関としての積極的な関与</p>	47	<p>①医療観察法による入院処遇対象者を受け入れ、指定医療機関としての機能を最大限に発揮する。</p>	<p>令和5年度については、9月末現在で、2名の退院、1名の新規入院があった。</p> <p>医療観察法病棟の稼働状況 (単位:床・%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>病床数(床)</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>病床利用率(%)</td> <td>96.0</td> <td>84.1</td> <td>98.2</td> <td>102.4</td> <td>110.3</td> <td>100.1</td> </tr> </tbody> </table>	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	病床数(床)	12	12	12	12	12	12	病床利用率(%)	96.0	84.1	98.2	102.4	110.3	100.1	A	<p>令和5年度末現在の医療観察法病床は12床が満床となっている。なお、5月まで司法患者1名が特定病床に在院していたことから、稼働率は100%を超えている。</p>																																											
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																	
病床数(床)	12	12	12	12	12	12																																																																	
病床利用率(%)	96.0	84.1	98.2	102.4	110.3	100.1																																																																	



中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(R5、第3期中期目標期間)	令和5年度実績 自己評価																									
						評価	説明																								
	・認知症・依存症・摂食障害など多様な精神疾患に対応できる体制を構築し、発達障害や思春期及び小児から成人への移行期における精神疾患への対応を図る。	○認知症・依存症・摂食障害など多様な精神疾患に対応できる体制を構築し、発達障害や思春期及び小児から成人への移行期における精神疾患への対応 ①多様な精神疾患及び小児から成人への移行期における精神疾患等に対応するための体制の構築に向けた取組	48	①総合病院における身体合併症患者への精神科医療の提供体制を整備する。 ・公立病院経営強化プラン等の精神医療の方針を踏まえ、県内精神医療の中核病院としての役割を担う体制を整備する。 また、病棟整備計画の策定や県民要望に対応した新たな体制を構築し、休床病床の解消を行う。 ・総合病院、こども病院などと連携し、児童精神分野における精神科医療の提供体制の整備を図る。	令和2年4月より総合病院へ精神科医師1名を追加配置し、医師2名の体制とし、身体合併症の精神科リエゾン機能を強化するとともに、病棟整備に向けた検討会に参画している。	A	身体合併症の精神科リエゾン機能を強化するため、精神科医2名を当院と総合病院の兼務としている。今後、認知症や依存症、発達障害、思春期における症状等の多様な精神疾患への対応するため、必要な施設整備を進めていく。																								
	・効率的な病院運営を図り、また、県民に安全で質の高い医療の提供を行うため、病床稼働率及び外来患者満足度について各事業年度で高い水準を達成する。	○効率的な病院運営による県民に安全で質の高い医療を提供 ①国の公立病院経営強化政策指針や県、病院機構における精神科のあり方検討を踏まえた医療体制及び病棟の整備 ②クロザピン投与患者数の増加 ③病床稼働率85%以上の維持 ④患者満足度(外来)の向上	49	①No.48 ②No.44 ③常時、救急患者を受け入れる体制の維持と、多職種連携による早期退院促進による効率的な病院運営に努める。 ④No.8	病床稼働率 (単位：%) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> <th>毎年度目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>稼働率</td> <td>91.1</td> <td>85.8</td> <td>84.8</td> <td>78.5</td> <td>80.1</td> <td>84.0</td> <td>85以上</td> </tr> </tbody> </table>	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標	稼働率	91.1	85.8	84.8	78.5	80.1	84.0	85以上	B	新型コロナウイルス感染症の感染対策を継続しつつ、効率的な病床運営を行ったことにより、令和5年度末時点の病床稼働率は昨年度より改善されたものの目標値には達しなかった。								
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標																								
稼働率	91.1	85.8	84.8	78.5	80.1	84.0	85以上																								
	【目標値】 ・クロザピン投与患者数(こころ) ・病床稼働率(こころ) ・患者満足度[外来](こころ)	【目標値】県立こころの医療センター ・クロザピン投与患者数(こころ) ・病床稼働率(こころ) ・患者満足度[外来](こころ) ・時間外診療件数(こころ) ・m-ECT実施件数(こころ)	-	-	-	-	-																								
	県立こども病院	(ウ) 県立こども病院診療事業 県内小児医療の中核病院として、一般医療機関では対応困難な小児患者に対する高度・専門医療やハイリスク妊婦に対する周産期医療を提供する。また、小児期から成人期への移行期医療に取り組む。 県民に提供する医療 <業務予定量> 病床数 279床 一般病床 243床 精神病床 36床 外来患者 121,675人 入院患者 75,900人	50	-	入院・外来患者数 (単位：人) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> <th>5年度目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入院患者数</td> <td>75,395</td> <td>75,736</td> <td>65,681</td> <td>66,476</td> <td>67,877</td> <td>68,088</td> <td>75,900</td> </tr> <tr> <td>外来患者数</td> <td>110,185</td> <td>111,874</td> <td>103,773</td> <td>121,675</td> <td>117,697</td> <td>115,904</td> <td>121,675</td> </tr> </tbody> </table>	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	5年度目標	入院患者数	75,395	75,736	65,681	66,476	67,877	68,088	75,900	外来患者数	110,185	111,874	103,773	121,675	117,697	115,904	121,675	B	令和5年5月の電子カルテの更新に伴い、安全確保を優先し、入院及び外来患者の受入れ調整を行ったこともあり、入院患者数、外来患者数ともに、目標値には届かなかったが、令和4年度並の患者数となった。 県内小児医療の中核病院として、一般医療機関では対応困難な小児患者に対する高度・専門医療やハイリスク妊婦に対する周産期医療の提供に努めた。
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	5年度目標																								
入院患者数	75,395	75,736	65,681	66,476	67,877	68,088	75,900																								
外来患者数	110,185	111,874	103,773	121,675	117,697	115,904	121,675																								

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(R5、第3期中期目標期間)	令和5年度実績 自己評価																																																																																																																																																																		
						評価	説明																																																																																																																																																																	
	・小児重症心疾患患者に対してハイブリッド手術室等の先進設備を活用し、常時高度な先進的治療を提供する。小児心疾患治療の先導的施設として専門医等の育成に努める。	○小児重症心疾患患者に対し、常時高度な専門的治療を提供する体制の充実及び小児心疾患治療の先進的な施設としての専門医等の育成 ①小児重症心疾患患者へ常時対応による専門的治療の提供体制の充実 ②小児循環器疾患治療スタッフに対する教育体制の充実や小児集中治療室(PICU)及び新生児集中治療室(NICU)及び循環器集中治療室(CCU)の相互研修の実施を通じた治療レベルの向上による循環器センターの機能を強化 ③小児用補助人工心臓装置の活用に向けた体制整備 ④心エコー画像のリアルタイム遠隔診断の実施 ⑤血管撮影装置の2台化による循環器治療の提供体制の整備	51	①心臓血管外科、循環器科の連携による専門治療と、術後管理を行う小児集中治療室(PICU)を加えた循環器センターの体制を維持・充実させる。 ②新生児集中治療室(NICU)・小児集中治療室(PICU)と共同でカンファレンスを実施し、より研修効果をあげ、治療レベルの向上を図る。 ③小児用補助人工心臓装置の活用のために職員を研修に派遣する。 ④心エコー画像の遠隔診断を継続実施する。 ⑤カテーテル2室化工事及び血管撮影装置を設置する。	平成28年に循環器病棟に設置した準重症患者対応病室は、順調に運用されている。今後も効果的な運用を継続していく。 <b>心臓カテーテル治療実績</b> (単位：件) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> <th>5年度目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実施件数</td> <td>179</td> <td>206</td> <td>192</td> <td>204</td> <td>187</td> <td>245</td> <td>230以上</td> </tr> </tbody> </table> <b>ハイブリッド手術実績</b> (単位：件) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>8</td> <td>5</td> <td>8</td> <td>6</td> <td>4</td> <td>8</td> </tr> </tbody> </table> <b>CCU稼働率</b> (単位：人、%) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入院延患者数</td> <td>3,063</td> <td>3,176</td> <td>3,021</td> <td>3,011</td> <td>3,994</td> <td>3,938</td> </tr> <tr> <td>病床稼働率</td> <td>83.9</td> <td>86.8</td> <td>82.8</td> <td>71.7</td> <td>91.2</td> <td>89.7</td> </tr> </tbody> </table> <b>循環器センターにおける研修医の人数</b> (単位：人) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人数</td> <td>5</td> <td>9</td> <td>7</td> <td>9</td> <td>8</td> <td>12</td> </tr> </tbody> </table> <b>小児用補助人工心臓装置の使用状況</b> (単位：件) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> <b>心エコー画像遠隔診断実績</b> (単位：件) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>症例数</td> <td>5</td> <td>3</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>5</td> <td>7</td> </tr> </tbody> </table>	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	5年度目標	実施件数	179	206	192	204	187	245	230以上	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	件数	8	5	8	6	4	8	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	入院延患者数	3,063	3,176	3,021	3,011	3,994	3,938	病床稼働率	83.9	86.8	82.8	71.7	91.2	89.7	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	人数	5	9	7	9	8	12	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	件数	1	0	0	0	0	0	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	症例数	5	3	0	2	5	7	A	循環器科、心臓血管外科を中心とした連携により、多くの小児重症心疾患患者を受け入れた。 令和5年度のハイブリッド手術室における心臓カテーテル治療件数は、245件と目標値を上回る推移結果となった。また、同手術室におけるハイブリッド手術実績も8件と高水準であった。 令和4年度に県内初の治療を行った経皮的肺動脈弁置換術(TPVI)についても、令和5年度も着実に件数を伸ばした。 カテーテル室について、当院の小児心臓カテーテル治療件数は全国トップレベルであり、更なる件数の増加を見込めることから、部屋の増設及び血管撮影装置の設置についても検討していく。 小児用補助人工装置活用の再開に向けた取組として、当院循環器科の医師1名が国立成育医療研究センターにて継続的に研修を受けており、臨床工学技士、看護師等も関連する研修を受講した。院内においても、委員会を開催し、マニュアル整備、組織作り等について検討した。 また、令和3年度にPICUとCCUを統合し、CCU病棟はHCUの役割を持たせた後方病棟とした。令和5年度も効率的な病棟運用が行われ90%近い病床稼働率を維持した。 さらに、心エコー画像の遠隔診断実績7件と高水準であった。 なお、循環器センターにおいて、令和5年度、12名の研修医を受け入れた。																																																																				
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	5年度目標																																																																																																																																																																	
実施件数	179	206	192	204	187	245	230以上																																																																																																																																																																	
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																																																		
件数	8	5	8	6	4	8																																																																																																																																																																		
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																																																		
入院延患者数	3,063	3,176	3,021	3,011	3,994	3,938																																																																																																																																																																		
病床稼働率	83.9	86.8	82.8	71.7	91.2	89.7																																																																																																																																																																		
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																																																		
人数	5	9	7	9	8	12																																																																																																																																																																		
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																																																		
件数	1	0	0	0	0	0																																																																																																																																																																		
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																																																		
症例数	5	3	0	2	5	7																																																																																																																																																																		
	・地域の医療機関と連携して、ハイリスク胎児・妊婦を早期に把握、治療するための一貫した医療システムの構築に努めるほか、新生児に対して、高度な先進的治療を提供するための体制を拡充する。	○地域の医療機関と連携したハイリスク胎児・妊婦を早期に把握、治療するための一貫した医療システムの維持・充実と新生児に対しての高度な専門的治療を提供する体制の拡充 ①先天異常の出生前超音波診断や、出生後の管理・処置のための機器整備 ②新生児集中治療室(NICU)における低侵襲手術の実施	52	①最新式の超音波診断装置を導入する。 ②必要に応じNICU内での手術を継続実施する。	<b>産科入院患者数</b> (単位：人) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入院患者数</td> <td>5,850</td> <td>5,810</td> <td>4,461</td> <td>4,823</td> <td>3,642</td> <td>4,003</td> </tr> </tbody> </table> <b>周産期医療に係る地域医療機関向け研修会等開催実績</b> (単位：回、人) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>研修会等回数</td> <td>8</td> <td>9</td> <td>8</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>参加者数</td> <td>373</td> <td>377</td> <td>255</td> <td>155</td> <td>45</td> <td>55</td> </tr> </tbody> </table> <b>NICU診療実績</b> (単位：人、%) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入院延患者数</td> <td>5,519</td> <td>5,250</td> <td>5,029</td> <td>5,094</td> <td>5,121</td> <td>5,293</td> </tr> <tr> <td>病床稼働率</td> <td>84.0</td> <td>79.7</td> <td>76.5</td> <td>77.5</td> <td>77.9</td> <td>80.3</td> </tr> </tbody> </table> <b>GCU診療実績</b> (単位：人、%) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入院延患者数</td> <td>4,646</td> <td>4,723</td> <td>4,685</td> <td>4,978</td> <td>5,001</td> <td>5,161</td> </tr> <tr> <td>病床稼働率</td> <td>70.7</td> <td>71.7</td> <td>71.3</td> <td>75.8</td> <td>76.1</td> <td>78.3</td> </tr> </tbody> </table> <b>MFICU診療実績</b> (単位：人、%) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入院延患者数</td> <td>1,879</td> <td>1,907</td> <td>1,517</td> <td>1,433</td> <td>1,240</td> <td>1,273</td> </tr> <tr> <td>病床稼働率</td> <td>85.8</td> <td>86.8</td> <td>69.3</td> <td>65.4</td> <td>56.6</td> <td>58.0</td> </tr> </tbody> </table> <b>新生児出生体重別入院患者実績</b> (単位：人) <table border="1"> <thead> <tr> <th>体重(g)</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>500未満</td> <td>4</td> <td>8</td> <td>4</td> <td>6</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>500~1,000</td> <td>29</td> <td>41</td> <td>19</td> <td>22</td> <td>23</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>1,000~1,500</td> <td>26</td> <td>25</td> <td>28</td> <td>15</td> <td>24</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>1,500以上</td> <td>165</td> <td>139</td> <td>168</td> <td>248</td> <td>180</td> <td>212</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>224</td> <td>213</td> <td>219</td> <td>291</td> <td>229</td> <td>244</td> </tr> </tbody> </table> <b>血液腫瘍科延患者数実績</b> (単位：人) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入院</td> <td>8,656</td> <td>7,849</td> <td>7,335</td> <td>4,810</td> <td>6,268</td> <td>6,326</td> </tr> <tr> <td>外来</td> <td>3,601</td> <td>3,713</td> <td>3,298</td> <td>3,665</td> <td>3,516</td> <td>3,152</td> </tr> </tbody> </table>	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	入院患者数	5,850	5,810	4,461	4,823	3,642	4,003	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	研修会等回数	8	9	8	2	1	2	参加者数	373	377	255	155	45	55	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	入院延患者数	5,519	5,250	5,029	5,094	5,121	5,293	病床稼働率	84.0	79.7	76.5	77.5	77.9	80.3	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	入院延患者数	4,646	4,723	4,685	4,978	5,001	5,161	病床稼働率	70.7	71.7	71.3	75.8	76.1	78.3	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	入院延患者数	1,879	1,907	1,517	1,433	1,240	1,273	病床稼働率	85.8	86.8	69.3	65.4	56.6	58.0	体重(g)	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	500未満	4	8	4	6	2	1	500~1,000	29	41	19	22	23	13	1,000~1,500	26	25	28	15	24	18	1,500以上	165	139	168	248	180	212	合計	224	213	219	291	229	244	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	入院	8,656	7,849	7,335	4,810	6,268	6,326	外来	3,601	3,713	3,298	3,665	3,516	3,152	A	最新式の超音波診断装置など最先端の医療機器を整備し、先天異常の出生前超音波診断や、出生後の管理・処置等を適切に行った。 こども病院は、他の医療機関では対応が困難な超低出生体重児、極低出生体重児を数多く受け入れている。令和5年度も、1,500g未満の新生児入院患者について、受入れ実績を着実に重ねた。 また、令和5年度、NICUの入院延患者数及び病床稼働率はコロナ流行前の令和元年度を上回る数値となった。結果、新生児回復室であるGCUの入院患者数及び病床稼働率も高水準となった。 令和5年度の産科入院患者数は前年度を上回り、4000人台となった。 なお、地域医療機関を対象とした研修会、検討会については、令和5年度は2回開催した。
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																																																		
入院患者数	5,850	5,810	4,461	4,823	3,642	4,003																																																																																																																																																																		
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																																																		
研修会等回数	8	9	8	2	1	2																																																																																																																																																																		
参加者数	373	377	255	155	45	55																																																																																																																																																																		
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																																																		
入院延患者数	5,519	5,250	5,029	5,094	5,121	5,293																																																																																																																																																																		
病床稼働率	84.0	79.7	76.5	77.5	77.9	80.3																																																																																																																																																																		
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																																																		
入院延患者数	4,646	4,723	4,685	4,978	5,001	5,161																																																																																																																																																																		
病床稼働率	70.7	71.7	71.3	75.8	76.1	78.3																																																																																																																																																																		
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																																																		
入院延患者数	1,879	1,907	1,517	1,433	1,240	1,273																																																																																																																																																																		
病床稼働率	85.8	86.8	69.3	65.4	56.6	58.0																																																																																																																																																																		
体重(g)	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																																																		
500未満	4	8	4	6	2	1																																																																																																																																																																		
500~1,000	29	41	19	22	23	13																																																																																																																																																																		
1,000~1,500	26	25	28	15	24	18																																																																																																																																																																		
1,500以上	165	139	168	248	180	212																																																																																																																																																																		
合計	224	213	219	291	229	244																																																																																																																																																																		
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																																																		
入院	8,656	7,849	7,335	4,810	6,268	6,326																																																																																																																																																																		
外来	3,601	3,713	3,298	3,665	3,516	3,152																																																																																																																																																																		

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(R5、第3期中期目標期間)	令和5年度実績 自己評価																																																																																																																																				
						評価	説明																																																																																																																																			
	・本県における小児がんの拠点機能を有する病院として、高度な集学的治療に積極的に取り組む。	○小児がん拠点病院(厚生労働省指定)として、高度な集学的治療への積極的な取組 ①小児がんの集学的治療推進、セカンドオピニオンの受入れなど、がん診療の機能強化 ②院内がん登録の推進 ③県立静岡がんセンターとの連携強化 ④AYA世代がん診療の連携等を推進 ⑤がん公開講座や研修会(脳腫瘍関連)等の開催	53	小児がん拠点病院として、整備した施設及び体制の活用により、小児がん診療の更なる充実を行う。 ①②静岡県小児がん拠点病院(厚生労働省指定)として血液腫瘍に対しては、骨髄・末梢血幹細胞・臍帯血移植などの治療法を利用して対応する。 ③県立静岡がんセンターとの共同カンファレンスを実施する。 ④小児がん連携病院を指定し、地域医療機関との連携を図り、拠点病院としての役割を果たす。 ⑤AYA世代がんに携わる医療従事者向け研修会を開催する。 ⑥がん公開講座や研修会(脳腫瘍関連)等を開催する。	<p>造血幹細胞移植実績 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>骨髄移植</td> <td>5</td> <td>2</td> <td>8</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>臍帯血</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>自家末梢血</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>4</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>同種末梢血</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>14</td> <td>10</td> <td>12</td> <td>6</td> <td>10</td> <td>9</td> </tr> </tbody> </table> <p>小児がん登録件数 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> <th>5年度目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>登録件数</td> <td>47</td> <td>56</td> <td>55</td> <td>53</td> <td>42</td> <td>45</td> <td>45</td> </tr> </tbody> </table> <p>がんセンターとの共同カンファレンス回数 (単位:回)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>回数</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>7</td> <td>3</td> <td>9</td> <td>12</td> </tr> </tbody> </table> <p>AYA世代がん研修会実施回数 (単位:回)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>回数</td> <td>1</td> <td>4</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table> <p>がん公開講座件数 (単位:回)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>-</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table> <p>【参考】北5病棟改修にかかる打ち合わせ回数 (単位:回)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>回数</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>17</td> <td>25</td> </tr> </tbody> </table> <p>令和3年度7月に完成済</p> <p>研修会(脳腫瘍関係) (単位:回)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>開催回数</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>参加人数</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>64</td> <td>61</td> <td>66</td> </tr> </tbody> </table>	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	骨髄移植	5	2	8	3	3	3	臍帯血	3	3	2	2	2	2	自家末梢血	4	4	1	1	4	2	同種末梢血	2	1	1	0	1	2	計	14	10	12	6	10	9	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	5年度目標	登録件数	47	56	55	53	42	45	45	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	回数	3	3	7	3	9	12	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	回数	1	4	2	2	2	3	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	件数	-	1	0	1	1	1	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	回数	-	-	17	25	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	開催回数	-	-	-	1	1	1	参加人数	-	-	-	64	61	66	A	こども病院は、平成31年4月に、全国で15施設しか選定されない厚生労働省指定の小児がん拠点病院に初めて指定され、指定期間の4年間において着実にその責任を果たした。このことにより、拠点病院としての指定を令和4年度に再度受け、令和5年4月から、2期目の取組を開始した。 令和5年度、小児がん登録件数は45件であり、院内がん登録を推進するとともに、造血幹細胞移植は計9件で、各種治療法を利用して対応した。また、がんセンターとの共同カンファレンスは12回実施し、連携強化を図った。 令和5年度、AYA世代がんに携わる医療従事者向け研修会を3回実施した。また、がん公開講座及び研修会(脳腫瘍関連)も各1回開催し、小児がん拠点病院としての役割を果たした。 さらには、以下取組を実施した。 ・ドラッグラグの解消、難治性疾患の治療開発のため、小児がん拠点病院として臨床試験、治験に積極的に取り組み、症例のリクルートにあたって県内の小児がん連携病院と連携した。具体的には、医師主導治験2件、企業治験1件(国際共同治験で国内参加施設は5施設のみ)、国際共同特定臨床研究1件に参加しており、今後も増加が見込まれる。治験参加施設が限られていることから当院の小児がん患者が他施設では使用できない薬剤を使用する機会が増加するなど、治験参加のメリットは非常に大きい。 ・小児がんに対するがんゲノム医療を実践し、臨床研究を通じてゲノム医療の開発を行った。 ・遺伝性腫瘍科と協同し、遺伝性腫瘍の診療を行った。 ・神経線維腫症1型に伴う叢状神経線維腫に対し、分子標的薬MEK阻害剤の使用を開始し、適用実績を重ねている。
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																				
骨髄移植	5	2	8	3	3	3																																																																																																																																				
臍帯血	3	3	2	2	2	2																																																																																																																																				
自家末梢血	4	4	1	1	4	2																																																																																																																																				
同種末梢血	2	1	1	0	1	2																																																																																																																																				
計	14	10	12	6	10	9																																																																																																																																				
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	5年度目標																																																																																																																																			
登録件数	47	56	55	53	42	45	45																																																																																																																																			
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																				
回数	3	3	7	3	9	12																																																																																																																																				
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																				
回数	1	4	2	2	2	3																																																																																																																																				
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																				
件数	-	1	0	1	1	1																																																																																																																																				
区分	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																																																																																						
回数	-	-	17	25																																																																																																																																						
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																				
開催回数	-	-	-	1	1	1																																																																																																																																				
参加人数	-	-	-	64	61	66																																																																																																																																				
	・重篤な小児救命救急患者を常時受け入れ可能な体制を維持・強化し、救急医療全般にわたって地域の医療機関と連携して受け入れる体制を整備する。	○重篤な小児救急患者を常時受け入れ可能な体制を維持・強化及び地域で不足する小児救急医療体制の補完等、小児救急医療のモデルとなる体制整備 ①院内各専門領域のバックアップによる、小児救急センター・小児集中治療センターを中心とした小児救急医療全般にわたる受入体制の強化、拡充 ②小児救命救急センターとしてメディカルコントロール体制整備への協力 ③小児救急専門スタッフの教育の充実 ④患者家族宿泊施設の建替え	54	①PICU(小児集中治療センター)・救急総合診療科を中心として小児救急医療体制の強化を図る。 ①小児救急センター・小児集中治療センターを中心とした、365日24時間小児救急患者の受け入れ可能な体制を維持、充実させる。 ③院内の小児救急専門スタッフ(医師、看護師)育成に努める。 ④患者家族宿泊施設の工事に着手する。	<p>小児救急センターの患者数 (単位:人、%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入院延患者数</td> <td>5,661</td> <td>5,916</td> <td>3,619</td> <td>4,612</td> <td>4,328</td> <td>4,930</td> </tr> </tbody> </table> <p>PICU診療実績 (単位:人、%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入院延患者数</td> <td>2,539</td> <td>2,416</td> <td>2,083</td> <td>2,949</td> <td>3,752</td> <td>3,915</td> </tr> <tr> <td>病床稼働率</td> <td>87.0</td> <td>82.5</td> <td>71.3</td> <td>73.4</td> <td>85.7</td> <td>89.1</td> </tr> </tbody> </table> <p>ER診療実績 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入院患者数</td> <td>1,386</td> <td>1,695</td> <td>1,254</td> <td>1,504</td> <td>1,269</td> <td>1,550</td> </tr> <tr> <td>外来患者数</td> <td>4,275</td> <td>4,221</td> <td>2,365</td> <td>3,108</td> <td>3,059</td> <td>3,380</td> </tr> </tbody> </table> <p>ドクターヘリ搬送実績 (単位:回)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>回数</td> <td>41</td> <td>33</td> <td>22</td> <td>19</td> <td>21</td> <td>24</td> </tr> </tbody> </table> <p>ドクターカー(高規格救急車)出動実績 (単位:回)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>回数</td> <td>274</td> <td>291</td> <td>193</td> <td>212</td> <td>222</td> <td>172</td> </tr> </tbody> </table> <p>PICU配置医師・看護師 (年平均、人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医師(有期含む)</td> <td>8</td> <td>9</td> <td>8</td> <td>10</td> <td>14</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>30</td> <td>29</td> <td>33</td> <td>43</td> <td>45</td> <td>42</td> </tr> </tbody> </table>	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	入院延患者数	5,661	5,916	3,619	4,612	4,328	4,930	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	入院延患者数	2,539	2,416	2,083	2,949	3,752	3,915	病床稼働率	87.0	82.5	71.3	73.4	85.7	89.1	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	入院患者数	1,386	1,695	1,254	1,504	1,269	1,550	外来患者数	4,275	4,221	2,365	3,108	3,059	3,380	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	回数	41	33	22	19	21	24	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	回数	274	291	193	212	222	172	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	医師(有期含む)	8	9	8	10	14	13	看護師	30	29	33	43	45	42	A	PICU入院延患者数は、令和3年6月に実施したICUの統合(PICUとCCUの統合)の結果、心臓重症患者の受入を開始したこと等により大幅に増加しており、令和5年度は令和4年度をさらに上回る数値となった。 病床稼働率についても、PICU患者数が増加したことに加え、CCU病棟をHCUの役割を持たせた後方病棟としたことにより集中治療系の効率的な病棟運用が可能となった結果、令和5年度は令和4年度を上回る90%近い病床稼働率となった。 また、ER患者数も前年度を上回り、富士・富士宮、志太棟原等の地域の小児救急体制を補完した。 なお、令和5年度においても、PICU病棟の医師確保に努め、専門スタッフを配置し、小児救急体制の充実を図った。																										
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																				
入院延患者数	5,661	5,916	3,619	4,612	4,328	4,930																																																																																																																																				
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																				
入院延患者数	2,539	2,416	2,083	2,949	3,752	3,915																																																																																																																																				
病床稼働率	87.0	82.5	71.3	73.4	85.7	89.1																																																																																																																																				
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																				
入院患者数	1,386	1,695	1,254	1,504	1,269	1,550																																																																																																																																				
外来患者数	4,275	4,221	2,365	3,108	3,059	3,380																																																																																																																																				
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																				
回数	41	33	22	19	21	24																																																																																																																																				
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																				
回数	274	291	193	212	222	172																																																																																																																																				
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																				
医師(有期含む)	8	9	8	10	14	13																																																																																																																																				
看護師	30	29	33	43	45	42																																																																																																																																				

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(R5、第3期中期目標期間)	令和5年度実績 自己評価																																																																														
						評価	説明																																																																													
			55	②地域の医療・消防機関で構成されるメディカルコントロール協議会に参加するとともに、PICUの主催により、救急医療・救急(消防)業務従事者向けの研究会、実習講習を行う。	<p>各地域の医療機関、消防機関が参加するメディカルコントロール協議会に集中治療科、小児救急科等の医師が参加した。救急隊員等を対象とした研修会等は、新型コロナウイルス感染症の影響等により実施できなかった。</p> <p>救急関係研修会等開催実績 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>対象</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小児救命救急研究会</td> <td>小児医療、救急医療関係者</td> <td>161</td> <td>86</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>救急救命士再教育病院実習</td> <td>救急救命士</td> <td>6</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>	区分	対象	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	小児救命救急研究会	小児医療、救急医療関係者	161	86	0	0	0	0	救急救命士再教育病院実習	救急救命士	6	0	0	0	0	0	B	令和5年度は、県メディカルコントロール推進作業部に集中治療科医師が参加した。また、静岡市消防局が主催する静岡地域メディカルコントロール協議会についても小児救急科等の医師が参加し、体制整備に協力した。救急隊員等を対象とした研修会等は実施していないが、重篤な小児患者の受入れ等救急体制を継続的に整備しており、小児救命救急センターとしての責務を果たした。																																																					
区分	対象	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																													
小児救命救急研究会	小児医療、救急医療関係者	161	86	0	0	0	0																																																																													
救急救命士再教育病院実習	救急救命士	6	0	0	0	0	0																																																																													
	・精神疾患を持つ小児患者やその家族に対して、児童精神科分野における中核的機能の発揮に努める。	○子どものこころの診療分野について、総合病院、こころの医療センターとの連携を図り、県内の児童精神医療に貢献 ①「子どもの心の診療ネットワーク事業」の拠点病院として、教育・福祉・医療機関の連携ネットワークの更なる拡大、充実 ②臨床研修の充実による児童精神科医の継続的育成	56	①児童精神科医療について、県立病院機構精神科あり方検討を踏まえ、総合病院、こころの医療センターなどと連携し、体制の見直し・充実を図る。	<p>こころの診療科診療実績 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入院延患者数</td> <td>10,011</td> <td>9,445</td> <td>7,890</td> <td>10,353</td> <td>11,258</td> <td>10,698</td> </tr> <tr> <td>入院新患者数</td> <td>57</td> <td>50</td> <td>63</td> <td>71</td> <td>63</td> <td>69</td> </tr> <tr> <td>外来延患者数</td> <td>12,376</td> <td>11,604</td> <td>11,416</td> <td>13,211</td> <td>12,506</td> <td>12,150</td> </tr> <tr> <td>外来初診患者数</td> <td>466</td> <td>514</td> <td>579</td> <td>617</td> <td>542</td> <td>543</td> </tr> </tbody> </table> <p>こころの診療科地域別実患者数実績 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>東部</td> <td>779</td> <td>759</td> <td>744</td> <td>829</td> <td>796</td> <td>784</td> </tr> <tr> <td>中部</td> <td>1,190</td> <td>1,227</td> <td>1,329</td> <td>1,423</td> <td>1,424</td> <td>1,477</td> </tr> <tr> <td>西部</td> <td>56</td> <td>59</td> <td>56</td> <td>53</td> <td>44</td> <td>54</td> </tr> <tr> <td>県外</td> <td>10</td> <td>14</td> <td>13</td> <td>13</td> <td>9</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>2,035</td> <td>2,059</td> <td>2,142</td> <td>2,318</td> <td>2,273</td> <td>2,324</td> </tr> </tbody> </table>	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	入院延患者数	10,011	9,445	7,890	10,353	11,258	10,698	入院新患者数	57	50	63	71	63	69	外来延患者数	12,376	11,604	11,416	13,211	12,506	12,150	外来初診患者数	466	514	579	617	542	543	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	東部	779	759	744	829	796	784	中部	1,190	1,227	1,329	1,423	1,424	1,477	西部	56	59	56	53	44	54	県外	10	14	13	13	9	9	合計	2,035	2,059	2,142	2,318	2,273	2,324	A	こころの診療科の令和5年度入院延患者数及び外来延患者数は、コロナ禍から回復した令和4年度並の数値となった。また、県内の児童精神科医療の中核機関として、中部地域はもちろんのこと、児童精神科の医療機関が少ない東部地域からも多くの患者を受け入れた。
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																														
入院延患者数	10,011	9,445	7,890	10,353	11,258	10,698																																																																														
入院新患者数	57	50	63	71	63	69																																																																														
外来延患者数	12,376	11,604	11,416	13,211	12,506	12,150																																																																														
外来初診患者数	466	514	579	617	542	543																																																																														
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																														
東部	779	759	744	829	796	784																																																																														
中部	1,190	1,227	1,329	1,423	1,424	1,477																																																																														
西部	56	59	56	53	44	54																																																																														
県外	10	14	13	13	9	9																																																																														
合計	2,035	2,059	2,142	2,318	2,273	2,324																																																																														
			57	②厚生労働省の「子どもの心の診療ネットワーク事業」に静岡県の拠点病院として参加する。	<p>事業を行っている全国19都府県1政令指定都市にある29の拠点病院の一つとして参加し、学校・地域との連携強化を図った。(拠点病院を配置している都府県等) 岩手県、千葉県、東京都、石川県、山梨県、長野県、静岡県、三重県、大阪府、兵庫県、鳥取県、島根県、岡山県、香川県、高知県、福岡県、佐賀県、熊本県、沖縄県、札幌市</p> <p>精神保健講座等開催実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="2">30年度</th> <th colspan="2">元年度</th> <th colspan="2">2年度</th> <th colspan="2">3年度</th> <th colspan="2">4年度</th> <th colspan="2">5年度</th> </tr> <tr> <th>精神保健</th> <th>児童養護</th> <th>精神保健</th> <th>児童養護</th> <th>精神保健</th> <th>児童養護</th> <th>精神保健</th> <th>児童養護</th> <th>精神保健</th> <th>児童養護</th> <th>精神保健</th> <th>児童養護</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>対象</td> <td>県内小中</td> <td>子ども</td> <td>県内小中</td> <td>子ども</td> <td>県内小中</td> <td>子ども</td> <td>県内小中</td> <td>子ども</td> <td>県内小中</td> <td>子ども</td> <td>県内小中</td> <td>子ども</td> </tr> <tr> <td>参加者数等</td> <td>5回 159人</td> <td>10回 10施設</td> <td>5回 96人</td> <td>11回 11施設</td> <td>2回 49人</td> <td>11回 11施設</td> <td>4回 140人</td> <td>10回 10施設</td> <td>3回 75人</td> <td>11回 11施設</td> <td>5回 131人</td> <td>10回 10施設</td> </tr> </tbody> </table>	区分	30年度		元年度		2年度		3年度		4年度		5年度		精神保健	児童養護	精神保健	児童養護	精神保健	児童養護	精神保健	児童養護	精神保健	児童養護	精神保健	児童養護	対象	県内小中	子ども	県内小中	子ども	県内小中	子ども	県内小中	子ども	県内小中	子ども	県内小中	子ども	参加者数等	5回 159人	10回 10施設	5回 96人	11回 11施設	2回 49人	11回 11施設	4回 140人	10回 10施設	3回 75人	11回 11施設	5回 131人	10回 10施設	A	こども病院は、厚生労働省の「子どもの心の診療ネットワーク事業」に静岡県の拠点病院として参加しており、令和5年度も医療機関、学校、地域等との連携強化に努め、児童養護施設の巡回事業は10施設10回実施した。また、診療関係者の研修・育成事業に取り組み、研修医や学生を受入れるとともに、教員を対象とした精神保健講座を5回実施した。																										
区分	30年度		元年度		2年度		3年度		4年度		5年度																																																																									
	精神保健	児童養護	精神保健	児童養護	精神保健	児童養護	精神保健	児童養護	精神保健	児童養護	精神保健	児童養護																																																																								
対象	県内小中	子ども	県内小中	子ども	県内小中	子ども	県内小中	子ども	県内小中	子ども	県内小中	子ども																																																																								
参加者数等	5回 159人	10回 10施設	5回 96人	11回 11施設	2回 49人	11回 11施設	4回 140人	10回 10施設	3回 75人	11回 11施設	5回 131人	10回 10施設																																																																								
			58	③児童精神科医の育成に努める。	<p>有期職員医師を1名採用し(平成25年度から延べ10名)、専門的な児童精神科医を育成した。</p> <p>有期職員医師採用実績 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>採用人数</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table>	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	採用人数	1	1	1	1	1	1	A	児童精神科臨床研修として有期職員医師を1名採用し、児童精神科医の育成を行った。																																																															
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																														
採用人数	1	1	1	1	1	1																																																																														

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(R5、第3期中期目標期間)	令和5年度実績 自己評価																																																																																			
						評価	説明																																																																																		
	<p>・重症心身障害児等の医療的ケア児の退院、在宅移行を支援する体制について、県と連携して整備を図る。</p>	<p>○重症心身障害児等の医療的ケア児の退院、在宅移行を支援する体制を県と連携して具体化 ①医療的ケア児のレスパイト対応のため、障害者総合支援法に基づく「短期入所サービス」の実施</p>	59	<p>①言語聴覚業務における学校現場との連携、理学療法における退院後のフォロー、作業療法における急性期作業療法他の充実を図る。 ②医療的ケア児の在宅移行支援病棟の設置を検討する。 ③「短期入所サービス」事業の実施</p>	<p>医療的ケア児に関する検討会開催実績 (単位：回)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>回数</td> <td>5</td> <td>3</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>3</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table> <p>リハビリ実施実績 (単位：件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> <th>毎年度目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>理学療法</td> <td>17,309</td> <td>22,829</td> <td>22,985</td> <td>24,683</td> <td>25,770</td> <td>26,886</td> <td>15,000</td> </tr> <tr> <td>作業療法</td> <td>6,039</td> <td>4,546</td> <td>3,813</td> <td>7,794</td> <td>11,495</td> <td>11,333</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>言語聴覚療法</td> <td>7,901</td> <td>9,744</td> <td>10,162</td> <td>10,045</td> <td>9,555</td> <td>10,332</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>31,249</td> <td>37,119</td> <td>36,960</td> <td>42,522</td> <td>46,820</td> <td>48,551</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>短期入所利用者数 (単位：人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>利用者数</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>0</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table>	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	回数	5	3	6	6	3	1	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標	理学療法	17,309	22,829	22,985	24,683	25,770	26,886	15,000	作業療法	6,039	4,546	3,813	7,794	11,495	11,333	—	言語聴覚療法	7,901	9,744	10,162	10,045	9,555	10,332	—	計	31,249	37,119	36,960	42,522	46,820	48,551	—	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	利用者数	-	-	-	0	3	3	A	<p>こども病院では、言語聴覚業務における学校現場との連携、理学療法における退院後のフォローなどを行っており、令和5年度のリハビリ実施件数は、過去最大件数であった令和4年度を上回った。 在宅移行の推進や在宅移行後の医療的ケア児への対応については、令和2年度に指定障害福祉サービスによる、短期入所事業者の指定を受け、令和5年度は3人(延人数)の利用があった。 県内唯一の小児専門病院として小児の高度専門医療を担っているが、慢性期医療・福祉の分野となる医療的ケア児については、在宅移行、在宅移行後の患児・家族へのフォローに関して、各分野との関係の整理や、方向性の検討を行った。</p>														
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																			
回数	5	3	6	6	3	1																																																																																			
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標																																																																																		
理学療法	17,309	22,829	22,985	24,683	25,770	26,886	15,000																																																																																		
作業療法	6,039	4,546	3,813	7,794	11,495	11,333	—																																																																																		
言語聴覚療法	7,901	9,744	10,162	10,045	9,555	10,332	—																																																																																		
計	31,249	37,119	36,960	42,522	46,820	48,551	—																																																																																		
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																			
利用者数	-	-	-	0	3	3																																																																																			
	<p>・効率的な病院運営を図り、また、県民に安全で質の高い医療の提供を行うため、病床稼働率及び入院・外来患者満足度について各事業年度で高い水準を達成する。</p>	<p>○効率的な病院運営による県民に安全で質の高い医療を提供 ①医療安全体制の徹底 ②入院支援センターを活用した患者サービスの向上 ③心臓カテーテル治療数の増加 ④病床稼働率75%以上の維持 ⑤患者満足度(入院・外来)の向上 ⑥遠隔医療の適切な推進</p>	60	<p>①医療安全体制を徹底し、国際的な医療機能評価であるJCI取得を視野に入れた、院内機能強化を進める ②入院支援センターの業務の推進 ③No.51 ④効率的な病院運営を行い、高い病床稼働率を維持する。 ⑤No.8 ⑥遠隔による外来診療、セカンドオピニオンを実施する ⑦専門の指導医により、隣接する医療圏の小児二次救急医療機関が行う診療を遠隔で支援する。</p>	<p>JCIワーキングの設置と開催回数 (単位：回)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>開催回数</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>3</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> <p>病棟運営ワーキング開催回数(入院支援センターに係る検討) (単位：回)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>開催回数</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>5</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table> <p>入院支援センター設置ワーキング開催実績※ (単位：回)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>回数</td> <td>-</td> <td>13</td> <td>12</td> <td>4</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> <p>※令和4年度以降は病棟運営ワーキングにて運用を検討</p> <p>病床稼働率 (単位：%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> <th>毎年度目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>稼働率</td> <td>76.2</td> <td>76.4</td> <td>66.4</td> <td>76.7</td> <td>75.9</td> <td>75.9</td> <td>75以上</td> </tr> </tbody> </table> <p>入院支援センター利用者数 (単位：人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>利用者数</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>5,382</td> <td>4,573</td> <td>4,814</td> <td>4,918</td> </tr> </tbody> </table> <p>遠隔外来患者数 (単位：人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>患者数</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>117</td> <td>217</td> <td>181</td> <td>204</td> </tr> </tbody> </table>	区分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	開催回数	-	-	3	1	0	区分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	開催回数	-	-	-	5	4	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	回数	-	13	12	4	0	0	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標	稼働率	76.2	76.4	66.4	76.7	75.9	75.9	75以上	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	利用者数	—	—	5,382	4,573	4,814	4,918	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	患者数	—	—	117	217	181	204	A	<p>令和5年度の病床稼働率は、4年度と同値の75.9%であり、目標を上回った。これは、4月及び5月に電子カルテ更新に伴う入院患者の受け入れ調整を行った中での数値であるため、特に下半期には稼働率80%を超える月も複数あり、効率的な病床運営が推進された。 こども病院は極めて広域性があり、遠方から来院する患者の負担を軽減しながら安全で質の高い医療を提供するため、令和2年9月からオンラインによる外来診療体制を全国に先駆けて構築しており、令和5年度も継続して診療を実施した。 また、地域・小児夜間救急における地域病院群オンライン連携による365日対応を試行する「小児救急リモート指導医相談支援事業」について、関係者会議での報告・協議を行いつつ、実証試験を進めている。課題である運用に乗せるための各病院への周知を進め、先行病院については令和5年12月に運用を開始した。 国際的な医療機能評価であるJCIの取得に向けた取組として、まずは令和6年6月に受審予定の日本医療機能評価機構による病院機能評価に向けた「病院の質向上プロジェクト」を実施し、病院の理念・基本方針の実現に向けて継続的に取り組んだ。</p>
区分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																				
開催回数	-	-	3	1	0																																																																																				
区分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																				
開催回数	-	-	-	5	4																																																																																				
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																			
回数	-	13	12	4	0	0																																																																																			
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標																																																																																		
稼働率	76.2	76.4	66.4	76.7	75.9	75.9	75以上																																																																																		
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																			
利用者数	—	—	5,382	4,573	4,814	4,918																																																																																			
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																			
患者数	—	—	117	217	181	204																																																																																			
<p>【目標値】 ・心臓カテーテル治療実績(こども) ・病床稼働率(こども) ・患者満足度[入院・外来](こども)</p>	<p>【目標値】県立こども病院 ・心臓カテーテル治療実績(こども) ・病床稼働率(こども) ・患者満足度[入院・外来](こども) ・小児がん登録件数(こども) ・リハ実施件数(こども)</p>	-	-	-	-	-	-																																																																																		

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(R5、第3期中期目標期間)	令和5年度実績 自己評価																																																																																																																																																																																																																																																																			
						評価	説明																																																																																																																																																																																																																																																																		
2 医療従事者の確保及び質の向上 各病院及び地域の医療水準の維持・向上を図るため、医師、看護師等医療従事者の確保に努めること。また、優秀な人材を育成するため、院内研修及び国内外との交流による研修機能の充実を図ること。さらに、医療従事者が働きやすい環境の整備に努めること。	2 医療従事者の確保及び質の向上 県立病院が提供する医療の質の向上を図り、最適な医療を安全に提供するため、医療従事者が専門業務に専念できる体制や働きやすい環境の整備に努めることにより、優秀な人材の確保を行う。また、教育研修機能の充実や国内外の医療機関との交流などを推進し、医療従事者の育成に積極的に取り組む。	2 医療従事者の確保及び質の向上	-	-	-	-	-																																																																																																																																																																																																																																																																		
								61	<p>・業務運営に必要な人材の確保に努める。</p> <p>職員確保状況(各年度4月1日現在) (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">区分</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> <th>6年度</th> <th>6年度目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">総合</td> <td>医師</td> <td>173</td> <td>177</td> <td>180</td> <td>185</td> <td>193</td> <td>198</td> <td>197</td> </tr> <tr> <td>歯科医師</td> <td>4</td> <td>6</td> <td>5</td> <td>6</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>738</td> <td>761</td> <td>754</td> <td>755</td> <td>770</td> <td>789</td> <td>799</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">こころ</td> <td>医師</td> <td>14</td> <td>13</td> <td>13</td> <td>13</td> <td>14</td> <td>15</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>歯科医師</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>117</td> <td>120</td> <td>116</td> <td>120</td> <td>121</td> <td>123</td> <td>119</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">こども</td> <td>医師</td> <td>90</td> <td>91</td> <td>92</td> <td>99</td> <td>106</td> <td>119</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>歯科医師</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>395</td> <td>398</td> <td>410</td> <td>398</td> <td>390</td> <td>382</td> <td>381</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">計</td> <td>医師</td> <td>277</td> <td>281</td> <td>285</td> <td>297</td> <td>313</td> <td>332</td> <td>312</td> </tr> <tr> <td>歯科医師</td> <td>5</td> <td>7</td> <td>7</td> <td>8</td> <td>7</td> <td>7</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>1,250</td> <td>1,279</td> <td>1,280</td> <td>1,273</td> <td>1,281</td> <td>1,294</td> <td>1,299</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">総合</td> <td>医師</td> <td>91</td> <td>96</td> <td>99</td> <td>110</td> <td>104</td> <td>112</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>歯科医師</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>64</td> <td>62</td> <td>61</td> <td>60</td> <td>69</td> <td>74</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">こころ</td> <td>医師</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>6</td> <td>11</td> <td>7</td> <td>10</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>歯科医師</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>9</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>8</td> <td>7</td> <td>7</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">こども</td> <td>医師</td> <td>58</td> <td>48</td> <td>50</td> <td>45</td> <td>41</td> <td>38</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>歯科医師</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>14</td> <td>16</td> <td>18</td> <td>15</td> <td>16</td> <td>17</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">計</td> <td>医師</td> <td>152</td> <td>148</td> <td>155</td> <td>166</td> <td>152</td> <td>160</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>歯科医師</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>87</td> <td>88</td> <td>89</td> <td>83</td> <td>92</td> <td>98</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table> <p>※有期職員は、正規職員の状況により必要人員を確保するため、目標は設定しない。  ※正規職員の看護師は、現員から休職者等を除いた実働数を記載している。  ※有期職員は、正規職員の状況により必要人員を確保するため、目標は設定しない。  ※年度計画数値と本表の定数は一致しない。</p>	区分		元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	6年度目標	総合	医師	173	177	180	185	193	198	197	歯科医師	4	6	5	6	5	5	-	看護師	738	761	754	755	770	789	799	こころ	医師	14	13	13	13	14	15	15	歯科医師	-	-	-	-	-	-	-	看護師	117	120	116	120	121	123	119	こども	医師	90	91	92	99	106	119	100	歯科医師	1	1	2	2	2	2	-	看護師	395	398	410	398	390	382	381	計	医師	277	281	285	297	313	332	312	歯科医師	5	7	7	8	7	7	-	看護師	1,250	1,279	1,280	1,273	1,281	1,294	1,299	総合	医師	91	96	99	110	104	112	-	歯科医師	-	-	-	-	-	-	-	看護師	64	62	61	60	69	74	-	こころ	医師	3	4	6	11	7	10	-	歯科医師	-	-	-	-	-	-	-	看護師	9	10	10	8	7	7	-	こども	医師	58	48	50	45	41	38	-	歯科医師	-	-	-	-	-	-	-	看護師	14	16	18	15	16	17	-	計	医師	152	148	155	166	152	160	-	歯科医師	-	-	-	-	-	-	-	看護師	87	88	89	83	92	98	-	B	令和5年度について、医師に関しては、派遣医局等への働きかけ等を行い、専門医確保に向けてホームページにプログラム説明動画を公開し、プログラムの魅力を伝えるなど、確保に努めている。 看護師の募集については、修学資金の貸与など確保対策を進めている。 病院説明会や養成校訪問、県内外の合同就職説明会への積極的な参加を行っているが、総合病院の看護師が定数に達しなかった。																																													
								区分		元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	6年度目標																																																																																																																																																																																																																																																									
総合	医師	173	177	180	185	193	198	197																																																																																																																																																																																																																																																																	
	歯科医師	4	6	5	6	5	5	-																																																																																																																																																																																																																																																																	
	看護師	738	761	754	755	770	789	799																																																																																																																																																																																																																																																																	
こころ	医師	14	13	13	13	14	15	15																																																																																																																																																																																																																																																																	
	歯科医師	-	-	-	-	-	-	-																																																																																																																																																																																																																																																																	
	看護師	117	120	116	120	121	123	119																																																																																																																																																																																																																																																																	
こども	医師	90	91	92	99	106	119	100																																																																																																																																																																																																																																																																	
	歯科医師	1	1	2	2	2	2	-																																																																																																																																																																																																																																																																	
	看護師	395	398	410	398	390	382	381																																																																																																																																																																																																																																																																	
計	医師	277	281	285	297	313	332	312																																																																																																																																																																																																																																																																	
	歯科医師	5	7	7	8	7	7	-																																																																																																																																																																																																																																																																	
	看護師	1,250	1,279	1,280	1,273	1,281	1,294	1,299																																																																																																																																																																																																																																																																	
総合	医師	91	96	99	110	104	112	-																																																																																																																																																																																																																																																																	
	歯科医師	-	-	-	-	-	-	-																																																																																																																																																																																																																																																																	
	看護師	64	62	61	60	69	74	-																																																																																																																																																																																																																																																																	
こころ	医師	3	4	6	11	7	10	-																																																																																																																																																																																																																																																																	
	歯科医師	-	-	-	-	-	-	-																																																																																																																																																																																																																																																																	
	看護師	9	10	10	8	7	7	-																																																																																																																																																																																																																																																																	
こども	医師	58	48	50	45	41	38	-																																																																																																																																																																																																																																																																	
	歯科医師	-	-	-	-	-	-	-																																																																																																																																																																																																																																																																	
	看護師	14	16	18	15	16	17	-																																																																																																																																																																																																																																																																	
計	医師	152	148	155	166	152	160	-																																																																																																																																																																																																																																																																	
	歯科医師	-	-	-	-	-	-	-																																																																																																																																																																																																																																																																	
	看護師	87	88	89	83	92	98	-																																																																																																																																																																																																																																																																	
62	<p>・研修医の確保に努める。</p> <p>初期臨床研修医数 (総合病院) (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>初期臨床研修医</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年生</td> <td>24 (3)</td> <td>23 (1)</td> <td>20 (1)</td> <td>25 (3)</td> <td>21 (2)</td> <td>22 (2)</td> </tr> <tr> <td>2年生</td> <td>20 (2)</td> <td>23 (3)</td> <td>19 (4)</td> <td>20 (1)</td> <td>23 (3)</td> <td>20 (3)</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>44 (5)</td> <td>46 (4)</td> <td>39 (5)</td> <td>45 (4)</td> <td>44 (5)</td> <td>42 (5)</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ ( ) うち自治医大学出身者</p> <p>後期臨床研修医数 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>後期臨床研修医</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>46</td> <td>48</td> <td>58</td> <td>53</td> <td>54</td> <td>57</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>11</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>14</td> <td>15</td> <td>9</td> <td>12</td> <td>8</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>62</td> <td>65</td> <td>71</td> <td>68</td> <td>73</td> <td>79</td> </tr> </tbody> </table>	初期臨床研修医	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	1年生	24 (3)	23 (1)	20 (1)	25 (3)	21 (2)	22 (2)	2年生	20 (2)	23 (3)	19 (4)	20 (1)	23 (3)	20 (3)	計	44 (5)	46 (4)	39 (5)	45 (4)	44 (5)	42 (5)	後期臨床研修医	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	総合	46	48	58	53	54	57	こころ	2	2	4	3	11	10	こども	14	15	9	12	8	12	計	62	65	71	68	73	79	A	総合病院では、対面式の合同説明会が開催され、東京および浜松でPR活動を行った。また、専攻医確保活動として、遠方で見学に来るのが難しい研修医等をターゲットにオンライン会議システムを活用した面談を実施し、PRを行った。																																																																																																																																																																																																							
初期臨床研修医	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																																																																																																																																																			
1年生	24 (3)	23 (1)	20 (1)	25 (3)	21 (2)	22 (2)																																																																																																																																																																																																																																																																			
2年生	20 (2)	23 (3)	19 (4)	20 (1)	23 (3)	20 (3)																																																																																																																																																																																																																																																																			
計	44 (5)	46 (4)	39 (5)	45 (4)	44 (5)	42 (5)																																																																																																																																																																																																																																																																			
後期臨床研修医	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																																																																																																																																																			
総合	46	48	58	53	54	57																																																																																																																																																																																																																																																																			
こころ	2	2	4	3	11	10																																																																																																																																																																																																																																																																			
こども	14	15	9	12	8	12																																																																																																																																																																																																																																																																			
計	62	65	71	68	73	79																																																																																																																																																																																																																																																																			
63	<p>・即時的で効果的な人材を確保するため、採用試験を適宜実施する。</p> <p>看護師については、定時募集に加えて随時募集を実施し、切れ目のない採用試験を実施している。さらに優秀な人材確保のためコマディカルのアソシエイトの公募試験を実施した。</p> <p>正規職員の確保状況 (各年度4月1日現在) (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> <th>6年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">法人合計</td> <td>医師</td> <td>269</td> <td>283</td> <td>289</td> <td>293</td> <td>307</td> <td>322</td> <td>341</td> </tr> <tr> <td>歯科医師</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>7</td> <td>7</td> <td>8</td> <td>7</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>1,370</td> <td>1,366</td> <td>1,398</td> <td>1,403</td> <td>1,398</td> <td>1,408</td> <td>1,413</td> </tr> <tr> <td>医療技術</td> <td>319</td> <td>333</td> <td>347</td> <td>362</td> <td>369</td> <td>373</td> <td>377</td> </tr> <tr> <td>研究員</td> <td>-</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>-</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>126</td> <td>123</td> <td>131</td> <td>136</td> <td>140</td> <td>139</td> <td>140</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>2,088</td> <td>2,112</td> <td>2,174</td> <td>2,201</td> <td>2,223</td> <td>2,250</td> <td>2,278</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">本部</td> <td>医師</td> <td>-</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>医療技術</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>32</td> <td>32</td> <td>32</td> <td>32</td> <td>34</td> <td>33</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>34</td> <td>35</td> <td>34</td> <td>36</td> <td>38</td> <td>36</td> <td>34</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">総合</td> <td>医師</td> <td>165</td> <td>179</td> <td>184</td> <td>188</td> <td>195</td> <td>202</td> <td>206</td> </tr> <tr> <td>歯科医師</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>6</td> <td>5</td> <td>6</td> <td>5</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>806</td> <td>807</td> <td>829</td> <td>826</td> <td>837</td> <td>847</td> <td>859</td> </tr> <tr> <td>医療技術</td> <td>214</td> <td>226</td> <td>237</td> <td>249</td> <td>255</td> <td>260</td> <td>261</td> </tr> <tr> <td>研究員</td> <td>-</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>-</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>54</td> <td>53</td> <td>59</td> <td>63</td> <td>65</td> <td>65</td> <td>69</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>1,242</td> <td>1,271</td> <td>1,317</td> <td>1,331</td> <td>1,359</td> <td>1,380</td> <td>1,400</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">こころ</td> <td>医師</td> <td>14</td> <td>14</td> <td>13</td> <td>13</td> <td>13</td> <td>14</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>歯科医師</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>118</td> <td>120</td> <td>124</td> <td>122</td> <td>122</td> <td>127</td> <td>130</td> </tr> <tr> <td>医療技術</td> <td>25</td> <td>25</td> <td>26</td> <td>26</td> <td>27</td> <td>27</td> <td>28</td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>13</td> <td>11</td> <td>12</td> <td>13</td> <td>14</td> <td>14</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>170</td> <td>170</td> <td>175</td> <td>174</td> <td>176</td> <td>182</td> <td>187</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">こども</td> <td>医師</td> <td>90</td> <td>90</td> <td>91</td> <td>92</td> <td>99</td> <td>106</td> <td>119</td> </tr> <tr> <td>歯科医師</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>444</td> <td>436</td> <td>444</td> <td>452</td> <td>436</td> <td>432</td> <td>423</td> </tr> <tr> <td>医療技術</td> <td>80</td> <td>82</td> <td>84</td> <td>86</td> <td>86</td> <td>85</td> <td>86</td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>27</td> <td>27</td> <td>28</td> <td>28</td> <td>27</td> <td>27</td> <td>27</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>642</td> <td>636</td> <td>648</td> <td>660</td> <td>650</td> <td>652</td> <td>657</td> </tr> </tbody> </table>	区分		30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	法人合計	医師	269	283	289	293	307	322	341	歯科医師	4	5	7	7	8	7	7	看護師	1,370	1,366	1,398	1,403	1,398	1,408	1,413	医療技術	319	333	347	362	369	373	377	研究員	-	2	2	-	1	1	0	事務	126	123	131	136	140	139	140	計	2,088	2,112	2,174	2,201	2,223	2,250	2,278	本部	医師	-	1	1	-	-	1	1	看護師	2	3	1	3	3	2	1	医療技術	-	-	-	1	1	1	2	事務	32	32	32	32	34	33	30	計	34	35	34	36	38	36	34	総合	医師	165	179	184	188	195	202	206	歯科医師	3	4	6	5	6	5	5	看護師	806	807	829	826	837	847	859	医療技術	214	226	237	249	255	260	261	研究員	-	2	2	-	1	1	-	事務	54	53	59	63	65	65	69	計	1,242	1,271	1,317	1,331	1,359	1,380	1,400	こころ	医師	14	14	13	13	13	14	15	歯科医師	-	-	-	-	-	-	-	看護師	118	120	124	122	122	127	130	医療技術	25	25	26	26	27	27	28	事務	13	11	12	13	14	14	14	計	170	170	175	174	176	182	187	こども	医師	90	90	91	92	99	106	119	歯科医師	1	1	1	2	2	2	2	看護師	444	436	444	452	436	432	423	医療技術	80	82	84	86	86	85	86	事務	27	27	28	28	27	27	27	計	642	636	648	660	650	652	657	A	医師については、専門医確保に向けてホームページにプログラム説明動画を公開し、プログラムの魅力を伝え、募集に努めている。 今後、新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら、医学生向け説明会への参加や病院見学の受入などを行い確保に努める。 令和5年度は、看護師募集について、定時募集を第1回から3病院対象に実施し、計4回実施予定。 また、経験者を対象とした月次募集を毎月実施することにより切れ目のない募集を実施している。なお、看護師確保のため、就職説明会への参加や各種広報、養成校訪問、病院説明会など様々な確保対策を進め、採用数の増加に繋げている。 コマディカルは、必要な職種について適時、募集を実施しており、薬剤師、臨床検査技師、臨床工学技士、理学療法士、作業療法士、視能訓練士、医療ソーシャルワーカー、心理療法士、歯科衛生士、遺伝カウンセラーについて公募試験を実施し優秀な人材の確保に努めている。 事務についても、正規職員の公募試験を実施し、優秀な人材の確保に努めている。
区分		30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度																																																																																																																																																																																																																																																																	
法人合計	医師	269	283	289	293	307	322	341																																																																																																																																																																																																																																																																	
	歯科医師	4	5	7	7	8	7	7																																																																																																																																																																																																																																																																	
	看護師	1,370	1,366	1,398	1,403	1,398	1,408	1,413																																																																																																																																																																																																																																																																	
	医療技術	319	333	347	362	369	373	377																																																																																																																																																																																																																																																																	
	研究員	-	2	2	-	1	1	0																																																																																																																																																																																																																																																																	
事務	126	123	131	136	140	139	140																																																																																																																																																																																																																																																																		
計	2,088	2,112	2,174	2,201	2,223	2,250	2,278																																																																																																																																																																																																																																																																		
本部	医師	-	1	1	-	-	1	1																																																																																																																																																																																																																																																																	
	看護師	2	3	1	3	3	2	1																																																																																																																																																																																																																																																																	
	医療技術	-	-	-	1	1	1	2																																																																																																																																																																																																																																																																	
	事務	32	32	32	32	34	33	30																																																																																																																																																																																																																																																																	
	計	34	35	34	36	38	36	34																																																																																																																																																																																																																																																																	
総合	医師	165	179	184	188	195	202	206																																																																																																																																																																																																																																																																	
	歯科医師	3	4	6	5	6	5	5																																																																																																																																																																																																																																																																	
	看護師	806	807	829	826	837	847	859																																																																																																																																																																																																																																																																	
	医療技術	214	226	237	249	255	260	261																																																																																																																																																																																																																																																																	
	研究員	-	2	2	-	1	1	-																																																																																																																																																																																																																																																																	
事務	54	53	59	63	65	65	69																																																																																																																																																																																																																																																																		
計	1,242	1,271	1,317	1,331	1,359	1,380	1,400																																																																																																																																																																																																																																																																		
こころ	医師	14	14	13	13	13	14	15																																																																																																																																																																																																																																																																	
	歯科医師	-	-	-	-	-	-	-																																																																																																																																																																																																																																																																	
	看護師	118	120	124	122	122	127	130																																																																																																																																																																																																																																																																	
	医療技術	25	25	26	26	27	27	28																																																																																																																																																																																																																																																																	
	事務	13	11	12	13	14	14	14																																																																																																																																																																																																																																																																	
計	170	170	175	174	176	182	187																																																																																																																																																																																																																																																																		
こども	医師	90	90	91	92	99	106	119																																																																																																																																																																																																																																																																	
	歯科医師	1	1	1	2	2	2	2																																																																																																																																																																																																																																																																	
	看護師	444	436	444	452	436	432	423																																																																																																																																																																																																																																																																	
	医療技術	80	82	84	86	86	85	86																																																																																																																																																																																																																																																																	
	事務	27	27	28	28	27	27	27																																																																																																																																																																																																																																																																	
計	642	636	648	660	650	652	657																																																																																																																																																																																																																																																																		

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績 (R5、第3期中期目標期間)	令和5年度実績 自己評価																																																																																																																																																																																								
						評価	説明																																																																																																																																																																																							
			64	・就職説明会への参加、多角的な広報の実施や養成校の訪問などにより、必要な職員の確保を目指す。	<p>看護学生向け就職説明会 (R5末時点) (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>来場者数</th> <th>訪問者数</th> <th>受験者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ナース専科(静岡)</td> <td>49</td> <td>74</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>ナースナビ(浜松)</td> <td>174</td> <td>65</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>マイナビ(静岡)</td> <td>219</td> <td>160</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>(沼津)</td> <td>103</td> <td>82</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>業者計</td> <td>49</td> </tr> <tr> <td>静岡県立大学</td> <td>71</td> <td>127</td> <td>23</td> </tr> <tr> <td>常葉大学</td> <td>-</td> <td>54</td> <td>27</td> </tr> <tr> <td>聖隷クリストファー大学</td> <td>160</td> <td>-</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>順天堂大学</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>静岡市立看護専門学校</td> <td>81</td> <td>56</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>静岡県立看護専門学校</td> <td>104</td> <td>57</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>養成校計</td> <td>81</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>計</td> <td>130</td> </tr> </tbody> </table> <p>※訪問者数は病院間の重複あり</p> <p>看護学生向け就職説明会 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>来場者数</td> <td>226</td> <td>709</td> <td>709</td> <td>582</td> <td>0</td> <td>545</td> </tr> <tr> <td>業者</td> <td>226</td> <td>709</td> <td>709</td> <td>582</td> <td>0</td> <td>545</td> </tr> <tr> <td>養成校</td> <td>602</td> <td>35</td> <td>35</td> <td>137</td> <td>416</td> <td>416</td> </tr> <tr> <td>訪問者数</td> <td>64</td> <td>645</td> <td>645</td> <td>438</td> <td>545</td> <td>381</td> </tr> <tr> <td>業者</td> <td>64</td> <td>645</td> <td>645</td> <td>438</td> <td>545</td> <td>381</td> </tr> <tr> <td>養成校</td> <td>345</td> <td>316</td> <td>316</td> <td>120</td> <td>294</td> <td>294</td> </tr> <tr> <td>受験者数</td> <td>3</td> <td>112</td> <td>112</td> <td>82</td> <td>381</td> <td>49</td> </tr> <tr> <td>業者</td> <td>3</td> <td>112</td> <td>112</td> <td>82</td> <td>381</td> <td>49</td> </tr> <tr> <td>養成校</td> <td>73</td> <td>92</td> <td>92</td> <td>72</td> <td>67</td> <td>81</td> </tr> </tbody> </table>	区分	来場者数	訪問者数	受験者数	ナース専科(静岡)	49	74	11	ナースナビ(浜松)	174	65	0	マイナビ(静岡)	219	160	30	(沼津)	103	82	8			業者計	49	静岡県立大学	71	127	23	常葉大学	-	54	27	聖隷クリストファー大学	160	-	4	順天堂大学	-	-	11	静岡市立看護専門学校	81	56	6	静岡県立看護専門学校	104	57	10			養成校計	81			計	130		30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	来場者数	226	709	709	582	0	545	業者	226	709	709	582	0	545	養成校	602	35	35	137	416	416	訪問者数	64	645	645	438	545	381	業者	64	645	645	438	545	381	養成校	345	316	316	120	294	294	受験者数	3	112	112	82	381	49	業者	3	112	112	82	381	49	養成校	73	92	92	72	67	81	A	<p>少しでも学生の知りたい情報を提供するため、積極的に説明会への参加を予定している。</p> <p>総合病院の看護師不足は続いているため、県外の就職説明会にも参加を予定している。</p> <p>看護師確保対策の中でも企業・養成校主催の就職説明会は、看護学生が看護部長や先輩看護師等と直接話ができることから、病院の宣伝だけでなく、看護学生個人が知りたい情報を直接伝えることができる利点がある。</p> <p>説明会での内容は内定者からのアンケート結果を参考に検討をし、病院内での様子が伝わるよう動画などを用いて説明を行っている。今後も昨年に引き続き企業・養成校主催の説明会へ参加し、現在の学生の動向等をつかむことで、看護師確保に努める。</p>																																																									
区分	来場者数	訪問者数	受験者数																																																																																																																																																																																											
ナース専科(静岡)	49	74	11																																																																																																																																																																																											
ナースナビ(浜松)	174	65	0																																																																																																																																																																																											
マイナビ(静岡)	219	160	30																																																																																																																																																																																											
(沼津)	103	82	8																																																																																																																																																																																											
		業者計	49																																																																																																																																																																																											
静岡県立大学	71	127	23																																																																																																																																																																																											
常葉大学	-	54	27																																																																																																																																																																																											
聖隷クリストファー大学	160	-	4																																																																																																																																																																																											
順天堂大学	-	-	11																																																																																																																																																																																											
静岡市立看護専門学校	81	56	6																																																																																																																																																																																											
静岡県立看護専門学校	104	57	10																																																																																																																																																																																											
		養成校計	81																																																																																																																																																																																											
		計	130																																																																																																																																																																																											
	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																																																																								
来場者数	226	709	709	582	0	545																																																																																																																																																																																								
業者	226	709	709	582	0	545																																																																																																																																																																																								
養成校	602	35	35	137	416	416																																																																																																																																																																																								
訪問者数	64	645	645	438	545	381																																																																																																																																																																																								
業者	64	645	645	438	545	381																																																																																																																																																																																								
養成校	345	316	316	120	294	294																																																																																																																																																																																								
受験者数	3	112	112	82	381	49																																																																																																																																																																																								
業者	3	112	112	82	381	49																																																																																																																																																																																								
養成校	73	92	92	72	67	81																																																																																																																																																																																								
(1) 医療従事者の確保・育成	(1) 医療従事者の確保・育成	(1) 医療従事者の確保・育成	65	<p>○医師</p> <p>①③医師の技術力の向上を目指し、海外研修等を奨励する。</p> <p>①③医師の卒後臨床研修等の強化を図り、県立病院に相応しい医療従事者を確実に確保し、充足させる。</p> <p>②地域医療連携推進法人ふじのくに社会健康医療連合の円滑な運営に寄与する。</p>	<p>(総合) 海外研修の実績 (5年度時点) (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>内 容</th> <th>人数</th> <th>内 容</th> <th>人数</th> <th>内 容</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>11th CONGRESS OF THE VASCULAR ACCESS SOCIETY</td> <td>2</td> <td>3年度</td> <td>実績なし</td> <td>2020 Asian Pacific Society of Anesthesiology (APSA)</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>AMTS 99th Annual Meeting</td> <td>2</td> <td>オーストラリア交換研修</td> <td>1</td> <td>American Society of Anesthesiologists Annual Meeting 2023</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>米国臨床検査学会2019国際会議</td> <td>3</td> <td>34th European Congress of Pathology</td> <td>1</td> <td>The 27th Congress of the Asian Pacific Society of Hematology</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>June Conference in Wroclaw 2019</td> <td>1</td> <td>欧州呼吸器学会国際会議2022</td> <td>2</td> <td>Edina Association of Medical Education 2023 Annual Conference</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>24th World Congress of Dermatology Milan 2019</td> <td>1</td> <td>ICS 2022 VIENNA</td> <td>3</td> <td>Asian Pacific Digestive Week 2023 (APDW)</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>SSAI 2019</td> <td>3</td> <td>World Allergy Congress 2022</td> <td>2</td> <td>San Antonio Breast Cancer Symposium</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>第31回欧州病理学会</td> <td>1</td> <td>Dialysis Access Smergy 2022</td> <td>1</td> <td>18th World Congress of Anesthesiologists</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>19th Congress of the European Society of Surgical Wound Care</td> <td>2</td> <td>American Society of Human Genetics 2022</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第28回ヨーロッパ皮膚科学・性病学会学術大会</td> <td>1</td> <td>APLAR2022</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ヨーロッパ救急医学会</td> <td>1</td> <td>IRANCON2022</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第21回年次大会2019</td> <td>3</td> <td>2023 東アジア呼吸器学会アワード年次大会</td> <td>2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>37th WORLD CONGRESS OF ENDOCRINOLOGY</td> <td>2</td> <td>18th congress of the European society of surgical oncology</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>American Pancreatic Assosiation</td> <td>3</td> <td>International Gastric and Colorectal Research Conference</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ANS Kidney Week 2019</td> <td>2</td> <td>臨床研修医UCLA研修</td> <td>12</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>アジア太平洋呼吸器学会国際会議2019</td> <td>2</td> <td>American Thoracic Society 2023 International Conference</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>EuroEcho 2019</td> <td>2</td> <td>アジア心臓血管外科学会総会 (ASVTS 2023)</td> <td>3</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ASCTS2020</td> <td>2</td> <td>International Society on Thrombolysis and Hemostasis</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第109回 USCAP2020</td> <td>1</td> <td>The European Respiratory Society International Congress 2023</td> <td>3</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>臨床研修医UCLA研修</td> <td>18</td> <td>The 19th ISRE World Congress for Endopulmonary Resection</td> <td>2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>臨床研修医UCLA研修</td> <td>11</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2年度</td> <td>実績なし</td> <td>APAC 2023 (アジア太平洋呼吸器学会)</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>計</td> <td></td> <td>114</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>海外での学会発表実績 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>33</td> <td>65</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>11</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>31</td> <td>31</td> <td>3</td> <td>19</td> <td>27</td> <td>22</td> </tr> </tbody> </table> <p>海外研修の主な実績 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>内 容</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>UCLA研修</td> <td>12</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td></td> <td>その他 海外学会</td> <td>17</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td></td> <td>The Asia-Pacific Cardiovascular Intervention &amp; Surgery 2023 (APCIS 2023)</td> <td>0</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td></td> <td>その他海外学会</td> <td>8</td> <td>22</td> </tr> </tbody> </table>	内 容	人数	内 容	人数	内 容	人数	11th CONGRESS OF THE VASCULAR ACCESS SOCIETY	2	3年度	実績なし	2020 Asian Pacific Society of Anesthesiology (APSA)	1	AMTS 99th Annual Meeting	2	オーストラリア交換研修	1	American Society of Anesthesiologists Annual Meeting 2023	1	米国臨床検査学会2019国際会議	3	34th European Congress of Pathology	1	The 27th Congress of the Asian Pacific Society of Hematology	1	June Conference in Wroclaw 2019	1	欧州呼吸器学会国際会議2022	2	Edina Association of Medical Education 2023 Annual Conference	1	24th World Congress of Dermatology Milan 2019	1	ICS 2022 VIENNA	3	Asian Pacific Digestive Week 2023 (APDW)	2	SSAI 2019	3	World Allergy Congress 2022	2	San Antonio Breast Cancer Symposium	1	第31回欧州病理学会	1	Dialysis Access Smergy 2022	1	18th World Congress of Anesthesiologists	1	19th Congress of the European Society of Surgical Wound Care	2	American Society of Human Genetics 2022	1			第28回ヨーロッパ皮膚科学・性病学会学術大会	1	APLAR2022	1			ヨーロッパ救急医学会	1	IRANCON2022	1			第21回年次大会2019	3	2023 東アジア呼吸器学会アワード年次大会	2			37th WORLD CONGRESS OF ENDOCRINOLOGY	2	18th congress of the European society of surgical oncology	1			American Pancreatic Assosiation	3	International Gastric and Colorectal Research Conference	1			ANS Kidney Week 2019	2	臨床研修医UCLA研修	12			アジア太平洋呼吸器学会国際会議2019	2	American Thoracic Society 2023 International Conference	1			EuroEcho 2019	2	アジア心臓血管外科学会総会 (ASVTS 2023)	3			ASCTS2020	2	International Society on Thrombolysis and Hemostasis	1			第109回 USCAP2020	1	The European Respiratory Society International Congress 2023	3			臨床研修医UCLA研修	18	The 19th ISRE World Congress for Endopulmonary Resection	2					臨床研修医UCLA研修	11			2年度	実績なし	APAC 2023 (アジア太平洋呼吸器学会)	1					計		114		区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	総合	33	65	0	0	11	13	こども	31	31	3	19	27	22	区分	内 容	4年度	5年度	総合	UCLA研修	12	11		その他 海外学会	17	19	こども	—	—	—		The Asia-Pacific Cardiovascular Intervention & Surgery 2023 (APCIS 2023)	0	8		その他海外学会	8	22	A	<p>(総合)</p> <p>毎月、基礎臨床講座を開催し、各指導医から研修医等へ講義を行っているほか、医療英語・海外学会発表研修など臨床研修機能の充実を図っている。</p> <p>この他、医師の技術力向上を目指し海外研修を奨励している。</p> <p>また、海外学会発表を積極的に進めており、技術力の高さを示している。</p> <p>令和2年度及び3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、海外での学会発表や研修の実績はなかったが、令和4年度から徐々に増加しており、令和5年度も前年度を上回る件数となった。</p> <p>(こども)</p> <p>令和5年度の海外での学会発表件数は22件であった。また、6月には浙江省衛生健康委員会による当院視察が実施され、高度かつ先進的な質の高い小児医療を紹介した。</p>
内 容	人数	内 容	人数	内 容	人数																																																																																																																																																																																									
11th CONGRESS OF THE VASCULAR ACCESS SOCIETY	2	3年度	実績なし	2020 Asian Pacific Society of Anesthesiology (APSA)	1																																																																																																																																																																																									
AMTS 99th Annual Meeting	2	オーストラリア交換研修	1	American Society of Anesthesiologists Annual Meeting 2023	1																																																																																																																																																																																									
米国臨床検査学会2019国際会議	3	34th European Congress of Pathology	1	The 27th Congress of the Asian Pacific Society of Hematology	1																																																																																																																																																																																									
June Conference in Wroclaw 2019	1	欧州呼吸器学会国際会議2022	2	Edina Association of Medical Education 2023 Annual Conference	1																																																																																																																																																																																									
24th World Congress of Dermatology Milan 2019	1	ICS 2022 VIENNA	3	Asian Pacific Digestive Week 2023 (APDW)	2																																																																																																																																																																																									
SSAI 2019	3	World Allergy Congress 2022	2	San Antonio Breast Cancer Symposium	1																																																																																																																																																																																									
第31回欧州病理学会	1	Dialysis Access Smergy 2022	1	18th World Congress of Anesthesiologists	1																																																																																																																																																																																									
19th Congress of the European Society of Surgical Wound Care	2	American Society of Human Genetics 2022	1																																																																																																																																																																																											
第28回ヨーロッパ皮膚科学・性病学会学術大会	1	APLAR2022	1																																																																																																																																																																																											
ヨーロッパ救急医学会	1	IRANCON2022	1																																																																																																																																																																																											
第21回年次大会2019	3	2023 東アジア呼吸器学会アワード年次大会	2																																																																																																																																																																																											
37th WORLD CONGRESS OF ENDOCRINOLOGY	2	18th congress of the European society of surgical oncology	1																																																																																																																																																																																											
American Pancreatic Assosiation	3	International Gastric and Colorectal Research Conference	1																																																																																																																																																																																											
ANS Kidney Week 2019	2	臨床研修医UCLA研修	12																																																																																																																																																																																											
アジア太平洋呼吸器学会国際会議2019	2	American Thoracic Society 2023 International Conference	1																																																																																																																																																																																											
EuroEcho 2019	2	アジア心臓血管外科学会総会 (ASVTS 2023)	3																																																																																																																																																																																											
ASCTS2020	2	International Society on Thrombolysis and Hemostasis	1																																																																																																																																																																																											
第109回 USCAP2020	1	The European Respiratory Society International Congress 2023	3																																																																																																																																																																																											
臨床研修医UCLA研修	18	The 19th ISRE World Congress for Endopulmonary Resection	2																																																																																																																																																																																											
		臨床研修医UCLA研修	11																																																																																																																																																																																											
2年度	実績なし	APAC 2023 (アジア太平洋呼吸器学会)	1																																																																																																																																																																																											
		計		114																																																																																																																																																																																										
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																																																																								
総合	33	65	0	0	11	13																																																																																																																																																																																								
こども	31	31	3	19	27	22																																																																																																																																																																																								
区分	内 容	4年度	5年度																																																																																																																																																																																											
総合	UCLA研修	12	11																																																																																																																																																																																											
	その他 海外学会	17	19																																																																																																																																																																																											
こども	—	—	—																																																																																																																																																																																											
	The Asia-Pacific Cardiovascular Intervention & Surgery 2023 (APCIS 2023)	0	8																																																																																																																																																																																											
	その他海外学会	8	22																																																																																																																																																																																											

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(R5、第3期中期目標期間)	令和5年度実績 自己評価																																																																																																																																							
						評価	説明																																																																																																																																						
			66	④メディカルスキルアップセンターの活用の促進を図る。	<p>メディカルスキルアップセンター利用状況 (単位：回、人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区 分</th> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">30年度</th> <th colspan="2">元年度</th> <th colspan="2">2年度</th> <th colspan="2">3年度</th> <th colspan="2">4年度</th> <th colspan="2">5年度</th> </tr> <tr> <th>うち外部利用</th> <th></th> <th>うち外部利用</th> <th></th> <th>うち外部利用</th> <th></th> <th>うち外部利用</th> <th></th> <th>うち外部利用</th> <th></th> <th>うち外部利用</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">医師</td> <td>開催回数</td> <td>617</td> <td>31</td> <td>775</td> <td>42</td> <td>1097</td> <td>5</td> <td>1,773</td> <td>5</td> <td>925</td> <td>0</td> <td>1379</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>参加人数</td> <td>2,772</td> <td>145</td> <td>3,236</td> <td>166</td> <td>3,488</td> <td>16</td> <td>3,194</td> <td>41</td> <td>1,707</td> <td>17</td> <td>2,068</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">看護師</td> <td>開催回数</td> <td>230</td> <td>32</td> <td>288</td> <td>39</td> <td>275</td> <td>7</td> <td>175</td> <td>4</td> <td>95</td> <td>0</td> <td>84</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>参加人数</td> <td>4,474</td> <td>237</td> <td>5,867</td> <td>291</td> <td>4,468</td> <td>67</td> <td>2,987</td> <td>67</td> <td>2,016</td> <td>0</td> <td>1,847</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">その他</td> <td>開催回数</td> <td>188</td> <td>137</td> <td>310</td> <td>186</td> <td>238</td> <td>118</td> <td>122</td> <td>91</td> <td>10</td> <td>0</td> <td>10</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>参加人数</td> <td>2,560</td> <td>1,397</td> <td>2,671</td> <td>1,122</td> <td>1,863</td> <td>736</td> <td>503</td> <td>215</td> <td>392</td> <td>146</td> <td>287</td> <td>258</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">計</td> <td>開催回数</td> <td>1,035</td> <td>200</td> <td>1,373</td> <td>267</td> <td>1,610</td> <td>130</td> <td>2,070</td> <td>100</td> <td>1,030</td> <td>0</td> <td>1,473</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>参加人数</td> <td>9,806</td> <td>1,779</td> <td>11,774</td> <td>1,579</td> <td>9,819</td> <td>819</td> <td>6,684</td> <td>323</td> <td>4,115</td> <td>163</td> <td>4,202</td> <td>259</td> </tr> </tbody> </table>	区 分		30年度		元年度		2年度		3年度		4年度		5年度		うち外部利用		うち外部利用		うち外部利用		うち外部利用		うち外部利用		うち外部利用		医師	開催回数	617	31	775	42	1097	5	1,773	5	925	0	1379	0	参加人数	2,772	145	3,236	166	3,488	16	3,194	41	1,707	17	2,068	1	看護師	開催回数	230	32	288	39	275	7	175	4	95	0	84	0	参加人数	4,474	237	5,867	291	4,468	67	2,987	67	2,016	0	1,847	0	その他	開催回数	188	137	310	186	238	118	122	91	10	0	10	0	参加人数	2,560	1,397	2,671	1,122	1,863	736	503	215	392	146	287	258	計	開催回数	1,035	200	1,373	267	1,610	130	2,070	100	1,030	0	1,473	0	参加人数	9,806	1,779	11,774	1,579	9,819	819	6,684	323	4,115	163	4,202	259	A	<p>メディカルスキルアップセンターでは、各種シミュレーターを導入し、研修医を始めとする医師や看護師等の医療従事者によるトレーニングや講習に活用している。外部利用については、医師会主催の研修会や高校生の見学ツアー時の診療体験などで活用されている。</p> <p>令和5年度は、新型コロナウイルス感染症が5類になったことから、前年比へ増加傾向となった。</p> <p>今後も医師をはじめとする院内利用だけでなく、外部利用の拡大に努める。</p>
区 分		30年度		元年度				2年度		3年度		4年度		5年度																																																																																																																															
		うち外部利用		うち外部利用		うち外部利用		うち外部利用		うち外部利用		うち外部利用																																																																																																																																	
医師	開催回数	617	31	775	42	1097	5	1,773	5	925	0	1379	0																																																																																																																																
	参加人数	2,772	145	3,236	166	3,488	16	3,194	41	1,707	17	2,068	1																																																																																																																																
看護師	開催回数	230	32	288	39	275	7	175	4	95	0	84	0																																																																																																																																
	参加人数	4,474	237	5,867	291	4,468	67	2,987	67	2,016	0	1,847	0																																																																																																																																
その他	開催回数	188	137	310	186	238	118	122	91	10	0	10	0																																																																																																																																
	参加人数	2,560	1,397	2,671	1,122	1,863	736	503	215	392	146	287	258																																																																																																																																
計	開催回数	1,035	200	1,373	267	1,610	130	2,070	100	1,030	0	1,473	0																																																																																																																																
	参加人数	9,806	1,779	11,774	1,579	9,819	819	6,684	323	4,115	163	4,202	259																																																																																																																																
			67	⑤大会議室を改修し、ラーニングセンターの機能を付加する。	<p>ラーニングセンター利用状況 (単位：件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>利用件数</td> <td>33</td> <td>13</td> <td>0</td> <td>18</td> <td>28</td> <td>27</td> </tr> </tbody> </table> <p>※各年度とも正確な研修実施回数の集計はできていない。  ※3年度以降はラーニングセンターが使用中止中のため、代替施設(病室等)での研修回数を記載。</p>	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	利用件数	33	13	0	18	28	27	A	<p>従来のラーニングセンターは、令和2年度以降の病棟工事や新型コロナ対策物品の保管場所となるなど使用できない期間が続いたことから、会議室や空き病室を利用した研修を実施してきた。</p> <p>ラーニングセンター再開に向け、令和3年度からワーキンググループで検討を行い、令和4年度にL棟3階の大会議室にラーニングセンター機能を付加することを中心に検討していくことに決めた。</p> <p>令和5年度には、大会議室周辺の会議室の1つにポータブル医ガス装置を整備し、実技研修を常時実施可能な環境とするとともに、大会議室等の改修を行うことで、研修内容や受講人数に応じて研修会場としても使用できるようにすることを決定し、当該工事を実施した。</p> <p>この整備及び改修により、研修機能を集約化した。</p>																																																																																																																								
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																							
利用件数	33	13	0	18	28	27																																																																																																																																							
		【目標値】 ・医師数(総合、こころ、こども) ・看護師数(総合、こころ、こども)	68	⑥海外との視察者等の受け入れや派遣など、国際交流の推進を図る。 ⑥静岡社会健康医学大学院大学と連携し、海外大学等との交流を図る。	<p>海外視察・講演等の派遣・受入 (単位：人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>視察・講演等派遣</td> <td>60</td> <td>73</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>29</td> <td>72</td> </tr> <tr> <td>視察・研修等受入</td> <td>51</td> <td>35</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>3</td> <td>29</td> </tr> </tbody> </table> <p>総合病院では、平成23年度より中国浙江省からの研修受入を行っており、中国浙江省7医院と友好協力協定及び覚書を締結し、研修生を受け入れている。</p> <p>令和4年度11月に機構と浙江省衛生健康委員会と友好協定を締結した。</p>		30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	視察・講演等派遣	60	73	0	0	29	72	視察・研修等受入	51	35	0	0	3	29	A	<p>新型コロナウイルス感染症の影響により、派遣研修及び相互訪問は中止していたが、令和4年度から徐々に再開し、令和5年6月には浙江省衛生健康委員会の孫副主任をはじめとする6名が来訪するなどの交流を行った。</p>																																																																																																																	
	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																							
視察・講演等派遣	60	73	0	0	29	72																																																																																																																																							
視察・研修等受入	51	35	0	0	3	29																																																																																																																																							



中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績 (R5、第3期中期目標期間)	令和5年度実績 自己評価																																															
						評価	説明																																														
			69	<p>①看護師及びその他の医療従事者のスキルアップを図るため、認定看護師の育成のほか医療従事者等の研修等を推進する。</p> <p>②認定看護師等病院運営に寄与する資格について、取得支援制度を拡充することで、資格取得者の増員を図る。</p>	<p>主な医療職種の資格取得者数 (R5末までの累計)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>職種</th> <th>人数</th> <th>専門・認定領域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>専門看護師</td> <td>3</td> <td>がん看護、急性・重症患者看護</td> </tr> <tr> <td>認定看護師</td> <td>16</td> <td>救急看護、皮膚・排泄ケア、手術看護、乳がん看護、緩和ケア、集中ケア、がん化学療法、感染管理、脳卒中リハビリテーション、認知症看護、がん放射線療法</td> </tr> <tr> <td>薬剤師</td> <td>43</td> <td>がん薬物療法認定、がん専門、がん指導、外来がん治療認定、外来がん治療専門病院薬学認定、研修認定、医療薬学専門、医療薬学指導、薬物療法専門、薬物療法指導、認定実務実習指導、認定CRC、周術期管理チーム、NST専門療法士、静岡中部糖尿病療養指導士、感染制御認定、抗菌化学療法認定、登録抗酸菌症エキスパート、精神科薬物療法認定、緩和薬物療法認定、緩和医療暫定指導、老年薬学認定、骨粗しょう症マネージャー、腎臓病療養指導士、心不全療養指導士、パーキンソン病療養指導士、公認スポーツファーマシスト</td> </tr> <tr> <td>検査技師</td> <td>36</td> <td>緊急臨床検査士、認定病理、細胞検査士、超音波検査士、日本心エコー図学会認定専門技師、NST専門療法士、日本糖尿病療養指導士、がんゲノム医療コーディネーター、臨床実習指導者肝臓医療コーディネーター、臨床検査士、遺伝子分析化学認定士、認定一般、臨床化学・免疫化学精度保証管理、医療技術部門管理資格認定、認定HLA検査技術者、国際細胞検査士、細胞治療認定管理師、認定臨床微生物、認定血液、心電図検定、JHRS認定心電図専門士、心血管インターベンション技師、登録抗酸菌エキスパート</td> </tr> <tr> <td>放射線技師</td> <td>39</td> <td>放射線治療専門、放射線治療品質管理、医学物理士、PET認定、救急撮影、第1種放射線取扱主任者、磁気共鳴専門技術者、X線CT認定技師、血管造影介入専門技師、血管診療技師、デジタルマンモグラフィ撮影認定、超音波検査士</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>22</td> <td>糖尿病療養指導士、病態栄養専門管理栄養士、がん病態栄養専門管理栄養士、がん病態栄養専門管理栄養士、栄養サポートチーム専門療法士、がん専門療法士、NSTコーディネーター、腎臓病療養指導士、静岡中部糖尿病療養指導士、専門理学療法士 (運動器、呼吸器、内部障害、循環器)</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>159</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	職種	人数	専門・認定領域	専門看護師	3	がん看護、急性・重症患者看護	認定看護師	16	救急看護、皮膚・排泄ケア、手術看護、乳がん看護、緩和ケア、集中ケア、がん化学療法、感染管理、脳卒中リハビリテーション、認知症看護、がん放射線療法	薬剤師	43	がん薬物療法認定、がん専門、がん指導、外来がん治療認定、外来がん治療専門病院薬学認定、研修認定、医療薬学専門、医療薬学指導、薬物療法専門、薬物療法指導、認定実務実習指導、認定CRC、周術期管理チーム、NST専門療法士、静岡中部糖尿病療養指導士、感染制御認定、抗菌化学療法認定、登録抗酸菌症エキスパート、精神科薬物療法認定、緩和薬物療法認定、緩和医療暫定指導、老年薬学認定、骨粗しょう症マネージャー、腎臓病療養指導士、心不全療養指導士、パーキンソン病療養指導士、公認スポーツファーマシスト	検査技師	36	緊急臨床検査士、認定病理、細胞検査士、超音波検査士、日本心エコー図学会認定専門技師、NST専門療法士、日本糖尿病療養指導士、がんゲノム医療コーディネーター、臨床実習指導者肝臓医療コーディネーター、臨床検査士、遺伝子分析化学認定士、認定一般、臨床化学・免疫化学精度保証管理、医療技術部門管理資格認定、認定HLA検査技術者、国際細胞検査士、細胞治療認定管理師、認定臨床微生物、認定血液、心電図検定、JHRS認定心電図専門士、心血管インターベンション技師、登録抗酸菌エキスパート	放射線技師	39	放射線治療専門、放射線治療品質管理、医学物理士、PET認定、救急撮影、第1種放射線取扱主任者、磁気共鳴専門技術者、X線CT認定技師、血管造影介入専門技師、血管診療技師、デジタルマンモグラフィ撮影認定、超音波検査士	その他	22	糖尿病療養指導士、病態栄養専門管理栄養士、がん病態栄養専門管理栄養士、がん病態栄養専門管理栄養士、栄養サポートチーム専門療法士、がん専門療法士、NSTコーディネーター、腎臓病療養指導士、静岡中部糖尿病療養指導士、専門理学療法士 (運動器、呼吸器、内部障害、循環器)	計	159		A	<p>感染管理、集中ケア等、病院全体の質の向上に資する分野の資格者を各病院に配置し、組織横断的に活動することができている。</p> <p>また、認定看護師等の病院運営に寄与する資格については、資格等取得資金貸付要綱を改定し、取得支援制度を拡充するなど、資格取得者の増員を図った。</p>																						
職種	人数	専門・認定領域																																																			
専門看護師	3	がん看護、急性・重症患者看護																																																			
認定看護師	16	救急看護、皮膚・排泄ケア、手術看護、乳がん看護、緩和ケア、集中ケア、がん化学療法、感染管理、脳卒中リハビリテーション、認知症看護、がん放射線療法																																																			
薬剤師	43	がん薬物療法認定、がん専門、がん指導、外来がん治療認定、外来がん治療専門病院薬学認定、研修認定、医療薬学専門、医療薬学指導、薬物療法専門、薬物療法指導、認定実務実習指導、認定CRC、周術期管理チーム、NST専門療法士、静岡中部糖尿病療養指導士、感染制御認定、抗菌化学療法認定、登録抗酸菌症エキスパート、精神科薬物療法認定、緩和薬物療法認定、緩和医療暫定指導、老年薬学認定、骨粗しょう症マネージャー、腎臓病療養指導士、心不全療養指導士、パーキンソン病療養指導士、公認スポーツファーマシスト																																																			
検査技師	36	緊急臨床検査士、認定病理、細胞検査士、超音波検査士、日本心エコー図学会認定専門技師、NST専門療法士、日本糖尿病療養指導士、がんゲノム医療コーディネーター、臨床実習指導者肝臓医療コーディネーター、臨床検査士、遺伝子分析化学認定士、認定一般、臨床化学・免疫化学精度保証管理、医療技術部門管理資格認定、認定HLA検査技術者、国際細胞検査士、細胞治療認定管理師、認定臨床微生物、認定血液、心電図検定、JHRS認定心電図専門士、心血管インターベンション技師、登録抗酸菌エキスパート																																																			
放射線技師	39	放射線治療専門、放射線治療品質管理、医学物理士、PET認定、救急撮影、第1種放射線取扱主任者、磁気共鳴専門技術者、X線CT認定技師、血管造影介入専門技師、血管診療技師、デジタルマンモグラフィ撮影認定、超音波検査士																																																			
その他	22	糖尿病療養指導士、病態栄養専門管理栄養士、がん病態栄養専門管理栄養士、がん病態栄養専門管理栄養士、栄養サポートチーム専門療法士、がん専門療法士、NSTコーディネーター、腎臓病療養指導士、静岡中部糖尿病療養指導士、専門理学療法士 (運動器、呼吸器、内部障害、循環器)																																																			
計	159																																																				
			70	<p>③臨床現場に即した、より実践的な研修を提供する。</p>	<p>実習・アルバイト研修等の受入れ (単位：人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="6">5年度</th> <th rowspan="2">計</th> </tr> <tr> <th>医師</th> <th>医学生</th> <th>看護師</th> <th>看護学生</th> <th>コメディカル</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>86</td> <td>377</td> <td>0</td> <td>591</td> <td>75</td> <td></td> <td>1,129</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>43</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>416</td> <td>8</td> <td></td> <td>470</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>94</td> <td>38</td> <td>9</td> <td>306</td> <td>60</td> <td></td> <td>507</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>223</td> <td>417</td> <td>10</td> <td>1,313</td> <td>143</td> <td></td> <td>2,106</td> </tr> </tbody> </table>	区分	5年度						計	医師	医学生	看護師	看護学生	コメディカル		総合	86	377	0	591	75		1,129	こころ	43	2	1	416	8		470	こども	94	38	9	306	60		507	計	223	417	10	1,313	143		2,106	A	<p>各病院では、例年医師、医学生、看護師、看護学生等を積極的に受け入れ、メディカルスキルアップセンター等を活用した臨床現場に即した実践的な研修を提供している。</p> <p>令和4年度(1,486人)より大幅に増加しており積極的な受け入れが実施出来た。</p>
区分	5年度						計																																														
	医師	医学生	看護師	看護学生	コメディカル																																																
総合	86	377	0	591	75		1,129																																														
こころ	43	2	1	416	8		470																																														
こども	94	38	9	306	60		507																																														
計	223	417	10	1,313	143		2,106																																														

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(R5、第3期中期目標期間)	令和5年度実績 自己評価																																																																																																																
						評価	説明																																																																																																															
			71	①研修体系プログラムの整備と研修内容の充実を図る。	<p>職員研修参加者数 (単位：人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新規採用職員研修</td> <td>125</td> <td>139</td> <td>160</td> <td>130</td> <td>147</td> <td>149</td> </tr> <tr> <td>新規役付職員研修</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>10</td> <td>271</td> <td>80</td> <td>54</td> </tr> <tr> <td>新規監督者研修</td> <td>18</td> <td>11</td> <td>16</td> <td>10</td> <td>16</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>労務管理者研修</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>120</td> <td>96</td> <td>96</td> <td>55</td> </tr> <tr> <td>新任管理者・新任監督者研修</td> <td>35</td> <td>21</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>133</td> </tr> <tr> <td>コミュニケーション講座</td> <td>30</td> <td>19</td> <td>31</td> <td>27</td> <td>24</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>接遇・クレーム対応講座</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>17</td> </tr> <tr> <td>ファシリテーション講座</td> <td>20</td> <td>25</td> <td>29</td> <td>30</td> <td>26</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>コーチング講座</td> <td>22</td> <td>20</td> <td>29</td> <td>19</td> <td>32</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>メンタルサポート講座</td> <td>14</td> <td>29</td> <td>24</td> <td>21</td> <td>18</td> <td>14</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 令和3年度以降は職務級制度の改正により新規役付き職員研修の対象者が増加した。</p>		30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	新規採用職員研修	125	139	160	130	147	149	新規役付職員研修	6	7	10	271	80	54	新規監督者研修	18	11	16	10	16	16	労務管理者研修	-	-	120	96	96	55	新任管理者・新任監督者研修	35	21	-	-	-	133	コミュニケーション講座	30	19	31	27	24	19	接遇・クレーム対応講座	-	-	-	-	-	17	ファシリテーション講座	20	25	29	30	26	19	コーチング講座	22	20	29	19	32	20	メンタルサポート講座	14	29	24	21	18	14	A	令和5年度についても、階層別、業務に必要なスキルを身につける専門研修を実施した。 令和5年度は、引続き働き方改革関連法に対応するための労務管理者研修を実施している。																																		
	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																
新規採用職員研修	125	139	160	130	147	149																																																																																																																
新規役付職員研修	6	7	10	271	80	54																																																																																																																
新規監督者研修	18	11	16	10	16	16																																																																																																																
労務管理者研修	-	-	120	96	96	55																																																																																																																
新任管理者・新任監督者研修	35	21	-	-	-	133																																																																																																																
コミュニケーション講座	30	19	31	27	24	19																																																																																																																
接遇・クレーム対応講座	-	-	-	-	-	17																																																																																																																
ファシリテーション講座	20	25	29	30	26	19																																																																																																																
コーチング講座	22	20	29	19	32	20																																																																																																																
メンタルサポート講座	14	29	24	21	18	14																																																																																																																
(2) 勤務環境の向上 優秀な医療従事者を確保するため、働きやすく、また、働きがいのある病院となるよう、ワーク・ライフ・バランスの向上の推進や職員の精神面を含めた健康保持に配慮するほか、医師をはじめとした医療従事者の業務分担を行うなど、勤務環境の向上を図ること。	(2) 勤務環境の向上 医師をはじめとした医療従事者の業務分担をはじめ、仕事と生活の調和に配慮した雇用形態や勤務時間の設定、時間外勤務の縮減、職員の健康保持への配慮や院内保育所の活用など、職員が働きやすく、働きがいを実感できる勤務環境づくりを進める。	(2) 勤務環境の向上 ①ワーク・ライフ・バランスに配慮した多様な雇用形態や勤務時間など柔軟な勤務条件の設定 ②医療従事者が本来業務に専念できる環境の整備 ③職員の意欲を高め、勤務実績が的確に反映される人事・給与制度の検討 ④職員が働きやすい施設等の環境整備 ⑤県立病院院内保育所の活用	-	-	-	-	-																																																																																																															
			72	①柔軟な職員採用や多様な雇用形態・勤務条件の設定を図る。	<p>看護師の2交代制勤務については、総合病院18部署、こころの医療センター3部署、こども病院10部署となっている。看護師の夜勤専従について、3病院で試行を行っている。</p> <p>アソシエイト採用実績 (単位：人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>看護師</td> <td>3</td> <td>-</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>10</td> <td>3</td> <td>8</td> <td>1</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>コメディカル</td> <td>3</td> <td>1</td> <td>5</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>16</td> <td>4</td> <td>14</td> <td>3</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table>	区分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	看護師	3	-	1	1	1	事務	10	3	8	1	2	コメディカル	3	1	5	1	1	計	16	4	14	3	4	A	令和5年度については、効果的な職員採用に繋げるため、看護師や事務職員に続き、コメディカルでもアソシエイト職員を採用し、優秀な人材確保を進めた。 看護師の2交代制や夜勤専従の取組など、雇用形態の多様化を図っている。 平成29年4月以降、診療賞与の導入により、医師の診療実績を的確に反映する給与体系となっている。																																																																																	
区分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																	
看護師	3	-	1	1	1																																																																																																																	
事務	10	3	8	1	2																																																																																																																	
コメディカル	3	1	5	1	1																																																																																																																	
計	16	4	14	3	4																																																																																																																	
			73	②医療従事者の事務的業務の軽減を図り、本来業務に専念できる環境の整備や業務多忙を解消するために、医療秘書・助手等を効果的に配置する。	<p>補助職員の配置状況 (各年度4月1日現在) (単位：人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">総合</td> <td>医師事務補助</td> <td>73</td> <td>71</td> <td>70</td> <td>76</td> <td>72</td> </tr> <tr> <td>看護助手</td> <td>73</td> <td>66</td> <td>61</td> <td>58</td> <td>56</td> </tr> <tr> <td>コメディカル助手</td> <td>19</td> <td>22</td> <td>20</td> <td>23</td> <td>26</td> </tr> <tr> <td>小計</td> <td>165</td> <td>159</td> <td>151</td> <td>157</td> <td>154</td> <td>156</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">こころ</td> <td>医師事務補助</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>看護助手</td> <td>8</td> <td>8</td> <td>9</td> <td>9</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>コメディカル助手</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>小計</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>13</td> <td>12</td> <td>13</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">こども</td> <td>医師事務補助</td> <td>19</td> <td>19</td> <td>20</td> <td>19</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>看護助手</td> <td>21</td> <td>25</td> <td>22</td> <td>21</td> <td>21</td> </tr> <tr> <td>コメディカル助手</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>6</td> <td>8</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>小計</td> <td>45</td> <td>49</td> <td>48</td> <td>48</td> <td>47</td> <td>43</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">計</td> <td>医師事務補助</td> <td>94</td> <td>92</td> <td>92</td> <td>96</td> <td>94</td> </tr> <tr> <td>看護助手</td> <td>102</td> <td>99</td> <td>92</td> <td>88</td> <td>86</td> </tr> <tr> <td>コメディカル助手</td> <td>26</td> <td>29</td> <td>28</td> <td>33</td> <td>34</td> </tr> <tr> <td>小計</td> <td>222</td> <td>220</td> <td>212</td> <td>217</td> <td>214</td> <td>209</td> </tr> </tbody> </table>	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	総合	医師事務補助	73	71	70	76	72	看護助手	73	66	61	58	56	コメディカル助手	19	22	20	23	26	小計	165	159	151	157	154	156	こころ	医師事務補助	2	2	2	1	2	看護助手	8	8	9	9	9	コメディカル助手	2	2	2	2	2	小計	12	12	13	12	13	10	こども	医師事務補助	19	19	20	19	20	看護助手	21	25	22	21	21	コメディカル助手	5	5	6	8	6	小計	45	49	48	48	47	43	計	医師事務補助	94	92	92	96	94	看護助手	102	99	92	88	86	コメディカル助手	26	29	28	33	34	小計	222	220	212	217	214	209	A	医師の事務補助を行う職員の配置については、電子カルテの入力業務等により、医師が診療に専念できる等、事務負担軽減の効果が確認されている。 総合病院では、医師の増加、外来診療枠の拡大に応じて、医療従事者が診療に専念できるように医師事務作業補助者を配置しており、令和5年度においても、診療報酬の施設基準上、最上位基準を維持している。 なお、令和4年度から派遣会社を活用した夜間看護補助者の配置を開始し、看護師の負担軽減および診療報酬上の加算も併せて取得することができている。 また、看護助手等の補助職員の配置により、医療従事者が国家資格所有者でなければできない業務に専念できている。
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																
総合	医師事務補助	73	71	70	76	72																																																																																																																
	看護助手	73	66	61	58	56																																																																																																																
	コメディカル助手	19	22	20	23	26																																																																																																																
小計	165	159	151	157	154	156																																																																																																																
こころ	医師事務補助	2	2	2	1	2																																																																																																																
	看護助手	8	8	9	9	9																																																																																																																
	コメディカル助手	2	2	2	2	2																																																																																																																
小計	12	12	13	12	13	10																																																																																																																
こども	医師事務補助	19	19	20	19	20																																																																																																																
	看護助手	21	25	22	21	21																																																																																																																
	コメディカル助手	5	5	6	8	6																																																																																																																
小計	45	49	48	48	47	43																																																																																																																
計	医師事務補助	94	92	92	96	94																																																																																																																
	看護助手	102	99	92	88	86																																																																																																																
	コメディカル助手	26	29	28	33	34																																																																																																																
小計	222	220	212	217	214	209																																																																																																																
			74	③全職員を対象とした人事評価制度を円滑に実施する。	<p>県準拠として職員組合と合意し、平成30年4月から試行を開始した人事評価制度については、令和2年度から給与(勤勉手当)に活用、令和3年度から昇給に活用し(令和4年度前期、後期の評価を令和6年1月1日昇給に活用)、全職員(有期雇用職員、再雇用職員、休職中の職員等を除く)を対象に実施している。</p>	A	平成30年4月から試行を開始した人事評価制度については、令和2年度から給与(勤勉手当)に活用、令和3年度から昇給に活用し(令和4年度前期、後期の評価を令和6年1月1日昇給に活用)、全職員(有期雇用職員、再雇用職員、休職中の職員等を除く)を対象に実施している。																																																																																																															

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(R5、第3期中期目標期間)	令和5年度実績 自己評価																																							
						評価	説明																																						
			75	④就労環境の改善に向けた院内施設、子育て支援や相談など福利厚生の実施を進める。	<p>【総合病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>総合病院では、令和5年9月に静岡県から特定及び連携型特定地域医療提供機関の指定を受けたため、許可された医師の労働時間短縮計画等に基づき、医師の労働時間短縮の取組等を推進した。</li> <li>院内保育所については、保育所運営協議会において、事務局、委託先、利用者間の意見交換を行い、院内保育所入所者を対象にインフルエンザ予防接種を令和5年度も実施した。</li> </ul> <p>【こころの医療センター】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新電子カルテへの入力をスムーズに行うため、端末と移動カートを配備した。</li> </ul> <p>【こども病院】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>会議でのタブレット端末(ipad)の活用や、オンライン会議でのZoomRoomsの活用により、会議に係る業務の効率化を図った。</li> <li>職員研修にeラーニングツールであるSafetyPlusを導入し、受講や受講管理の効率化を図った。</li> </ul>	S	<p>総合病院では、令和5年9月に静岡県から特定及び連携型特定地域医療提供機関の指定を受けたため、許可された医師の労働時間短縮計画等に基づき、医師の労働時間短縮の取組等を推進した。</p> <p>チーム制・複数主治医制の導入を推進し、患者・家族等への時間外の説明などを原則禁止し、休暇の取得も推進した。現在継続している医師から看護・メディカルスタッフ・事務等への業務のタスクシフト(看護師特定行為の推進、持続皮下グルコース検査の推進他)を推進し、併せて、タスクシフトを行う、看護・メディカルスタッフ・事務等の労働環境の改善を推進した。</p> <p>医師の労働時間短縮計画に基づき、水準指定医師で勤務間インターバルが取得できなかった医師を毎月検証し、当該医師及び及び当該上司(診療科部長)に対し、代償休息の取得を依頼し、その実績について毎月検証(令和5年4月1日以降、試行中)した。</p> <p>令和6年4月から月の法定外時間外労働+休日労働時間数が100時間を超える見込みの医師について、毎月当該医師の時間外労働時間数が80時間を超えた時点で面接指導実施医師により(面接指導実施医師は現在5人)、面接指導を実施した。</p> <p>なお、毎月の時間外労働時間数が100時間を超える見込みの医師は毎月1日等の日を決めて、面接を実施する。令和6年度計画について検証し、時点修正を行う等、PDCAサイクルを回していく。</p> <p>こころの医療センターでは、病棟に新型電子カルテに対応した端末と移動カートを配架し、患者情報の入力を迅速に行えるよう改善した。</p> <p>こども病院では、タブレット端末(ipad)を活用した会議運営を拡大するとともに、オンライン会議におけるZoomRoomsの活用を継続して行った。また、令和5年5月から、職員研修にeラーニングツールであるSafetyPlusを導入し、受講や受講管理の効率化を図った。</p> <p>看護師等が離職することを防止するため、こころのケアだけでなく体力低下で看護業務へ支障を来さないよう日常生活相談を含め、心身に対するきめ細かい対応を行い、長期に渡り勤務できる環境を整える取組を行っている。</p> <p>また、国に先駆けて「就学前児童の養育資金貸付制度」を創設し、独立行政法人ならではの画期的な取組であるとして、全国の自治体から注目を集めた。当機構の制度をモデルケースとして同様の制度が制定される動きが広まっている。</p> <p>なお、政府が、子育てと職場復帰の両立のための支援のために、育児短時間勤務で働く人向けに、新たな現金給付を創設する方向で検討に入った旨の報道もなされている。引き続き、院内施設の実施や、就労環境の向上に取り組んでいく。</p>																																						
			76	⑤院内保育の活用を図る。	<p>保育所利用者数 (単位：人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">定員</th> <th colspan="6">平均利用者数</th> </tr> <tr> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合「おひさま」</td> <td>100</td> <td>82</td> <td>75</td> <td>65</td> <td>65</td> <td>70</td> <td>60</td> </tr> <tr> <td>こども「ことり」</td> <td>80</td> <td>13</td> <td>16</td> <td>17</td> <td>19</td> <td>32</td> <td>32</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>180</td> <td>95</td> <td>91</td> <td>82</td> <td>84</td> <td>102</td> <td>92</td> </tr> </tbody> </table>	区分	定員	平均利用者数						30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	総合「おひさま」	100	82	75	65	65	70	60	こども「ことり」	80	13	16	17	19	32	32	計	180	95	91	82	84	102	92	A	<p>各病院の院内保育所では、育児をしながら勤務する医師や看護師の就労環境の向上のため、保育メニュー等の更なる充実を図っている。</p> <p>総合病院では、二重保育や夜間保育、土日預かり等の多様なメニューを揃え、子育てしながら働きやすい環境を引き続き提供できている。幼保無償化の影響により入所者数が減少しているため、有期コメディカル・正規事務の入所を開始した。また、院内保育所利用者を対象としたインフルエンザ予防接種も実施している。</p> <p>こども病院では、令和5年度は45人を上限に運用し、二重保育や病後児保育等の保育サービスに対応した。</p>
区分	定員	平均利用者数																																											
		30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																						
総合「おひさま」	100	82	75	65	65	70	60																																						
こども「ことり」	80	13	16	17	19	32	32																																						
計	180	95	91	82	84	102	92																																						

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(R5、第3期中期目標期間)	令和5年度実績 自己評価																																																																																																																																																																																	
						評価	説明																																																																																																																																																																																
3 医療に関する調査及び研究	3 医療に関する調査及び研究	3 医療に関する調査及び研究	-	-	-	-	-																																																																																																																																																																																
医療や県民の健康寿命延伸に関する調査及び研究を行い、県立病院が提供する医療の高度化や本県の医療水準の向上、県民の健康寿命の延伸に寄与すること。	県内医療水準の向上と県民の健康寿命延伸に寄与するため、病院が有する医療資源の活用、院外への情報発信、他の機関との連携を図りながら、調査及び研究に取り組む。また、それらを円滑に進めるため、診療録の電子化等の医療情報基盤の活用・充実強化に努める。	県内の医療水準の向上と県民の健康寿命延伸に寄与するため、県立病院としての医療資源の活用、院外への情報発信、他機関との連携等により調査・研究に取り組む。	-	-	-	-	-																																																																																																																																																																																
(1) 研究機能の強化	(1) 研究機能の強化	(1) 研究機能の強化	-	-	-	-	-																																																																																																																																																																																
各病院が臨床研究に取り組み、その研究成果の発信等により、県内医療水準の向上及び医療人材の確保に努めること。また、県立総合病院のリサーチサポートセンターにおいて、医療ビッグデータを活用した疫学、ゲノム研究など県が推進する社会健康医学研究に協力すること。さらに、産学官との連携による共同研究や治験に取り組むこと。	県立総合病院のリサーチサポートセンターを活用し、各病院が臨床研究に取り組み、その成果を発信することなどにより、県内医療水準の向上と医療人材の確保に努める。また、県が定めた社会健康医学研究推進計画に基づき、社会健康医学の研究推進に協力する。治験や調査研究事業の推進に参画できるよう引き続き体制の整備を行い、県立大学等の研究機関との共同研究にも取り組む。	①各大学院や研究所等との連携を強化し、病院機構が行う特色ある研究の推進・発展 ②県立総合病院リサーチサポートセンターの臨床研究を行う環境整備及び研究支援体制の充実 ③静岡社会健康医学大学院大学と連携した社会健康医学研究の充実・推進 ④聴覚障害児における言語獲得の研究実施と早期治療体制の構築 ⑤県立総合病院リサーチサポートセンターにおいて、静岡県からの受託研究として、「県民の健康寿命の更なる延伸」に向けた社会健康医学研究の実施 ⑥治験や調査研究事業に積極的に参画できる体制の整備・充実による受託件数の増加 ⑦県立大学等の研究機関との共同研究	77	①②臨床研究や疫学研究の充実・研究員を確保し、円滑な運用を行う。 ③④⑤研究体制を充実させ、研究を円滑に行い、研究成果を体形的に蓄積するとともに、県民へ成果の還元を行う。 ④聴覚障害児における言語獲得の研究支援について、外部機関との連携を推進する。 ④研究体制を充実させ、受託研究を円滑に行い、研究成果を体形的に蓄積するとともに、県民へ成果の還元を行う。 ⑥研究資金となる奨学寄附金を受入れる。 ⑥研究支援室による臨床研究の支援を行う。 ⑦県立大学との共同研究を行う。	総合	臨床研究数 (単位：件、%) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> <th>毎年度目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>研究数</td> <td>332</td> <td>376</td> <td>399</td> <td>329</td> <td>409</td> <td>449</td> <td>280以上</td> </tr> <tr> <td>支援研究数</td> <td>38</td> <td>50</td> <td>57</td> <td>68</td> <td>67</td> <td>71</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>支援率</td> <td>11.4</td> <td>13.3</td> <td>14.3</td> <td>20.7</td> <td>16.4</td> <td>15.8</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table> 客員研究員受入状況 (単位：人) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>静岡県立大学</td> <td>14</td> <td>15</td> <td>15</td> <td>15</td> <td>13</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>外部</td> <td>11</td> <td>22</td> <td>25</td> <td>16</td> <td>16</td> <td>15</td> </tr> </tbody> </table> 社会健康医学受託研究の実施状況 (単位：件) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>11</td> <td>11</td> <td>35</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table> 奨学寄附金受入件数・金額 <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>寄附者</th> <th>目的</th> <th>金額(千円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">元年度</td> <td>日本ベリカール・インゲルハム株式会社</td> <td>糖尿病治療に関する研究</td> <td>200</td> </tr> <tr> <td>日本ベリカール・インゲルハム株式会社</td> <td>呼吸器疾患における研究</td> <td>200</td> </tr> <tr> <td colspan="3">合計</td> <td>400</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">2年度</td> <td>日本ベリカール・インゲルハム株式会社</td> <td>糖尿病治療に関する研究</td> <td>200</td> </tr> <tr> <td>日本ベリカール・インゲルハム株式会社</td> <td>呼吸器疾患における研究</td> <td>200</td> </tr> <tr> <td>アミカス・セラピューティクス株式会社</td> <td>遺伝性疾患に関する研究支援</td> <td>500</td> </tr> <tr> <td>株式会社ジャパン・ティッシュ・エンジニアリング</td> <td>整形外科疾患における研究</td> <td>1,000</td> </tr> <tr> <td colspan="3">合計</td> <td>1,900</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">3年度</td> <td>日本ベリカール・インゲルハム株式会社</td> <td>糖尿病治療に関する研究</td> <td>200</td> </tr> <tr> <td>日本ベリカール・インゲルハム株式会社</td> <td>呼吸器疾患における研究</td> <td>200</td> </tr> <tr> <td>大正製薬株式会社</td> <td>糖尿病疾患の治療に関する研究</td> <td>300</td> </tr> <tr> <td colspan="3">合計</td> <td>700</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">4年度</td> <td>日本ベリカール・インゲルハム株式会社</td> <td>糖尿病治療に関する研究</td> <td>200</td> </tr> <tr> <td>日本ベリカール・インゲルハム株式会社</td> <td>呼吸器疾患における研究</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>京セラ株式会社</td> <td>変形関節症に関する研究</td> <td>1,500</td> </tr> <tr> <td>第10回日本婦人科ロボット手術学会</td> <td>産婦人科の診断治療に関する研究</td> <td>500</td> </tr> <tr> <td colspan="3">合計</td> <td>2,300</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">5年度</td> <td>日本ベリカール・インゲルハム株式会社</td> <td>糖尿病治療に関する研究</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>日本ベリカール・インゲルハム株式会社</td> <td>呼吸器疾患における研究</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>バイタル株式会社</td> <td>心臓血管外科における研究</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>京セラ株式会社</td> <td>変形関節症に関する研究</td> <td>1,500</td> </tr> <tr> <td colspan="3">合計</td> <td>1,800</td> </tr> </tbody> </table> 新生児聴覚スクリーニング件数 (単位：件) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>スクリーニング件数</td> <td>470</td> <td>541</td> <td>567</td> <td>549</td> <td>488</td> <td>471</td> </tr> </tbody> </table> 人工内耳埋込術件数 (単位：件) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>15</td> <td>13</td> <td>9</td> <td>13</td> <td>24</td> <td>25</td> </tr> </tbody> </table>	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標	研究数	332	376	399	329	409	449	280以上	支援研究数	38	50	57	68	67	71	-	支援率	11.4	13.3	14.3	20.7	16.4	15.8	-	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	静岡県立大学	14	15	15	15	13	13	外部	11	22	25	16	16	15	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	件数	11	11	35	3	3	1	区分	寄附者	目的	金額(千円)	元年度	日本ベリカール・インゲルハム株式会社	糖尿病治療に関する研究	200	日本ベリカール・インゲルハム株式会社	呼吸器疾患における研究	200	合計			400	2年度	日本ベリカール・インゲルハム株式会社	糖尿病治療に関する研究	200	日本ベリカール・インゲルハム株式会社	呼吸器疾患における研究	200	アミカス・セラピューティクス株式会社	遺伝性疾患に関する研究支援	500	株式会社ジャパン・ティッシュ・エンジニアリング	整形外科疾患における研究	1,000	合計			1,900	3年度	日本ベリカール・インゲルハム株式会社	糖尿病治療に関する研究	200	日本ベリカール・インゲルハム株式会社	呼吸器疾患における研究	200	大正製薬株式会社	糖尿病疾患の治療に関する研究	300	合計			700	4年度	日本ベリカール・インゲルハム株式会社	糖尿病治療に関する研究	200	日本ベリカール・インゲルハム株式会社	呼吸器疾患における研究	100	京セラ株式会社	変形関節症に関する研究	1,500	第10回日本婦人科ロボット手術学会	産婦人科の診断治療に関する研究	500	合計			2,300	5年度	日本ベリカール・インゲルハム株式会社	糖尿病治療に関する研究	100	日本ベリカール・インゲルハム株式会社	呼吸器疾患における研究	100	バイタル株式会社	心臓血管外科における研究	100	京セラ株式会社	変形関節症に関する研究	1,500	合計			1,800	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	スクリーニング件数	470	541	567	549	488	471	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	件数	15	13	9	13	24	25	S	病院機構では、リサーチサポートセンターを活用した研究に取り組んでおり、文部科学省科学研究費についてはすべての診療部門が申請対象となっている。令和5年度における文部科学省科学研究費の応募状況は、応募件数3件で、総合病院採択分の過年度からの研究継続件数は5件、他施設分担研究の継続件数は4件、他施設で採択され異動に伴い当院に移管した件数が1件と、合計10件の研究を取り扱っている。 また、静岡社会健康医学大学院大学との連携も引き続き強化しており、令和5年度に博士前期課程に1名、博士後期課程に1名を選定している。 きこえとことばのセンター(静岡県乳幼児聴覚支援センター)では、乳幼児期の難聴や人工内耳の装着による脳の発達メカニズムに関する研究をNTTコミュニケーション科学基礎研究所と共同で実施している。 また、難聴児の音声言語獲得に高い実績を持つ、オーストラリアのシェパードセンターの療育プログラムによるパイロットセンター立ち上げの準備を静岡県と共に現地スタッフとのオンラインミーティングを重ねながら進めている。 また、並行して新生児聴覚スクリーニング検査をオンサイト入力することで、関係機関との情報共有を可能にし、難聴の早期発見、早期介入、その後の支援につなげるための一元化された情報管理システムを開発し、県下での導入を進めるなど、きこえとことばのセンターの事業について積極的に取り組んでいる。
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標																																																																																																																																																																																
研究数	332	376	399	329	409	449	280以上																																																																																																																																																																																
支援研究数	38	50	57	68	67	71	-																																																																																																																																																																																
支援率	11.4	13.3	14.3	20.7	16.4	15.8	-																																																																																																																																																																																
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																																																																	
静岡県立大学	14	15	15	15	13	13																																																																																																																																																																																	
外部	11	22	25	16	16	15																																																																																																																																																																																	
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																																																																	
件数	11	11	35	3	3	1																																																																																																																																																																																	
区分	寄附者	目的	金額(千円)																																																																																																																																																																																				
元年度	日本ベリカール・インゲルハム株式会社	糖尿病治療に関する研究	200																																																																																																																																																																																				
	日本ベリカール・インゲルハム株式会社	呼吸器疾患における研究	200																																																																																																																																																																																				
合計			400																																																																																																																																																																																				
2年度	日本ベリカール・インゲルハム株式会社	糖尿病治療に関する研究	200																																																																																																																																																																																				
	日本ベリカール・インゲルハム株式会社	呼吸器疾患における研究	200																																																																																																																																																																																				
	アミカス・セラピューティクス株式会社	遺伝性疾患に関する研究支援	500																																																																																																																																																																																				
	株式会社ジャパン・ティッシュ・エンジニアリング	整形外科疾患における研究	1,000																																																																																																																																																																																				
合計			1,900																																																																																																																																																																																				
3年度	日本ベリカール・インゲルハム株式会社	糖尿病治療に関する研究	200																																																																																																																																																																																				
	日本ベリカール・インゲルハム株式会社	呼吸器疾患における研究	200																																																																																																																																																																																				
	大正製薬株式会社	糖尿病疾患の治療に関する研究	300																																																																																																																																																																																				
合計			700																																																																																																																																																																																				
4年度	日本ベリカール・インゲルハム株式会社	糖尿病治療に関する研究	200																																																																																																																																																																																				
	日本ベリカール・インゲルハム株式会社	呼吸器疾患における研究	100																																																																																																																																																																																				
	京セラ株式会社	変形関節症に関する研究	1,500																																																																																																																																																																																				
	第10回日本婦人科ロボット手術学会	産婦人科の診断治療に関する研究	500																																																																																																																																																																																				
合計			2,300																																																																																																																																																																																				
5年度	日本ベリカール・インゲルハム株式会社	糖尿病治療に関する研究	100																																																																																																																																																																																				
	日本ベリカール・インゲルハム株式会社	呼吸器疾患における研究	100																																																																																																																																																																																				
	バイタル株式会社	心臓血管外科における研究	100																																																																																																																																																																																				
	京セラ株式会社	変形関節症に関する研究	1,500																																																																																																																																																																																				
合計			1,800																																																																																																																																																																																				
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																																																																	
スクリーニング件数	470	541	567	549	488	471																																																																																																																																																																																	
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																																																																	
件数	15	13	9	13	24	25																																																																																																																																																																																	

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(R5、第3期中期目標期間)	令和5年度実績 自己評価																																																																							
						評価	説明																																																																						
		【目標値】 ・臨床研究数(総合)	78	⑤医療水準の向上と院内における医療の質の高度化に資するため、新薬開発や臨床研究などへ参画する。	<p>医薬品受託研究事業費・契約件数 (単位：千円、件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>24</td> <td>17</td> <td>17</td> <td>23</td> <td>25</td> <td>27</td> </tr> <tr> <td>件数</td> <td>101,428</td> <td>42,504</td> <td>27,994</td> <td>58,794</td> <td>91,214</td> <td>57,272</td> </tr> <tr> <td>契約額</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>件数</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>契約額</td> <td>26</td> <td>35</td> <td>23</td> <td>37</td> <td>58</td> <td>58</td> </tr> <tr> <td>件数</td> <td>14,018</td> <td>29,479</td> <td>12,041</td> <td>20,531</td> <td>14,282</td> <td>12,143</td> </tr> <tr> <td>契約額</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	総合	24	17	17	23	25	27	件数	101,428	42,504	27,994	58,794	91,214	57,272	契約額	0	0	0	0	0	0	件数	0	0	0	0	0	0	契約額	26	35	23	37	58	58	件数	14,018	29,479	12,041	20,531	14,282	12,143	契約額							A	令和5年度も、製薬会社等からの依頼を受け、新薬開発に係る治験を行っている。 治験が終了し市販に至った薬品があり、新薬提供の一助となっている。市販薬の市販後調査を適正に実施し、安心安全な医療に寄与している。														
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																							
総合	24	17	17	23	25	27																																																																							
件数	101,428	42,504	27,994	58,794	91,214	57,272																																																																							
契約額	0	0	0	0	0	0																																																																							
件数	0	0	0	0	0	0																																																																							
契約額	26	35	23	37	58	58																																																																							
件数	14,018	29,479	12,041	20,531	14,282	12,143																																																																							
契約額																																																																													
(2) 診療等の情報の活用	(2) 診療等の情報の活用	(2) 診療等の情報の活用	-	-	-	-	-	-																																																																					
診療等を通じて得られる情報を県立病院で提供する医療の質の向上のために活用するとともに、他の医療機関へ情報提供すること。	診療録等医療情報の電子化や管理機能の充実を図り、科学的根拠を集積・分析し、カンファレンス、臨床研修、臨床研究等において活用し、医療の質の向上を図る。また、学会、講習会、研究会等へ情報発信しやすい体制を整備する。	①診療情報等の分析のできるシステムの活用	79	①DPCの診療情報に基づく症例分析を行う。	<p>DPCコーディング部会開催実績 (単位：回、人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>開催回数</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>出席者数</td> <td>37</td> <td>25</td> <td>33</td> <td>27</td> <td>23</td> <td>23</td> </tr> </tbody> </table>	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	開催回数	4	4	4	4	4	4	出席者数	37	25	33	27	23	23	A	DPCデータの分析結果を元に、医局会においてDPC入院期間Ⅱ以内の退院状況や副傷病名の付与率等を報告するとともに、DPCコーディング部会における議論等により平均在院日数の短縮やDPCコーディングの適正化に努めている。																																																	
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																							
開催回数	4	4	4	4	4	4																																																																							
出席者数	37	25	33	27	23	23																																																																							
		①DPCの診療情報を分析し、診療へフィードバックを行う。また、職員の分析にかかるとともに適切なスキルアップに努める。	80	①DPCの診療情報を分析し、診療へフィードバックを行う。また、職員の分析にかかるとともに適切なスキルアップに努める。	<p>DPCデータの分析結果を診療へ活かすとともに適切なコーディングを周知するため、DPC部会兼コード検討委員会を開催した。</p> <p>DPC部会兼コード検討委員会開催実績 (単位：回、人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>開催回数</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>出席者数</td> <td>49</td> <td>49</td> <td>58</td> <td>40</td> <td>42</td> <td>56</td> </tr> </tbody> </table>	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	開催回数	4	4	4	4	4	4	出席者数	49	49	58	40	42	56	A	早期のデータ入力を継続して促し適切なコーディングを行うことで診療報酬を漏れなく請求した。																																																	
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																							
開催回数	4	4	4	4	4	4																																																																							
出席者数	49	49	58	40	42	56																																																																							
4 医療に関する地域への支援	4 医療に関する地域への支援	4 医療に関する地域への支援	-	-	-	-	-	-																																																																					
本県の地域医療の確保のため、県立病院がその支援に大きな役割を果たし、信頼され、必要とされる病院であり続けるよう努めること。	地域医療を確保するための支援の中心的機能を果たすため、県立病院が有する医療資源を積極的に活用するなど、積極的な支援を進める。	地域医療を確保するための支援の中心的機能を果たすため、県立病院が有する医療資源を積極的に活用するなど、積極的な支援を進める。	-	-	-	-	-	-																																																																					
(1) 地域の医療機関等との連携・支援	(1) 地域の医療機関等との連携・支援	(1) 地域の医療機関等との連携・支援	-	-	-	-	-	-																																																																					
県が策定する医師確保計画の推進に協力し、医師不足の公的医療機関に対し医師派遣を行うこと。また、他の医療機関から紹介された患者の受入れ及び患者に適した医療機関の紹介を積極的に行うこと。さらに、高度医療機器の共同利用の促進、ICTを活用した他の医療機関等との医療情報の共有など、地域医療の確保への支援を一層推進すること。	県が策定する医師確保計画の推進に協力する。 県立病院の医師の増員及び育成を図り、地域医療を支える県内医療機関への医師派遣の充実に取り組む。また、ICTを活用した医療連携、遠隔診断のネットワークづくりや、高度医療機器などの共同利用を推進し、県立病院の施設、設備や機能について地域への開放を進める。	①県内の医師確保・偏在解消等を県、浜松医科大学、静岡社会健康医学大学院大学等と連携して実施 ②県の医師派遣事業及び常勤医師の派遣への協力 ③地域医療連携推進法人制度を活用等による本県の医師確保、医師の人材育成、地域医療構想推進の支援及び病院の機能分化・連携強化 ④静岡市清水区の桜ヶ丘病院へ医師派遣等を行い清水区の病院医療の充実を支援 ⑤県内病院への常勤幹部医師の配置 ⑥専門医制度への対応 ⑦医療機器の共同利用の推進 ⑧ICT技術を活用した地域医療機関等との連携及び支援	81	①②⑤⑥県内の医師確保、偏在解消等を県、浜松医科大学、静岡社会健康医学大学院大学等と連携して実施するほか、地域医療支援病院としての使命を果たすため医師を確保したうえで、医師不足が顕著な公的病院に医師を派遣する。 ③④⑦⑧地域医療連携推進法人制度を活用して、静岡市清水区の桜ヶ丘病院への医師派遣等を行い、県の地域医療構想を推進することにより、地域において質が高く効率的な医療提供体制を構築する。	<p>医師定数 (各年度4月1日現在) (単位：人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>定数</td> <td>271</td> <td>283</td> <td>314</td> <td>320</td> <td>317</td> <td>317</td> </tr> </tbody> </table> <p>(総合)</p> <p>医師派遣実績 (単位：機関、科、人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医療機関等</td> <td>8</td> <td>9</td> <td>9</td> <td>6</td> <td>9</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>診療科</td> <td>9</td> <td>11</td> <td>11</td> <td>11</td> <td>9</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>延人員数</td> <td>513</td> <td>752</td> <td>687</td> <td>501</td> <td>583</td> <td>726</td> </tr> </tbody> </table> <p>(こども)</p> <p>静岡市立静岡病院、焼津市立総合病院、藤枝市立総合病院、島田市立総合医療センター、中東遠総合医療センター、県中西部発達障害者支援センター、静岡赤十字病院に医師を派遣した。また、県の要請に基づき、重症心身障害児施設つばさ静岡にも医師を派遣した。</p> <p>医師派遣実績 (公的病院等) (単位：機関、科、人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医療機関等</td> <td>5</td> <td>7</td> <td>7</td> <td>8</td> <td>8</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>診療科</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>延人員数</td> <td>202</td> <td>282</td> <td>277</td> <td>351</td> <td>333</td> <td>381</td> </tr> </tbody> </table>	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	定数	271	283	314	320	317	317	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	医療機関等	8	9	9	6	9	10	診療科	9	11	11	11	9	10	延人員数	513	752	687	501	583	726	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	医療機関等	5	7	7	8	8	8	診療科	2	2	3	3	3	3	延人員数	202	282	277	351	333	381	A	県立病院としての役割を果たすため、継続的に医師確保に努めている一方、医師不足が顕著な公的病院等については医師派遣を行った。 令和3年4月7日、静岡県知事より、県内初の地域医療連携推進法人となる「ふじのくに社会健康医療連合」の認定を受け、当院、桜ヶ丘病院、静岡社会健康医学大学院大学の3法人が参画している。静岡市清水区の医療を支える桜ヶ丘病院を存続させるため、総合病院から桜ヶ丘病院に対して医師派遣を行った。さらに、地域医療に貢献する志を持った医師の確保・育成を推進するため、参画施設に、病院機構のこの医療センターとこども病院を加えた。 (総合) 医療機関等に対しては、桜ヶ丘病院、島田市立総合医療センター、富士宮市立病院、伊豆赤十字病院、佐久間病院、川根本町いやしの里診療所、静岡赤十字病院、静岡市立病院、沼津市立病院、つばさ静岡の計10箇所に医師派遣を行った。 (こども) 令和5年度、県内の8医療機関等に医師を派遣し、県内各地の地域医療を支援した。また、公的病院だけでなく、県の要請に基づき、重症心身障害児施設にも医師を派遣し、地域貢献を果たした。小児科医が不足する医療機関からの派遣要請には可能な限り対応していく必要があり、働き方改革への対応とのバランスをとりながらも要請には全て応えた。
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																							
定数	271	283	314	320	317	317																																																																							
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																							
医療機関等	8	9	9	6	9	10																																																																							
診療科	9	11	11	11	9	10																																																																							
延人員数	513	752	687	501	583	726																																																																							
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																							
医療機関等	5	7	7	8	8	8																																																																							
診療科	2	2	3	3	3	3																																																																							
延人員数	202	282	277	351	333	381																																																																							

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(R5、第3期中期目標期間)	令和5年度実績 自己評価																																													
						評価	説明																																												
			82	②小児1次救急医療への応援を行う。	<p>静岡市急病センター、志太榛原地域救急医療センターへ継続的に医師を派遣した。</p> <p>医師派遣実績（急病センター）（単位：機関、科、人）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医療機関</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>診療科</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>延人員数</td> <td>218</td> <td>214</td> <td>197</td> <td>165</td> <td>194</td> <td>240</td> </tr> </tbody> </table> <p>【参考】医師派遣実績計</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>医療機関</th> <th>診療科</th> <th>延人員数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>公的病院</td> <td>8</td> <td>3</td> <td>381</td> </tr> <tr> <td>急病センター</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>240</td> </tr> <tr> <td></td> <td>10</td> <td>※4</td> <td>621</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 重複のため計が一致しない</p>	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	医療機関	2	2	2	2	2	2	診療科	2	2	2	2	2	2	延人員数	218	214	197	165	194	240	区 分	医療機関	診療科	延人員数	公的病院	8	3	381	急病センター	2	2	240		10	※4	621	A	令和5年度は、静岡市急病センター及び志太榛原地域救急医療センターへ継続的に医師を派遣し、地域の小児1次救急医療を支援した。小児1次救急医療の成立のため、派遣要請には可能な限り対応していく方針であり、働き方改革への対応とのバランスをとりながらも要請には全て応えた。
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																													
医療機関	2	2	2	2	2	2																																													
診療科	2	2	2	2	2	2																																													
延人員数	218	214	197	165	194	240																																													
区 分	医療機関	診療科	延人員数																																																
公的病院	8	3	381																																																
急病センター	2	2	240																																																
	10	※4	621																																																
			83	④静岡社会健康大学院大学と連携して、医師の配置調整など「ふじのくに地域医療支援センター」業務を支援する。	<p>『ふじのくに地域医療支援センター』の機能の一部業務である「県内での勤務を希望する医師および研修医の就業・キャリア形成等の相談」、「静岡県医学修学研修資金貸与者の勤務先病院の決定支援」の業務を受託し、県内医師確保のための役割の一部を担っている。</p> <p>配置調整医師数及び県内勤務開始者数（単位：名）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>勤務開始年度</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>配置調整医師数</td> <td>64</td> <td>76</td> <td>108</td> <td>125</td> <td>160</td> <td>163</td> </tr> <tr> <td>うち県内勤務医師数</td> <td>39</td> <td>47</td> <td>71</td> <td>83</td> <td>107</td> <td>108</td> </tr> </tbody> </table> <p>※配置調整は各前年度となる。</p>	勤務開始年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	配置調整医師数	64	76	108	125	160	163	うち県内勤務医師数	39	47	71	83	107	108	A	静岡社会健康大学院大学と連携して、県の医師確保施策に寄与できるよう努めた。																							
勤務開始年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																													
配置調整医師数	64	76	108	125	160	163																																													
うち県内勤務医師数	39	47	71	83	107	108																																													
			84	⑥専攻医を受け入れる体制を整備し、専攻医の募集を行う。	<p>(総合)</p> <p>令和5年度中に2領域増設し、令和6年度以降は全19領域中12領域においてプログラムを実施することとなった。令和6年度は、21名が当院の専門研修プログラムに所属予定となっている。新型コロナウイルス感染症以降、当院ホームページにプログラム説明動画を公開のうえ専門研修プログラムの魅力を発信した。また、オンライン会議システムを利用し、面談を行うなど専攻医確保に努めている。</p> <p>(こども)</p> <p>病院見学の受入を積極的に行い、専攻医の確保に努めている。</p> <p>(こども)</p> <p>平成29年度から新制度に準じて実施された小児科専門医制度の基幹研修施設として、新制度に則った研修を実施しており、令和5年度は12名が本研修に取り組んだ。</p>	A	(総合) 19領域中10領域の専攻医確保に向けてホームページにプログラム説明動画を公開し、プログラムの魅力が伝わるような募集を行っている。また、オンライン会議システムを利用し、面談を行うなど専攻医確保に努めている。 (こども) 令和5年度は3人の専攻医を受け入れている。また病院見学は9名を受け入れている。 (こども) 小児科専攻医研修の基幹研修施設として、県中東部の連携施設10病院と作成した日本小児科学会の承認を受けたプログラムをもとに指導を行い、令和5年度は12名が本研修に取り組んだ。																																												
			85	⑦地域の医療機関向けにCT・MRIの地域支援検査枠を増設し、共同利用件数の向上を図る。	<p>地域における医療機器の効率的な活用のため、CT・MRIの共同利用に取り組んでおり、地域医療の支援に貢献している。市内他施設における機器整備が進められており、共同利用件数も令和2年度を底に持ち直している。</p> <p>CT、MRI共同利用（単位：件）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>CT</td> <td>896</td> <td>881</td> <td>659</td> <td>722</td> <td>733</td> <td>617</td> </tr> <tr> <td>MRI</td> <td>586</td> <td>595</td> <td>472</td> <td>517</td> <td>522</td> <td>516</td> </tr> <tr> <td>CT(撮影のみ)</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>MRI(撮影のみ)</td> <td>24</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>18</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	CT	896	881	659	722	733	617	MRI	586	595	472	517	522	516	CT(撮影のみ)	1	0	0	0	0	0	MRI(撮影のみ)	24	1	0	0	18	0	A	令和5年度のCT・MRI共同利用件数は、前年度件数には達しない結果となった。桜ヶ丘病院と令和3年度に改めて協定を締結している。									
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																													
CT	896	881	659	722	733	617																																													
MRI	586	595	472	517	522	516																																													
CT(撮影のみ)	1	0	0	0	0	0																																													
MRI(撮影のみ)	24	1	0	0	18	0																																													
			86	⑧ふじのくにねっとを活用し、地域の病院・診療所・調剤薬局・訪問看護ステーションとの連携を強化する。 ・ふじのくにバーチャル・メガ・ホスピタル協議会の運営を維持する。	<p>地域医療連携推進事業費補助金を活用し、ふじのくにねっと参加施設の新規システム構築及び機器更新を実施している(令和5年度にはデータセンター及び県立病院機構3病院の機器更新を実施)。</p> <p>また、令和2年3月からは、地域医療情報連携ネットワークにおける同意取得方法に関する厚生労働省通知を受け、患者への参加同意取得手続等の運用の見直しを進め、令和3年度についても、ふじのくにねっと参加施設の利便性に貢献した。令和4年度以降は協議会の会長を中東遠総合医療センターから選出して運営を継続している。</p>	A	ネットワーク全体で病病・病診連携における積極開示をルール化することを理事会で方針として採択し、先進事例の共有等の取組を推進している。																																												

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(R5、第3期中期目標期間)	令和5年度実績 自己評価																																		
						評価	説明																																	
			87	⑧国内外の医療機関との映像情報システムを用い、カンファレンス等を実施する。	<p>小児医療ネットワークを通じて、浜松医科大学等との合同カンファレンスやマレーシア国立循環器病センター（IJN）との接続試験を兼ねた症例検討会を実施した。また、他医療機関（4施設）と連携し、心エコー画像遠隔診断を実施した。</p> <p>心エコー画像遠隔診断実績 (単位：件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>症例数</td> <td>5</td> <td>3</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>5</td> <td>7</td> </tr> </tbody> </table>	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	症例数	5	3	0	2	5	7	A	小児循環器科専門医研修施設として、浜松医科大学等との映像情報を通じたカンファレンスを実施した。また、マレーシア国立循環器病センターともカンファレンスを実施した。令和5年度、連携医療機関との心エコー画像遠隔診断を7件実施し、医療機関からの相談について映像情報を活用して対応した。																			
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																		
症例数	5	3	0	2	5	7																																		
(2) 社会的な要請への協力及び知識や技術の普及 鑑定、調査、講師派遣など社会的な要請に対し、県立病院が有する人材や知見を積極的に提供し、県内の医療従事者の養成に貢献すること。	(2) 社会的な要請への協力及び知識や技術の普及 公的機関からの医療に係る鑑定や調査、講師派遣等の社会的な要請に対し、引き続き柔軟に対応していくほか、医療従事者が他の機関・団体における研修や研究等の活動に参画しやすい体制づくりに取り組む。また、院内研修等の教育研修を県内の医療従事者へ積極的に開放していく。	(2) 社会的な要請への協力及び知識や技術の普及 ①公的機関からの医療に係る鑑定や調査、講師派遣等の社会的な要請への対応 ②学会や研修会等へ積極的に参加できる仕組みづくり ③認定看護師等の資格保有者の活用 ④県内の医療従事者への教育研修機能の開放 ⑤県児童虐待早期発見医療体制整備事業を推進	—	—	—	—	—																																	
			88	①院内外の研修会等を定期的開催し、地域の医療機関へ情報提供する。	<p>拡大がんセンターボード実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>回数(回)</td> <td>6</td> <td>5</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">参加人数(人)</td> <td>院内</td> <td>194</td> <td>178</td> <td>73</td> <td>78</td> <td>101</td> </tr> <tr> <td>院外</td> <td>162</td> <td>108</td> <td>49</td> <td>36</td> <td>49</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>356</td> <td>286</td> <td>122</td> <td>114</td> <td>150</td> </tr> </tbody> </table>	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	回数(回)	6	5	3	2	4	4	参加人数(人)	院内	194	178	73	78	101	院外	162	108	49	36	49	合計	356	286	122	114	150	A	がん診療部主催の拡大がんセンターボード(多職種カンファレンス)では、がん症例の診断や治療方法等について、院内外の多職種による包括的な議論が行われている。令和5年度も、新型コロナウイルス・インフルエンザ感染症等を考慮し、開催回数を制限して開催している。
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																		
回数(回)	6	5	3	2	4	4																																		
参加人数(人)	院内	194	178	73	78	101																																		
	院外	162	108	49	36	49																																		
	合計	356	286	122	114	150																																		
			89	①他団体の講師派遣依頼に協力する。	<p>講師派遣実績 (単位：件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医師</td> <td>43</td> <td>56</td> <td>58</td> <td>43</td> <td>51</td> <td>63</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>40</td> <td>38</td> <td>34</td> <td>21</td> <td>41</td> <td>44</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>83</td> <td>94</td> <td>92</td> <td>64</td> <td>92</td> <td>107</td> </tr> </tbody> </table>	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	医師	43	56	58	43	51	63	その他	40	38	34	21	41	44	計	83	94	92	64	92	107	A	他団体等が主催する講演会の講師として、医師や認定看護師を派遣しており、令和5年度も、令和4年度に引き続き、積極的に実施している。					
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																		
医師	43	56	58	43	51	63																																		
その他	40	38	34	21	41	44																																		
計	83	94	92	64	92	107																																		
			90	①②他団体等が主催する講習会、研究会、学会への講師派遣を推進する。	<p>院外講演会講師派遣状況(医師) (単位：回)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>派遣回数</td> <td>21</td> <td>22</td> <td>4</td> <td>9</td> <td>23</td> <td>21</td> </tr> </tbody> </table> <p>院外講演会講師派遣状況(看護師) (単位：回)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>派遣回数</td> <td>26</td> <td>33</td> <td>17</td> <td>30</td> <td>37</td> <td>25</td> </tr> </tbody> </table>	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	派遣回数	21	22	4	9	23	21	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	派遣回数	26	33	17	30	37	25	A	他団体等が主催する講演会の講師やアドバイザーとして医師や看護師を派遣する等、積極的な地域支援を行っている。派遣実績は前年度のペースを上回っている。また、令和5年7月に全国自治体病院協議会の精神科部会を静岡市内で開催し、他の病院の先進的な取り組みについて知見を得る機会となった。					
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																		
派遣回数	21	22	4	9	23	21																																		
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																		
派遣回数	26	33	17	30	37	25																																		
			91	①医療にかかる鑑定等の要請への協力など積極的に対応する。	<p>医療観察法の鑑定医として協力するなど、積極的な対応を図っている。</p> <p>医療観察法による鑑定入院受入実績 (単位：件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ところ</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>10</td> <td>8</td> <td>5</td> <td>7</td> </tr> </tbody> </table>	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	ところ	4	5	10	8	5	7	A	医療観察法に係る鑑定入院の受入について、積極的に協力し令和5年度は7件の実績となり前年度実績を上回った。																			
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																		
ところ	4	5	10	8	5	7																																		

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(R5、第3期中期目標期間)	令和5年度実績 自己評価																																																																												
						評価	説明																																																																											
			92	①特別支援学校や児童相談所など教育機関や福祉機関との連携を強化するため、講座や相談会などを継続的に開催する。	<p>精神保健講座等開催実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="2">30年度</th> <th colspan="2">元年度</th> <th colspan="2">2年度</th> <th colspan="2">3年度</th> <th colspan="2">4年度</th> <th colspan="2">5年度</th> </tr> <tr> <th>精神保健</th> <th>児童養護</th> <th>精神保健</th> <th>児童養護</th> <th>精神保健</th> <th>児童養護</th> <th>精神保健</th> <th>児童養護</th> <th>精神保健</th> <th>児童養護</th> <th>精神保健</th> <th>児童養護</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>対象</td> <td>県内小中</td> <td>子ども</td> <td>県内小中</td> <td>子ども</td> <td>県内小中</td> <td>子ども</td> <td>県内小中</td> <td>子ども</td> <td>県内小中</td> <td>子ども</td> <td>県内小中</td> <td>子ども</td> </tr> <tr> <td>参加者数等</td> <td>5回 159人</td> <td>10回 10施設</td> <td>5回 96人</td> <td>11回 11施設</td> <td>2回 49人</td> <td>11回 11施設</td> <td>4回 140人</td> <td>10回 10施設</td> <td>3回 75人</td> <td>11回 11施設</td> <td>5回 131人</td> <td>10回 10施設</td> </tr> </tbody> </table> <p>医療機関に対する相談・助言件数 (単位：件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件 数</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>82</td> <td>61</td> </tr> </tbody> </table> <p>教育研修の実施回数 (単位：件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実施回数</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>5</td> <td>8</td> </tr> </tbody> </table>	区分	30年度		元年度		2年度		3年度		4年度		5年度		精神保健	児童養護	精神保健	児童養護	精神保健	児童養護	精神保健	児童養護	精神保健	児童養護	精神保健	児童養護	対象	県内小中	子ども	県内小中	子ども	県内小中	子ども	県内小中	子ども	県内小中	子ども	県内小中	子ども	参加者数等	5回 159人	10回 10施設	5回 96人	11回 11施設	2回 49人	11回 11施設	4回 140人	10回 10施設	3回 75人	11回 11施設	5回 131人	10回 10施設	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	件 数	-	-	-	82	61	区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	実施回数	-	-	-	5	8	A	<p>こころの診療科では、教師を対象とした精神保健講座や児童養護施設の巡回相談を定期的に行い、学校・地域との連携強化を図った。</p> <p>令和4年度から受託している、静岡県の子どもの虐待早期発見医療体制整備事業について、育児環境支援室を中心に、令和5年度も事業を実施した。医療機関向け窓口への相談に対応したり、児童虐待が疑われる事例に対する緊急子育て支援対策委員会を開催し、必要と判断した場合には児童相談所への通告を行ったりした。</p> <p>また、令和5年10月及び6年3月には、県と連携して、医療従事者のための子ども虐待対応研修を実施した。</p>
区分	30年度		元年度		2年度		3年度		4年度		5年度																																																																							
	精神保健	児童養護	精神保健	児童養護	精神保健	児童養護	精神保健	児童養護	精神保健	児童養護	精神保健	児童養護																																																																						
対象	県内小中	子ども	県内小中	子ども	県内小中	子ども	県内小中	子ども	県内小中	子ども	県内小中	子ども																																																																						
参加者数等	5回 159人	10回 10施設	5回 96人	11回 11施設	2回 49人	11回 11施設	4回 140人	10回 10施設	3回 75人	11回 11施設	5回 131人	10回 10施設																																																																						
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																													
件 数	-	-	-	82	61																																																																													
区 分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																													
実施回数	-	-	-	5	8																																																																													
			93	①小児慢性特定疾患治療研究事業や障害者総合支援法、児童福祉法、精神保健福祉法等の公費負担医療を実施する。	<p>公費負担患者状況 (単位：人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小児慢性</td> <td>1,837</td> <td>1,771</td> <td>1,691</td> <td>1,674</td> <td>1,571</td> <td>1,565</td> </tr> <tr> <td>育成医療</td> <td>114</td> <td>55</td> <td>36</td> <td>20</td> <td>10</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>養育医療</td> <td>189</td> <td>182</td> <td>190</td> <td>195</td> <td>165</td> <td>169</td> </tr> <tr> <td>特定疾患</td> <td>3</td> <td>7</td> <td>6</td> <td>9</td> <td>10</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>特定疾病</td> <td>88</td> <td>100</td> <td>92</td> <td>115</td> <td>124</td> <td>147</td> </tr> <tr> <td>生活保護</td> <td>182</td> <td>182</td> <td>181</td> <td>188</td> <td>185</td> <td>193</td> </tr> <tr> <td>精神保健</td> <td>89</td> <td>69</td> <td>52</td> <td>50</td> <td>32</td> <td>29</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>143</td> <td>146</td> <td>204</td> <td>751</td> <td>1,207</td> <td>245</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>2,645</td> <td>2,512</td> <td>2,452</td> <td>3,002</td> <td>3,304</td> <td>2,365</td> </tr> </tbody> </table>	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	小児慢性	1,837	1,771	1,691	1,674	1,571	1,565	育成医療	114	55	36	20	10	6	養育医療	189	182	190	195	165	169	特定疾患	3	7	6	9	10	11	特定疾病	88	100	92	115	124	147	生活保護	182	182	181	188	185	193	精神保健	89	69	52	50	32	29	その他	143	146	204	751	1,207	245	計	2,645	2,512	2,452	3,002	3,304	2,365	A	<p>公費負担医療を提供するためには、本人による申請が必要となることから、証明書・診断書の発行など公費適用患者の利便性を重視して対応した。</p>					
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																												
小児慢性	1,837	1,771	1,691	1,674	1,571	1,565																																																																												
育成医療	114	55	36	20	10	6																																																																												
養育医療	189	182	190	195	165	169																																																																												
特定疾患	3	7	6	9	10	11																																																																												
特定疾病	88	100	92	115	124	147																																																																												
生活保護	182	182	181	188	185	193																																																																												
精神保健	89	69	52	50	32	29																																																																												
その他	143	146	204	751	1,207	245																																																																												
計	2,645	2,512	2,452	3,002	3,304	2,365																																																																												



中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(R5、第3期中期目標期間)	令和5年度実績 自己評価																																																																																																																																																																																																																																																													
						評価	説明																																																																																																																																																																																																																																																												
			94	①研究雑費や研究旅費等の予算化等により学会や研修会等への参加がしやすい体制を維持する。	<p>(総合) 海外研修の実績 (5年度時点) (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>内 容</th> <th>人数</th> <th>内 容</th> <th>人数</th> <th>内 容</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>11th CONGRESS OF THE VASCULAR ACCESS SOCIETY</td> <td>2</td> <td>実績なし</td> <td></td> <td>10th Asian Pacific society of Dialysis Access (APDA)</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>ANTS 99th Annual Meeting</td> <td>2</td> <td>オーストラリア交換研修</td> <td>1</td> <td>American Society of Hematology Annual Meeting 2023</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>米国糖尿病学会2019国際会議</td> <td>3</td> <td>34th European Congress of Pathology</td> <td>1</td> <td>The 27th Congress of the Asian Society of Hematology</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>Japan Conference in Wrocław 2019</td> <td>1</td> <td>欧州呼吸器学会国際会議2022</td> <td>2</td> <td>Asian Society of Hematology 2023 Annual Conference</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>20th World Congress of Hematology &amp; Stem Cell 2019</td> <td>1</td> <td>HCS 2022 VIENNA</td> <td>3</td> <td>San Antonio Breast Cancer Symposium</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>第31回欧州病理学会</td> <td>3</td> <td>World Allergy Congress 2022</td> <td>2</td> <td>19th World Congress of Hematology</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>第28回トヨタ皮膚科学・性病学会学術大会</td> <td>1</td> <td>Dialysis Access Strategy 2022</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>トヨタ救急医学会</td> <td>1</td> <td>American Society of Human Genetics 2022</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>たか年次会議2019</td> <td>3</td> <td>APLAR2022</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>57th WORLD CONGRESS OF ENDOCRINOLOGY</td> <td>2</td> <td>IRANCON2022</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>American Pancreatic Association</td> <td>3</td> <td>IRANCON2022</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ANS Kidney Week 2019</td> <td>2</td> <td>IRANCON2022</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>アジア太平洋呼吸器学会国際会議2019</td> <td>2</td> <td>IRANCON2022</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>EuroEcho 2019</td> <td>2</td> <td>IRANCON2022</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ASCT2020</td> <td>2</td> <td>IRANCON2022</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第109回 USCAP2020</td> <td>1</td> <td>IRANCON2022</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>臨床研修医UCLA研修</td> <td>18</td> <td>IRANCON2022</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2年度</td> <td>実績なし</td> <td>IRANCON2022</td> <td>1</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>5年度</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>596</td> <td>547</td> <td>51</td> <td>102</td> <td>352</td> <td>463</td> </tr> </tbody> </table> <p>学会発表実績 (国内外) (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>10</td> <td>12</td> <td>4</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>7</td> </tr> </tbody> </table> <p>こころ 学会発表実績 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>414</td> <td>448</td> <td>141</td> <td>245</td> <td>316</td> <td>330</td> </tr> </tbody> </table> <p>子ども 学会発表実績 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>11</td> <td>10</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>4</td> <td>6</td> </tr> </tbody> </table> <p>資格等取得助成制度利用者 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">総合</th> <th rowspan="2">看 護 師</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>0</td> <td>9</td> <td>10</td> <td>13</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">こころ</td> <td>看 護 師</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>コメディカル</td> <td>0</td> <td>5</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">子ども</td> <td>看 護 師</td> <td>7</td> <td>6</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>コメディカル</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">本部</td> <td>看 護 師</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>コメディカル</td> <td>11</td> <td>10</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>4</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">計</td> <td>看 護 師</td> <td>7</td> <td>8</td> <td>12</td> <td>13</td> <td>15</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>コメディカル</td> <td>4</td> <td>9</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>11</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">計</td> <td>11</td> <td>18</td> <td>13</td> <td>16</td> <td>26</td> <td>24</td> </tr> </tbody> </table>	内 容	人数	内 容	人数	内 容	人数	11th CONGRESS OF THE VASCULAR ACCESS SOCIETY	2	実績なし		10th Asian Pacific society of Dialysis Access (APDA)	1	ANTS 99th Annual Meeting	2	オーストラリア交換研修	1	American Society of Hematology Annual Meeting 2023	1	米国糖尿病学会2019国際会議	3	34th European Congress of Pathology	1	The 27th Congress of the Asian Society of Hematology	1	Japan Conference in Wrocław 2019	1	欧州呼吸器学会国際会議2022	2	Asian Society of Hematology 2023 Annual Conference	1	20th World Congress of Hematology & Stem Cell 2019	1	HCS 2022 VIENNA	3	San Antonio Breast Cancer Symposium	1	第31回欧州病理学会	3	World Allergy Congress 2022	2	19th World Congress of Hematology	1	第28回トヨタ皮膚科学・性病学会学術大会	1	Dialysis Access Strategy 2022	1			トヨタ救急医学会	1	American Society of Human Genetics 2022	1			たか年次会議2019	3	APLAR2022	1			57th WORLD CONGRESS OF ENDOCRINOLOGY	2	IRANCON2022	1			American Pancreatic Association	3	IRANCON2022	1			ANS Kidney Week 2019	2	IRANCON2022	1			アジア太平洋呼吸器学会国際会議2019	2	IRANCON2022	1			EuroEcho 2019	2	IRANCON2022	1			ASCT2020	2	IRANCON2022	1			第109回 USCAP2020	1	IRANCON2022	1			臨床研修医UCLA研修	18	IRANCON2022	1			2年度	実績なし	IRANCON2022	1			区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	件数	596	547	51	102	352	463	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	件数	10	12	4	6	6	7	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	件数	414	448	141	245	316	330	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	件数	11	10	2	2	4	6	総合	看 護 師	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	0	0	9	10	13	12	こころ	看 護 師	0	2	1	1	0	1	コメディカル	0	5	0	0	0	0	子ども	看 護 師	7	6	2	2	2	5	コメディカル	4	4	0	0	2	1	本部	看 護 師	0	0	0	0	0	0	コメディカル	11	10	2	2	4	6	計	看 護 師	7	8	12	13	15	18	コメディカル	4	9	1	1	11	6	計		11	18	13	16	26	24	A	医師や研修医をはじめとする医療スタッフが研究雑費や研究旅費等の予算化等により国内外の学会や研修会等へ参加できる体制を確保している。 令和5年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けていた昨年度以前よりも学会への参加出来る体制が整ってきた。 医師や研修医などの医療スタッフが国内外の学会や研修会等へ参加できる体制を引き続き確保していく。
内 容	人数	内 容	人数	内 容	人数																																																																																																																																																																																																																																																														
11th CONGRESS OF THE VASCULAR ACCESS SOCIETY	2	実績なし		10th Asian Pacific society of Dialysis Access (APDA)	1																																																																																																																																																																																																																																																														
ANTS 99th Annual Meeting	2	オーストラリア交換研修	1	American Society of Hematology Annual Meeting 2023	1																																																																																																																																																																																																																																																														
米国糖尿病学会2019国際会議	3	34th European Congress of Pathology	1	The 27th Congress of the Asian Society of Hematology	1																																																																																																																																																																																																																																																														
Japan Conference in Wrocław 2019	1	欧州呼吸器学会国際会議2022	2	Asian Society of Hematology 2023 Annual Conference	1																																																																																																																																																																																																																																																														
20th World Congress of Hematology & Stem Cell 2019	1	HCS 2022 VIENNA	3	San Antonio Breast Cancer Symposium	1																																																																																																																																																																																																																																																														
第31回欧州病理学会	3	World Allergy Congress 2022	2	19th World Congress of Hematology	1																																																																																																																																																																																																																																																														
第28回トヨタ皮膚科学・性病学会学術大会	1	Dialysis Access Strategy 2022	1																																																																																																																																																																																																																																																																
トヨタ救急医学会	1	American Society of Human Genetics 2022	1																																																																																																																																																																																																																																																																
たか年次会議2019	3	APLAR2022	1																																																																																																																																																																																																																																																																
57th WORLD CONGRESS OF ENDOCRINOLOGY	2	IRANCON2022	1																																																																																																																																																																																																																																																																
American Pancreatic Association	3	IRANCON2022	1																																																																																																																																																																																																																																																																
ANS Kidney Week 2019	2	IRANCON2022	1																																																																																																																																																																																																																																																																
アジア太平洋呼吸器学会国際会議2019	2	IRANCON2022	1																																																																																																																																																																																																																																																																
EuroEcho 2019	2	IRANCON2022	1																																																																																																																																																																																																																																																																
ASCT2020	2	IRANCON2022	1																																																																																																																																																																																																																																																																
第109回 USCAP2020	1	IRANCON2022	1																																																																																																																																																																																																																																																																
臨床研修医UCLA研修	18	IRANCON2022	1																																																																																																																																																																																																																																																																
2年度	実績なし	IRANCON2022	1																																																																																																																																																																																																																																																																
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																																																																																																																																													
件数	596	547	51	102	352	463																																																																																																																																																																																																																																																													
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																																																																																																																																													
件数	10	12	4	6	6	7																																																																																																																																																																																																																																																													
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																																																																																																																																													
件数	414	448	141	245	316	330																																																																																																																																																																																																																																																													
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																																																																																																																																													
件数	11	10	2	2	4	6																																																																																																																																																																																																																																																													
総合	看 護 師	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																																																																																																																																												
		0	0	9	10	13	12																																																																																																																																																																																																																																																												
こころ	看 護 師	0	2	1	1	0	1																																																																																																																																																																																																																																																												
	コメディカル	0	5	0	0	0	0																																																																																																																																																																																																																																																												
子ども	看 護 師	7	6	2	2	2	5																																																																																																																																																																																																																																																												
	コメディカル	4	4	0	0	2	1																																																																																																																																																																																																																																																												
本部	看 護 師	0	0	0	0	0	0																																																																																																																																																																																																																																																												
	コメディカル	11	10	2	2	4	6																																																																																																																																																																																																																																																												
計	看 護 師	7	8	12	13	15	18																																																																																																																																																																																																																																																												
	コメディカル	4	9	1	1	11	6																																																																																																																																																																																																																																																												
計		11	18	13	16	26	24																																																																																																																																																																																																																																																												
			95	③院内における資格取得を支援し、活用を促進する。 ④No.66 ⑤児童虐待早期発見医療体制整備事業を県から受託し、相談窓口の設置や教育研修など地域の医療機関を支援する。	<p>資格等取得助成制度利用者 (単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">総合</th> <th rowspan="2">看 護 師</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>0</td> <td>9</td> <td>10</td> <td>13</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">こころ</td> <td>看 護 師</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>コメディカル</td> <td>0</td> <td>5</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">子ども</td> <td>看 護 師</td> <td>7</td> <td>6</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>コメディカル</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">本部</td> <td>看 護 師</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>コメディカル</td> <td>11</td> <td>10</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>4</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">計</td> <td>看 護 師</td> <td>7</td> <td>8</td> <td>12</td> <td>13</td> <td>15</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>コメディカル</td> <td>4</td> <td>9</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>11</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">計</td> <td>11</td> <td>18</td> <td>13</td> <td>16</td> <td>26</td> <td>24</td> </tr> </tbody> </table>	総合	看 護 師	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	0	0	9	10	13	12	こころ	看 護 師	0	2	1	1	0	1	コメディカル	0	5	0	0	0	0	子ども	看 護 師	7	6	2	2	2	5	コメディカル	4	4	0	0	2	1	本部	看 護 師	0	0	0	0	0	0	コメディカル	11	10	2	2	4	6	計	看 護 師	7	8	12	13	15	18	コメディカル	4	9	1	1	11	6	計		11	18	13	16	26	24	A	平成24年度以降、資格等取得助成制度により資格取得を支援している。 これまで、毎年度一定数の利用者があり、令和5年度については認定一般検査技師等で24人が利用した。 意欲ある職員の資質向上に資することが出来ている。																																																																																																																																																																										
総合	看 護 師	30年度	元年度	2年度	3年度			4年度	5年度																																																																																																																																																																																																																																																										
		0	0	9	10	13	12																																																																																																																																																																																																																																																												
こころ	看 護 師	0	2	1	1	0	1																																																																																																																																																																																																																																																												
	コメディカル	0	5	0	0	0	0																																																																																																																																																																																																																																																												
子ども	看 護 師	7	6	2	2	2	5																																																																																																																																																																																																																																																												
	コメディカル	4	4	0	0	2	1																																																																																																																																																																																																																																																												
本部	看 護 師	0	0	0	0	0	0																																																																																																																																																																																																																																																												
	コメディカル	11	10	2	2	4	6																																																																																																																																																																																																																																																												
計	看 護 師	7	8	12	13	15	18																																																																																																																																																																																																																																																												
	コメディカル	4	9	1	1	11	6																																																																																																																																																																																																																																																												
計		11	18	13	16	26	24																																																																																																																																																																																																																																																												
(3) 県民への情報提供の充実 公開講座や医療相談の開催、ホームページの活用などを通じて県民へ情報発信し、県民の健康意識の高揚に努めること。	(3) 県民への情報提供の充実 定期的に公開講座、医療相談会等を開催し、ホームページ等で健康管理・増進などについての情報を提供するなど、様々な方法で県民への情報提供を進め県民の健康意識の高揚や健康に関する知識の充実に努める。	(3) 県民への情報提供の充実 ①定期的な公開講座、医療相談会等の開催 ②ホームページ等による健康管理・増進などについての情報提供 ③報道機関等への情報発信	96	①県民向け・医療機関向けの公開講座等を開催する。	<p>特色を活かした公開講座等を企画、開催している。</p> <p>公開講座 (単位:件、人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">病院</th> <th rowspan="2">区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> <th rowspan="2">毎年度目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実施件数</td> <td>6</td> <td>9</td> <td>3</td> <td>5</td> <td>7</td> <td>27</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">総合</td> <td>県民向け</td> <td>524</td> <td>349</td> <td>125</td> <td>104</td> <td>176</td> <td>649</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>医療機関向け</td> <td>21</td> <td>27</td> <td>10</td> <td>9</td> <td>21</td> <td>27</td> <td>27</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">こころ</td> <td>県民向け</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>医療機関向け</td> <td>28</td> <td>21</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>7</td> <td>23</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">子ども</td> <td>県民向け</td> <td>3</td> <td>8</td> <td>3</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>医療機関向け</td> <td>88</td> <td>115</td> <td>20</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">計</td> <td>実施件数</td> <td>3</td> <td>6</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>参加者</td> <td>195</td> <td>188</td> <td>20</td> <td>127</td> <td>125</td> <td>173</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">計</td> <td>実施件数</td> <td>13</td> <td>6</td> <td>10</td> <td>15</td> <td>12</td> <td>18</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>参加者</td> <td>698</td> <td>218</td> <td>422</td> <td>721</td> <td>606</td> <td>972</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>きこえとことばのセンター主催研修会等の開催件数 (単位:件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>8</td> <td>5</td> <td>32</td> <td>33</td> <td>34</td> <td>19</td> </tr> </tbody> </table>	病院	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標	実施件数	6	9	3	5	7	27	10	総合	県民向け	524	349	125	104	176	649	—	医療機関向け	21	27	10	9	21	27	27	こころ	県民向け	2	2	0	0	2	2	2	医療機関向け	28	21	0	0	7	23	—	子ども	県民向け	3	8	3	0	0	0	5	医療機関向け	88	115	20	0	0	0	—	計	実施件数	3	6	1	3	3	4	5	参加者	195	188	20	127	125	173	—	計	実施件数	13	6	10	15	12	18	20	参加者	698	218	422	721	606	972	—	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	件数	8	5	32	33	34	19	B	総合病院では、外部向け講座としてがん医療公開講座を開催している。また、きこえとことばのセンターでは難聴児の早期発見、早期介入を目的に、地域の医療従事者や行政担当者による研修会等を実施している。令和5年度は、新型コロナウイルス感染症の影響が残るものの、参加者数は昨年度を大きく上回った。 こころの医療センターでは、4年度からボランティア研修会を再開し、5年度については、前年度を上回る参加者があった。 子ども病院では、医療従事者向けとして、先進的な医療に関する情報提供を目的としたオープンセミナー、移行期医療に関する講演会等を実施した。また、県民向けとして、小児・AYA世代がん医療公開講座やアレルギー教室を実施した。																																																																																																																																								
病院	区分	30年度	元年度	2年度	3年度			4年度	5年度	毎年度目標																																																																																																																																																																																																																																																									
		実施件数	6	9	3	5	7	27	10																																																																																																																																																																																																																																																										
総合	県民向け	524	349	125	104	176	649	—																																																																																																																																																																																																																																																											
	医療機関向け	21	27	10	9	21	27	27																																																																																																																																																																																																																																																											
こころ	県民向け	2	2	0	0	2	2	2																																																																																																																																																																																																																																																											
	医療機関向け	28	21	0	0	7	23	—																																																																																																																																																																																																																																																											
子ども	県民向け	3	8	3	0	0	0	5																																																																																																																																																																																																																																																											
	医療機関向け	88	115	20	0	0	0	—																																																																																																																																																																																																																																																											
計	実施件数	3	6	1	3	3	4	5																																																																																																																																																																																																																																																											
	参加者	195	188	20	127	125	173	—																																																																																																																																																																																																																																																											
計	実施件数	13	6	10	15	12	18	20																																																																																																																																																																																																																																																											
	参加者	698	218	422	721	606	972	—																																																																																																																																																																																																																																																											
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																																																																																																																																																													
件数	8	5	32	33	34	19																																																																																																																																																																																																																																																													

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(R5、第3期中期目標期間)	令和5年度実績 自己評価																																											
						評価	説明																																										
	【目標値】 ・公開講座件数(総合、こころ、こども)	【目標値】 ・公開講座件数(総合、こころ、こども)	97	①【総/子】・県民向けイベントの開催や参加に努める。	(総合) オープンホスピタル来場者数 (単位：人) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>来場者数</td> <td>1,200</td> <td>1,200</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>1,400</td> </tr> </tbody> </table> (こども) 「I Loveしずおか協議会」主催の「おまち・ワンダーランド・青葉シンボルロードイルミネーション企画」に参加し、「いのりの木」を設置。入院患者や医療従事者へのメッセージを投函できる仕組みとするなど、こども病院の周知を図った。 なお、以前参加していた(株)静岡新聞社、静岡放送(株)が主催の「こどもみらいプロジェクト秋まつり inツインメッセ」は、イベントの開催が終了となった。	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	来場者数	1,200	1,200	—	—	—	1,400	A	オープンホスピタルの開催などにより、県民の健康意識の高揚や健康に関する知識の充実につなげている。令和5年度は4年ぶりにオープンホスピタルを開催しコロナ以前の開催と比べ来場者数は増加した。																												
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																											
来場者数	1,200	1,200	—	—	—	1,400																																											
			98	②県民及び他の医療機関従事者に、県立病院機構の有する医療情報等を積極的に提供するため、機構ホームページを適時、的確に更新する。	機構全体のトピックスやプレスリリース等をホームページに掲載し積極的に情報発信を行った。  セクション別アクセス件数 (単位：件) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度 ※</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>本部</td> <td>226,519</td> <td>232,673</td> <td>246,234</td> <td>234,744</td> <td>214,098</td> <td>131,077</td> </tr> <tr> <td>総合</td> <td>2,322,348</td> <td>2,902,755</td> <td>2,751,715</td> <td>2,542,438</td> <td>2,297,492</td> <td>697,708</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>376,258</td> <td>662,762</td> <td>659,939</td> <td>674,386</td> <td>689,495</td> <td>203,172</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>1,690,943</td> <td>1,772,069</td> <td>1,800,380</td> <td>1,810,951</td> <td>1,545,737</td> <td>433,318</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>4,616,068</td> <td>5,570,259</td> <td>5,458,268</td> <td>5,262,519</td> <td>4,746,822</td> <td>1,465,275</td> </tr> </tbody> </table> ※サイト側で集計方法変更があったため、令和4年度以前と比較ができない(集計は、7月～3月分)	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度 ※	本部	226,519	232,673	246,234	234,744	214,098	131,077	総合	2,322,348	2,902,755	2,751,715	2,542,438	2,297,492	697,708	こころ	376,258	662,762	659,939	674,386	689,495	203,172	こども	1,690,943	1,772,069	1,800,380	1,810,951	1,545,737	433,318	合計	4,616,068	5,570,259	5,458,268	5,262,519	4,746,822	1,465,275	A	機構全体のトピックスやプレスリリース等をホームページに掲載し積極的に情報発信を行っている。 各病院において、診療内容やイベント開催等の基本的な情報を掲載し業務活動の広報に努めているほか、感染症に係る情報等の突発的な情報についても丁寧かつ迅速に伝えるため、ホームページを積極的に活用している。
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度 ※																																											
本部	226,519	232,673	246,234	234,744	214,098	131,077																																											
総合	2,322,348	2,902,755	2,751,715	2,542,438	2,297,492	697,708																																											
こころ	376,258	662,762	659,939	674,386	689,495	203,172																																											
こども	1,690,943	1,772,069	1,800,380	1,810,951	1,545,737	433,318																																											
合計	4,616,068	5,570,259	5,458,268	5,262,519	4,746,822	1,465,275																																											
			99	③県民に病院の運営にかかる情報を戦略的に広報するため、報道機関向けの情報発信の推進を図る。	最先端医療への取組や各病院で開催する県民向けの公開講座、各種イベントなどについて、積極的に情報提供を行い、情報発信の推進を図った。  記者情報提供件数 (単位：件) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>提供件数</td> <td>43</td> <td>36</td> <td>19</td> <td>29</td> <td>21</td> <td>42</td> </tr> <tr> <td>掲載件数</td> <td>30</td> <td>24</td> <td>13</td> <td>20</td> <td>14</td> <td>25</td> </tr> </tbody> </table>	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	提供件数	43	36	19	29	21	42	掲載件数	30	24	13	20	14	25	A	新型コロナウイルス感染症が5類になったことにより、イベントに関する情報等がコロナ下と比べ増加している。 引き続き、適切な時期に情報発信することを継続して取組を実施していく。																					
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																											
提供件数	43	36	19	29	21	42																																											
掲載件数	30	24	13	20	14	25																																											
5 災害等における医療救護	5 災害等における医療救護	5 災害等における医療救護	—	—	—	—	—	—																																									
県民の安心・安全を守るため、医療救護活動の拠点機能を担い、災害医療チームを派遣するなど医療救護に取り組むこと。	地震などによる大規模災害の発生が危惧される静岡県の県立病院として、災害等への日頃からの備えを進め、発生時においては静岡県医療救護計画等に基づき、医療救護活動に従事する。	県立病院として、県内外の災害等の発生に対し十分な備えをするとともに、医療救護活動の拠点としての役割を果たす。	—	—	—	—	—	—																																									

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(R5、第3期中期目標期間)	令和5年度実績 自己評価																																																																																																																																																																																									
						評価	説明																																																																																																																																																																																								
(1) 医療救護活動の拠点機能 災害等における本県の医療救護活動の拠点機能を担うこと。特に、県立総合病院は、基幹災害拠点病院として、県内の災害時医療の中心的役割を果たすことができるよう機能強化を図ること。あわせて、国の原子力災害対策指針に基づく新たな原子力災害医療体制の整備に努めること。また、県立こころの医療センターは災害時における精神医療分野の、県立こども病院は災害時における小児医療分野の、それぞれにおける基幹的役割を果たすよう、日頃から備えること。	(1) 医療救護活動の拠点機能 日頃から実践的な災害医療訓練を定期的に開催するなど、医療救護活動の拠点となる病院としての機能を維持向上し、災害等の発生時には重篤患者の受入れ、県内外のDMAT(災害派遣医療チーム)・DPAT(災害派遣精神医療チーム)との連携など求められる機能を発揮する。特に、県立総合病院は基幹災害拠点病院及び原子力災害拠点病院として県内の災害医療の中心的役割を、県立こころの医療センター及び県立こども病院は、それぞれの分野で基幹的役割を果たすことができるよう体制整備に取り組む。	(1) 医療救護活動の拠点機能 ①災害拠点病院(小児分野を含む)等として、災害時の医療救護活動の拠点機能を担う ②災害時における精神医療分野の拠点病院として、中心的な役割を担う ③小児専門医療機関間の災害時情報交換システムと相互協力関係の構築	-	-	<p>業務の実績(R5、第3期中期目標期間)</p> <p>年度別実績</p> <table border="1"> <tr> <td rowspan="3">元年度</td> <td>令元.6.20</td> <td>静岡県DMAT通信訓練の情報伝達訓練に参加</td> <td rowspan="3">4年度</td> <td>令4.7.7・13</td> <td>新規採用者及び転入者を対象に消火訓練及び避難訓練を実施(約300人参加)</td> </tr> <tr> <td>令元.7.3</td> <td>院内各セクションに対し、消火設備等の施設講習を実施(新採用職員を中心に約100人参加)</td> <td>令4.7.13</td> <td>静岡県健康福祉部防災訓練の情報伝達訓練に参加</td> </tr> <tr> <td>令元.7.11</td> <td>静岡県健康福祉部防災訓練の情報伝達訓練に参加</td> <td>令4.7.30</td> <td>第1回静岡県DMAT看護師研修をオンライン開催(受講者17名)</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">2年度</td> <td>令元.11.2~3</td> <td>静岡県DMAT-L隊員養成研修を県立総合病院にて実施</td> <td rowspan="3">5年度</td> <td>令4.9.30・10.1</td> <td>大規模地震時医療活動訓練(政府訓練)に参加(DMAT隊員:28名、他職員15名)</td> </tr> <tr> <td>令元.12.1</td> <td>県立総合病院防災訓練</td> <td>令4.12.4</td> <td>院内防災訓練実施(参加者61名)</td> </tr> <tr> <td>令2.1.26</td> <td>静岡県DMATロジスティクス研修を県立総合病院にて実施</td> <td>令4.12.10・11</td> <td>静岡県DMAT-L隊員養成研修を県立総合病院にて開催(受講者45名)</td> </tr> <tr> <td rowspan="6">3年度</td> <td>令2.7.10</td> <td>院内各セクションに対し、消火設備等の施設講習を実施(新採用職員を中心に約100人参加)</td> <td rowspan="6">5年度</td> <td>令4.12.15</td> <td>第2回静岡県DMAT看護師研修を三島市民文化会館にて開催(受講者15名)</td> </tr> <tr> <td>令2.7.16</td> <td>静岡県健康福祉部防災訓練の情報伝達訓練に参加</td> <td>令5.2.4</td> <td>静岡県原子力災害医療訓練に参加(10名)</td> </tr> <tr> <td>令2.9.17</td> <td>静岡県DMAT通信訓練の情報伝達訓練を企画・実施</td> <td>令5.2.19</td> <td>静岡県DMATロジスティクス研修を県立総合病院にて開催(受講者21名)</td> </tr> <tr> <td>令3.7.7</td> <td>院内各セクションに対し、消火設備等の施設講習を実施(新採用職員を中心に約100人参加)</td> <td>令5.2.23</td> <td>第3回静岡県DMAT看護師研修を豊田市立総合病院にて開催(受講者17名)</td> </tr> <tr> <td>令3.10.30</td> <td>大規模地震時医療活動訓練(政府訓練)に参加(宮城県)(DMAT隊員1名)</td> <td>令5.6.18</td> <td>第1回静岡県DMAT看護師研修(西部)を開催(受講者17名)</td> </tr> <tr> <td>令3.11.27</td> <td>静岡県DMAT看護師研修を県立総合病院で実施</td> <td>令5.7.7・13</td> <td>新規採用者及び転入者を対象に消火訓練及び避難訓練を実施(約300人参加)</td> </tr> <tr> <td>令3.12.5</td> <td>院内防災訓練実施(参加者46名)</td> <td>令5.9.30</td> <td>大規模地震時医療活動訓練(政府訓練)に参加(香川県)(DMAT隊員2名)</td> </tr> <tr> <td>令4.3.18</td> <td>静岡県DMAT衛星通信訓練を企画・実施</td> <td>令5.10.28~29</td> <td>静岡県DMAT-L隊員養成研修を県立総合病院にて実施</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>令5.12.17</td> <td>第2回静岡県DMAT看護師研修(東部)を開催(受講者16名)</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>令6.3.2</td> <td>第3回静岡県DMAT看護師研修(中部)を開催(受講者25名)</td> </tr> </table> <p>主な活動実績</p> <table border="1"> <tr> <td>3年度</td> <td>令3.4~</td> <td>新型コロナウイルス感染症に伴う静岡県DMAT隊員派遣(県対策本部・保健所等)(DMAT隊員2名)</td> </tr> <tr> <td>4年度</td> <td>令4.4~</td> <td>新型コロナウイルス感染症に伴うDMAT隊員派遣(宿泊療養施設・保健所)(DMAT隊員2名)</td> </tr> <tr> <td>5年度</td> <td>令6.1~</td> <td>能登半島地震へのDMAT派遣(県対策本部・被災地)(DMAT隊員被災地12名、本部延べ38名)</td> </tr> </table> <p>令和3年2月に県内初となる災害拠点精神科病院の指定を受けている。大規模災害等における本県の精神分野における中核的拠点として災害時医療に対応できるよう、各種訓練を実施したほか、災害発生時には要請に応じてDPAT隊を派遣できる体制を維持している。</p> <p>防災訓練(避難訓練)実績</p> <table border="1"> <tr> <td rowspan="3">元年度</td> <td>令元.7.11</td> <td>県健康福祉部防災訓練におけるEMIS情報伝達訓練に参加</td> <td rowspan="3">4年度</td> <td>令4.7.13</td> <td>県健康福祉部防災訓練におけるEMIS情報伝達訓練参加</td> </tr> <tr> <td>令元.8.23</td> <td>院内防災訓練(初級消火・避難誘導訓練)を実施</td> <td>令4.9.4</td> <td>静岡市・浜松市・沼津市・川島市総合防災訓練におけるDMAT派遣訓練(中部)</td> </tr> <tr> <td>令元.8.26</td> <td>県総合防災訓練(本部運営訓練)におけるEMIS情報伝達訓練に参加</td> <td>令4.9.5</td> <td>院内防災訓練</td> </tr> <tr> <td>令元.9.1</td> <td>静岡市、三島市、沼津市との合同総合防災訓練におけるDPAT派遣訓練に参加</td> <td>令4.10.1</td> <td>政府訓練(大規模地震時医療活動訓練)参加</td> </tr> <tr> <td>令元.9.7</td> <td>政府訓練(大規模地震時医療活動訓練)参加</td> <td>令4.11.28</td> <td>院内防災訓練(第2回)</td> </tr> <tr> <td>令元.11.25</td> <td>院内防災訓練(初期消火、避難誘導訓練、災害対策本部設置)を実施</td> <td>令5.1.17</td> <td>県健康福祉部防災訓練におけるEMIS情報伝達訓練参加</td> </tr> <tr> <td>令元.12.18</td> <td>静岡県国民保護共同実働訓練(小山町)に参加</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>令2.1.17</td> <td>県健康福祉部防災訓練におけるEMIS情報伝達訓練に参加</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">2年度</td> <td>令2.7.16</td> <td>県健康福祉部防災訓練におけるEMIS情報伝達訓練参加</td> <td rowspan="3">5年度</td> <td>令5.7.7</td> <td>県健康福祉部防災訓練におけるEMIS情報伝達訓練参加</td> </tr> <tr> <td>令2.8.31</td> <td>院内安否情報確認システムのメール送受信訓練実施</td> <td>令5.8.22</td> <td>県総合防災訓練におけるEMIS情報伝達訓練参加</td> </tr> <tr> <td>令2.10.26</td> <td>院内防災訓練(第1回)</td> <td>令5.9.3</td> <td>静岡市・浜松市・沼西市総合防災訓練(DPAT訓練)参加</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">3年度</td> <td>令3.1.25</td> <td>院内防災訓練(第2回)</td> <td>令5.9.4</td> <td>院内防災訓練(第1回)、安否情報確認メール送受信訓練の実施</td> </tr> <tr> <td>令3.7.7</td> <td>県健康福祉部防災訓練におけるEMIS情報伝達訓練参加</td> <td>令5.9.30</td> <td>政府訓練(大規模地震時医療活動訓練)参加</td> </tr> <tr> <td>令3.8.30</td> <td>院内安否情報確認システムのメール送受信訓練実施</td> <td>令5.12.7</td> <td>院内防災訓練(第2回)、安否情報確認メール送受信訓練の実施</td> </tr> <tr> <td>令3.11.29</td> <td>院内防災訓練</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>令4.1.17</td> <td>県健康福祉部防災訓練におけるEMIS情報伝達訓練参加</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>令4.1.31</td> <td>院内防災訓練(第2回)</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>DPAT派遣実績</p> <table border="1"> <tr> <td rowspan="2">元年度</td> <td>令元.9.10~12</td> <td>お盆休み等での発生した災害時に派遣。お盆休み明け、お盆休み明け、お盆休み明け</td> <td rowspan="2">4年度</td> <td>活動実績なし</td> </tr> <tr> <td>令和元.10.13</td> <td>お盆休み明けへの対応に係る県健康福祉部対策本部支援</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">2年度</td> <td>令2.2.3~5</td> <td>新型コロナウイルス感染症に係る県健康福祉部対策本部支援</td> <td rowspan="2">5年度</td> <td>令6.1.4~8</td> <td>能登半島地震に伴う派遣(県健康福祉部DMAT活動拠点本部)</td> </tr> <tr> <td>令2.2.10~15</td> <td>新型コロナウイルス感染症に係る派遣(静岡県健康福祉部対策本部)</td> <td>令6.1.18~22</td> <td>能登半島地震に伴う派遣(DPAT輪島振興所)</td> </tr> <tr> <td>3年度</td> <td>令3.7.3</td> <td>静岡県民保護共同実働訓練(小山町)に参加</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>令4.1.27</td> <td>新型コロナウイルス感染症に係る派遣(県健康福祉部対策本部)</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	元年度	令元.6.20	静岡県DMAT通信訓練の情報伝達訓練に参加	4年度	令4.7.7・13	新規採用者及び転入者を対象に消火訓練及び避難訓練を実施(約300人参加)	令元.7.3	院内各セクションに対し、消火設備等の施設講習を実施(新採用職員を中心に約100人参加)	令4.7.13	静岡県健康福祉部防災訓練の情報伝達訓練に参加	令元.7.11	静岡県健康福祉部防災訓練の情報伝達訓練に参加	令4.7.30	第1回静岡県DMAT看護師研修をオンライン開催(受講者17名)	2年度	令元.11.2~3	静岡県DMAT-L隊員養成研修を県立総合病院にて実施	5年度	令4.9.30・10.1	大規模地震時医療活動訓練(政府訓練)に参加(DMAT隊員:28名、他職員15名)	令元.12.1	県立総合病院防災訓練	令4.12.4	院内防災訓練実施(参加者61名)	令2.1.26	静岡県DMATロジスティクス研修を県立総合病院にて実施	令4.12.10・11	静岡県DMAT-L隊員養成研修を県立総合病院にて開催(受講者45名)	3年度	令2.7.10	院内各セクションに対し、消火設備等の施設講習を実施(新採用職員を中心に約100人参加)	5年度	令4.12.15	第2回静岡県DMAT看護師研修を三島市民文化会館にて開催(受講者15名)	令2.7.16	静岡県健康福祉部防災訓練の情報伝達訓練に参加	令5.2.4	静岡県原子力災害医療訓練に参加(10名)	令2.9.17	静岡県DMAT通信訓練の情報伝達訓練を企画・実施	令5.2.19	静岡県DMATロジスティクス研修を県立総合病院にて開催(受講者21名)	令3.7.7	院内各セクションに対し、消火設備等の施設講習を実施(新採用職員を中心に約100人参加)	令5.2.23	第3回静岡県DMAT看護師研修を豊田市立総合病院にて開催(受講者17名)	令3.10.30	大規模地震時医療活動訓練(政府訓練)に参加(宮城県)(DMAT隊員1名)	令5.6.18	第1回静岡県DMAT看護師研修(西部)を開催(受講者17名)	令3.11.27	静岡県DMAT看護師研修を県立総合病院で実施	令5.7.7・13	新規採用者及び転入者を対象に消火訓練及び避難訓練を実施(約300人参加)	令3.12.5	院内防災訓練実施(参加者46名)	令5.9.30	大規模地震時医療活動訓練(政府訓練)に参加(香川県)(DMAT隊員2名)	令4.3.18	静岡県DMAT衛星通信訓練を企画・実施	令5.10.28~29	静岡県DMAT-L隊員養成研修を県立総合病院にて実施					令5.12.17	第2回静岡県DMAT看護師研修(東部)を開催(受講者16名)					令6.3.2	第3回静岡県DMAT看護師研修(中部)を開催(受講者25名)	3年度	令3.4~	新型コロナウイルス感染症に伴う静岡県DMAT隊員派遣(県対策本部・保健所等)(DMAT隊員2名)	4年度	令4.4~	新型コロナウイルス感染症に伴うDMAT隊員派遣(宿泊療養施設・保健所)(DMAT隊員2名)	5年度	令6.1~	能登半島地震へのDMAT派遣(県対策本部・被災地)(DMAT隊員被災地12名、本部延べ38名)	元年度	令元.7.11	県健康福祉部防災訓練におけるEMIS情報伝達訓練に参加	4年度	令4.7.13	県健康福祉部防災訓練におけるEMIS情報伝達訓練参加	令元.8.23	院内防災訓練(初級消火・避難誘導訓練)を実施	令4.9.4	静岡市・浜松市・沼津市・川島市総合防災訓練におけるDMAT派遣訓練(中部)	令元.8.26	県総合防災訓練(本部運営訓練)におけるEMIS情報伝達訓練に参加	令4.9.5	院内防災訓練	令元.9.1	静岡市、三島市、沼津市との合同総合防災訓練におけるDPAT派遣訓練に参加	令4.10.1	政府訓練(大規模地震時医療活動訓練)参加	令元.9.7	政府訓練(大規模地震時医療活動訓練)参加	令4.11.28	院内防災訓練(第2回)	令元.11.25	院内防災訓練(初期消火、避難誘導訓練、災害対策本部設置)を実施	令5.1.17	県健康福祉部防災訓練におけるEMIS情報伝達訓練参加	令元.12.18	静岡県国民保護共同実働訓練(小山町)に参加			令2.1.17	県健康福祉部防災訓練におけるEMIS情報伝達訓練に参加			2年度	令2.7.16	県健康福祉部防災訓練におけるEMIS情報伝達訓練参加	5年度	令5.7.7	県健康福祉部防災訓練におけるEMIS情報伝達訓練参加	令2.8.31	院内安否情報確認システムのメール送受信訓練実施	令5.8.22	県総合防災訓練におけるEMIS情報伝達訓練参加	令2.10.26	院内防災訓練(第1回)	令5.9.3	静岡市・浜松市・沼西市総合防災訓練(DPAT訓練)参加	3年度	令3.1.25	院内防災訓練(第2回)	令5.9.4	院内防災訓練(第1回)、安否情報確認メール送受信訓練の実施	令3.7.7	県健康福祉部防災訓練におけるEMIS情報伝達訓練参加	令5.9.30	政府訓練(大規模地震時医療活動訓練)参加	令3.8.30	院内安否情報確認システムのメール送受信訓練実施	令5.12.7	院内防災訓練(第2回)、安否情報確認メール送受信訓練の実施	令3.11.29	院内防災訓練			令4.1.17	県健康福祉部防災訓練におけるEMIS情報伝達訓練参加			令4.1.31	院内防災訓練(第2回)			元年度	令元.9.10~12	お盆休み等での発生した災害時に派遣。お盆休み明け、お盆休み明け、お盆休み明け	4年度	活動実績なし	令和元.10.13	お盆休み明けへの対応に係る県健康福祉部対策本部支援	2年度	令2.2.3~5	新型コロナウイルス感染症に係る県健康福祉部対策本部支援	5年度	令6.1.4~8	能登半島地震に伴う派遣(県健康福祉部DMAT活動拠点本部)	令2.2.10~15	新型コロナウイルス感染症に係る派遣(静岡県健康福祉部対策本部)	令6.1.18~22	能登半島地震に伴う派遣(DPAT輪島振興所)	3年度	令3.7.3	静岡県民保護共同実働訓練(小山町)に参加				令4.1.27	新型コロナウイルス感染症に係る派遣(県健康福祉部対策本部)			-	S	<p>情報伝達・避難訓練等、災害の発生を想定し、基幹災害拠点病院の役割を果たすべく各種訓練(政府訓練・総合防災訓練・2023年度静岡空港航空機事故対応部分訓練・中部ブロック実働訓練)に参加及び研修を企画、実施している。静岡県DMAT-L隊員養成研修は、昨年よりも約10名多く55名の受講生を受け入れ、県下のDMAT隊員を増加させた。静岡県DMAT看護師研修を年3回実施し、東部、中部、西部で各1回ずつ実施することにより、県下のDMAT隊員が参加しやすくなった。静岡県DMAT看護師部会を通じて各課題の検討や意見交換をする等、基幹災害拠点病院として、県全体の連携向上に努めている。能登半島地震に伴うDMAT派遣においては、3チーム(1チームは他の病院との混合)派遣し、ロジスティクスチームの派遣として、1名を派遣した。また、県対策本部に延べ38名を派遣した。原子力災害拠点病院としての役割を果たすため、放射線部を中心に設備・備品の整備・更新を進めている。引き続き、災害発生に備えた病院の機能の充実に努める。</p>
元年度	令元.6.20	静岡県DMAT通信訓練の情報伝達訓練に参加	4年度	令4.7.7・13	新規採用者及び転入者を対象に消火訓練及び避難訓練を実施(約300人参加)																																																																																																																																																																																										
	令元.7.3	院内各セクションに対し、消火設備等の施設講習を実施(新採用職員を中心に約100人参加)		令4.7.13	静岡県健康福祉部防災訓練の情報伝達訓練に参加																																																																																																																																																																																										
	令元.7.11	静岡県健康福祉部防災訓練の情報伝達訓練に参加		令4.7.30	第1回静岡県DMAT看護師研修をオンライン開催(受講者17名)																																																																																																																																																																																										
2年度	令元.11.2~3	静岡県DMAT-L隊員養成研修を県立総合病院にて実施	5年度	令4.9.30・10.1	大規模地震時医療活動訓練(政府訓練)に参加(DMAT隊員:28名、他職員15名)																																																																																																																																																																																										
	令元.12.1	県立総合病院防災訓練		令4.12.4	院内防災訓練実施(参加者61名)																																																																																																																																																																																										
	令2.1.26	静岡県DMATロジスティクス研修を県立総合病院にて実施		令4.12.10・11	静岡県DMAT-L隊員養成研修を県立総合病院にて開催(受講者45名)																																																																																																																																																																																										
3年度	令2.7.10	院内各セクションに対し、消火設備等の施設講習を実施(新採用職員を中心に約100人参加)	5年度	令4.12.15	第2回静岡県DMAT看護師研修を三島市民文化会館にて開催(受講者15名)																																																																																																																																																																																										
	令2.7.16	静岡県健康福祉部防災訓練の情報伝達訓練に参加		令5.2.4	静岡県原子力災害医療訓練に参加(10名)																																																																																																																																																																																										
	令2.9.17	静岡県DMAT通信訓練の情報伝達訓練を企画・実施		令5.2.19	静岡県DMATロジスティクス研修を県立総合病院にて開催(受講者21名)																																																																																																																																																																																										
	令3.7.7	院内各セクションに対し、消火設備等の施設講習を実施(新採用職員を中心に約100人参加)		令5.2.23	第3回静岡県DMAT看護師研修を豊田市立総合病院にて開催(受講者17名)																																																																																																																																																																																										
	令3.10.30	大規模地震時医療活動訓練(政府訓練)に参加(宮城県)(DMAT隊員1名)		令5.6.18	第1回静岡県DMAT看護師研修(西部)を開催(受講者17名)																																																																																																																																																																																										
	令3.11.27	静岡県DMAT看護師研修を県立総合病院で実施		令5.7.7・13	新規採用者及び転入者を対象に消火訓練及び避難訓練を実施(約300人参加)																																																																																																																																																																																										
令3.12.5	院内防災訓練実施(参加者46名)	令5.9.30	大規模地震時医療活動訓練(政府訓練)に参加(香川県)(DMAT隊員2名)																																																																																																																																																																																												
令4.3.18	静岡県DMAT衛星通信訓練を企画・実施	令5.10.28~29	静岡県DMAT-L隊員養成研修を県立総合病院にて実施																																																																																																																																																																																												
				令5.12.17	第2回静岡県DMAT看護師研修(東部)を開催(受講者16名)																																																																																																																																																																																										
				令6.3.2	第3回静岡県DMAT看護師研修(中部)を開催(受講者25名)																																																																																																																																																																																										
3年度	令3.4~	新型コロナウイルス感染症に伴う静岡県DMAT隊員派遣(県対策本部・保健所等)(DMAT隊員2名)																																																																																																																																																																																													
4年度	令4.4~	新型コロナウイルス感染症に伴うDMAT隊員派遣(宿泊療養施設・保健所)(DMAT隊員2名)																																																																																																																																																																																													
5年度	令6.1~	能登半島地震へのDMAT派遣(県対策本部・被災地)(DMAT隊員被災地12名、本部延べ38名)																																																																																																																																																																																													
元年度	令元.7.11	県健康福祉部防災訓練におけるEMIS情報伝達訓練に参加	4年度	令4.7.13	県健康福祉部防災訓練におけるEMIS情報伝達訓練参加																																																																																																																																																																																										
	令元.8.23	院内防災訓練(初級消火・避難誘導訓練)を実施		令4.9.4	静岡市・浜松市・沼津市・川島市総合防災訓練におけるDMAT派遣訓練(中部)																																																																																																																																																																																										
	令元.8.26	県総合防災訓練(本部運営訓練)におけるEMIS情報伝達訓練に参加		令4.9.5	院内防災訓練																																																																																																																																																																																										
令元.9.1	静岡市、三島市、沼津市との合同総合防災訓練におけるDPAT派遣訓練に参加	令4.10.1	政府訓練(大規模地震時医療活動訓練)参加																																																																																																																																																																																												
令元.9.7	政府訓練(大規模地震時医療活動訓練)参加	令4.11.28	院内防災訓練(第2回)																																																																																																																																																																																												
令元.11.25	院内防災訓練(初期消火、避難誘導訓練、災害対策本部設置)を実施	令5.1.17	県健康福祉部防災訓練におけるEMIS情報伝達訓練参加																																																																																																																																																																																												
令元.12.18	静岡県国民保護共同実働訓練(小山町)に参加																																																																																																																																																																																														
令2.1.17	県健康福祉部防災訓練におけるEMIS情報伝達訓練に参加																																																																																																																																																																																														
2年度	令2.7.16	県健康福祉部防災訓練におけるEMIS情報伝達訓練参加	5年度	令5.7.7	県健康福祉部防災訓練におけるEMIS情報伝達訓練参加																																																																																																																																																																																										
	令2.8.31	院内安否情報確認システムのメール送受信訓練実施		令5.8.22	県総合防災訓練におけるEMIS情報伝達訓練参加																																																																																																																																																																																										
	令2.10.26	院内防災訓練(第1回)		令5.9.3	静岡市・浜松市・沼西市総合防災訓練(DPAT訓練)参加																																																																																																																																																																																										
3年度	令3.1.25	院内防災訓練(第2回)	令5.9.4	院内防災訓練(第1回)、安否情報確認メール送受信訓練の実施																																																																																																																																																																																											
	令3.7.7	県健康福祉部防災訓練におけるEMIS情報伝達訓練参加	令5.9.30	政府訓練(大規模地震時医療活動訓練)参加																																																																																																																																																																																											
	令3.8.30	院内安否情報確認システムのメール送受信訓練実施	令5.12.7	院内防災訓練(第2回)、安否情報確認メール送受信訓練の実施																																																																																																																																																																																											
	令3.11.29	院内防災訓練																																																																																																																																																																																													
	令4.1.17	県健康福祉部防災訓練におけるEMIS情報伝達訓練参加																																																																																																																																																																																													
令4.1.31	院内防災訓練(第2回)																																																																																																																																																																																														
元年度	令元.9.10~12	お盆休み等での発生した災害時に派遣。お盆休み明け、お盆休み明け、お盆休み明け	4年度	活動実績なし																																																																																																																																																																																											
	令和元.10.13	お盆休み明けへの対応に係る県健康福祉部対策本部支援																																																																																																																																																																																													
2年度	令2.2.3~5	新型コロナウイルス感染症に係る県健康福祉部対策本部支援	5年度	令6.1.4~8	能登半島地震に伴う派遣(県健康福祉部DMAT活動拠点本部)																																																																																																																																																																																										
	令2.2.10~15	新型コロナウイルス感染症に係る派遣(静岡県健康福祉部対策本部)		令6.1.18~22	能登半島地震に伴う派遣(DPAT輪島振興所)																																																																																																																																																																																										
3年度	令3.7.3	静岡県民保護共同実働訓練(小山町)に参加																																																																																																																																																																																													
	令4.1.27	新型コロナウイルス感染症に係る派遣(県健康福祉部対策本部)																																																																																																																																																																																													
			100 ~ 102	総合		S	<p>総合防災訓練や内閣府による大規模地震時医療活動訓練等に参加し、発生時においてスムーズなDPAT活動が実施できるよう、県や市町等との連携を確認した。令和6年1月に発生した能登半島地震では、県からの要請に基づきDPAT先遣隊を2隊派遣し、精神科医療ニーズの収集、精神科医療機関や他県DPAT隊との連絡調整、避難所における診療業務等に従事した。県が主催する静岡県DPAT研修に新たに5人を参加させ、災害時における医療救護体制の強化に努めた。</p>																																																																																																																																																																																								

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(R5、第3期中期目標期間)	令和5年度実績 自己評価																																																					
						評価	説明																																																				
					新採職員向け消火避難訓練、総合防災訓練及び夜間想定防火避難誘導訓練を実施した。		A 新採職員向け消火避難訓練では、初期消火訓練、病棟患者を想定した模擬患者の避難誘導及び避難訓練を実施した。 総合防災訓練では、平日昼間の時間帯で発災した際の初動チェック訓練、発災1日後のベッドコントロール訓練、コロナ禍にて一時中止していた災害医療ゾーンの立ち上げ訓練を実施した。 夜間想定防火避難誘導訓練では、夜間想定に限られた人的資源をできる限り生かした安全な避難経路を設定する訓練などを実施した。																																																				
(2) 他県等の医療救護への協力 他県等の大規模災害等においても、災害医療チームを派遣するなど、積極的に医療救護に協力すること。	(2) 他県等の医療救護への協力 災害時医療救護派遣マニュアルに基づき、速やかに医療チームを派遣できるよう定期的な要員訓練やマニュアルの点検を行う。	(2) 他県等の医療救護への協力 ①災害発生初期におけるDMAT(災害派遣医療チーム)・DPAT(災害派遣精神医療チーム)の派遣及び県からの要請に基づく支援等の実施	-	-	①災害医療救護応援班の訓練を実施する。	-	S (総合) 令和5年度は、総合防災訓練や各ブロック訓練に通常開催され、DMAT隊員が参加している。新型コロナの影響で、開催されていなかった富士山静岡空港の訓練に参加し、消防との連携や空港との連携を確認した。 また、本年度は、香川県で実施された大規模地震時医療活動訓練(政府訓練)では、2名のDMAT隊員が参加した。 (こころ) 令和6年1月に発生した能登半島地震にDPAT隊を2度派遣した。																																																				
			103		<p>年度別実績</p> <table border="1"> <tr> <td>元年度</td> <td>令和 8.23 令和 9.1 令和 8.25 令和 12.18 令和 1.17</td> <td>静岡県総合防災訓練(本部運営班編)にDMAT隊員5人が参加した。 静岡県総合防災訓練(東海訓練)にDMAT隊員4人が参加した。 大規模地震時対応訓練(政府訓練)にDMAT隊員1人が参加した。 防災医療支援隊派遣訓練(高知)にDMAT隊員1人が参加した。 静岡県オーストラリア訪問(大規模災害訓練)にDMAT隊員5人が参加した。</td> <td>4年度</td> <td>令和 7.21 令和 8.30 令和 9.4 令和 10.20 令和 11.13</td> <td>静岡県DMAT衛星通信訓練(中部地区)全実施(5病院参加) 静岡県総合防災訓練(本部運営班編)に参加(DMAT隊員4名) 静岡県総合防災訓練(東海訓練)に参加(DMAT隊員7名) 静岡県DMAT衛星通信訓練(中部地区)全実施(4病院参加) 静岡県DMAT衛星通信訓練(中部地区)全実施(4病院参加)</td> </tr> <tr> <td>2年度</td> <td>令和 9.17 令和 10.7 令和 10.20 令和 1.30 令和 3.18</td> <td>静岡県DMAT衛星通信訓練(東海)実施(3月までに合計3回) 富士山静岡空港航空機事故対応訓練(DMAT隊員5名) 静岡県オーストラリア訪問(大規模災害訓練)参加(本部運営班編) 大規模地震時対応訓練(政府訓練)に参加(愛知県) (DMAT隊員1名) 静岡県DMAT衛星通信訓練(本部運営班編)全実施</td> <td>5年度</td> <td>令和 11.26・27 令和 1.17 令和 1.19 令和 5.20 令和 8.29 令和 9.3 令和 9.26 令和 9.30 令和 10.14・15 令和 1.18</td> <td>静岡県DMAT衛星通信訓練(中部地区)に参加(DMAT隊員2名) 静岡県総合防災訓練(石川県)に参加(DMAT隊員1名) 静岡県DMAT衛星通信訓練(中部地区)全実施(5病院参加) 静岡県DMAT衛星通信訓練(中部地区)全実施(5病院参加) 静岡県総合防災訓練(本部運営班編)に参加(DMAT隊員1名) 静岡県総合防災訓練(東海訓練)に参加(DMAT隊員1名) 富士山静岡空港航空機事故対応訓練(DMAT隊員4名) 大規模地震時対応訓練(政府訓練)に参加(香川) (DMAT隊員1名) 中部ブロックDMAT実動訓練(山梨県)に参加(DMAT隊員1名) 静岡県DMAT衛星通信訓練(中部地区)全実施(4病院参加) 静岡県DMAT衛星通信訓練(中部地区)全実施(3病院参加)</td> </tr> </table> <p>主な活動実績</p> <table border="1"> <tr> <td>3年度</td> <td>令和 3.4~</td> <td>新型コロナウイルス感染症に伴う静岡DMAT隊員派遣(県対策本部・保健所等) (DMAT隊員2名)</td> </tr> <tr> <td>4年度</td> <td>令和 3.7~</td> <td>熱海伊豆山十砂災害派遣へのDMAT派遣(県対策本部・熱海被災地) (DMAT隊員19名)</td> </tr> <tr> <td>4年度</td> <td>令和 4.4~</td> <td>新型コロナウイルス感染症に伴うDMAT隊員派遣(宿泊療養施設・保健所) (DMAT隊員2名)</td> </tr> <tr> <td>5年度</td> <td>令和 6.1~</td> <td>能登半島地震へのDMAT派遣(県対策本部・被災地) (DMAT隊員被災地12名、本部班~38名)</td> </tr> </table> <p>DMAT訓練回数 (単位:回)</p> <table border="1"> <tr> <td>区分</td> <td>3年度</td> <td>元年度</td> <td>2年度</td> <td>3年度</td> <td>4年度</td> <td>5年度</td> </tr> <tr> <td>訓練</td> <td>8</td> <td>8</td> <td>1</td> <td>4</td> <td>9</td> <td>8</td> </tr> </table> <p>DPAT派遣実績</p> <table border="1"> <tr> <td>元年度</td> <td>令和 9.10~12 令和 10.15 令和 2.3~5 令和 2.10~15</td> <td>令和10月で発生した千歳機に派遣。3回(千歳機内、羽田空港) 在留滞滞への対応に係る静岡県福祉課対策本部支援 新型コロナウイルス対応に係る派遣(静岡県福祉課対策本部) 新型コロナウイルス感染症に伴う静岡DMAT派遣(熱海保健所)</td> <td>4年度</td> <td>活動実績なし</td> </tr> <tr> <td>2年度</td> <td>令和 2.12.9</td> <td>新型コロナウイルス感染症に伴う静岡DMAT派遣(熱海保健所)</td> <td>5年度</td> <td>令和 6.1.4~8 能登半島地震に伴う派遣(能登医療圏DPAT活動拠点本部) 令和 6.1.18~22 能登半島地震に伴う派遣(DPAT輪島指揮所)</td> </tr> <tr> <td>3年度</td> <td>令和 3.7.3 令和 4.1.27</td> <td>熱海市土石流災害に伴う静岡DMAT派遣(熱海保健所) 新型コロナウイルス対応に係る派遣(県東部精神科病院)</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	元年度	令和 8.23 令和 9.1 令和 8.25 令和 12.18 令和 1.17	静岡県総合防災訓練(本部運営班編)にDMAT隊員5人が参加した。 静岡県総合防災訓練(東海訓練)にDMAT隊員4人が参加した。 大規模地震時対応訓練(政府訓練)にDMAT隊員1人が参加した。 防災医療支援隊派遣訓練(高知)にDMAT隊員1人が参加した。 静岡県オーストラリア訪問(大規模災害訓練)にDMAT隊員5人が参加した。	4年度	令和 7.21 令和 8.30 令和 9.4 令和 10.20 令和 11.13	静岡県DMAT衛星通信訓練(中部地区)全実施(5病院参加) 静岡県総合防災訓練(本部運営班編)に参加(DMAT隊員4名) 静岡県総合防災訓練(東海訓練)に参加(DMAT隊員7名) 静岡県DMAT衛星通信訓練(中部地区)全実施(4病院参加) 静岡県DMAT衛星通信訓練(中部地区)全実施(4病院参加)	2年度	令和 9.17 令和 10.7 令和 10.20 令和 1.30 令和 3.18	静岡県DMAT衛星通信訓練(東海)実施(3月までに合計3回) 富士山静岡空港航空機事故対応訓練(DMAT隊員5名) 静岡県オーストラリア訪問(大規模災害訓練)参加(本部運営班編) 大規模地震時対応訓練(政府訓練)に参加(愛知県) (DMAT隊員1名) 静岡県DMAT衛星通信訓練(本部運営班編)全実施	5年度	令和 11.26・27 令和 1.17 令和 1.19 令和 5.20 令和 8.29 令和 9.3 令和 9.26 令和 9.30 令和 10.14・15 令和 1.18	静岡県DMAT衛星通信訓練(中部地区)に参加(DMAT隊員2名) 静岡県総合防災訓練(石川県)に参加(DMAT隊員1名) 静岡県DMAT衛星通信訓練(中部地区)全実施(5病院参加) 静岡県DMAT衛星通信訓練(中部地区)全実施(5病院参加) 静岡県総合防災訓練(本部運営班編)に参加(DMAT隊員1名) 静岡県総合防災訓練(東海訓練)に参加(DMAT隊員1名) 富士山静岡空港航空機事故対応訓練(DMAT隊員4名) 大規模地震時対応訓練(政府訓練)に参加(香川) (DMAT隊員1名) 中部ブロックDMAT実動訓練(山梨県)に参加(DMAT隊員1名) 静岡県DMAT衛星通信訓練(中部地区)全実施(4病院参加) 静岡県DMAT衛星通信訓練(中部地区)全実施(3病院参加)	3年度	令和 3.4~	新型コロナウイルス感染症に伴う静岡DMAT隊員派遣(県対策本部・保健所等) (DMAT隊員2名)	4年度	令和 3.7~	熱海伊豆山十砂災害派遣へのDMAT派遣(県対策本部・熱海被災地) (DMAT隊員19名)	4年度	令和 4.4~	新型コロナウイルス感染症に伴うDMAT隊員派遣(宿泊療養施設・保健所) (DMAT隊員2名)	5年度	令和 6.1~	能登半島地震へのDMAT派遣(県対策本部・被災地) (DMAT隊員被災地12名、本部班~38名)	区分	3年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	訓練	8	8	1	4	9	8	元年度	令和 9.10~12 令和 10.15 令和 2.3~5 令和 2.10~15	令和10月で発生した千歳機に派遣。3回(千歳機内、羽田空港) 在留滞滞への対応に係る静岡県福祉課対策本部支援 新型コロナウイルス対応に係る派遣(静岡県福祉課対策本部) 新型コロナウイルス感染症に伴う静岡DMAT派遣(熱海保健所)	4年度	活動実績なし	2年度	令和 2.12.9	新型コロナウイルス感染症に伴う静岡DMAT派遣(熱海保健所)	5年度	令和 6.1.4~8 能登半島地震に伴う派遣(能登医療圏DPAT活動拠点本部) 令和 6.1.18~22 能登半島地震に伴う派遣(DPAT輪島指揮所)	3年度	令和 3.7.3 令和 4.1.27	熱海市土石流災害に伴う静岡DMAT派遣(熱海保健所) 新型コロナウイルス対応に係る派遣(県東部精神科病院)			
元年度	令和 8.23 令和 9.1 令和 8.25 令和 12.18 令和 1.17	静岡県総合防災訓練(本部運営班編)にDMAT隊員5人が参加した。 静岡県総合防災訓練(東海訓練)にDMAT隊員4人が参加した。 大規模地震時対応訓練(政府訓練)にDMAT隊員1人が参加した。 防災医療支援隊派遣訓練(高知)にDMAT隊員1人が参加した。 静岡県オーストラリア訪問(大規模災害訓練)にDMAT隊員5人が参加した。	4年度	令和 7.21 令和 8.30 令和 9.4 令和 10.20 令和 11.13	静岡県DMAT衛星通信訓練(中部地区)全実施(5病院参加) 静岡県総合防災訓練(本部運営班編)に参加(DMAT隊員4名) 静岡県総合防災訓練(東海訓練)に参加(DMAT隊員7名) 静岡県DMAT衛星通信訓練(中部地区)全実施(4病院参加) 静岡県DMAT衛星通信訓練(中部地区)全実施(4病院参加)																																																						
2年度	令和 9.17 令和 10.7 令和 10.20 令和 1.30 令和 3.18	静岡県DMAT衛星通信訓練(東海)実施(3月までに合計3回) 富士山静岡空港航空機事故対応訓練(DMAT隊員5名) 静岡県オーストラリア訪問(大規模災害訓練)参加(本部運営班編) 大規模地震時対応訓練(政府訓練)に参加(愛知県) (DMAT隊員1名) 静岡県DMAT衛星通信訓練(本部運営班編)全実施	5年度	令和 11.26・27 令和 1.17 令和 1.19 令和 5.20 令和 8.29 令和 9.3 令和 9.26 令和 9.30 令和 10.14・15 令和 1.18	静岡県DMAT衛星通信訓練(中部地区)に参加(DMAT隊員2名) 静岡県総合防災訓練(石川県)に参加(DMAT隊員1名) 静岡県DMAT衛星通信訓練(中部地区)全実施(5病院参加) 静岡県DMAT衛星通信訓練(中部地区)全実施(5病院参加) 静岡県総合防災訓練(本部運営班編)に参加(DMAT隊員1名) 静岡県総合防災訓練(東海訓練)に参加(DMAT隊員1名) 富士山静岡空港航空機事故対応訓練(DMAT隊員4名) 大規模地震時対応訓練(政府訓練)に参加(香川) (DMAT隊員1名) 中部ブロックDMAT実動訓練(山梨県)に参加(DMAT隊員1名) 静岡県DMAT衛星通信訓練(中部地区)全実施(4病院参加) 静岡県DMAT衛星通信訓練(中部地区)全実施(3病院参加)																																																						
3年度	令和 3.4~	新型コロナウイルス感染症に伴う静岡DMAT隊員派遣(県対策本部・保健所等) (DMAT隊員2名)																																																									
4年度	令和 3.7~	熱海伊豆山十砂災害派遣へのDMAT派遣(県対策本部・熱海被災地) (DMAT隊員19名)																																																									
4年度	令和 4.4~	新型コロナウイルス感染症に伴うDMAT隊員派遣(宿泊療養施設・保健所) (DMAT隊員2名)																																																									
5年度	令和 6.1~	能登半島地震へのDMAT派遣(県対策本部・被災地) (DMAT隊員被災地12名、本部班~38名)																																																									
区分	3年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																					
訓練	8	8	1	4	9	8																																																					
元年度	令和 9.10~12 令和 10.15 令和 2.3~5 令和 2.10~15	令和10月で発生した千歳機に派遣。3回(千歳機内、羽田空港) 在留滞滞への対応に係る静岡県福祉課対策本部支援 新型コロナウイルス対応に係る派遣(静岡県福祉課対策本部) 新型コロナウイルス感染症に伴う静岡DMAT派遣(熱海保健所)	4年度	活動実績なし																																																							
2年度	令和 2.12.9	新型コロナウイルス感染症に伴う静岡DMAT派遣(熱海保健所)	5年度	令和 6.1.4~8 能登半島地震に伴う派遣(能登医療圏DPAT活動拠点本部) 令和 6.1.18~22 能登半島地震に伴う派遣(DPAT輪島指揮所)																																																							
3年度	令和 3.7.3 令和 4.1.27	熱海市土石流災害に伴う静岡DMAT派遣(熱海保健所) 新型コロナウイルス対応に係る派遣(県東部精神科病院)																																																									
第3 業務運営の改善及び効率化に関する事項 医療の質の向上を目指して、地方独立行政法人制度の特徴を最大限に活かし、一層効果的・効率的な業務運営に努め、生産性の向上を図ること。	第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置 業務運営に関しては、医療の質の向上のため、適切な職員配置や組織づくりに努めるとともに、業務改善への職員の意欲を高め、効率的な業務運営の実現を図る。	第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置 業務運営に関しては、医療の質の向上のため、適切な職員配置や組織づくりに努めるとともに、業務改善への職員の意欲を高め、効率的な業務運営の実現を図る。	-	-	-	-	-																																																				

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(R5、第3期中期目標期間)	令和5年度実績 自己評価																																																																																																																			
						評価	説明																																																																																																																		
1 効率的な業務運営体制の強化 医療を取り巻く環境の変化とそのスピードに迅速かつ的確に対応するため、医療資源の有効活用や業務の見直し、職員参加型の業務改善等を推進し、業務運営体制の強化を図ること。特に、未稼働病床については、その活用方法について検討すること。	1 効率的な業務運営体制の強化 医療環境の変化や県民の医療需要に的確に応じられるよう簡素で効果的、効率的な組織づくりを進め、適時適切な意思決定ができる組織運営に努める。 県立病院が有する人的、物的等医療資源を有効に活用するため、常に効率的な業務運営に取り組み、経営情報を共有し職員の経営意識の醸成を図る。 県立病院の病床については、未稼働病床を含め、社会経済情勢や地域医療の状況を踏まえ、最適な方法での配置や活用を図る。 業務の改善改革への取組を奨励し、その活動を積極的に評価し、職員の意見が反映されやすい風通しの良い組織運営を進めるなど、職員の意欲が高い活気に溢れた病院づくりに取り組む。	1 効率的な業務運営体制の強化 ①意思決定の迅速化・情報の共有化等、機動的な法人運営 ②医療ニーズや業務量の適切な把握と組織体制等への反映 ③効率的な施設運用を行うため、県立総合病院の劣化改修工事等を計画的に施工 ④県立総合病院の施設機能が継続的、最適に活用できるよう、修繕計画の策定・実施 ⑤県立こども病院のマスタープランや小児医療をめぐる環境の変化等を踏まえ、今後のあり方などについて検討 ⑥公平・公正な人事評価制度の実施 ⑦効果的な職員採用 ⑧柔軟な採用試験の実施等、業務の質と量に応じた人材の適時採用 ⑨看護師確保のため、看護師修学資金の活用推進や広報活動など多様な多角的な確保対策の実施 ⑩経営情報を把握及び適時適切な措置を講じられる体制整備 ⑪経営情報を職員が共有するなど、職員全員の経営意識の向上 ⑫業務の改善の取組等を通じた職員の意識向上及び病院運営の活性化	-	-	- 理事会、運営会議、総務・経営担当課長会議を8月を除く原則毎月開催し、意思決定の迅速化に努めた。 人事評価制度については、全職員(有期雇用職員、再雇用職員、休職中の職員等を除く)を対象に令和2年度から給与(勤勉手当)への活用を開始しており、令和3年度の評価から昇給へ活用が開始されている。  リニューアル工事、大規模修繕工事の実施計画及び進捗状況(総合病院)  年度別実績 <table border="1"> <thead> <tr> <th>元年度</th> <th>年度末における第Ⅰ期リニューアル工事進捗率 91.8%</th> <th>令和2年2月 第Ⅱ期リニューアル工事の入札実施、業者決定</th> <th>4年度</th> <th>令和5年2月 精神科病棟改修工事完了 令和5年3月 本館非常用発電機更新工事着工</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2年度</td> <td>令和3年7月 第Ⅰ期リニューアル工事完了、8月より第Ⅱ期リニューアル工事着工 年度末における第Ⅱ期リニューアル工事進捗率 38.7%</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3年度</td> <td>令和3年11月 内視鏡室改修完了 令和4年2月 渡り廊下増築工事完了 令和4年2月 第Ⅱ期リニューアル工事完了</td> <td></td> <td>5年度</td> <td>令和6年3月 劣化改修工事設計完了 令和6年3月 R5劣化改修工事(緊急分)完了</td> </tr> </tbody> </table>	元年度	年度末における第Ⅰ期リニューアル工事進捗率 91.8%	令和2年2月 第Ⅱ期リニューアル工事の入札実施、業者決定	4年度	令和5年2月 精神科病棟改修工事完了 令和5年3月 本館非常用発電機更新工事着工	2年度	令和3年7月 第Ⅰ期リニューアル工事完了、8月より第Ⅱ期リニューアル工事着工 年度末における第Ⅱ期リニューアル工事進捗率 38.7%				3年度	令和3年11月 内視鏡室改修完了 令和4年2月 渡り廊下増築工事完了 令和4年2月 第Ⅱ期リニューアル工事完了		5年度	令和6年3月 劣化改修工事設計完了 令和6年3月 R5劣化改修工事(緊急分)完了	-	-																																																																																																			
						元年度	年度末における第Ⅰ期リニューアル工事進捗率 91.8%	令和2年2月 第Ⅱ期リニューアル工事の入札実施、業者決定	4年度	令和5年2月 精神科病棟改修工事完了 令和5年3月 本館非常用発電機更新工事着工																																																																																																															
2年度	令和3年7月 第Ⅰ期リニューアル工事完了、8月より第Ⅱ期リニューアル工事着工 年度末における第Ⅱ期リニューアル工事進捗率 38.7%																																																																																																																								
3年度	令和3年11月 内視鏡室改修完了 令和4年2月 渡り廊下増築工事完了 令和4年2月 第Ⅱ期リニューアル工事完了		5年度	令和6年3月 劣化改修工事設計完了 令和6年3月 R5劣化改修工事(緊急分)完了																																																																																																																					
104	<p>病棟再編検討会(WG)開催数(こども病院) (単位:回)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>開催件数</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>11</td> <td>5</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table> <p>※令和4年度、病棟運営WGに改称</p>	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	開催件数	—	—	—	11	5	4	A	令和5年度については、理事会、運営会議、総務・経営担当課長会議を原則毎月開催し、機構内での情報の共有化、緊急案件についての対応が問題なく行われている。 医師確保を図るため、令和3年4月に職務に応じた適切な給与制度を構築(級別標準職務表の見直し)した。これにより、医師の確保だけでなく、「職務の級」が役職による職責に応じて適用されることで、能力や意欲の高い職員が上位の職位に登用されることとなり、職員の能力や意欲の向上につながることができた。また、平成30年4月から試行を開始した人事評価制度については、全職員(有期雇用職員、再雇用職員、休職中の職員等を除く)を対象に令和2年度から給与(勤勉手当)に活用、令和3年度の評価から昇給に活用を開始した。(令和3年度前期、後期の評価を令和5年1月1日昇給に活用)																																																																																																								
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																			
開催件数	—	—	—	11	5	4																																																																																																																			
1 効率的な業務運営体制の強化 医療を取り巻く環境の変化とそのスピードに迅速かつ的確に対応するため、医療資源の有効活用や業務の見直し、職員参加型の業務改善等を推進し、業務運営体制の強化を図ること。特に、未稼働病床については、その活用方法について検討すること。	1 効率的な業務運営体制の強化 医療環境の変化や県民の医療需要に的確に応じられるよう簡素で効果的、効率的な組織づくりを進め、適時適切な意思決定ができる組織運営に努める。 県立病院が有する人的、物的等医療資源を有効に活用するため、常に効率的な業務運営に取り組み、経営情報を共有し職員の経営意識の醸成を図る。 県立病院の病床については、未稼働病床を含め、社会経済情勢や地域医療の状況を踏まえ、最適な方法での配置や活用を図る。 業務の改善改革への取組を奨励し、その活動を積極的に評価し、職員の意見が反映されやすい風通しの良い組織運営を進めるなど、職員の意欲が高い活気に溢れた病院づくりに取り組む。	1 効率的な業務運営体制の強化 ①意思決定の迅速化・情報の共有化等、機動的な法人運営 ②医療ニーズや業務量の適切な把握と組織体制等への反映 ③効率的な施設運用を行うため、県立総合病院の劣化改修工事等を計画的に施工 ④県立総合病院の施設機能が継続的、最適に活用できるよう、修繕計画の策定・実施 ⑤県立こども病院のマスタープランや小児医療をめぐる環境の変化等を踏まえ、今後のあり方などについて検討 ⑥公平・公正な人事評価制度の実施 ⑦効果的な職員採用 ⑧柔軟な採用試験の実施等、業務の質と量に応じた人材の適時採用 ⑨看護師確保のため、看護師修学資金の活用推進や広報活動など多様な多角的な確保対策の実施 ⑩経営情報を把握及び適時適切な措置を講じられる体制整備 ⑪経営情報を職員が共有するなど、職員全員の経営意識の向上 ⑫業務の改善の取組等を通じた職員の意識向上及び病院運営の活性化	-	-	- アソシエイト採用実績(単位:人) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>看護師</td> <td>3</td> <td>-</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>10</td> <td>3</td> <td>8</td> <td>1</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>コメディカル</td> <td>3</td> <td>1</td> <td>5</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>16</td> <td>4</td> <td>14</td> <td>3</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table> 正規職員数の状況(各年度4月1日現在)(単位:人) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>本部</td> <td>34</td> <td>35</td> <td>34</td> <td>36</td> <td>38</td> <td>36</td> </tr> <tr> <td>総合</td> <td>1,242</td> <td>1,271</td> <td>1,317</td> <td>1,331</td> <td>1,359</td> <td>1,380</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>170</td> <td>170</td> <td>175</td> <td>174</td> <td>176</td> <td>182</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>642</td> <td>636</td> <td>648</td> <td>660</td> <td>650</td> <td>652</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>2,088</td> <td>2,112</td> <td>2,174</td> <td>2,201</td> <td>2,223</td> <td>2,250</td> </tr> </tbody> </table> 看護師修学資金の状況(単位:人) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>決定</td> <td>55</td> <td>50</td> <td>36</td> <td>40</td> <td>51</td> <td>90</td> </tr> <tr> <td>継続</td> <td>182</td> <td>147</td> <td>128</td> <td>104</td> <td>89</td> <td>128</td> </tr> <tr> <td>取消</td> <td>▲8</td> <td>▲7</td> <td>▲4</td> <td>▲5</td> <td>▲2</td> <td>▲5</td> </tr> <tr> <td>貸与計</td> <td>229</td> <td>190</td> <td>160</td> <td>139</td> <td>138</td> <td>213</td> </tr> <tr> <td>採用</td> <td>62</td> <td>53</td> <td>46</td> <td>44</td> <td>44</td> <td>29</td> </tr> </tbody> </table> 看護師募集における広報等の実施状況 ・人材広告業者の求人情報ウェブサイト、雑誌への求人情報掲載 ・静岡新聞求人情報掲載(看護の日) ・県民だより求人情報掲載 ・県内コンビニ、ショッピングモールへの看護師募集ポスター掲示	区分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	看護師	3	-	1	1	1	事務	10	3	8	1	2	コメディカル	3	1	5	1	1	計	16	4	14	3	4	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	本部	34	35	34	36	38	36	総合	1,242	1,271	1,317	1,331	1,359	1,380	こころ	170	170	175	174	176	182	こども	642	636	648	660	650	652	合計	2,088	2,112	2,174	2,201	2,223	2,250	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	決定	55	50	36	40	51	90	継続	182	147	128	104	89	128	取消	▲8	▲7	▲4	▲5	▲2	▲5	貸与計	229	190	160	139	138	213	採用	62	53	46	44	44	29	-	-
						区分	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																														
看護師	3	-	1	1	1																																																																																																																				
事務	10	3	8	1	2																																																																																																																				
コメディカル	3	1	5	1	1																																																																																																																				
計	16	4	14	3	4																																																																																																																				
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																			
本部	34	35	34	36	38	36																																																																																																																			
総合	1,242	1,271	1,317	1,331	1,359	1,380																																																																																																																			
こころ	170	170	175	174	176	182																																																																																																																			
こども	642	636	648	660	650	652																																																																																																																			
合計	2,088	2,112	2,174	2,201	2,223	2,250																																																																																																																			
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																			
決定	55	50	36	40	51	90																																																																																																																			
継続	182	147	128	104	89	128																																																																																																																			
取消	▲8	▲7	▲4	▲5	▲2	▲5																																																																																																																			
貸与計	229	190	160	139	138	213																																																																																																																			
採用	62	53	46	44	44	29																																																																																																																			
105	<p>看護学生向け就職説明会(R5末時点)(単位:人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>来場者数</th> <th>訪問者数</th> <th>受験者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ナース専科(静岡)</td> <td>49</td> <td>74</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>ナースナビ(浜松)</td> <td>174</td> <td>65</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>マイナビ(静岡)</td> <td>219</td> <td>160</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>(沼津)</td> <td>103</td> <td>82</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>業者計</td> <td>49</td> <td>49</td> <td>49</td> </tr> <tr> <td>静岡県立大学</td> <td>71</td> <td>127</td> <td>23</td> </tr> <tr> <td>常葉大学</td> <td>-</td> <td>54</td> <td>27</td> </tr> <tr> <td>聖隷クリストファー大学</td> <td>160</td> <td>-</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>順天堂大学</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>静岡市立看護専門学校</td> <td>81</td> <td>56</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>静岡県立看護専門学校</td> <td>104</td> <td>57</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>養成校計</td> <td>81</td> <td>81</td> <td>81</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>130</td> <td>130</td> <td>130</td> </tr> </tbody> </table> <p>※訪問者数は病院間の重複あり</p> 柔軟な採用試験の実施状況(単位:件) <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>9</td> <td>6</td> <td>9</td> <td>12</td> </tr> </tbody> </table> ホームページアクセス数 <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>アクセス数</td> <td>年間 88,655</td> <td>104,100</td> <td>107,956</td> <td>96,782</td> <td>91,367</td> <td>54,104</td> </tr> </tbody> </table> <p>※サイト側で集計方法変更があったため、令和4年度以前と比較できない(集計は、7月～3月分)</p>	区分	来場者数	訪問者数	受験者数	ナース専科(静岡)	49	74	11	ナースナビ(浜松)	174	65	0	マイナビ(静岡)	219	160	30	(沼津)	103	82	8	業者計	49	49	49	静岡県立大学	71	127	23	常葉大学	-	54	27	聖隷クリストファー大学	160	-	4	順天堂大学	-	-	11	静岡市立看護専門学校	81	56	6	静岡県立看護専門学校	104	57	10	養成校計	81	81	81	計	130	130	130	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	件数	6	7	9	6	9	12	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	アクセス数	年間 88,655	104,100	107,956	96,782	91,367	54,104	A	令和5年度については、効果的な職員採用に繋げるため、看護師や事務職員に続き、メディカルでもアソシエイト職員を採用し、優秀な人材確保を進めた。 また、看護師確保のため、就職説明会への参加や各種広報、修学資金貸与制度の拡充、養成校訪問に加えて、病院説明会など様々な確保対策を進めた。新たな確保策として3病院見学ツアーを企画・実施した。 今後も職員確保に向けた取組を継続していく。																																		
区分	来場者数	訪問者数	受験者数																																																																																																																						
ナース専科(静岡)	49	74	11																																																																																																																						
ナースナビ(浜松)	174	65	0																																																																																																																						
マイナビ(静岡)	219	160	30																																																																																																																						
(沼津)	103	82	8																																																																																																																						
業者計	49	49	49																																																																																																																						
静岡県立大学	71	127	23																																																																																																																						
常葉大学	-	54	27																																																																																																																						
聖隷クリストファー大学	160	-	4																																																																																																																						
順天堂大学	-	-	11																																																																																																																						
静岡市立看護専門学校	81	56	6																																																																																																																						
静岡県立看護専門学校	104	57	10																																																																																																																						
養成校計	81	81	81																																																																																																																						
計	130	130	130																																																																																																																						
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																			
件数	6	7	9	6	9	12																																																																																																																			
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																																																			
アクセス数	年間 88,655	104,100	107,956	96,782	91,367	54,104																																																																																																																			

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(R5、第3期中期目標期間)	令和5年度実績 自己評価																																																																																											
						評価	説明																																																																																										
			106	⑩月次決算の集計等により、病院の経営状況の早期把握を図る。	<p>本部（経営）</p> <p>理事会等における月次決算の報告回数（単位：回）</p> <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> <tr> <td>回数</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>10</td> <td>8</td> </tr> </table>	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	回数	6	6	10	10	10	8	A	理事会開催の度に月次決算の報告を実施し、病院の経営状況の早期把握及び機構内の情報共有を円滑に行うことができた。																																																																												
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																											
回数	6	6	10	10	10	8																																																																																											
			107	⑩⑪毎月の理事会や病院幹部会議において、経営状況を報告・分析するとともに、それらの経営状況の職員への周知を図る。 ⑩機構の直近の経営状況を職員(特に病院の幹部職員、県からの新しい派遣職員や新規採用職員)に認識させるため、会議や研修、広報誌等を通じて周知徹底する。	<p>各病院（企画・経営）</p> <p>理事会や運営会議において、毎月の月次決算により経営状況を分析し、報告を行っている。また、3病院合同幹部会議において各病院の幹部職員に定期的に報告し、周知を図っている。また、職員研修などにおいて、病院経営や効率的な業務運営に関する取組等の科目を設け、意識の醸成を図った。 院内コミュニケーションシステムや職員報（トライアングル等）を通じて、理事会資料等の経営情報を全職員に向け提供し、意識醸成を図っている。 上記取り組みを継続して行い、経営情報の把握や適時適切な措置を講じられる体制整備を図っている。</p>	A	月次決算等により、経営状況の報告・分析を着実に進めている。 また、会議や職員報を通じた経営分析結果の職員への周知、理事長、副理事長自らによる研修等により、職員の経営に対する意識啓発を図っている。 令和4年度は、コロナ禍による診療収益の減と、補助金の見込額を随時把握し、月次決算報告に反映させた。																																																																																										
	【目標値】 ・業務改善運動推進制度実績件数(総合、こころ、こども、本部)	【目標値】 ・業務改善運動推進制度実績件数(総合、こころ、こども、本部)	108	⑫院内コミュニケーションシステムを活用するなどして、職員が経営・業務改善を常時提案できる体制を整備する。	<p>各病院（企画）</p> <p>業務改善について、院内コミュニケーションシステム等を利用して、誰もが経営・業務改善を常時提案できる体制の整備に努めた。また、他職員の改善提案を確認できるよう仕組みを整備している。</p> <p>業務改善運動推進制度実績件数（単位：件）</p> <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> <th>毎年度目標</th> </tr> <tr> <td>総合</td> <td>72</td> <td>113</td> <td>27</td> <td>164</td> <td>95</td> <td>98</td> <td>80件以上</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>24</td> <td>32</td> <td>4</td> <td>53</td> <td>36</td> <td>37</td> <td>36件以上</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>34</td> <td>50</td> <td>29</td> <td>38</td> <td>75</td> <td>72</td> <td>71件以上</td> </tr> <tr> <td>本部</td> <td>10</td> <td>8</td> <td>8</td> <td>21</td> <td>20</td> <td>20</td> <td>19件以上</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>140</td> <td>203</td> <td>68</td> <td>276</td> <td>226</td> <td>227</td> <td>—</td> </tr> </table>	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標	総合	72	113	27	164	95	98	80件以上	こころ	24	32	4	53	36	37	36件以上	こども	34	50	29	38	75	72	71件以上	本部	10	8	8	21	20	20	19件以上	計	140	203	68	276	226	227	—	A	令和5年度については、各病院・所属で取組を実施しており、優れた取組については、ホームページやマスコミを活用し、他の医療機関に広く周知を図った。 総合病院においては目標件数80件に対して98件が報告された。																																										
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	毎年度目標																																																																																										
総合	72	113	27	164	95	98	80件以上																																																																																										
こころ	24	32	4	53	36	37	36件以上																																																																																										
こども	34	50	29	38	75	72	71件以上																																																																																										
本部	10	8	8	21	20	20	19件以上																																																																																										
計	140	203	68	276	226	227	—																																																																																										
2 事務部門の専門性の向上	2 事務部門の専門性の向上	2 事務部門の専門性の向上	109	①階層や職務に応じた効果的な研修の実施、学会発表等への事務職員の参加など ②異動方針の弾力的運用及び各部署におけるOJT(on-the-job training)をはじめとする人材の育成・研修の推進 ③診療情報管理機能の強化	<p>本部（総務）</p> <p>事務職員に対する研修状況</p> <table border="1"> <tr> <th>受講時期</th> <th>研修名</th> <th colspan="2">開催状況</th> </tr> <tr> <td>新採年度</td> <td>新規採用職員研修</td> <td>6月</td> <td>2日間</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">係長級昇任時</td> <td>新規役付職員研修</td> <td>5月</td> <td>3時間</td> </tr> <tr> <td>新任監督者研修</td> <td>6月</td> <td>1日間</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">管理者</td> <td>労務管理者研修</td> <td>6月</td> <td>2時間</td> </tr> <tr> <td>コーチング研修</td> <td>9月</td> <td>1日間</td> </tr> <tr> <td rowspan="7">希望により任意参加</td> <td>コミュニケーション研修</td> <td>9月</td> <td>1日間</td> </tr> <tr> <td>ファンリテーション研修</td> <td>9月</td> <td>1日間</td> </tr> <tr> <td>メンタルサポート研修</td> <td>12月</td> <td>4時間</td> </tr> <tr> <td>接遇・クレーム対応講座</td> <td>8月</td> <td>4時間</td> </tr> <tr> <td>事務職員基礎研修</td> <td>4月</td> <td>0.5時間</td> </tr> <tr> <td>内部統制講座(会計実務編)</td> <td>4月</td> <td>2時間</td> </tr> <tr> <td>内部統制講座(簿記・財務諸表編)</td> <td>8月</td> <td>3時間</td> </tr> <tr> <td>医療保険制度・診療報酬基礎講座</td> <td>9月</td> <td>3時間</td> </tr> </table>	受講時期	研修名	開催状況		新採年度	新規採用職員研修	6月	2日間	係長級昇任時	新規役付職員研修	5月	3時間	新任監督者研修	6月	1日間	管理者	労務管理者研修	6月	2時間	コーチング研修	9月	1日間	希望により任意参加	コミュニケーション研修	9月	1日間	ファンリテーション研修	9月	1日間	メンタルサポート研修	12月	4時間	接遇・クレーム対応講座	8月	4時間	事務職員基礎研修	4月	0.5時間	内部統制講座(会計実務編)	4月	2時間	内部統制講座(簿記・財務諸表編)	8月	3時間	医療保険制度・診療報酬基礎講座	9月	3時間	A	階層別、業務に必要なスキルを身につける専門研修を実施している。																																											
受講時期	研修名	開催状況																																																																																															
新採年度	新規採用職員研修	6月	2日間																																																																																														
係長級昇任時	新規役付職員研修	5月	3時間																																																																																														
	新任監督者研修	6月	1日間																																																																																														
管理者	労務管理者研修	6月	2時間																																																																																														
	コーチング研修	9月	1日間																																																																																														
希望により任意参加	コミュニケーション研修	9月	1日間																																																																																														
	ファンリテーション研修	9月	1日間																																																																																														
	メンタルサポート研修	12月	4時間																																																																																														
	接遇・クレーム対応講座	8月	4時間																																																																																														
	事務職員基礎研修	4月	0.5時間																																																																																														
	内部統制講座(会計実務編)	4月	2時間																																																																																														
	内部統制講座(簿記・財務諸表編)	8月	3時間																																																																																														
医療保険制度・診療報酬基礎講座	9月	3時間																																																																																															
事務部門において、病院特有の事務に精通した職員を確保及び育成することにより、専門性の向上を図ること。	経営管理機能を強化するため、引き続き法人固有の事務職員を採用して業務量に応じた柔軟な職員配置に努め、専門性を十分に発揮できるよう体制を整備する。また、急速な経営環境の変化にも迅速に対応できるように病院運営や医療事務等に精通した人材の確保にも努める。	①階層や職務に応じた効果的な研修の実施、学会発表等への事務職員の参加など ②異動方針の弾力的運用及び各部署におけるOJT(on-the-job training)をはじめとする人材の育成・研修の推進 ③診療情報管理機能の強化	110	③診療情報管理業務に専門的に携わることができる知識・技能を有する職員を育成する。	<p>本部・各病院（総務）</p> <p>診療情報管理士資格取得状況（単位：人）</p> <table border="1"> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="2">30年度</th> <th colspan="2">元年度</th> <th colspan="2">2年度</th> <th colspan="2">3年度</th> <th colspan="2">4年度</th> <th colspan="2">5年度</th> </tr> <tr> <th>資格取得者</th> <th>専門課程修了者</th> <th>資格取得者</th> <th>専門課程修了者</th> <th>資格取得者</th> <th>専門課程修了者</th> <th>資格取得者</th> <th>専門課程修了者</th> <th>資格取得者</th> <th>専門課程修了者</th> <th>資格取得者</th> <th>専門課程修了者</th> </tr> <tr> <td>総合</td> <td>7</td> <td>10</td> <td>7</td> <td>9</td> <td>9</td> <td>9</td> <td>9</td> <td>9</td> <td>9</td> <td>9</td> <td>7</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>7</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>本部</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>13</td> <td>17</td> <td>13</td> <td>14</td> <td>17</td> <td>17</td> <td>17</td> <td>17</td> <td>17</td> <td>17</td> <td>17</td> <td>17</td> </tr> </table> <p>※ 専門課程修了者：資格試験受験資格を有する者</p>	区分	30年度		元年度		2年度		3年度		4年度		5年度		資格取得者	専門課程修了者	資格取得者	専門課程修了者	資格取得者	専門課程修了者	資格取得者	専門課程修了者	資格取得者	専門課程修了者	資格取得者	専門課程修了者	総合	7	10	7	9	9	9	9	9	9	9	7	7	こころ	1	3	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	こども	3	4	3	3	5	5	5	5	5	5	7	7	本部	2	0	1	0	1	1	2	2	2	2	2	2	計	13	17	13	14	17	17	17	17	17	17	17	17	A	令和5年度については、診療情報管理機能の強化をするため、引き続き診療情報管理士資格の取得支援制度を活用するなど、必要な資格者を育成するとともに、適切な人員配置を行った。
区分	30年度		元年度		2年度		3年度		4年度		5年度																																																																																						
	資格取得者	専門課程修了者	資格取得者	専門課程修了者	資格取得者	専門課程修了者	資格取得者	専門課程修了者	資格取得者	専門課程修了者	資格取得者	専門課程修了者																																																																																					
総合	7	10	7	9	9	9	9	9	9	9	7	7																																																																																					
こころ	1	3	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1																																																																																					
こども	3	4	3	3	5	5	5	5	5	5	7	7																																																																																					
本部	2	0	1	0	1	1	2	2	2	2	2	2																																																																																					
計	13	17	13	14	17	17	17	17	17	17	17	17																																																																																					

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(R5、第3期中期目標期間)	令和5年度実績 自己評価																																										
						評価	説明																																									
3 収益の確保と費用の節減 <p>新たな診療報酬の取得可能性やDPCの係数向上等について積極的に検討を行うほか、診療報酬制度の改定に迅速に対応し、収益の確保を図ること。また、診療報酬請求漏れの防止や未収金の発生防止及び早期回収に努めること。 費用面においては、診療材料・医薬品等の適切な管理によるコスト削減に努めるほか、経営状況の分析を随時行い、費用対効果の改善に向けた進捗管理に取り組むこと。</p>	3 収益の確保と費用の節減 <p>診療報酬制度の改定に迅速に対応し、収益の確保を図る。また、様々な診療報酬の取得可能性やDPCの係数向上等について積極的に検討を行うほか、診療報酬請求漏れの防止、未収金の発生防止や早期回収に努める。費用面においては、診療材料・医薬品等の適切な管理によるコスト削減に努めるほか、経営状況の分析を随時行い、費用対効果の改善に向けた進捗管理に取り組む。</p>	3 収益の確保と費用の節減 <p>①平均在院日数の短縮に向けた取り組み ②医薬品、診療材料の適正かつ計画的な購入 ③診療報酬など収入の適正な確保 ④業務の質を担保しつつ、多様な契約手法の活用や事務の効率化などによるコスト削減 ⑤未収金対策の実施</p>	-	-	-	-	-																																									
								111	①平均在院日数の短縮に向け、DPC入院期間Ⅱ以内での退院を促進する。 【こころ】①長期入院患者の退院促進に取り組む。	各病院（医事）	<p>DPC入院期間Ⅱ以内の退院割合 (単位：%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>66.2</td> <td>68.8</td> <td>68.9</td> <td>71.8</td> <td>68.8</td> <td>68.3</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>67.0</td> <td>67.8</td> <td>67.6</td> <td>68.1</td> <td>74.2</td> <td>70.5</td> </tr> </tbody> </table> <p>長期入院患者率 (単位：%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>こころ</td> <td>38.9</td> <td>37.5</td> <td>43.1</td> <td>44.0</td> <td>42.0</td> <td>41.7</td> </tr> </tbody> </table>	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	総合	66.2	68.8	68.9	71.8	68.8	68.3	こども	67.0	67.8	67.6	68.1	74.2	70.5	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	こころ	38.9	37.5	43.1	44.0	42.0	41.7	A	(総合) DPC入院期間Ⅱ以内の退院割合を高めるため、定例医局会で月次報告を行い、入院期間Ⅱ以内の退院について協力を求めるとともに、クリニカルパス見直し等の取組を行っている。 (こころ) 患者の早期入院・早期退院に努めており、長期入院患者率が前年度を下回った。 (こども) DPC部会を開催し、状況確認や課題の解決について取り組んだ。
								区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																		
総合	66.2	68.8	68.9	71.8	68.8	68.3																																										
こども	67.0	67.8	67.6	68.1	74.2	70.5																																										
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																										
こころ	38.9	37.5	43.1	44.0	42.0	41.7																																										
112	②診療材料、薬品の廃棄状況を要因別・部門別に明らかにし、破棄・破損について、削減のための対策を講じる。	各病院	<p>破棄・破損額（5年度3月末） (単位：千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>診療材料費</th> <th>薬品費</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>5,446</td> <td>1,945</td> <td>7,391</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>321</td> <td>119</td> <td>440</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>2,930</td> <td>3,290</td> <td>6,220</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>8,697</td> <td>5,354</td> <td>14,051</td> </tr> </tbody> </table>	区分	診療材料費	薬品費	合計	総合	5,446	1,945	7,391	こころ	321	119	440	こども	2,930	3,290	6,220	合計	8,697	5,354	14,051	A	(総合) 破棄・破損については、部署、原因、金額等の記録を徹底し、特に高額なものはインシデントレポートの提出を義務化している。また、委員会において事象報告を行い、対応策を議論することにより、破棄・破損の削減に努めている。前年同期に比べ▲1,007千円となっている。 (こころ) 薬品類については、前年度までの取組に引き続き、破棄・破損額の抑制のため、3病院間での薬品の譲受譲渡を推進し、不動態在庫の軽減に繋げた。 診療材料については、病棟内における在庫の適正化をすすめ、病棟内の在庫を減らし必要時に度発注することとして、前年度までの取組を継続して、期限切れによる廃棄の削減に努めた。 (こども) 各部署と金額等の情報共有を徹底するとともに、委員会等で破棄・破損額の情報共有、適切な在庫管理の周知を行い、破棄・破損の削減に努めた。																							
区分	診療材料費	薬品費	合計																																													
総合	5,446	1,945	7,391																																													
こころ	321	119	440																																													
こども	2,930	3,290	6,220																																													
合計	8,697	5,354	14,051																																													
113	③積極的に施設基準を取得する。 ・診療報酬の適正請求にかかる研修会等を実施する。	各病院	(総合) 4月から精神科病棟を開棟した。1ヶ月間の実績をもって5月から10対1看護の届出を行うことが出来た。また精神科病棟の開棟に伴い、総合入院体制加算も2から1へランクアップすることができた。看護補助者の活用に関する所定の研修を受講した看護師長等の配置等が整ったため、急性期看護補助体制加算(看護補助体制充実加算)の新規届出を行った。派遣による看護補助者の増員等により基準を満たせる月においては、急性期看護補助体制加算を50対1から25対1にランクアップするなど状況に応じて変更の届出を行った。下肢創傷処置や静脈圧迫処置など、新しい医療技術についても導入を進め、要件を満たすことができたため、届出を行った。生殖補助医療管理料、一般不妊治療管理料など、人員要件、診療実績、体制整備などの調整及び確認を行い、要件を満たすことができたため、届出を行った。外部のコンサルタント等に研修会の講師を依頼することで、適切かつ最新の情報で研修会を開催出来ている。またこの研修会を行うことで、臨床研修病院の施設基準の要件も維持することが出来ている。  (こども) ●施設基準の新規取得 人員要件、診療実績、他施設との連携構築、院内施設整備、運用構築等含めたマニュアルの整備を実施。 ・クラウンブリッジ維持管理料 ・抗アデノ随伴ウイルス9型(AAAV)抗体 ・情報通信機器を用いた診療に係る基準 ・西2A病棟にかかる療養環境加算 ・歯科口腔リハビリテーション料2 ・ロービジョン検査判断料  ●施設基準の変更申請 診療実績、人員要件を都度確認し、診療実態に合わせて、随時施設基準の変更申請を実施 ・看護処遇改善評価料(109)→(96)へ ・救急搬送看護体制加算2→1へ ・麻酔管理料1、2  ●研修会等の実施 ・東海北陸厚生局主催の診療報酬改定説明会に参加 ・令和6年の診療報酬改定WGを開催し、改定内容の説明及び新規取得項目の検討を実施。	A	各病院において、施設基準の新規及び変更の届出を積極的に行い、診療単価の向上に寄与している。 また、研修会等を通じて、病院全体として適正請求に関する意識を高めるよう努めている。																																											

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(R5、第3期中期目標期間)	令和5年度実績 自己評価																																																																																										
						評価	説明																																																																																									
			114	④SPD導入により、薬品・診療材料の期限切れ、病棟の在庫額減少に努める。	<p>薬品、診療材料期限切れ廃棄額 (単位：千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>薬品</td> <td>2,931</td> <td>2,279</td> <td>2,553</td> <td>2,638</td> <td>2,031</td> <td>3,526</td> </tr> <tr> <td>診療材料</td> <td>969</td> <td>973</td> <td>627</td> <td>1,631</td> <td>979</td> <td>668</td> </tr> </tbody> </table> <p>薬品・診療材料在庫額 (単位：千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>薬品</td> <td>92,244</td> <td>136,694</td> <td>153,688</td> <td>160,916</td> <td>168,436</td> <td>188,840</td> </tr> <tr> <td>診療材料</td> <td>224,292</td> <td>221,511</td> <td>227,708</td> <td>239,545</td> <td>251,101</td> <td>263,420</td> </tr> </tbody> </table>	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	薬品	2,931	2,279	2,553	2,638	2,031	3,526	診療材料	969	973	627	1,631	979	668	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	薬品	92,244	136,694	153,688	160,916	168,436	188,840	診療材料	224,292	221,511	227,708	239,545	251,101	263,420	総合	A	<p>薬品及び診療材料については、使用期限を確認し、期限切迫品の表示や使用頻度の高い部署へ移管を行うことにより、ロスを防ぐなどSPD業務の改善を図っている。しかしながら、稀な症例に使用する物品(ただし緊急時になければ困るもの)が期限切れになっており、今後も管理方法について検討を行っている。</p> <p>薬品は、SPDによる在庫管理に加え、3病院間における移管や担当職員の間により、期限切れ廃棄額の削減と在庫額減少に努めている。</p> <p>診療材料は、手術室において期限切迫品カートを設置し、使用を促している。医療の高度化により高額材料が増加したが、ピッキングリストの見直し提案等、在庫の削減に努めている。</p> <p>マスクや手袋等、供給体制が不安定な物品については、在庫量を一時的に増やす対応を実施した。</p> <p>また、原材料価格の上昇による値上げ物品の増加に伴い在庫額が増えている。</p>																																														
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																										
薬品	2,931	2,279	2,553	2,638	2,031	3,526																																																																																										
診療材料	969	973	627	1,631	979	668																																																																																										
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																										
薬品	92,244	136,694	153,688	160,916	168,436	188,840																																																																																										
診療材料	224,292	221,511	227,708	239,545	251,101	263,420																																																																																										
			115	④材料費等の節減のための対策を実施する。	<p>診療材料コスト削減実績 (単位：千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>85,869</td> <td>82,971</td> <td>71,680</td> <td>132,620</td> <td>81,872</td> <td>116,931</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>95</td> <td>13</td> <td>3</td> <td>105</td> <td>99</td> <td>38</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>15,458</td> <td>16,734</td> <td>12,229</td> <td>22,956</td> <td>24,366</td> <td>21,529</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>101,422</td> <td>99,718</td> <td>83,912</td> <td>155,681</td> <td>106,337</td> <td>138,498</td> </tr> </tbody> </table> <p>5年度 新規導入・廃止した診療材料・薬品 品目数の実績 (単位：件)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="4">診療材料品目数</th> <th colspan="4">薬品品目数</th> </tr> <tr> <th>5年度当初 契約数(a)</th> <th>新規採用数 (b)</th> <th>廃止数 (c)</th> <th>契約数 (a+b-c)</th> <th>5年度当初 契約数(a)</th> <th>新規採用数 (b)</th> <th>廃止数 (c)</th> <th>契約数 (a+b-c)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総合</td> <td>17,429</td> <td>592</td> <td>356</td> <td>17,665</td> <td>2,076</td> <td>220</td> <td>120</td> <td>2,176</td> </tr> <tr> <td>こころ</td> <td>418</td> <td>23</td> <td>36</td> <td>405</td> <td>613</td> <td>54</td> <td>27</td> <td>640</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>3,827</td> <td>151</td> <td>91</td> <td>3,887</td> <td>1,335</td> <td>55</td> <td>31</td> <td>1,359</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>21,674</td> <td>766</td> <td>483</td> <td>21,957</td> <td>4,024</td> <td>329</td> <td>178</td> <td>4,175</td> </tr> </tbody> </table>	区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	総合	85,869	82,971	71,680	132,620	81,872	116,931	こころ	95	13	3	105	99	38	こども	15,458	16,734	12,229	22,956	24,366	21,529	合計	101,422	99,718	83,912	155,681	106,337	138,498	区分	診療材料品目数				薬品品目数				5年度当初 契約数(a)	新規採用数 (b)	廃止数 (c)	契約数 (a+b-c)	5年度当初 契約数(a)	新規採用数 (b)	廃止数 (c)	契約数 (a+b-c)	総合	17,429	592	356	17,665	2,076	220	120	2,176	こころ	418	23	36	405	613	54	27	640	こども	3,827	151	91	3,887	1,335	55	31	1,359	合計	21,674	766	483	21,957	4,024	329	178	4,175	各病院(企画)	A	<p>診療材料は共同購入の取組を継続しており、一層の価格削減を進めているほか、令和4年度以降、燃料費の高騰を受け、電気料金が上昇していることから、3病院に空調・照明をはじめとした節電対策への呼びかけを行い、電気使用量について継続的に情報共有を図るなど、経費の削減に努めている。</p> <p>(総合) 診療材料の値上げ物品増加に伴いなかなか価格交渉ができない中、共同購入では、切替活動を積極的に行った結果、還元額が104,356千円になり、初めて還元額が1億円超え過去最高の還元額となった。価格交渉とあわせたコスト削減実績は前年同期と比較すると35,059千円増加した。</p> <p>(こころ) 診療材料、薬品とも適正な在庫管理とコスト削減に努めている。</p> <p>(こども) 後発医薬品への切り替えに当たっては、小児病院の特性から、先発品との同等性を十分に確認することが必要であるため、安全性・使用性・生物学的同等性の視点を重視し、他の小児専門病院の採用状況を参考にしながら切替え候補品目を選定した。</p>
区分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度																																																																																										
総合	85,869	82,971	71,680	132,620	81,872	116,931																																																																																										
こころ	95	13	3	105	99	38																																																																																										
こども	15,458	16,734	12,229	22,956	24,366	21,529																																																																																										
合計	101,422	99,718	83,912	155,681	106,337	138,498																																																																																										
区分	診療材料品目数				薬品品目数																																																																																											
	5年度当初 契約数(a)	新規採用数 (b)	廃止数 (c)	契約数 (a+b-c)	5年度当初 契約数(a)	新規採用数 (b)	廃止数 (c)	契約数 (a+b-c)																																																																																								
総合	17,429	592	356	17,665	2,076	220	120	2,176																																																																																								
こころ	418	23	36	405	613	54	27	640																																																																																								
こども	3,827	151	91	3,887	1,335	55	31	1,359																																																																																								
合計	21,674	766	483	21,957	4,024	329	178	4,175																																																																																								
			116	④効率的な医療機器購入及び管理のための対策を実施する。	<p>各病院において、徹底した価格交渉や価格調査を行い、入札・見積合わせ等により競争性を確保することなどにより、効率的な購入及び管理に努めている。</p> <p>価格交渉では事務と連携して医師等自らも業者と交渉するほか、スケールメリットを生かした複数台購入も行っている。</p> <p>価格調査では、他病院実績の調査や関係団体への照会、ベンチマーク調査により目安となる金額の把握を徹底し、適正な金額設計に生かしている。</p> <p>医療機器保守委託では、3病院一括の契約を結ぶなど、機器に応じた契約や不要になった保守機器の随時の見直しを行いコスト低減を図っている。</p>	各病院(企画)	A	<p>総合病院では、仕様の見直し、入札、見積合わせによる交渉の結果、今年度購入予定機器全体の予算に対して、約140,000千円の削減ができた。</p> <p>3病院一括での契約については、保守の必要性が低下した機器につき、随時必要性の見直しを行い変更契約している。</p> <p>引き続き各病院と連携し、コスト低減を図っていく。</p>																																																																																								



中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(R5、第3期中期目標期間)	令和5年度実績 自己評価																																																																																									
						評価	説明																																																																																								
			117	④複数年契約や集約化等による契約方法の見直しを継続的に実施する。	<p>委託費の節減を図るため、契約更新時に引き続き一括化・複数年化を行うか検討している。 コスト削減による業務水準の低下を防ぐため、一部の委託については、定期的にモニタリング（委託業者の業務を評価）を行い、質の維持・向上を図っている。</p> <p>5年度 委託契約等の見直し状況（単年度ベース・令和5年度末時点） (単位：千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>業務名(連携)</th> <th>連携</th> <th>年数</th> <th>期間</th> <th>種類</th> <th>令5決議額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>感染性産業廃棄物処理業務委託</td> <td>3病院</td> <td>3年</td> <td>令5.4～令8.3</td> <td>単価</td> <td>64,758</td> </tr> <tr> <td>寝具類賃貸借</td> <td>3病院</td> <td>3年</td> <td>令5.4～令8.3</td> <td>単価</td> <td>104,128</td> </tr> <tr> <td>消防設備点検業務委託</td> <td>3病院</td> <td>3年</td> <td>令5.4～令8.3</td> <td>定額</td> <td>10,658</td> </tr> <tr> <td>庭園管理業務委託</td> <td>心・子</td> <td>3年</td> <td>令5.4～令8.3</td> <td>定額</td> <td>9,864</td> </tr> <tr> <td>医療機器等保守点検業務委託</td> <td>3病院</td> <td>1年</td> <td>令5.4～令6.3</td> <td>定額</td> <td>274,197</td> </tr> <tr> <td>放射線機器保守管理等業務委託</td> <td>3病院</td> <td>1年</td> <td>令5.4～令6.3</td> <td>定額</td> <td>234,834</td> </tr> <tr> <td>シーメンス社製医療機器保守業務委託</td> <td>総・子</td> <td>1年</td> <td>令5.4～令6.3</td> <td>定額</td> <td>85,293</td> </tr> <tr> <td>建築基準法の定期報告業務委託</td> <td>3病院</td> <td>1年</td> <td>令5.5～令6.3</td> <td>定額</td> <td>6,600</td> </tr> <tr> <td colspan="5">合 計</td> <td>790,332</td> </tr> </tbody> </table> <p>5年度 委託モニタリング評価結果(令和5年度末時点)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>第1期</th> <th>第2期</th> <th>第3期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>給食</td> <td>可</td> <td>可</td> <td>可</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>第1四半期</th> <th>第2四半期</th> <th>第3四半期</th> <th>第4四半期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>清掃</td> <td>可</td> <td>可</td> <td>可</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>警備(心・子)</td> <td>可</td> <td>可</td> <td>可</td> <td>可</td> </tr> <tr> <td>医事(総・心)</td> <td>可</td> <td>可</td> <td>可</td> <td>可</td> </tr> </tbody> </table> <p>※業務に関するアンケートや業務提案の有無などにより業務内容を評価。 ※-0%：業務実績が不良だったため、契約に基づき委託料を一部減額したものの</p>	業務名(連携)	連携	年数	期間	種類	令5決議額	感染性産業廃棄物処理業務委託	3病院	3年	令5.4～令8.3	単価	64,758	寝具類賃貸借	3病院	3年	令5.4～令8.3	単価	104,128	消防設備点検業務委託	3病院	3年	令5.4～令8.3	定額	10,658	庭園管理業務委託	心・子	3年	令5.4～令8.3	定額	9,864	医療機器等保守点検業務委託	3病院	1年	令5.4～令6.3	定額	274,197	放射線機器保守管理等業務委託	3病院	1年	令5.4～令6.3	定額	234,834	シーメンス社製医療機器保守業務委託	総・子	1年	令5.4～令6.3	定額	85,293	建築基準法の定期報告業務委託	3病院	1年	令5.5～令6.3	定額	6,600	合 計					790,332	区 分	第1期	第2期	第3期	給食	可	可	可	区 分	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	清掃	可	可	可	可	警備(心・子)	可	可	可	可	医事(総・心)	可	可	可	可	A	複数病院で集約化した委託費等の契約は20件、うち複数年化を行ったものは、16件に上っており、一括化・複数年化による費用削減及び事務の簡素化につながっている。 医事や警備を始めとした一部の委託については、定期的にモニタリング(委託業者の業務を評価)を行い、質の維持・向上が図られている。
業務名(連携)	連携	年数	期間	種類	令5決議額																																																																																										
感染性産業廃棄物処理業務委託	3病院	3年	令5.4～令8.3	単価	64,758																																																																																										
寝具類賃貸借	3病院	3年	令5.4～令8.3	単価	104,128																																																																																										
消防設備点検業務委託	3病院	3年	令5.4～令8.3	定額	10,658																																																																																										
庭園管理業務委託	心・子	3年	令5.4～令8.3	定額	9,864																																																																																										
医療機器等保守点検業務委託	3病院	1年	令5.4～令6.3	定額	274,197																																																																																										
放射線機器保守管理等業務委託	3病院	1年	令5.4～令6.3	定額	234,834																																																																																										
シーメンス社製医療機器保守業務委託	総・子	1年	令5.4～令6.3	定額	85,293																																																																																										
建築基準法の定期報告業務委託	3病院	1年	令5.5～令6.3	定額	6,600																																																																																										
合 計					790,332																																																																																										
区 分	第1期	第2期	第3期																																																																																												
給食	可	可	可																																																																																												
区 分	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期																																																																																											
清掃	可	可	可	可																																																																																											
警備(心・子)	可	可	可	可																																																																																											
医事(総・心)	可	可	可	可																																																																																											
			118	⑤弁護士事務所への未回収業務委託を活用し、未収金の縮減、効率的な回収を実施する。 ⑥未収金に関する研修や、弁護士事務所への相談等により、事務担当者のレベルアップを図る。	<p>平成24年度から弁護士法人へ委託先を変更。 未回収業務実績(弁護士事務所委託分) 単位:百万円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>新規 委任金額</th> <th>回収額</th> <th>累計回収率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>24～29年度</td> <td>224</td> <td>105</td> <td>47.1%</td> </tr> <tr> <td>30年度</td> <td>23</td> <td>16</td> <td>49.4%</td> </tr> <tr> <td>元年度</td> <td>26</td> <td>20</td> <td>52.0%</td> </tr> <tr> <td>2年度</td> <td>30</td> <td>16</td> <td>52.0%</td> </tr> <tr> <td>3年度</td> <td>24</td> <td>12</td> <td>52.0%</td> </tr> <tr> <td>4年度</td> <td>32</td> <td>17</td> <td>52.1%</td> </tr> <tr> <td>5年度</td> <td>24</td> <td>13</td> <td>52.2%</td> </tr> </tbody> </table>	年度	新規 委任金額	回収額	累計回収率	24～29年度	224	105	47.1%	30年度	23	16	49.4%	元年度	26	20	52.0%	2年度	30	16	52.0%	3年度	24	12	52.0%	4年度	32	17	52.1%	5年度	24	13	52.2%	A	累計回収率については、令和元年度以降50%を超えており、令和5年度末時点で52.2%となった。 平成23年度以前に委託していたサービサーの回収率が20.4%であったのに対して、高い回収率を維持している。																																																								
年度	新規 委任金額	回収額	累計回収率																																																																																												
24～29年度	224	105	47.1%																																																																																												
30年度	23	16	49.4%																																																																																												
元年度	26	20	52.0%																																																																																												
2年度	30	16	52.0%																																																																																												
3年度	24	12	52.0%																																																																																												
4年度	32	17	52.1%																																																																																												
5年度	24	13	52.2%																																																																																												
第4 財務内容の改善に関する事項	第4 予算、収支計画及び資金計画	第3 予算、収支計画、資金計画及び収支予算等	-	-	-	-	-																																																																																								
<p>業務運営の改善及び効率化を進めるなどして、第3期中期目標期間を累計した損益計算において、経常収支比率を100%以上とすること。 業務運営に当たっては、日頃から経営状況を的確に把握するとともに、社会保障制度の見直しや診療報酬制度の改定など、病院経営に大きく関わる環境変化に対しても適切な対応を図ること。これら取組を通じて、中長期的な病院運営の健全化や経営基盤の強化を図ること。</p>	<p>「第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置」で定めた計画を確実に実施することにより、業務運営の改善及び効率化を進めるなどして、第3期中期目標期間を累計した損益計算において、経常収支比率を100%以上とすることを目指す。 業務運営に当たっては、日頃から経営状況を的確に把握し、社会保障制度の見直しや診療報酬制度の改定など、病院経営に大きく関わる環境変化に対しても適切な対応を図り、経営情報を職員が共有するなど、職員全員の経営意識の向上に努める。これら取組を通じて、中長期的な病院運営の健全化や経営基盤の強化を図る。</p>	<p>・新規施設基準取得などによる増収への取組みと業務見直しによる支出節減への取組みを効率的に進めることにより、各年度での3病院黒字化を図る。</p>	119	<p>経常収支の状況 (単位：%)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>30年度</th> <th>元年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> <th>5年度</th> <th>5目標※</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総 合</td> <td>100.8</td> <td>100.6</td> <td>100.6</td> <td>102.4</td> <td>100.9</td> <td>98.4</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>こ ころ</td> <td>112.9</td> <td>103.1</td> <td>108.6</td> <td>106.8</td> <td>103.9</td> <td>98.2</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>こども</td> <td>103.4</td> <td>101.4</td> <td>102.3</td> <td>102.9</td> <td>100.6</td> <td>93.3</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>機構全体</td> <td>102.2</td> <td>100.9</td> <td>101.5</td> <td>102.7</td> <td>101.0</td> <td>97.1</td> <td>100.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>目標：第3期目標期間を累計した損益計算において経常収支100%以上 実績：第3期目標期間を累計した損益計算において経常収支100.6%(機構全体)</p>	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	5目標※	総 合	100.8	100.6	100.6	102.4	100.9	98.4	-	こ ころ	112.9	103.1	108.6	106.8	103.9	98.2	-	こども	103.4	101.4	102.3	102.9	100.6	93.3	-	機構全体	102.2	100.9	101.5	102.7	101.0	97.1	100.0	C	第3期中期計画(令元～5)の最終年度となる令和5年度は、物価高騰に伴う材料費の増加の影響などにより、経常収支比率100%を下回った。 中期計画の予算では、経常収支比率100%以上としていたが、各病院とも経常収支比率100%以上を達成することができず、15億2,978万円の経常損失となった。 各病院においては、新型コロナウイルス感染症が5類に分類された後の患者数の回復や経営状況の把握を行い経営改善に努め、その効果が現れてきたものの、こども病院においては、新型コロナウイルス感染症の影響や近年の急激な少子化の進行に十分な対応が図れず、非常に厳しい経営状況となっている。																																																	
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	5目標※																																																																																								
総 合	100.8	100.6	100.6	102.4	100.9	98.4	-																																																																																								
こ ころ	112.9	103.1	108.6	106.8	103.9	98.2	-																																																																																								
こども	103.4	101.4	102.3	102.9	100.6	93.3	-																																																																																								
機構全体	102.2	100.9	101.5	102.7	101.0	97.1	100.0																																																																																								

用語 (50音順)	解 説
ACT	ACTとは、Assertive Community Treatment(包括型地域生活支援プログラム)の略で、重い精神障害を持つ人たちに対して、住み慣れた地域で支援する、集中型・包括型ケースマネジメントプログラム。
CCU	CCUとは、Coronary Care Unitの略で、冠疾患集中治療室と呼ばれ、主に心筋梗塞などの冠動脈疾患の急性危機状態の患者を収容し、専門の医師・看護師により、厳重な監視モニター下で持続的・集中的に管理・治療する部門。 ※こども病院では、CCUをCardiac(心臓病の)ICUと位置付けている。
DMAT	DMATとは、Disaster Medical Assistance Teamの略で、医師、看護師、業務調整員(医師・看護師以外の医療職及び事務職員)で構成され、大規模災害や多傷病者が発生した事故などの現場に、急性期(おおむね48時間以内)に活動できる機動性を持ち、専門的な訓練を受けた医療チーム(DMAT:ディーマット)
DPAT	DPATとは、disaster psychiatric assistance teamの略で、大規模災害発生後、被災地域に入り、精神科医療及び精神保健活動の支援を行う災害派遣精神医療チーム(DPAT:ディーパット)
DPC	DPCとは、Diagnosis Procedure Combinationの略で、診断群分類のこと。これに基づく診断群分類包括評価(しんだんぐんぶんるいほうかつひょうか)により、日本の急性期入院医療費の定額支払制度が平成18年から(試行は平成15年から)運用されている。(総合:H20.7導入、こども:H21.7導入)
ECMO	ECMOとは、ExtraCorporeal Membrane Oxygenationの略で、最重症の呼吸循環不全に対して用いられる手技で、膜型人工肺を組み込んだ体外循環を用いて呼吸や循環を補助する。
ESCO	ESCOとは、Energy Service Companyの略で、1970年代アメリカで始まり、1990年代後半に日本に導入された省エネ化を目指す事業で、省エネルギーに関わる一連の業務を一括して請け負うことや、計画した省エネ効果が出なかった場合、省エネ相当分を顧客に補償する義務を負うことなどが特徴。
HCU	HCUとは、High Care Unitの略で、集中治療室に準ずる機能を持つ高度な治療室。看護配置数は集中治療室の1/2であるが、一般の病棟よりはるかに多いため両者の中間に位置する病室。集中治療室から一般病棟への転室は落差が大き過ぎ、移行が難しいため、一般病棟への移行を円滑に行うために設置される。手術後の患者や集中治療を脱した重症患者の経過観察を受け持つことが多い。
ICU	ICUとは、Intensive Care Unitの略で、集中治療室と呼ばれ、内科系・外科系を問わず呼吸、循環、代謝そのほかの重篤な急性機能不全の患者を収容し、強力かつ集中的に治療看護を行う部門。
IMRT	IMRTとは、Intensity Modulated Radiation Therapyの略で、強度変調放射線治療を言い、コンピュータの助けを借りて正常組織への照射線量を抑えつつ、腫瘍部分に放射線を集中して照射することができる放射線治療である。
m-ECT	m-ECTとは、修正型電気けいれん療法で麻酔科医による全身麻酔の下、筋弛緩剤の投与により体幹のけいれんを起こさせないもので、うつ病、躁うつ病、統合失調症などの治療に用いられており、従来の有けいれん療法に比べ、安全で有効な治療法とされている。
MFIUCU	MFIUCUとは、Maternal Fetal Intensive Care Unitの略で、重い妊娠中毒症、前置胎盤、合併症妊娠、切迫早産や胎児異常など、ハイリスク出産の危険度が高い母体・胎児に対応するための設備と医療スタッフを備えた集中治療室
Mitra Clip	Mitra Clip(マイトラクリップ)とは、手術リスクの高い僧帽弁閉鎖不全症患者に対して行う経カテーテル僧帽弁クリップ術である。2003年にヨーロッパで始まり、欧米を中心に6万人以上の治療実績を有する。日本では2017年10月に認可があり、全国12施設で約300症例に対して治療が行われている。

用語 (50音順)	解 説
MSW	MSWとは、Medical Social Workerの略で、疾病を有する患者が、病気になることで生じる生活上の様々な困難に対して、自立した生活を送ることができるように、社会福祉の立場から、患者の生活全体を支援していく専門家のこと。
N I C U	N I C Uとは、Neonatal Intensive Care Unitの略で、未熟児をはじめとするハイリスク新生児は専門的な医療機関で集中治療・管理する必要がある、このような医療を展開する場所全体を一般的に広義の新生児集中治療室と呼んでいる。
P C I	血管に刺入する管（カテーテルという）を用いて冠動脈疾患に様々な治療を行うことを総称して（経皮的）冠動脈インターベンション（PCI）と呼ぶ。 風船療法（カテーテルの先端の風船（バルーン）で狭窄した冠動脈を拡げる）や経皮的冠動脈ステント留置術（拡げた冠動脈にステントという金属のコイルを内側に張り付けて血管を支え再狭窄を防ぐ）やDCA（カッターで狭窄病変部位を削り取り拡げる治療法）やローターブレードというドリルのような先端を回転させて病変を削り取るなどの治療法がある。
P E T	P E Tとは、Positron Emission Tomography（ポジトロン・エミッション・トモグラフィ）の略で、PET検査とは、陽電子（ポジトロン）を放出する放射性核種（ポジトロン核種）で標識した薬剤を静脈から注射して、細胞の活動状態を画像化する診断技術である。 がん等の診断、治療効果・治療後の経過観察に有用な最先端の検査法で、同様にがんの早期発見にも有用である。
P I C U	P I C Uとは、Pediatric Intensive Care Unitの略で、小児集中治療室と呼ばれ、専属の専門医が配置され独立病棟として24時間小児重症患者を受け入れている。
P S W	P S Wとは、Psychiatric Social Workerの略で、精神保健福祉士と言い、社会福祉学を学問的基盤として、精神障害者の抱える生活問題や社会的問題の解決のための援助や、社会参加に向けての支援活動を通じて、患者を支援していく専門家のこと。
S P D	S P Dとは、Supply Processing Distributionの略で、物品・物流の包括的管理業務のことを指す。物品の発注、検収、入庫、払出、搬送、格納、出庫、在庫確認、棚卸を一元管理すること。
T A V I	T A V I（タビ）とは、Transcatheter Aortic Valve Implantationの略で、「経カテーテル大動脈弁置換術」と言い、重症の大動脈弁狭窄症に対する手術療法である。T A V Iは、胸を開かずに、心臓が動いている状態で、カテーテルを用いて人工弁を患者の心臓に装着する治療法である。
医療観察制度	心神喪失又は心神耗弱の状態で大変な他害行為を行った人を対象として、国の責任による手厚い専門的な医療と、退院後の継続的な医療を確保するための仕組み等によって、その円滑な社会復帰を促進することを目的とした制度であり、こころの医療センターにおいては、平成21年3月24日付で指定入院医療機関指定書（東海北陸厚生局長指定、第0004号）により指定入院医療機関として指定された。
医療ビッグデータ	医療ビッグデータとは、人の健康、病気、治療等に関するビッグデータを言い、レセプトデータ、電子カルテ等に記録された診療データ、特定の疾患に関する臨床データ、薬局における調剤データ、健康診断データ等があげられる。
がんゲノム医療	がんゲノム医療とは、がんの組織を用いて多数の遺伝子を同時に調べ（がん遺伝子パネル検査）、遺伝子変異を明らかにすることにより、一人一人の体質や病状に合わせて治療等を行う医療である。

用語（50音順）	解 説
看護師修学資金制度	<p>当機構への就職を希望する看護学生に対して、資質の向上に資することを目的に修学資金（月5万円）を貸与する制度のこと。なお、当機構に看護師として就職した期間に相当する額の返還が免除される。</p> <p>また、既に静岡県外の病院等から貸与を受けている同種の修学資金に対して、借り換えをするための資金（返還資金）を貸与するメニューも用意している。</p>
緩和ケア	<p>主に治癒を目的とする治療ではなく、全人的なケアで、痛み、その他の症状コントロール、心理面、社会面、精神面のケアを行うもの。</p>
がんセンターボード	<p>がんの症例について、手術・化学療法・放射線治療・緩和医療、画像診断、病理診断等、院内のがん診療・診断に携わる医師をはじめ、看護師、薬剤師等関連する専門職が、診療科や職種の垣根を越えて一堂に集まって、さらに連携する地域の医療者（医師会の医師、看護師、薬剤師、訪問看護師、介護関係職等）にも参加してもらい、それぞれの専門的な知識・技能を集約して、がん患者の症状・状態や治療法・治療方針等の情報を共有して意見交換し、最適な治療方針を協議・決定する場のことを言う。</p>
クリニカルパス	<p>クリニカルパスとは、ある病気の治療や検査に対して、標準化された患者様のスケジュールを表にまとめたもので、1つの治療や検査ごとに1つずつ作られている。</p> <p>クリニカルパスには、病院用、患者様用と2つ準備されており、患者用クリニカルパスには、「入院診療計画書」として、患者が入院してからの食事や処置、検査・治療、そのための準備、退院後の説明等が日ごとに詳しく説明されている。</p>
クロザピン	<p>クロザピンは抗精神病薬で、H21.4月に製造承認され、7月より発売開始となった。クロザピンの使用にあたっては、高い治療効果の反面、重篤な副作用（白血球の減少）が報告されていることから、安全管理体制の整備が義務付けられている。</p>
ゲノムコホート研究	<p>コホート研究とは、ある特定の集団を一定期間にわたり追跡し、生活習慣等の環境因子や遺伝的要因と疾病発症との関係を解析するための研究である。ゲノムコホート研究は、遺伝子型と疾病発症との関係を解析する研究である。</p>
コーディング	<p>疾病や手術、検査などをコード化する仕事。</p> <p>最近、病院では診療情報を活用するために、あるいはDPCやがん登録などの国の制度の義務付けにより、標準化されたコードへのコーディングとそのシステムへの登録が必要となり、そのためコーディングする人の需要が、増えている。正しいコーディングのためには、コード体系の知識とともに医学知識やカルテを読み解く能力が要求される。</p> <p>疾病のコーディング：膝の関節炎⇒M13.96（Mは骨・筋肉などを示す。13は関節炎を示す。9は詳細不明を示す。6は膝を示す）</p>
コメディカル	<p>薬剤師・診療放射線技師・臨床検査技師・歯科衛生士・理学療法士・作業療法士などの、医師・看護師以外の医療従事者の総称のこと。</p>
紹介率・逆紹介率	<p>・紹介率とは、初診患者のうち、他の医療機関から紹介状により紹介された患者の数が占める割合のことである。</p> $\text{紹介率} = (\text{初診患者のうち紹介患者数}) \div \text{初診患者数} \times 100$ <p>・逆紹介率とは、地域医療支援病院の全患者のうちから他の医療機関に紹介した者で、診療情報提供料を算定したもの数（同一人に複数回又は複数紹介先算定の場合あり）と、初診患者の総数との比較のことである。</p> $\text{逆紹介率} = \text{逆紹介患者数} \div \text{初診患者数} \times 100$
初期臨床研修医 後期臨床研修医	<p>免許取得の後に、臨床研修の名で上級医の指導の下に臨床経験を積む卒業後教育が制度化された。病院独自に「前期・後期研修医」の名称を使用することがあるが、研修医（広義、1-5年目程度）= 研修医（狭義、=前期研修医、1-2年目）+ 後期研修医（3-5年目程度）としていることが一般的である。</p> <p>一般に「研修医」の語を使う場合、「前期研修医」を指す。後期研修医とほぼ同義の語として、専修医、修練医、などがあるが、各々の病院独自のものである。</p>

用語（50音順）	解 説
新専門医制度	<p>新専門医制度とは、平成29年度以降に専門研修を開始する医師を主な対象として開始を予定していた制度で、今まで各学会が独自に定めた基準により認定をしていた専門医資格を、中立的第三者機関である日本専門医機構が統一的に専門研修プログラムの審査・承認を行い、承認を受けたプログラムに基づいて専門研修施設群がカリキュラムの修了を判定。その判定をもとに日本専門医機構が専門医の認定を行うものとされていたものである。</p> <p>ただし、医師の地域偏在への懸念が解消されなかったことから1年の延期が決定された。（小児科学会（小児科専門医）はH29より先行実施）</p>
心理教育・家族教室	<p>心理教育とは、精神障害やエイズなど受容しにくい問題を持つ人たちに、病気に関する必要な基礎知識を提供するとともに、療養生活を営む自信と地域で暮らしていく力量を身につけ、医療機関で提供される各種リハビリテーションプログラムや、地域の援助プログラムを主体的に利用することを促すことによって、医療機関における治療や援助から、精神障害者を日常的に支える地域リハビリテーションへの連続的な移行を目指して行う支援法のこと。</p> <p>患者の家族だけを対象に行う支援を家族教室と言う。</p>
心理・社会的治療	<p>精神科における薬物療法と電気けいれん療法以外の心理療法的プログラムの総称で、多職種のチーム医療が原則である。</p> <p>デイケア、作業療法、認知行動療法、心理教育・家族教室、ACTなどの各種治療法を含む。</p>
診療情報管理士	<p>診療情報管理士とは、四病院団体協議会（日本病院会、全日本病院協会、日本医療法人協会、日本精神科病院協会）及び医療研修推進財団が付与する民間資格のこと。</p> <p>主な業務内容として、診療録の物理的な管理や内容の精査を行う「物の管理」、診療情報をコーディングするなどしてデータベースを構築する「情報の管理」、構築されたデータベースから必要な情報を抽出・加工・分析する「情報の活用」がある。</p>
ステントグラフト内挿術	<p>ステントグラフト内挿術とは、大動脈瘤に対する手術療法で、胸部、腹部を切開することなく足の付け根の血管から人工血管（ステントグラフト）を大動脈瘤内に誘導して蓋をする治療法である。</p>
精神科リエゾンチーム	<p>リエゾンとはフランス語で連携、連絡を意味する言葉である。精神科リエゾンチームとは、身体疾患に伴うさまざまな精神症状を有する患者に対して、身体科及び精神科の医師、看護師、公認心理師、精神保健福祉士等の連携による専門チームが高度な精神科治療を提供するものである。</p>
ダ・ヴィンチ	<p>3D画像を確認しながら、離れた場所からロボットアームを操作して内視鏡下手術を行うもので、皮膚切開を最小限にすることで、患者の負担をできるだけ抑えることが可能（術中の出血量が少ない、術後の疼痛が少ない）。</p>
地域医療支援病院	<p>1997年（平成9年）4月の医療法の第3次改正で制度化された医療機関の機能別区分のひとつ。</p> <p>目的としては、地域の病院、診療所などを後方支援するという形で医療機関の役割分担と連携を目的に創設された。都道府県知事によって承認される。</p> <p>（承認要件）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病院の規模は原則として病床数が200床以上の病院であること。</li> <li>・紹介率及び逆紹介率が基準を満たしていること。</li> <li>・他の医療機関に対して高額な医療機器や病床を提供し共同利用すること。</li> <li>・地域の医療従事者の向上のための生涯教育等の研修を実施していること。</li> <li>・救急医療を提供する能力を有すること。</li> </ul>
地域医療連携推進法人	<p>地域医療連携推進法人とは、地域において良質かつ適切な医療を効率的に提供するため、病院等に係る業務の連携を推進するための方針（医療連携推進方針）を定め、医療連携推進業務を行う一般社団法人を都道府県知事が認定（医療連携推進認定）する制度である。</p>

用語 (50音順)	解 説
地域連携クリニカルパス	病院の医師と診療所の医師、疾患によってはリハビリ施設など地域の医療提供施設が役割分担して連携して患者を診る仕組みの中で、疾患別に、以降の診療予定をスケジュール表の形式で表わしたもの。患者は診療所にいつ受診し、病院にいつ受診し、あるいはリハビリ施設にいつ受診し、どういう治療を受けるのかが分かり、医療施設は患者の診療の進捗管理をし、施設間で情報を共有するために使われる。診療報酬点数表上では、疾患が限られているが、「地域連携計画書」といい、計画管理料や退院時指導料等が算定できる。
頭部冷却装置 (PAXMAN)	がん薬物療法に伴う脱毛抑制を目的とした頭部冷却装置 頭皮冷却を継続的に実施すると頭皮血管が収縮し、毛包への抗がん剤量の到達を減少させることが可能になる
ドクターカー	平成20年4月25日に道路交通法施行令の一部が改正され緊急自動車の指定対象に追加された乗用車型のドクターカー（患者搬送のための特別な構造又は装置を有しない医師派遣用自動車）。静岡市消防局の要請により「ドクターカー」に当院の救命救急センターのスタッフが搭乗し、災害や事故の現場に急行したり、搬送途中の救急車とドッキングして治療を開始する。
認知行動療法	認知行動療法とは、人間の気分や行動が認知のあり方（ものの考え方や受け取り方）の影響を受けることから認知の偏りを修正し、問題解決を手助けすることによって精神疾患を治療することを目的とした精神療法であり、2010年から、一部保険点数化がされた。
認定看護師	認定看護師とは、日本看護協会及び日本精神科看護協会の認定看護師認定審査に合格し、ある特定の看護分野において、熟練した看護技術と知識を有することを認められた者をいい、水準の高い看護実践を通して看護師に対する指導・相談活動を行う者をいう。
ハイブリッド手術室	据置型血管撮影装置（アンギオ）を設置した手術室であり、カテーテル血管内治療と外科的手術の双方に対応が可能。 ・合併症などの緊急時の対応が可能。（カテーテル治療から外科的手術への移行） ・手術のみでは到達困難な部位に対する治療が可能。 ・カテーテルのみでは治療できない緊急時の病変に対しても外科的手術を同時に行うことで対応が可能。 ・鮮明な透視画像により治療精度が向上
バンコマイシン耐性腸球菌 (VRE)	バンコマイシンに対する薬剤耐性を獲得した腸球菌 (VRE)
リニアック	リニアックとは、日本語では「直線加速器」といわれるもので、荷電粒子を一直線上で加速させて発生した放射線を当てることで、がんなどの治療をする機器です。 多方向からピンポイントで放射線を当てることにより、正常組織への放射線の照射量を低減し、腫瘍部分の放射線量が高くなり細胞を死滅させる治療方法。
レスパイト	レスパイト(レスパイトケア)とは、患者や要介護者等を在宅で日常的にケアしている家族を、他の者がケアを代替することで一時的にケアから解放させ、休息させる家族介護者支援のこと。
レジデント	初期臨床研修医はジュニアレジデント、初期レジデント、スーパーローテーターなどと呼ばれ、それ以降に専門科での研修を行うものを単にレジデントと呼んだり、後期研修医、後期レジデント、シニアレジデント、専攻医などと呼ばれている。